

令和7（2025）年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

調 査 報 告 書

令和7（2025）年11月

栃 木 県

目 次

I	調査の概要	1
II	サンプル・デザイン	3
III	調査回答者のプロフィール	7
IV	調査結果の詳細	11
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	11
(2)	暮らしが悪くなった理由	14
(3)	暮らしの満足度	18
(4)	今後の暮らしの状況	22
(5)	今後の暮らしで力を入れる点	25
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	28
3	日常生活について	
(1)	文化・芸術活動について	34
(2)	スポーツ活動について	37
(3)	住んでいる地域について	41
(4)	社会貢献活動について	44
4	防災対策について	
(1)	避難情報（5段階の警戒レベル）の認知度	48
(2)	災害に対する備え	51
5	栃木県への愛着と誇りについて	
(1)	栃木県に対する愛着	54
(2)	栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	57
6	男女平等意識について	
(1)	社会全体の中での男女の地位の平等感	62
(2)	固定的な性別役割分担意識	66
(3)	働く場での男女の地位の平等感	69
7	地域のつながりについて	
(1)	ご近所との関係	73
(2)	家族・親族以外で相談できるところ	77

目 次

8 ケアラーについて	
(1) ケアラーという言葉の認知度	80
(2) ケアラー当事者になる可能性	83
9 在宅医療について	
(1) 自宅療養への考え	86
(2) 人生会議（ACP）の認知度	89
10 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	92
(2) 食品の安全性について不安に思うもの	95
11 食に関する意識と実践について	
(1) 産地や生産者を意識して食品等を選ぶか	98
(2) 農業体験をした経験	101
12 とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1) 重要だと思う森林の持つ働き	104
(2) 県民税事業の取組の重要性	107
13 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況の変化	111
(2) 不安に感じる犯罪	114
(3) 交通事故を抑止するための対策	119
14 公共交通について	
(1) 公共交通の利用状況	123
(2) 公共交通に関する満足度	126
(3) 公共交通に不満を感じる事	129
15 自転車利用率と目的について	
(1) 自転車の利用状況	132
(2) 自転車利用の目的	135
(3) 自転車利用に際して不満を感じる事	138
16 スマートフォンの活用について	
(1) スマートフォン利用の目的	141
(2) スマートフォン利用に当たり困ったことや不安に思ったこと	144
V 調査票	149

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 暮らしの変化について＊ | (7) 地域のつながりについて |
| (2) 県政への要望について＊ | (8) ケアラーについて |
| (3) 日常生活について＊ | (9) 在宅医療について |
| ア 文化・芸術活動について | (10) 食の安全・安心について |
| イ スポーツ活動について | (11) 食に関する意識と実践について |
| ウ 住んでいる地域について | (12) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| エ 社会貢献活動について | (13) 犯罪と治安対策について |
| (4) 防災対策について | (14) 公共交通について |
| (5) 栃木県への愛着と誇りについて | (15) 自転車利用率と目的について※ |
| (6) 男女平等意識について | (16) スマートフォンの活用について※ |
- （＊印は時系列調査、※印は新規調査）

3 調査設計

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標 本 数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収又はインターネット回収の選択式） |
| (6) 調査時期 | 令和7（2025）年5月30日～6月30日 |

4 調査機関

株式会社タイム・エージェント

5 回収結果

回収数 1,492件 （うち郵送回収数930件、インターネット回収数562件）

回収率 74.6% （うち郵送回収率46.5%、インターネット回収率28.1%）

6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は10人、女性18～19歳の回答者は13人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が28人と少ないため、図表化していない。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left(\begin{array}{ll} b = \text{標本誤差} & N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} & n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,492 人	±2.20%	±2.93%	±3.36%	±3.59%	±3.66%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

<注／この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,492人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.59%以内（56.41%～63.59%）である」とみることができる。

Ⅱ サンプル・デザイン

Ⅱ サンプル・デザイン

母 集 団 : 栃木県内の市町に居住する満18歳以上の男女

標 本 数 : 2,000

地 点 数 : 市 部 118地点

町 部 17地点

計 135地点

抽 出 法 : 層化二段無作為抽出法

[層 化]

1. 県内を市町単位に、次の3地域に分類した。

地域名	該 当 市 町 名
県北地域	那 須 {大田原市、那須塩原市、那須町} 日 光 {日光市} 塩 谷 {矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町} 南那須 {那須烏山市、那珂川町}
県央地域	宇都宮 {宇都宮市、上三川町、壬生町} 鹿 沼 {鹿沼市} 芳 賀 {真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町}
県南地域	小 山 {小山市、下野市、野木町} 栃 木 {栃木市} 両 毛 {足利市、佐野市}

2. 各地域内においては、さらに市町規模によって「宇都宮市」「宇都宮市以外の市」「町」に分類し、層化した。

(注) ここでいう市とは、令和7(2025)年4月1日現在市制施行の地域である。

[標本数の配分]

各地域・市町規模の層における18歳以上の人口数(令和6(2024)年10月1日現在)により、2,000の標本数を比例配分した。

〔抽 出〕

1. 令和2（2020）年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査地点として使用した。
2. 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が14から16になるように、各層に割り当てられた標本数により算出し、調査地点数を決定した。
3. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
4. 抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、令和7（2025）年4月1日現在における「市区町村コード一覧」に従った。
5. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地・字等を指定）の住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
6. 以上の結果、各地域・市町別（層別）の標本数・調査地点数は次のとおりである。

市町 地域	宇都宮市	宇都宮市以外の市	町	計
県 北		301,383 379 (25)	65,483 84 (6)	366,866 463 (31)
県 央	422,501 530 (36)	142,493 178 (12)	107,023 130 (9)	672,017 838 (57)
県 南		533,088 671 (45)	21,065 28 (2)	554,153 699 (47)
計	422,501 530 (36)	976,964 1,228 (82)	193,571 244 (17)	1,593,036 2,000 (135)

（注）上段：令和6（2024）年10月1日現在の母集団数

中段：対象数

下段：（ ）内は地点数

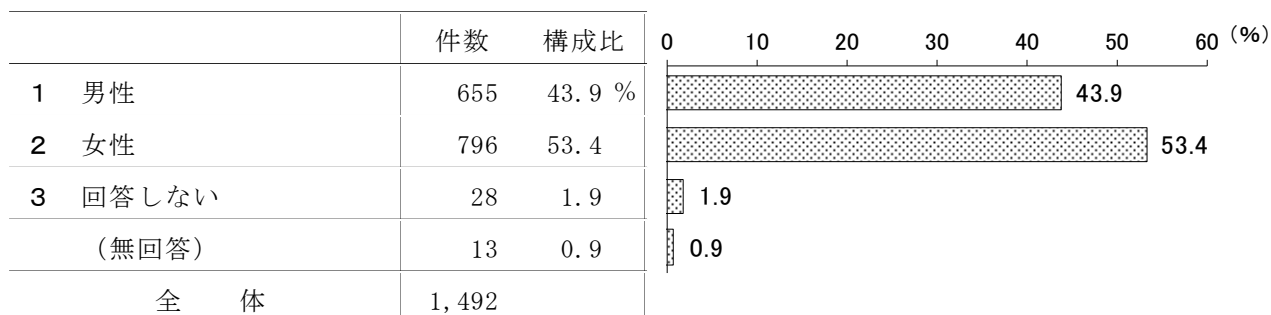
調査地点一覧

地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)
県北 (那須)	大田原市本町二丁目	15	県央 (宇都宮)	宇都宮市竹林町	15	県南 (小山)	小山市中央町二丁目	15
	大田原市元町二丁目	15		宇都宮市中今泉一丁目	15		小山市城北六丁目	15
	大田原市美原一丁目	15		宇都宮市泉が丘六丁目	15		小山市城東二丁目	15
	大田原市鹿畑	15		宇都宮市峰二丁目	15		小山市駅南町一丁目	15
	大田原市湯津上	15		宇都宮市陽東八丁目	15		小山市東城南五丁目	15
	那須塩原市上厚崎	15		宇都宮市平松本町	15		小山市神鳥谷三丁目	15
	那須塩原市佐野	15		宇都宮市さるやま町	15		小山市若木町二丁目	15
	那須塩原市住吉町	15		宇都宮市若松原一丁目	15		小山市大字稲葉郷	15
	那須塩原市若草町	15		宇都宮市五代二丁目	15		小山市大字横倉	15
	那須塩原市木綿畑	15		宇都宮市富士見町	15		小山市美しが丘一丁目	15
	那須塩原市石林	15		宇都宮市西川田南二丁目	15		小山市乙女三丁目	15
	那須塩原市南郷屋一丁目	15		宇都宮市下欠町	15		小山市大字立木	15
	那須塩原市三島二丁目	15		宇都宮市宝木町二丁目	15		下野市仁良川	14
	那須郡那須町大字高久甲	14		宇都宮市駒生町	15		下野市上大領	14
	那須郡那須町大字稲沢	14		宇都宮市福岡町	15		下野市上古山	14
県北 (日光)	日光市中央町	16	県南 (栃木)	宇都宮市横山一丁目	15	県南 (栃木)	栃木市泉町	15
	日光市瀬川	16		宇都宮市御幸ヶ原町	15		栃木市本町	15
	日光市薄井沢	16		宇都宮市下田原町	15		栃木市柳橋町	15
	日光市稲荷町三丁目	16		宇都宮市白沢町	15		栃木市今泉町一丁目	15
	日光市所野	16		宇都宮市ゆいの杜四丁目	15		栃木市菌部町二丁目	15
県北 (塩谷)	矢板市上町	15		宇都宮市竹下町	15		栃木市平柳町三丁目	15
	矢板市沢	16		宇都宮市西刑部町	15		栃木市大森町	15
	さくら市氏家	15		河内郡上三川町しらさぎ二丁目	15		栃木市大平町下高島	15
	さくら市馬場	15		河内郡上三川町天神町	15		栃木市大平町富田	15
	さくら市穂積	15		下都賀郡壬生町大字北小林	14		栃木市都賀町家中	15
	塩谷郡塩谷町大字玉生	14		下都賀郡壬生町緑町三丁目	14		栃木市岩舟町和泉	15
	塩谷郡高根沢町光陽台四丁目	14		下都賀郡壬生町表町	14	県南 (両毛)	足利市本城一丁目	15
県北 (南那須)	那須烏山市旭一丁目	14	県央 (鹿沼)	鹿沼市麻苧町	14		足利市井草町	15
	那須烏山市大桶	14		鹿沼市鳥居跡町	14		足利市西宮町	15
	那須郡那珂川町小砂	14		鹿沼市玉田町	14		足利市常盤町	15
県央 (宇都宮)	宇都宮市本丸町	14		鹿沼市西茂呂一丁目	14		足利市猿田町	15
	宇都宮市花房本町	14		鹿沼市茂呂	14		足利市朝倉町三丁目	15
	宇都宮市滝の原一丁目	14		鹿沼市上殿町	14		足利市鹿島町	15
	宇都宮市西一の沢町	14		鹿沼市板荷	14		足利市名草中町	15
	宇都宮市下戸祭二丁目	14	県央 (芳賀)	真岡市荒町	16		足利市葉鹿町一丁目	15
	宇都宮市大曾四丁目	14		真岡市上高間木二丁目	16		足利市小俣町	15
	宇都宮市東宿郷四丁目	14		真岡市若旅	16		佐野市高砂町	15
	宇都宮市築瀬四丁目	14		真岡市亀山三丁目	16		佐野市若松町	15
	宇都宮市上横田町	14		真岡市高田	16		佐野市小中町	15
	宇都宮市緑二丁目	14		芳賀郡益子町大字山本	16		佐野市堀米町	15
	宇都宮市大和二丁目	15		芳賀郡茂木町大字町田	14		佐野市寺中町	15
	宇都宮市睦町	15		芳賀郡市貝町大字上根	14		佐野市田沼町	15
	宇都宮市宝木町一丁目	15		芳賀郡芳賀町大字下高根沢	14		佐野市吉水駅前二丁目	15
	宇都宮市戸祭町	15					佐野市葛生東二丁目	15

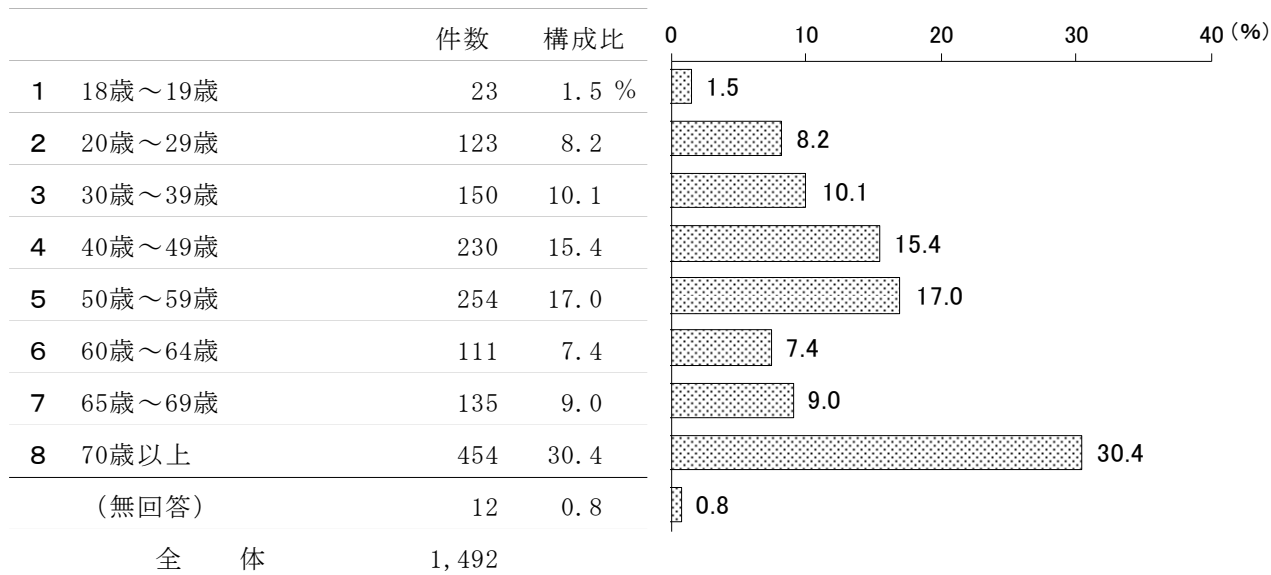
Ⅲ 調査回答者のプロフィール

Ⅲ 調査回答者のプロフィール

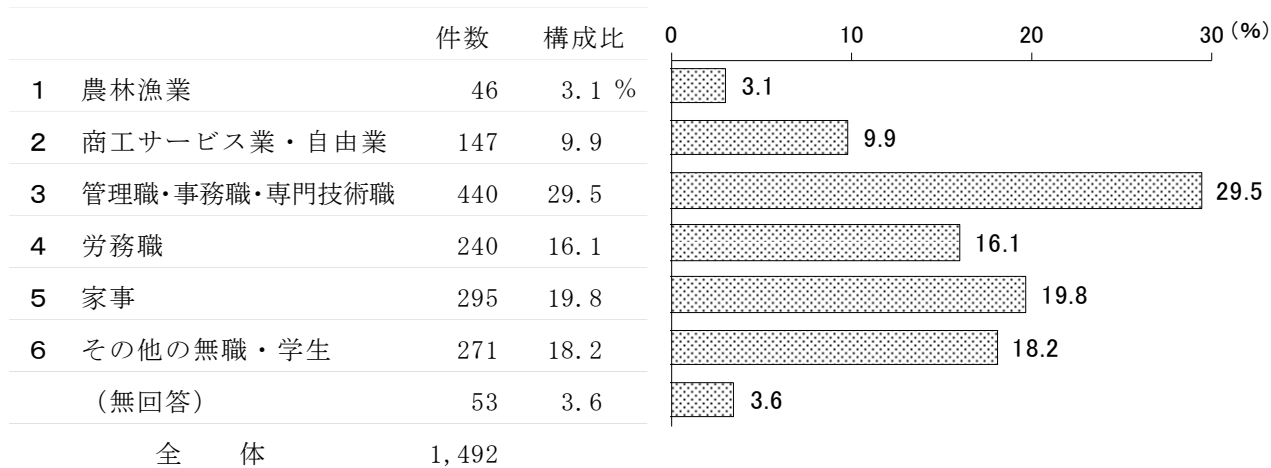
(F 1) 性別



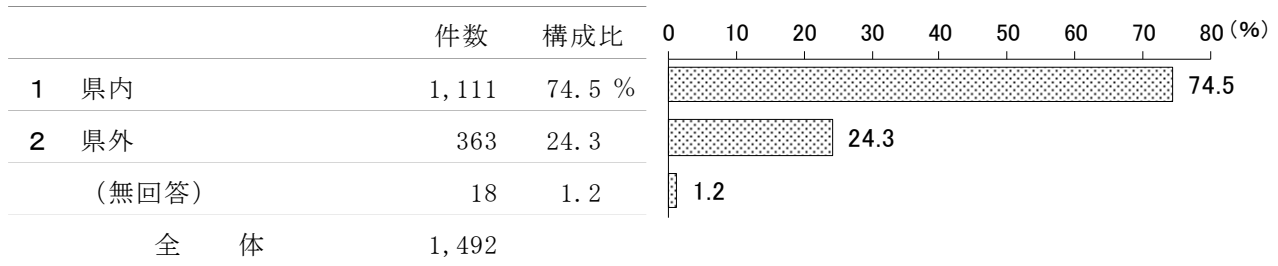
(F 2) 年齢



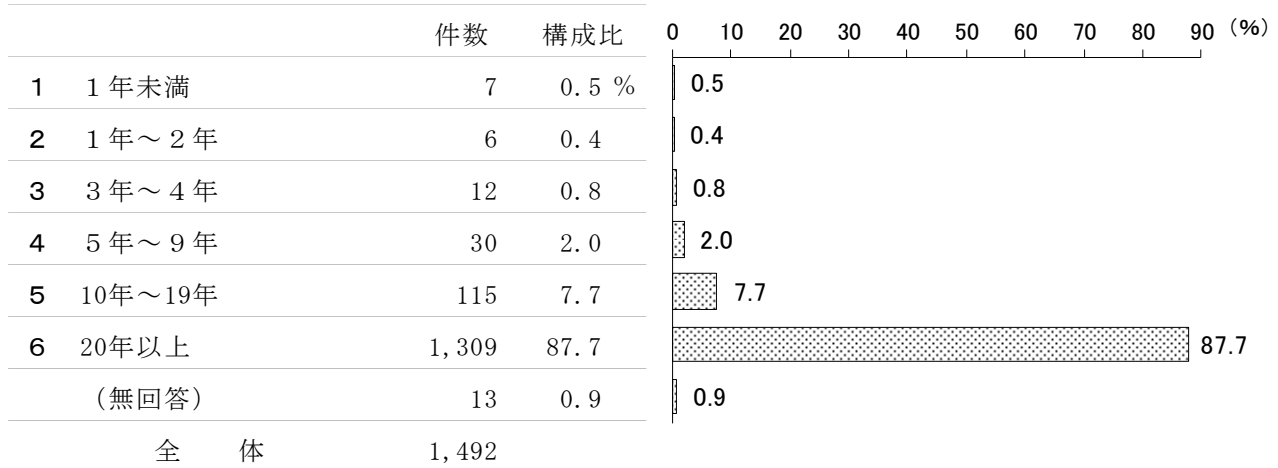
(F 3) 本人の職業



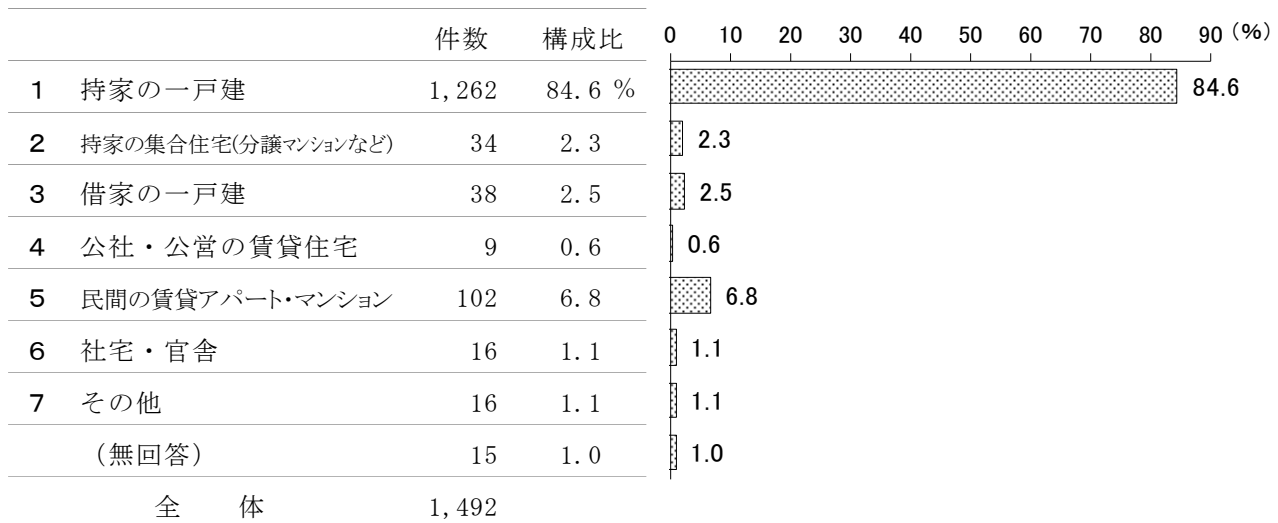
(F 4) 出生地



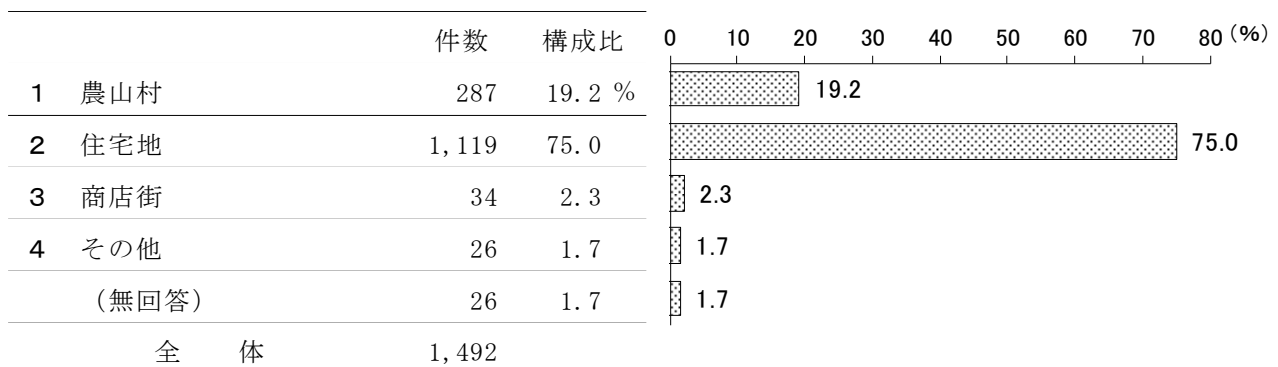
(F 5) 栃木県居住年数



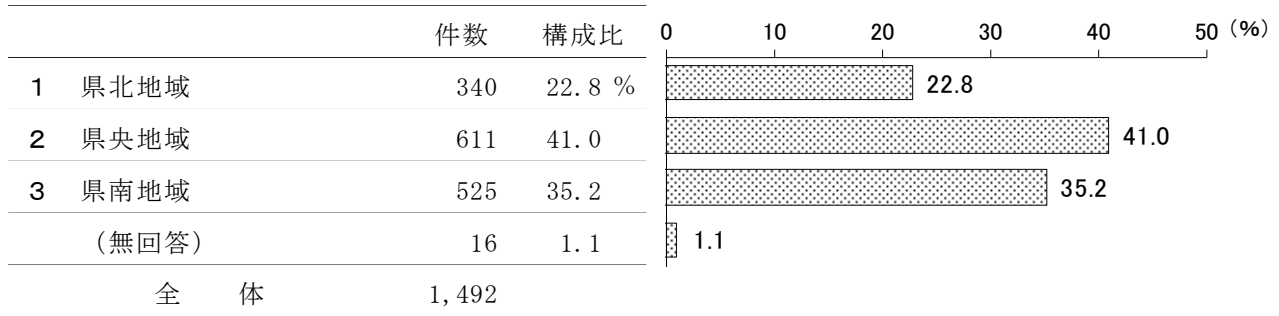
(F 6) 住居形態



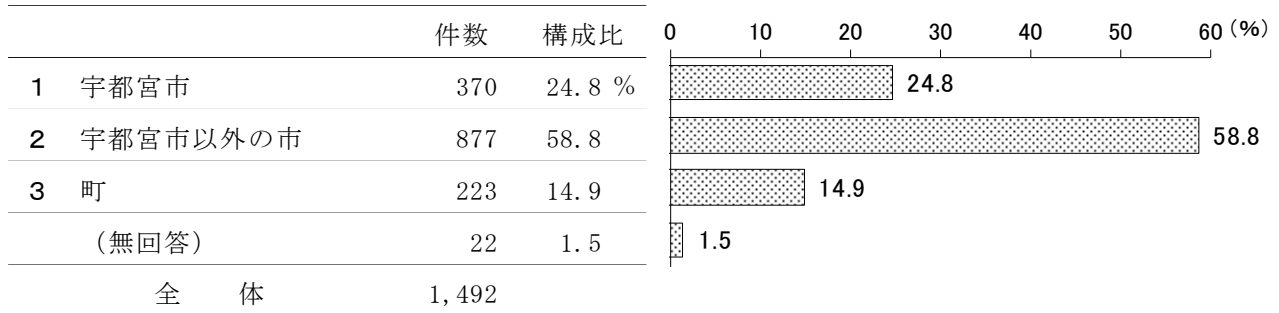
(F 7) 居住環境



(F 8) 居住地域／地域別



(F 9) 居住地域／市町別



IV 調査結果の詳細

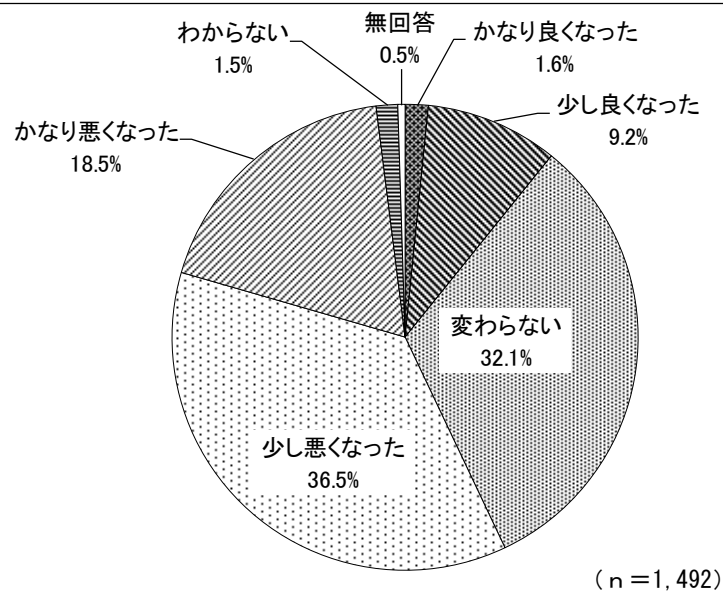
Ⅳ 調査結果の詳細

1 暮らしの変化について

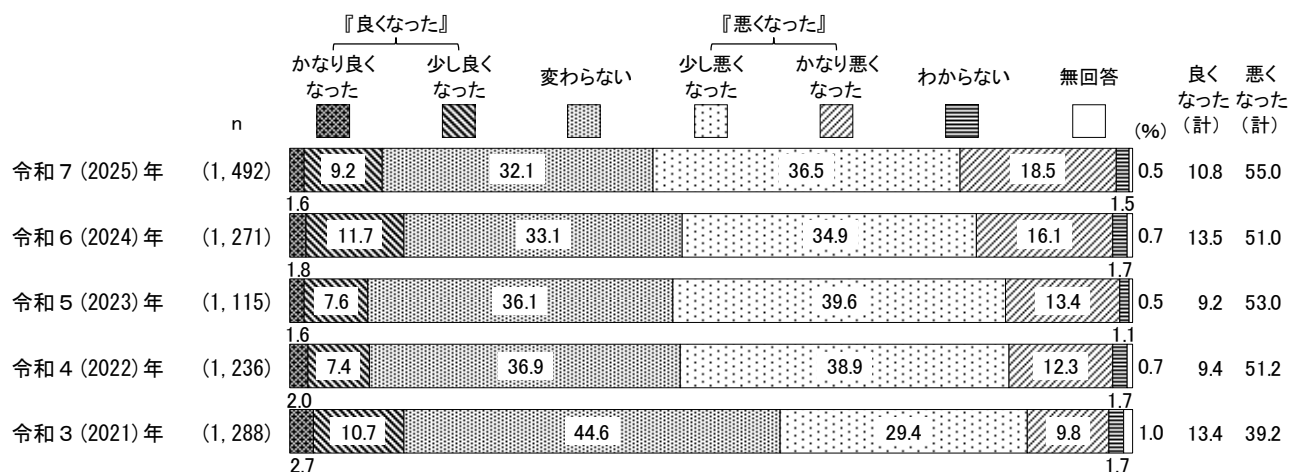
(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 かなり良くなった	1.6%	4 少し悪くなった	36.5%
2 少し良くなった	9.2	5 かなり悪くなった	18.5
3 変わらない	32.1	6 わからない	1.5
		(無回答)	0.5

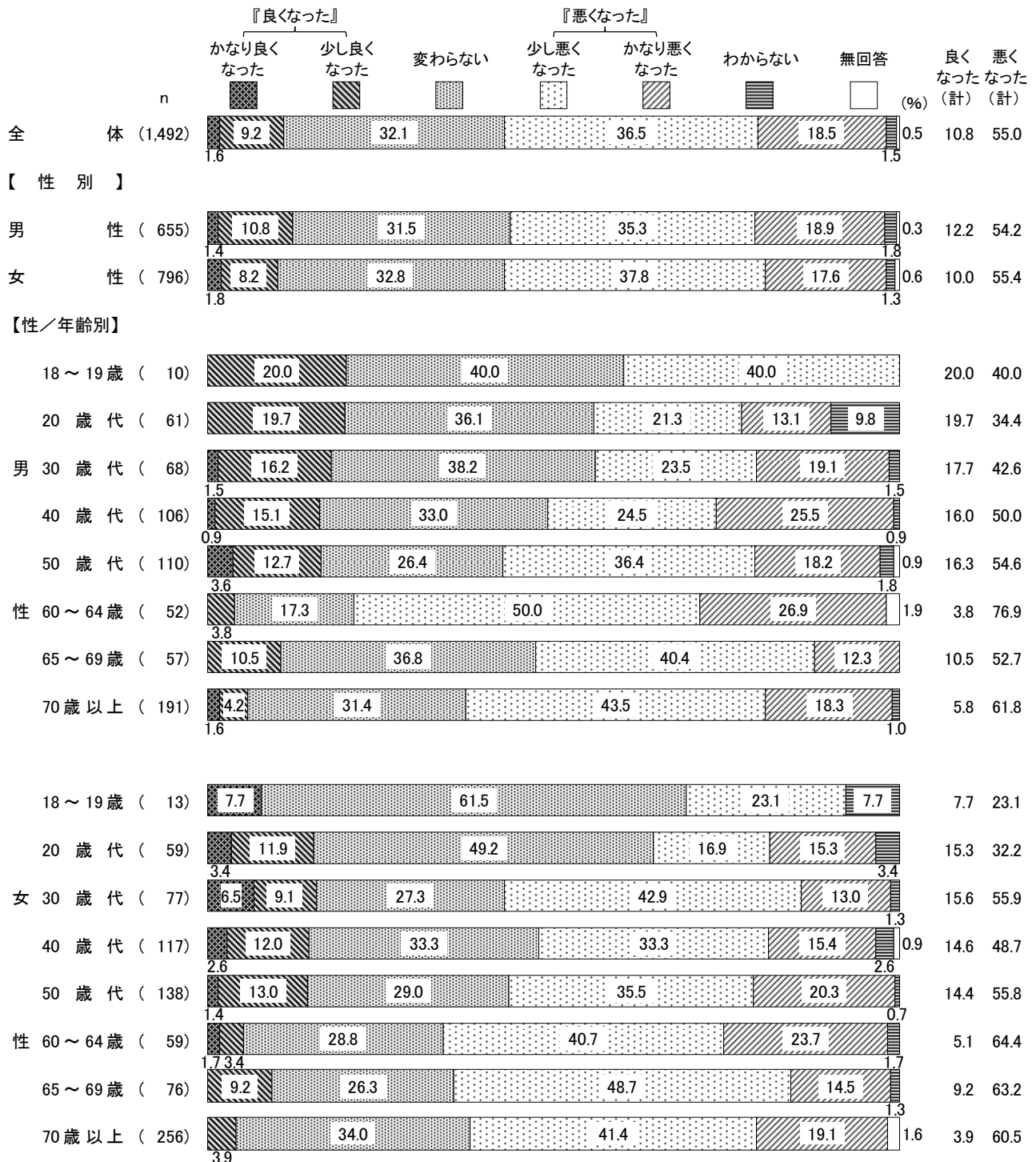


全体でみると、「かなり良くなった」(1.6%)と「少し良くなった」(9.2%)の2つを合わせた『良くなった』(10.8%)が約1割となっている。一方、「少し悪くなった」(36.5%)と「かなり悪くなった」(18.5%)の2つを合わせた『悪くなった』(55.0%)が5割台半ばとなっている。また、「変わらない」(32.1%)が3割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が令和3(2021)年から概ね増加傾向が続き、令和3(2021)年から15.8ポイント増加している。

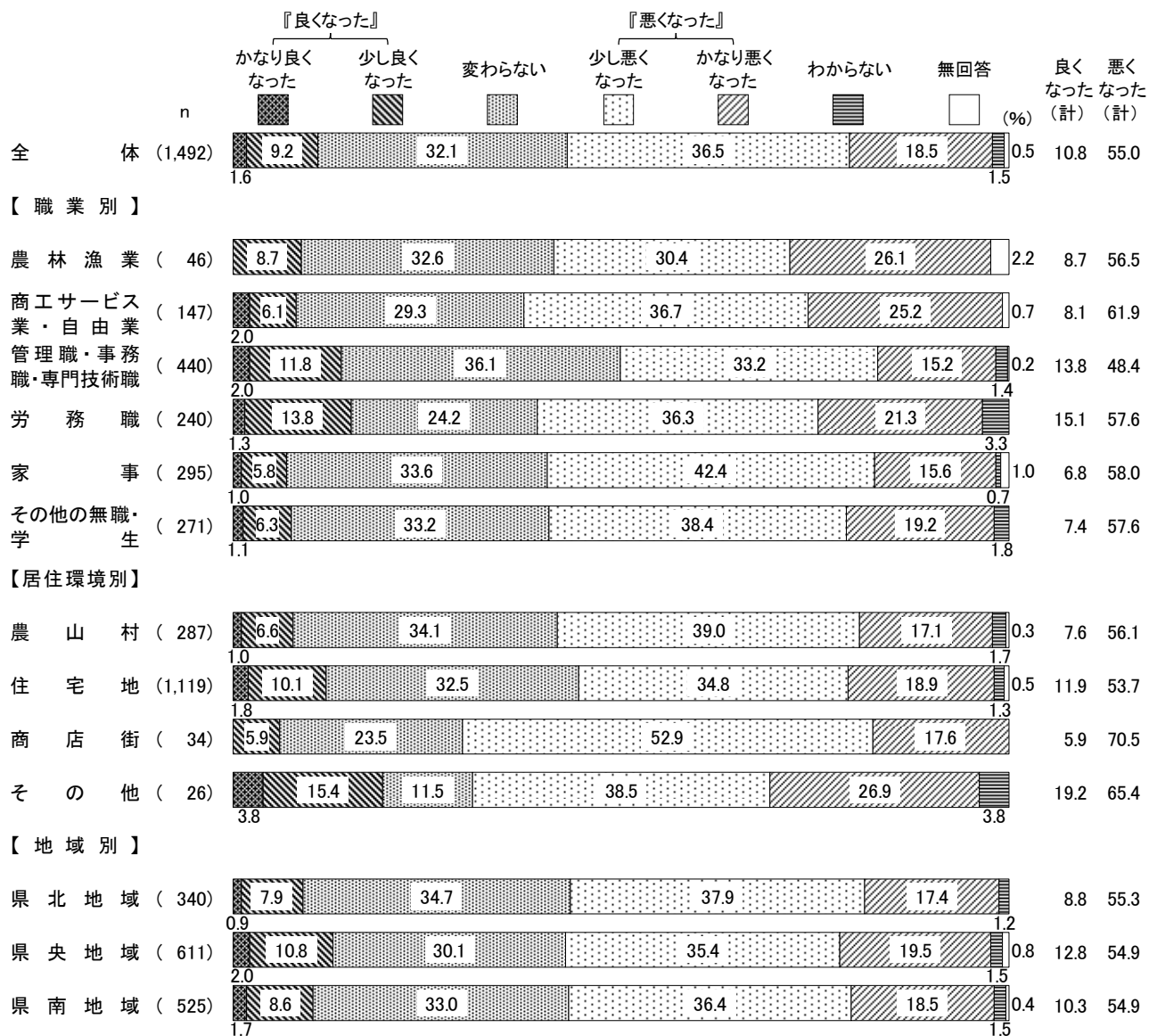
〔性別・性／年齢別〕



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が19.7%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性60～64歳〉が76.9%と高くなっている。「変わらない」では〈女性20歳代〉が49.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『良くなった』では〈労務職〉が15.1%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈商工サービス業・自由業〉が61.9%と高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉が48.4%と低くなっている。

居住環境別でみると、『良くなった』では〈住宅地〉が11.9%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈商店街〉が70.5%と高くなっている。

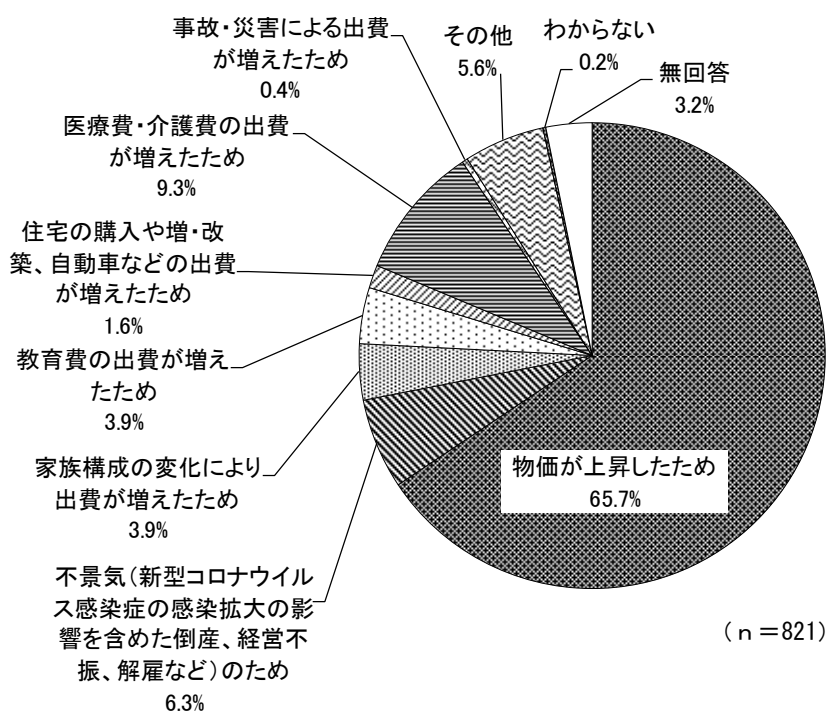
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

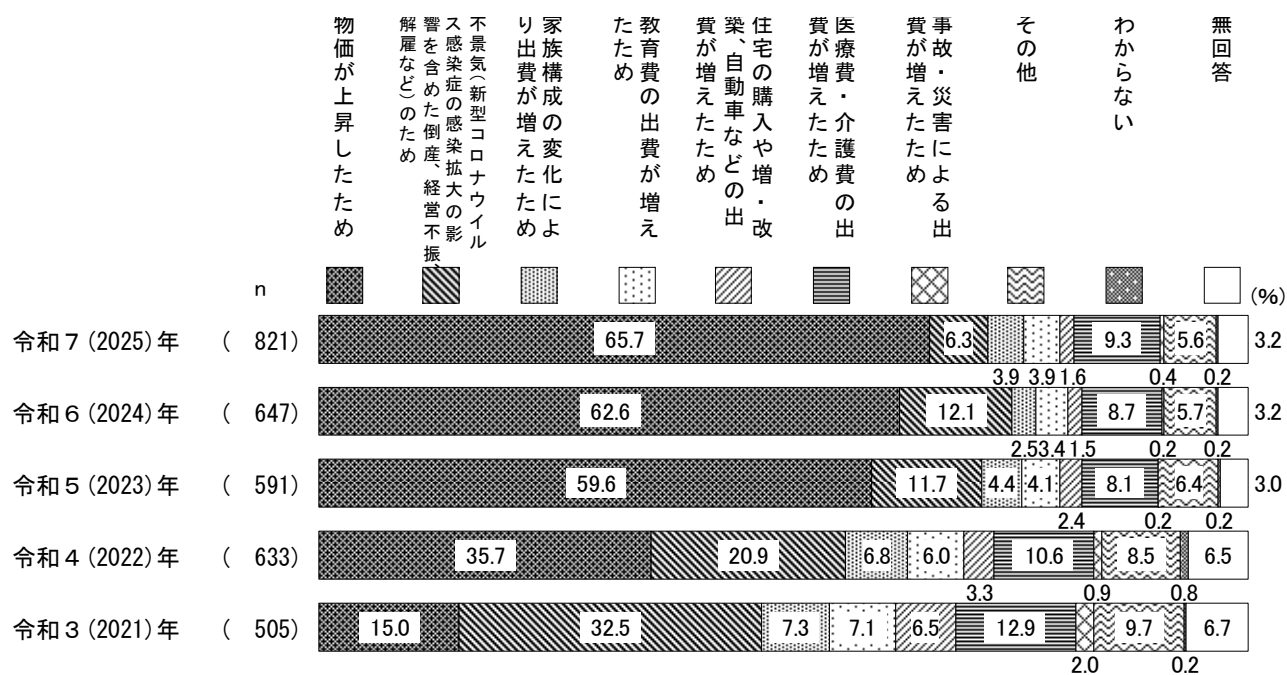
問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=821]

1	物価が上昇したため	65.7%
2	不景気（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など）のため	6.3
3	家族構成の変化により出費が増えたため	3.9
4	教育費の出費が増えたため	3.9
5	住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	1.6
6	医療費・介護費の出費が増えたため	9.3
7	事故・災害による出費が増えたため	0.4
8	その他	5.6
9	わからない	0.2
	(無回答)	3.2



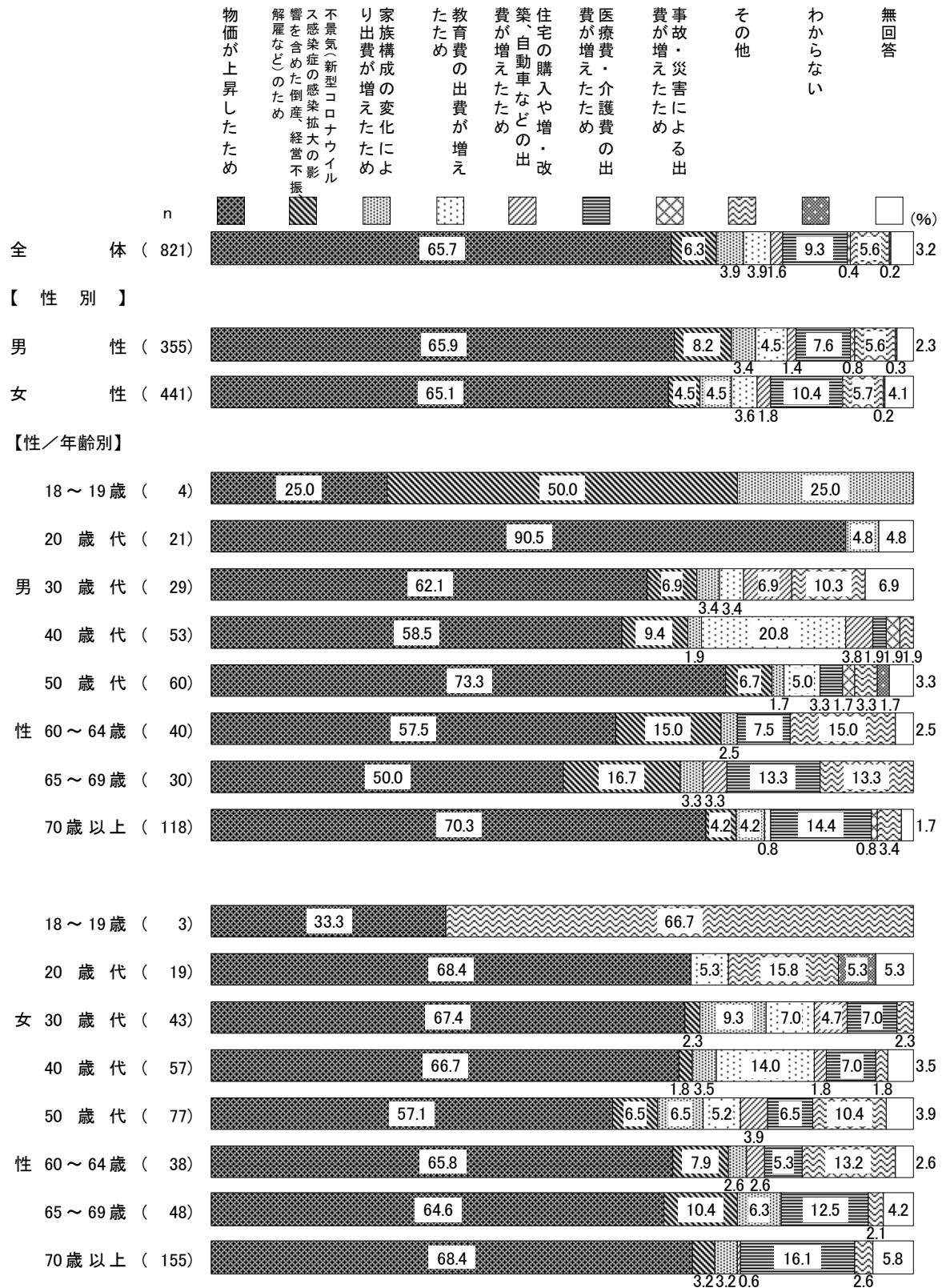
全体でみると、「物価が上昇したため」(65.7%)が6割台半ばで最も高く、次いで「医療費・介護費の出費が増えたため」(9.3%)、「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(6.3%)の順となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が前回（令和6(2024)年）から3.1ポイント増加している。一方、『不景気のため』が5.8ポイント減少している。

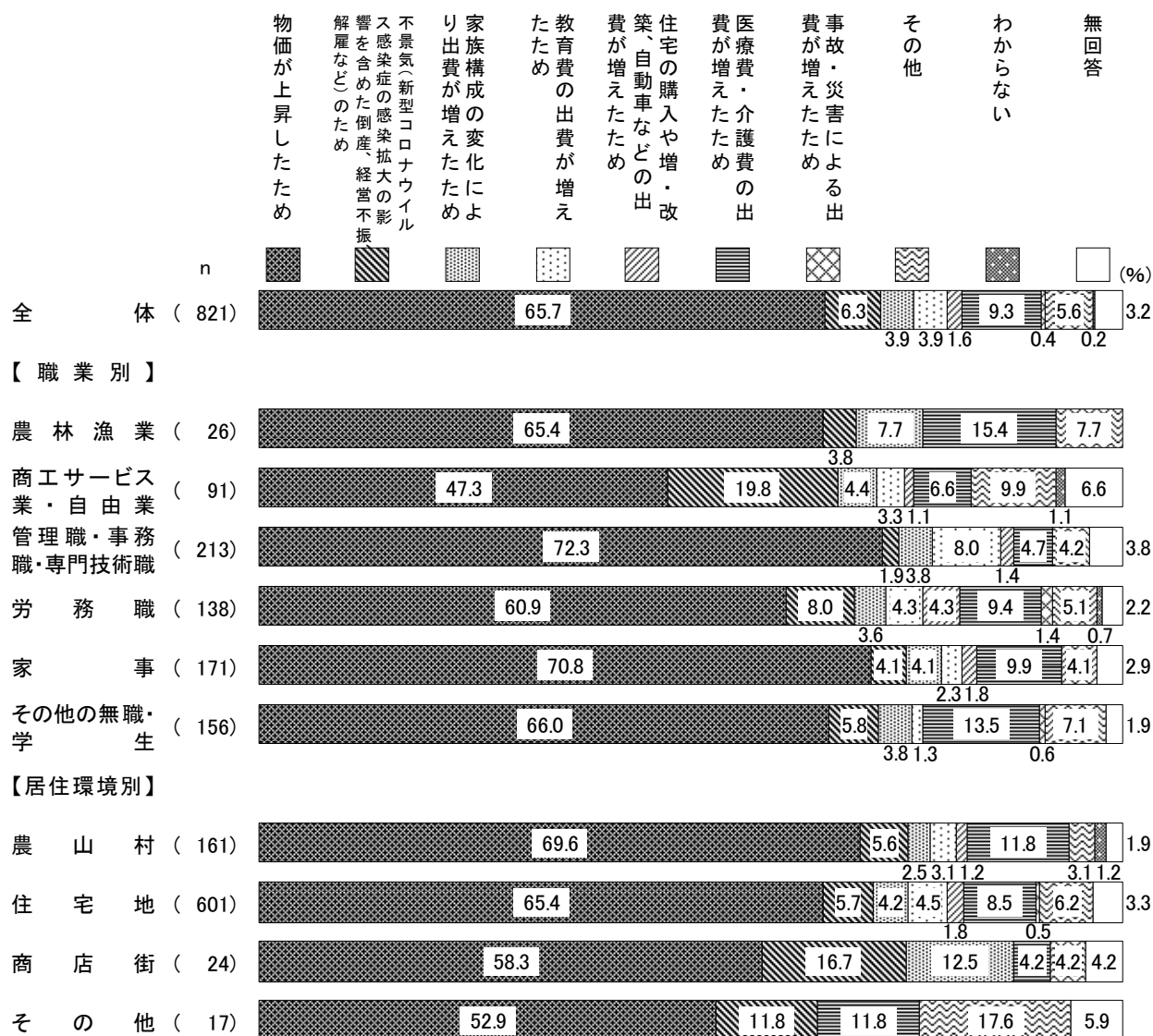
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「物価が上昇したため」では〈男性20歳代〉が90.5%と高くなっている。『不景気のため』では〈男性65～69歳〉が16.7%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈男性40歳代〉が20.8%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈女性70歳以上〉が16.1%と高くなっている。

〔職業別・居住環境別〕



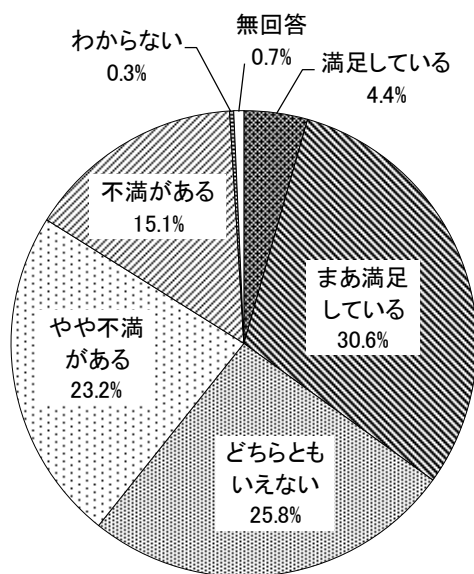
職業別でみると、「物価が上昇したため」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が72.3%、〈家事〉が70.8%と高くなっている。『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉が19.8%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈農林漁業〉が15.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、「物価が上昇したため」では〈農山村〉が69.6%と高くなっている。『不景気のため』では〈商店街〉が16.7%と高くなっている。

(3) 暮らしの満足度

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

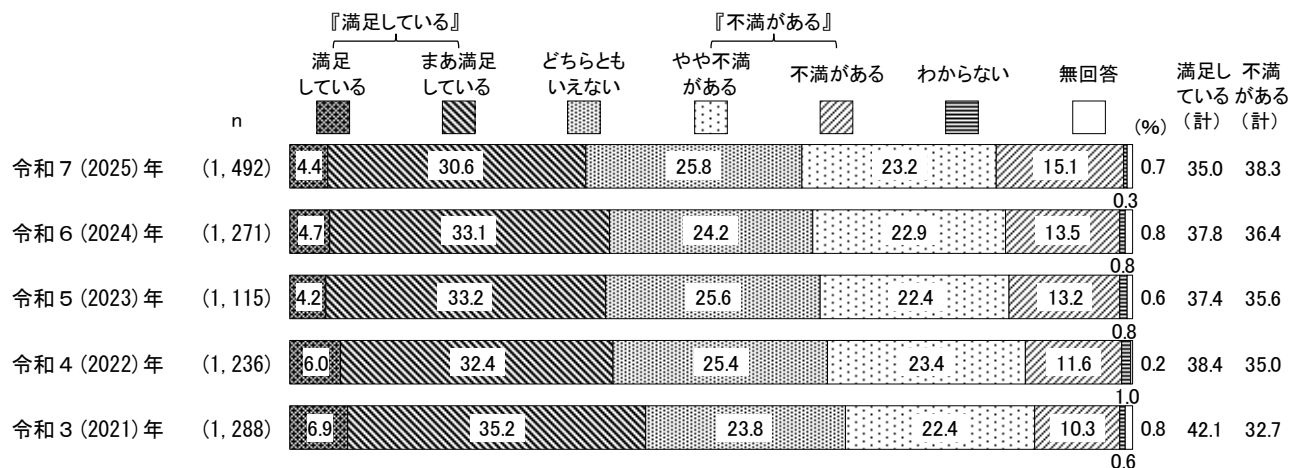
1 満足している	4.4%	4 やや不満がある	23.2%
2 まあ満足している	30.6	5 不満がある	15.1
3 どちらともいえない	25.8	6 わからない	0.3
		(無回答)	0.7



(n=1,492)

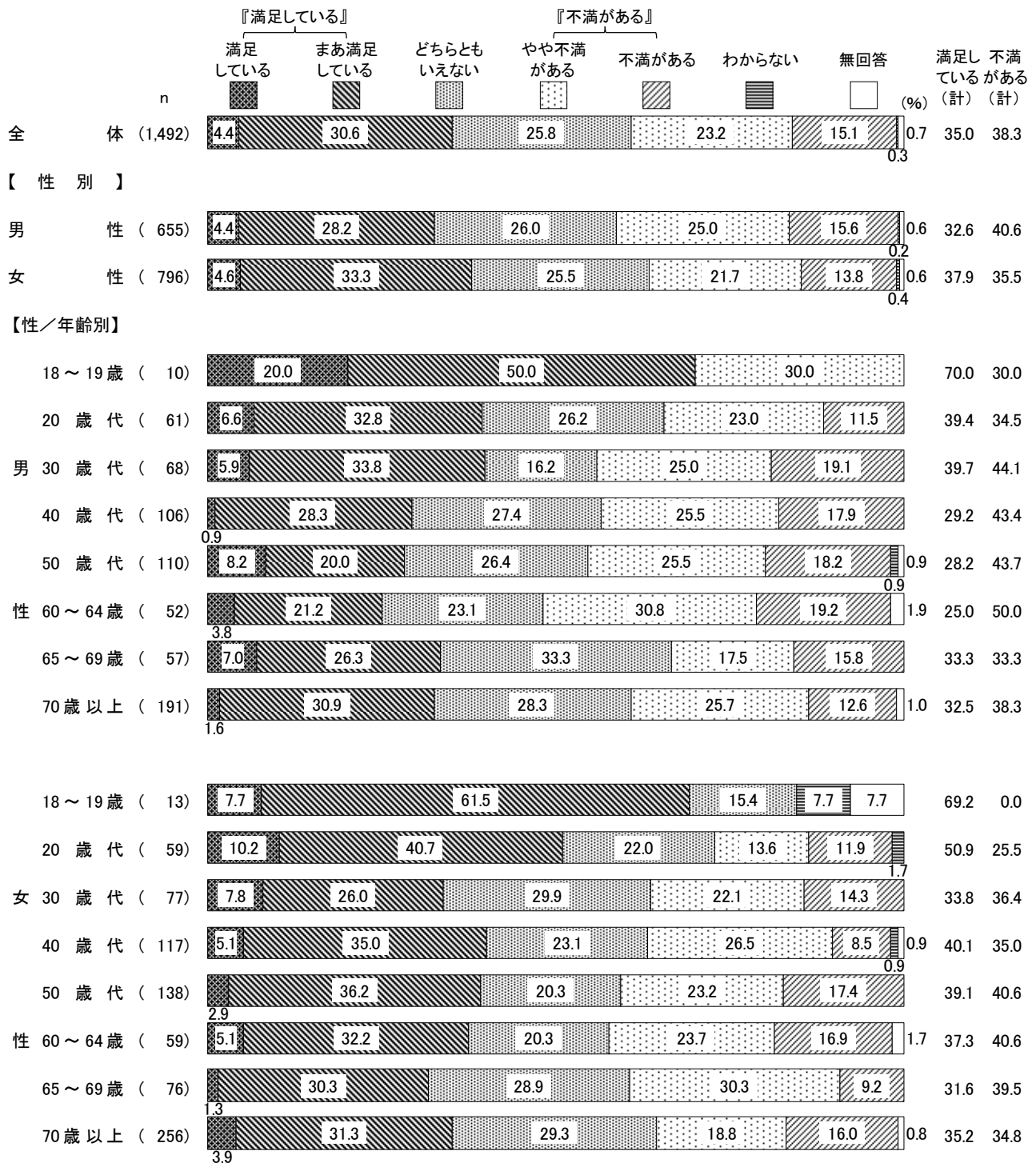
全体でみると、「満足している」(4.4%)と「まあ満足している」(30.6%)の2つを合わせた『満足している』(35.0%)が3割台半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(23.2%)と「不満がある」(15.1%)の2つを合わせた『不満がある』(38.3%)は4割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(25.8%)が2割台半ばとなっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、『満足している』が令和3(2021)年から減少傾向が続き、令和3(2021)年から7.1ポイント減少している。

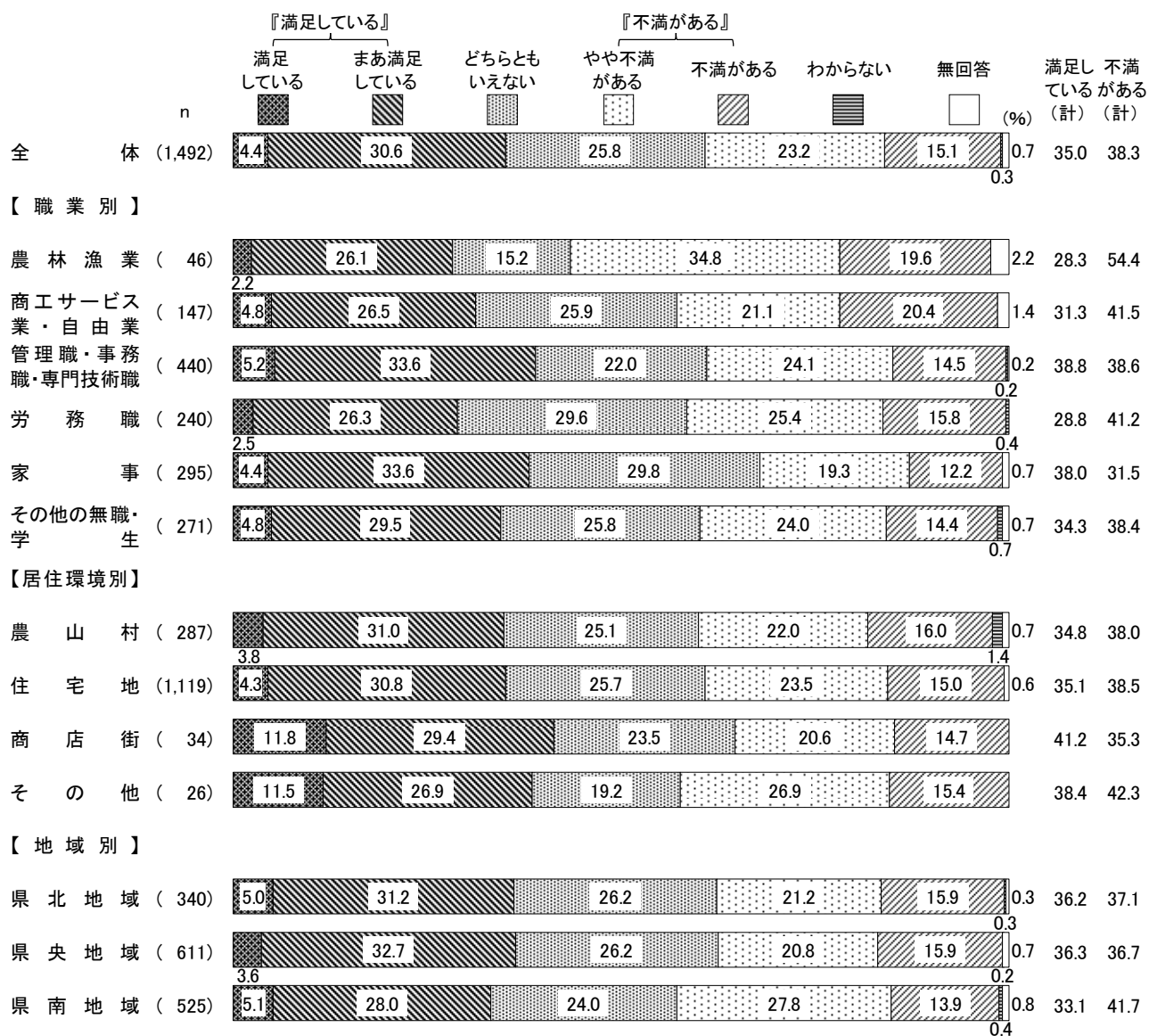
〔性別・性／年齢別・職業別〕



性別でみると、『満足している』では、〈女性〉（37.9％）が〈男性〉（32.6％）より5.3ポイント高くなっている。

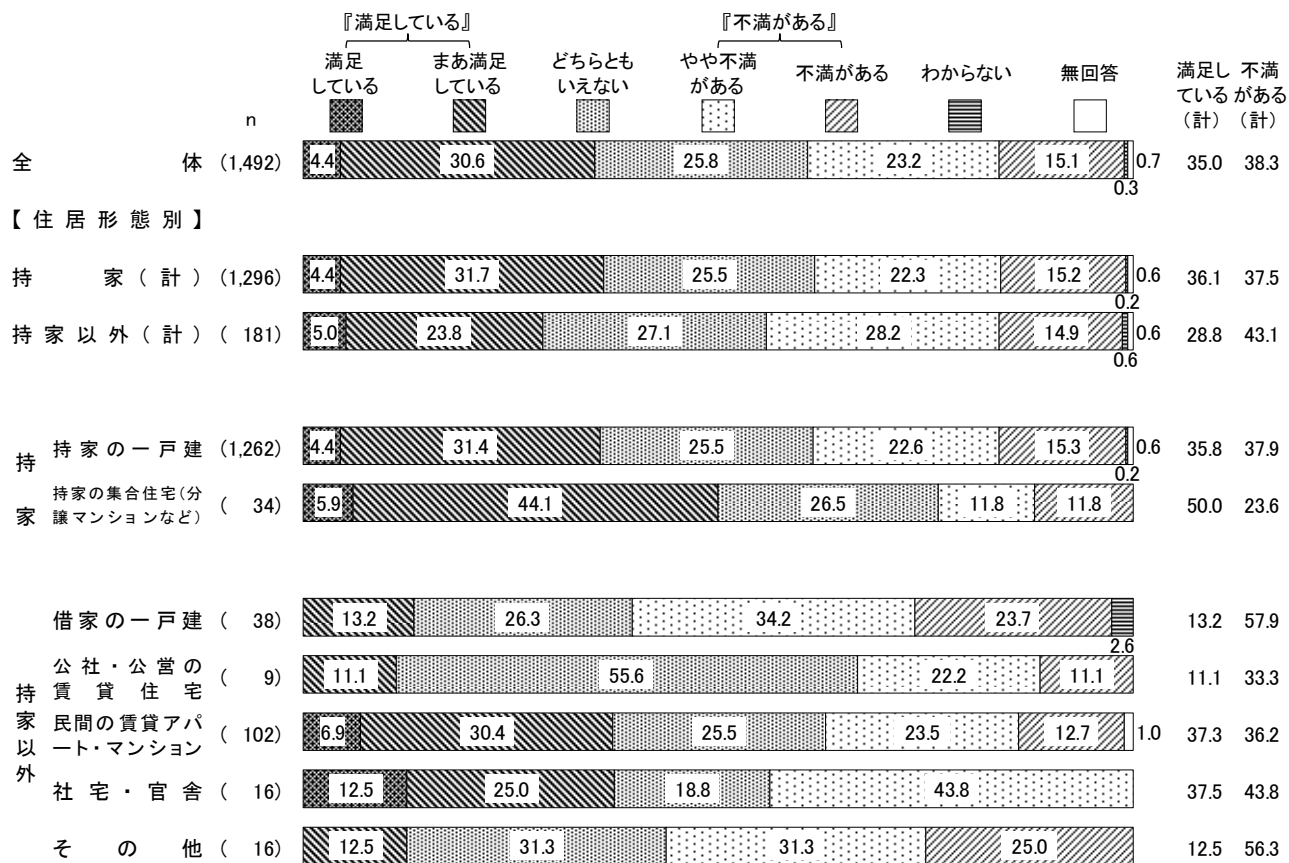
性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が50.9％と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性60～64歳〉が50.0％と高くなっている。

〔職業別・居住環境別・地域別〕



職業別でみると、『不満がある』では〈農林漁業〉が54.4%と高くなっている。
 居住環境別でみると、『満足している』では〈商店街〉が41.2%と高くなっている。
 地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

〔住居形態別〕

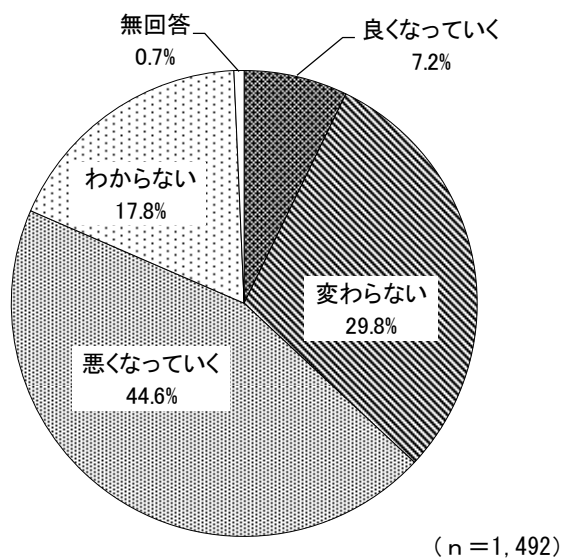


住居形態別でみると、『満足している』では〈持家 (計)〉 (36.1%) が〈持家以外 (計)〉 (28.8%) より7.3ポイント高くなっている。また、〈持家の集合住宅 (分譲マンションなど)〉が50.0%と高くなっている。『不満がある』では〈借家の一戸建〉が57.9%と高くなっている。

(4) 今後の暮らしの状況

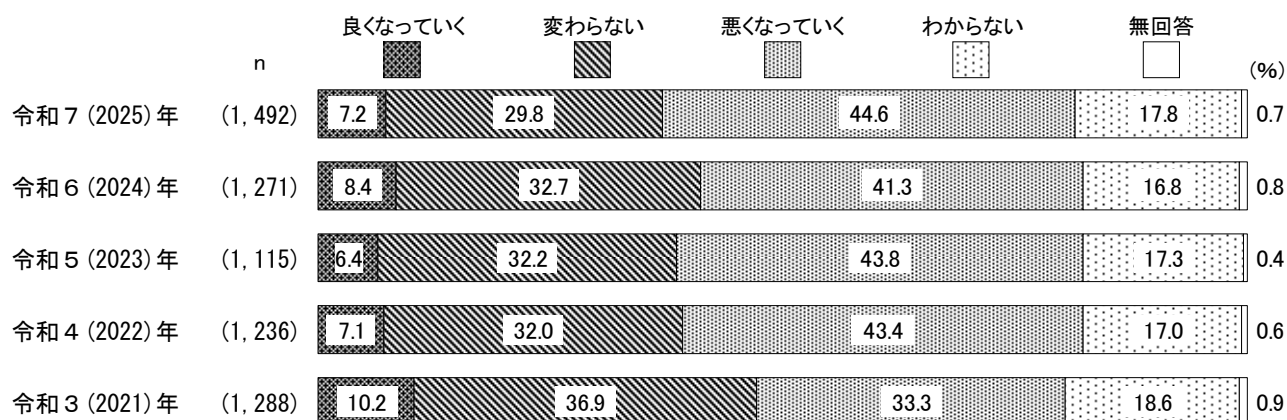
問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 良くなっていく	7.2%	3 悪くなっていく	44.6%
2 変わらない	29.8	4 わからない	17.8
		(無回答)	0.7



全体でみると、「悪くなっていく」(44.6%)が4割台半ば近くとなっており、「変わらない」(29.8%)が3割弱となっている。

[過去の調査結果]

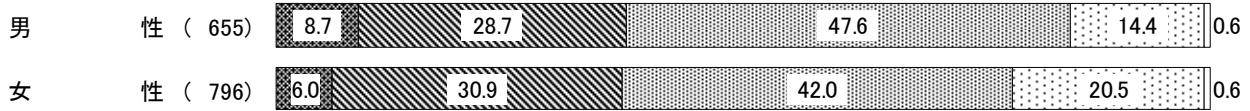


過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が令和3(2021)年から11.3ポイント増加している。

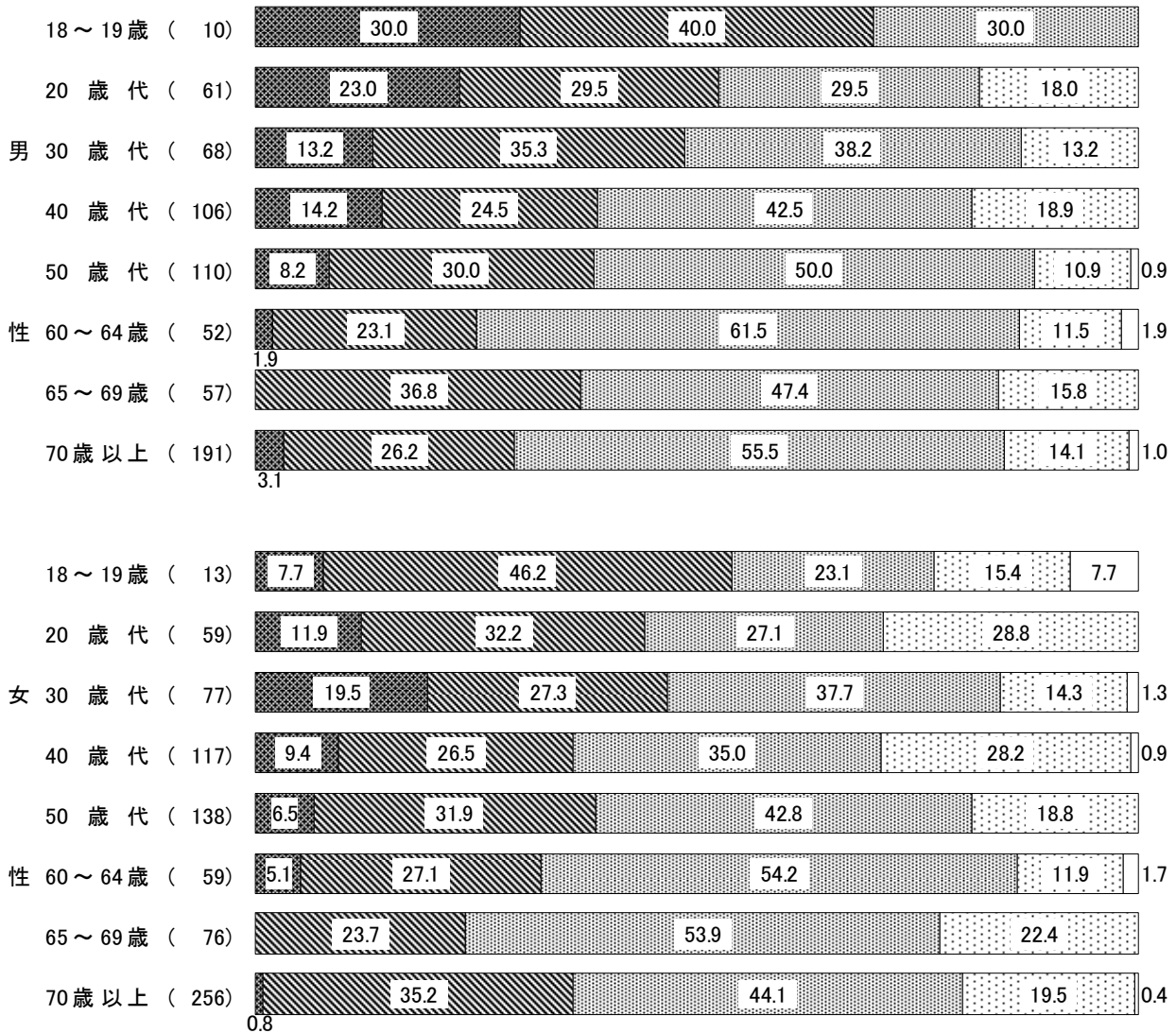
〔性別・性／年齢別〕



【性別】



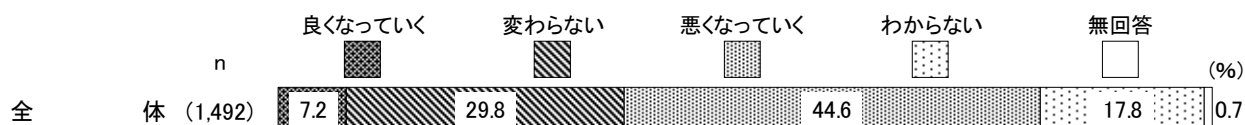
【性／年齢別】



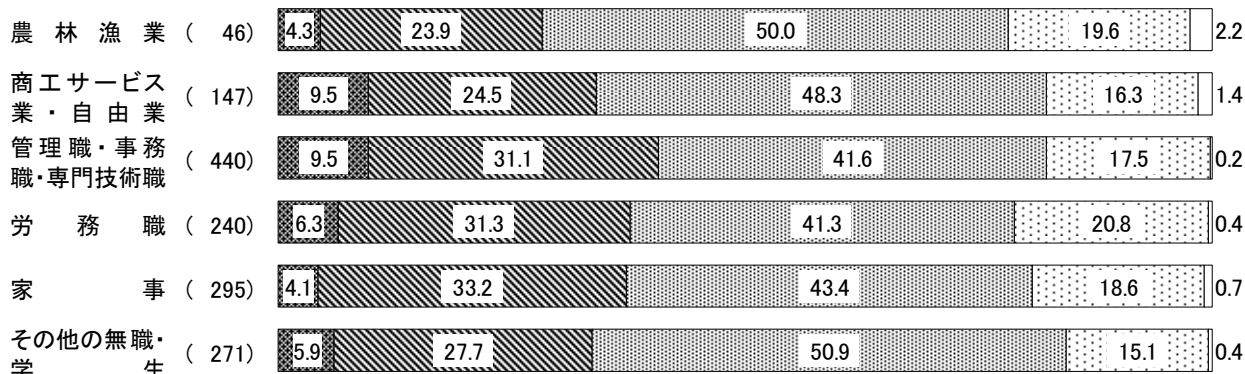
性別でみると、「悪くなっていく」では〈男性〉(47.6%)が〈女性〉(42.0%)より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉が23.0%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性60～64歳〉が61.5%と高くなっている。

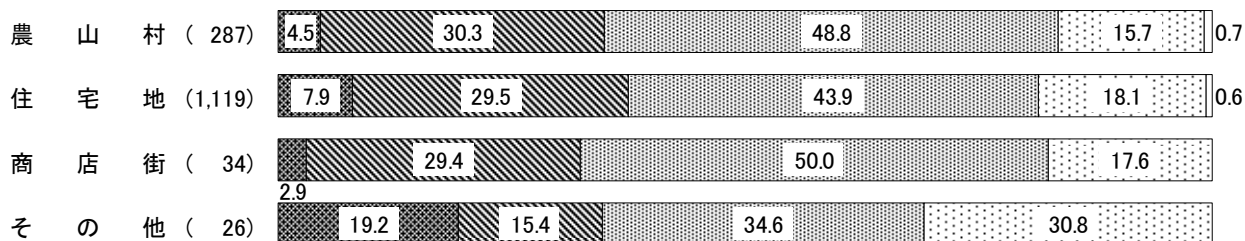
【職業別・居住環境別・地域別】



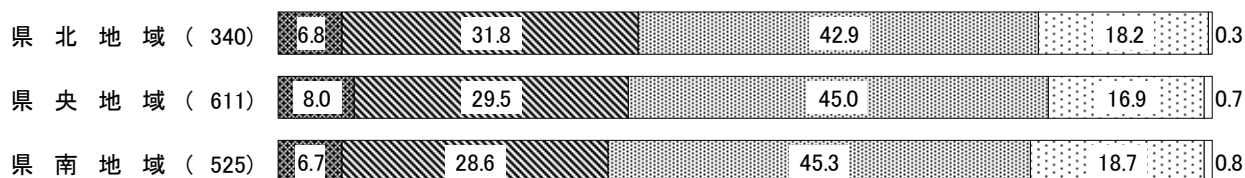
【職業別】



【居住環境別】



【地域別】



職業別でみると、「悪くなっていく」では〈その他の無職・学生〉が50.9%、〈農林漁業〉が50.0%と高くなっている。

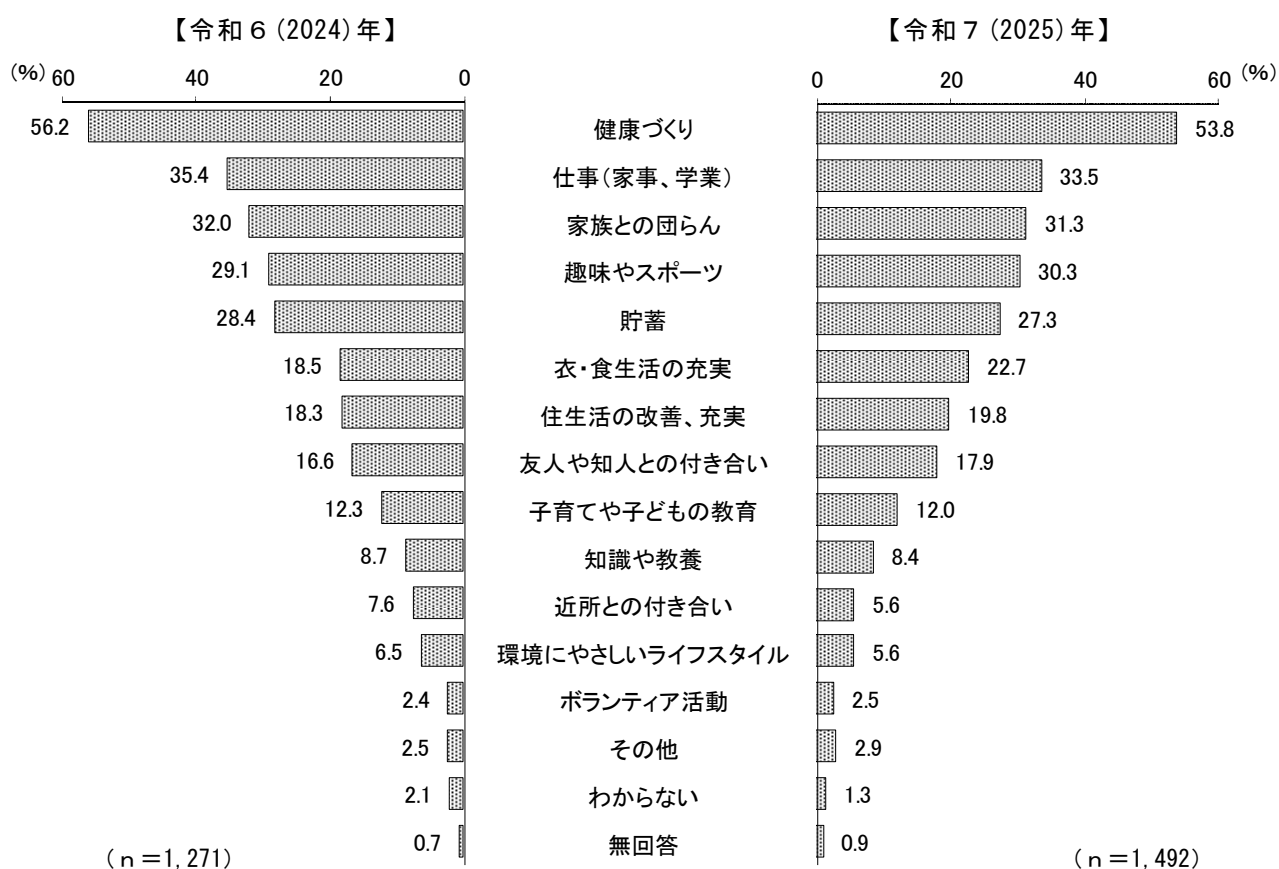
居住環境別でみると、「悪くなっていく」では〈商店街〉が50.0%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,492]

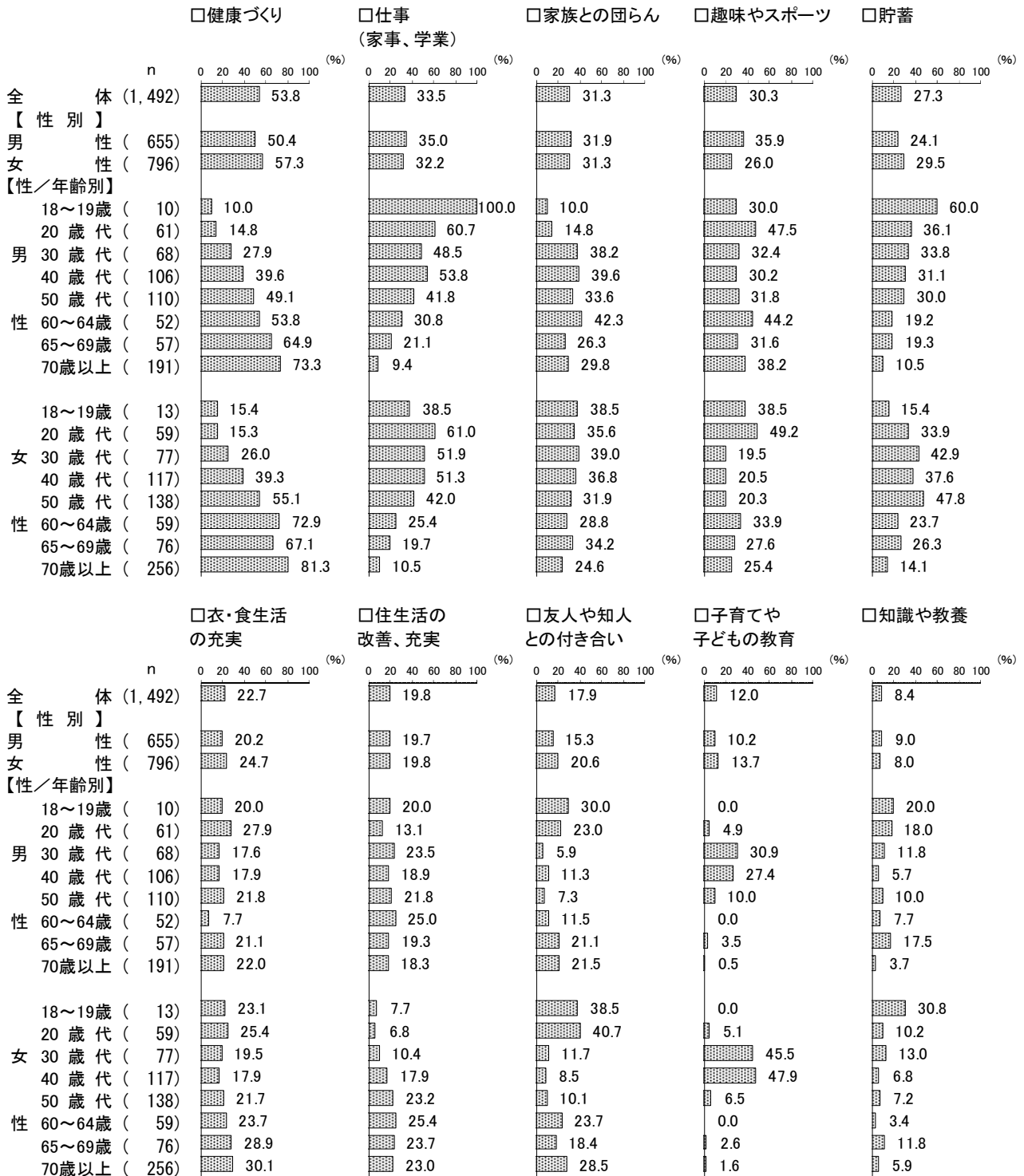
1 仕事（家事、学業）	33.5%	9 家族との団らん	31.3%
2 知識や教養	8.4	10 近所との付き合い	5.6
3 貯蓄	27.3	11 友人や知人との付き合い	17.9
4 趣味やスポーツ	30.3	12 子育てや子どもの教育	12.0
5 ボランティア活動	2.5	13 健康づくり	53.8
6 衣・食生活の充実	22.7	14 その他	2.9
7 住生活の改善、充実	19.8	15 わからない	1.3
8 環境にやさしいライフスタイル	5.6	（無回答）	0.9



全体でみると、「健康づくり」(53.8%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「仕事（家事、学業）」(33.5%)、「家族との団らん」(31.3%)、「趣味やスポーツ」(30.3%)、「貯蓄」(27.3%)の順となっている。

前回（令和6(2024)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

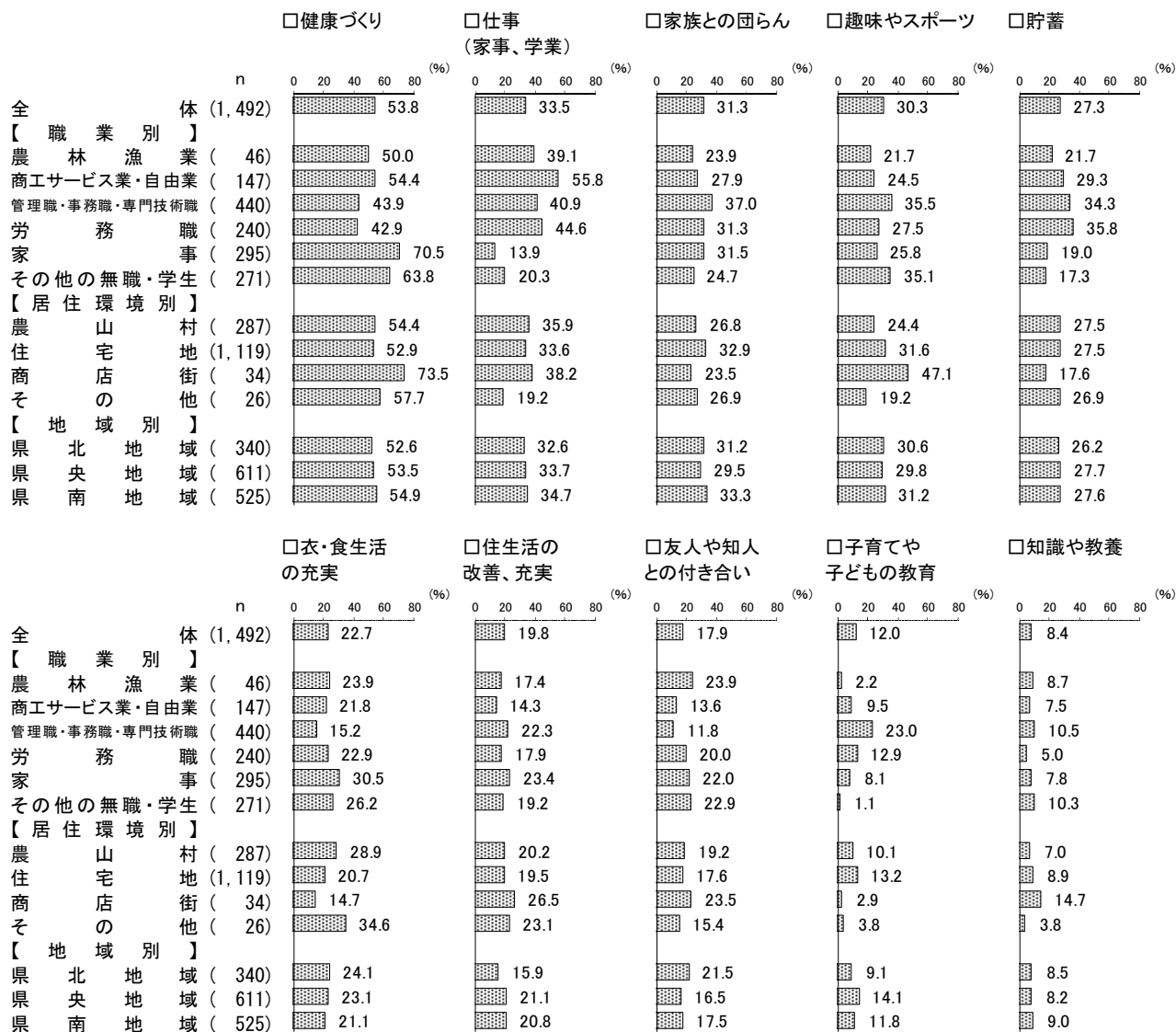
〔性別・性／年齢別〕（上位10項目）



性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉（35.9%）が〈女性〉（26.0%）より9.9ポイント高くなっている。一方、「健康づくり」では〈女性〉（57.3%）が〈男性〉（50.4%）より6.9ポイント、「貯蓄」では〈女性〉（29.5%）が〈男性〉（24.1%）より5.4ポイント、「友人や知人との付き合い」では〈女性〉（20.6%）が〈男性〉（15.3%）より5.3ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性70歳以上〉が81.3%と高くなっている。「仕事（家事、学業）」では〈女性20歳代〉が61.0%、〈男性20歳代〉が60.7%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性60～64歳〉が42.3%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈女性20歳代〉が49.2%、〈男性20歳代〉が47.5%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性50歳代〉が47.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別] (上位10項目)



職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉が70.5%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉が55.8%と高くなっている。「家族との団らん」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が37.0%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が35.5%、〈その他無職・学生〉が35.1%と高くなっている。「貯蓄」では〈労務職〉が35.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「健康づくり」では〈商店街〉が73.5%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商店街〉が38.2%と高くなっている。「家族との団らん」では〈住宅街〉が32.9%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈商店街〉が47.1%と高くなっている。「貯蓄」では〈商店街〉が17.6%と低くなっている。

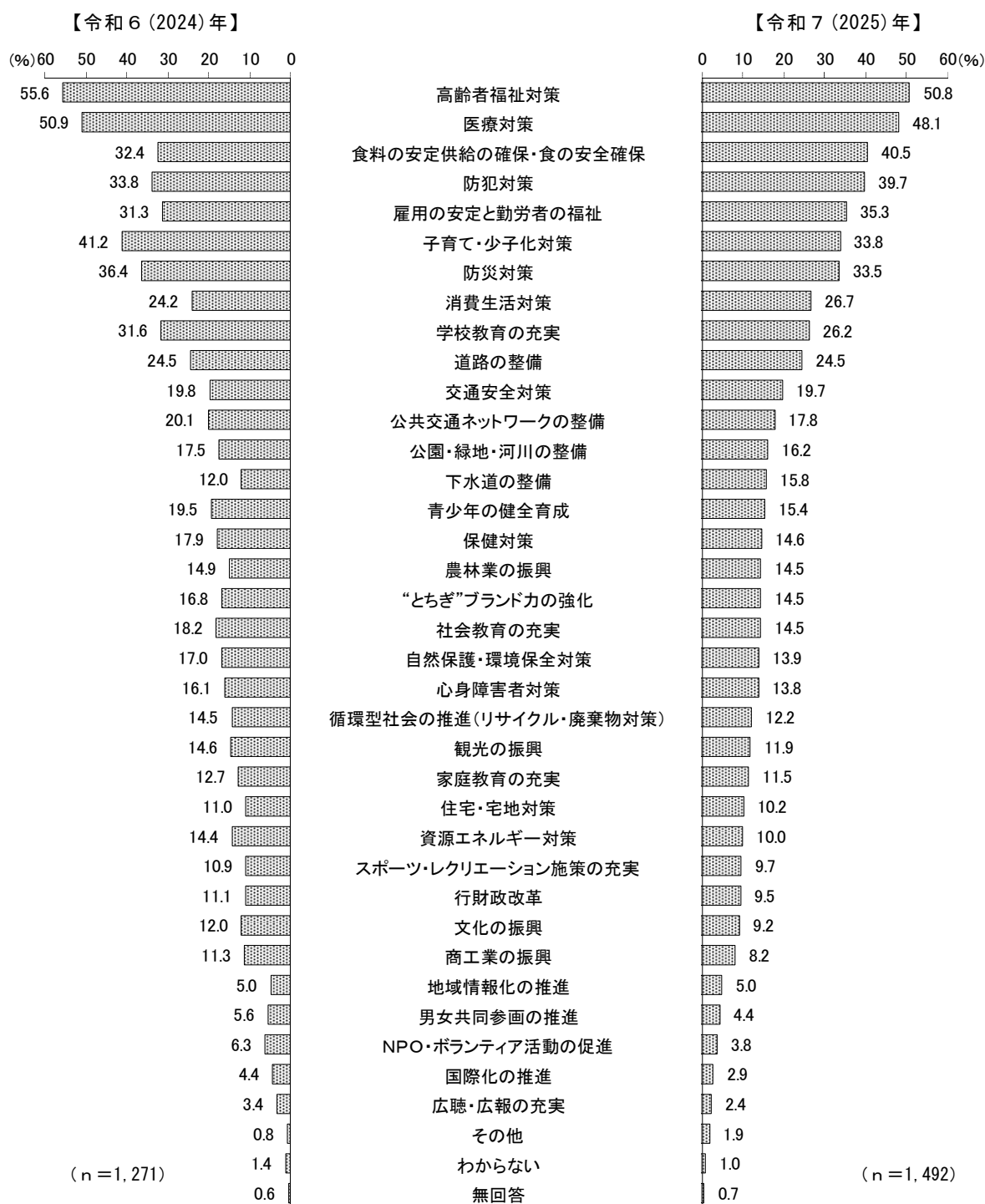
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,492]

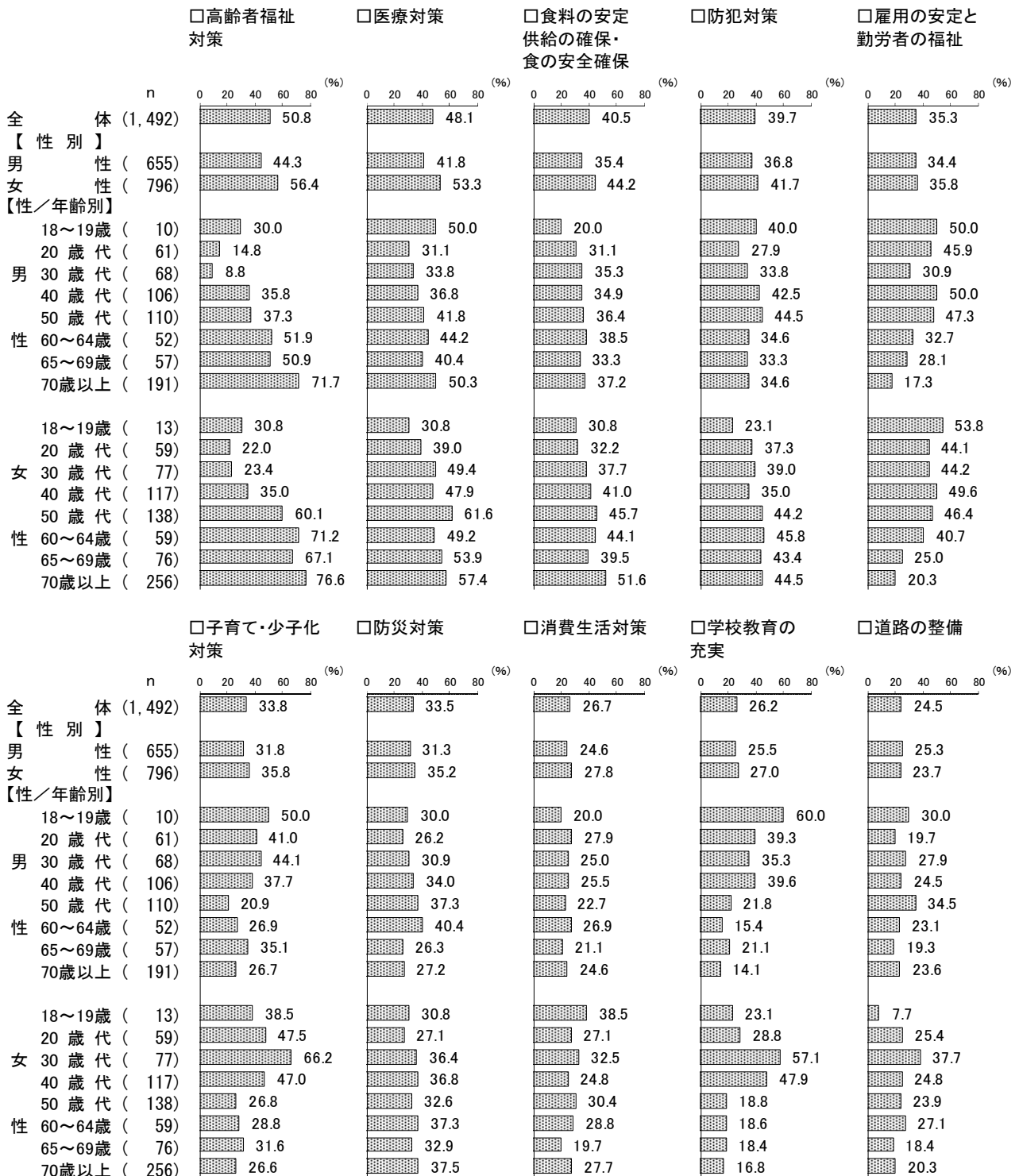
1 学校教育の充実	26.2%	19 観光の振興	11.9%
2 青少年の健全育成	15.4	20 雇用の安定と勤労者の福祉	35.3
3 家庭教育の充実	11.5	21 住宅・宅地対策	10.2
4 社会教育の充実	14.5	22 資源エネルギー対策	10.0
5 文化の振興	9.2	23 下水道の整備	15.8
6 スポーツ・レクリエーション 施策の充実	9.7	24 公園・緑地・河川の整備	16.2
7 NPO・ボランティア活動の促進	3.8	25 公共交通ネットワークの整備	17.8
8 広聴・広報の充実	2.4	26 道路の整備	24.5
9 国際化の推進	2.9	27 地域情報化の推進	5.0
10 子育て・少子化対策	33.8	28 防災対策	33.5
11 高齢者福祉対策	50.8	29 防犯対策	39.7
12 心身障害者対策	13.8	30 交通安全対策	19.7
13 医療対策	48.1	31 消費生活対策	26.7
14 保健対策	14.6	32 自然保護・環境保全対策	13.9
15 男女共同参画の推進	4.4	33 循環型社会の推進 (リサイクル・廃棄物対策)	12.2
16 農林業の振興	14.5	34 行財政改革	9.5
17 食料の安定供給の確保・ 食の安全確保	40.5	35 “とちぎ”ブランド力の強化	14.5
18 商工業の振興	8.2	36 その他	1.9
		37 わからない (無回答)	1.0 0.7



全体でみると、「高齢者福祉対策」(50.8%)が約5割で最も高く、次いで「医療対策」(48.1%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(40.5%)、「防犯対策」(39.7%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(35.3%)、「子育て・少子化対策」(33.8%)、「防災対策」(33.5%)の順となっている。

前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が8.1ポイント、「防犯対策」が5.9ポイントそれぞれ増加している。一方、「子育て・少子化対策」が7.4ポイント、「学校教育の充実」が5.4ポイントそれぞれ減少している。

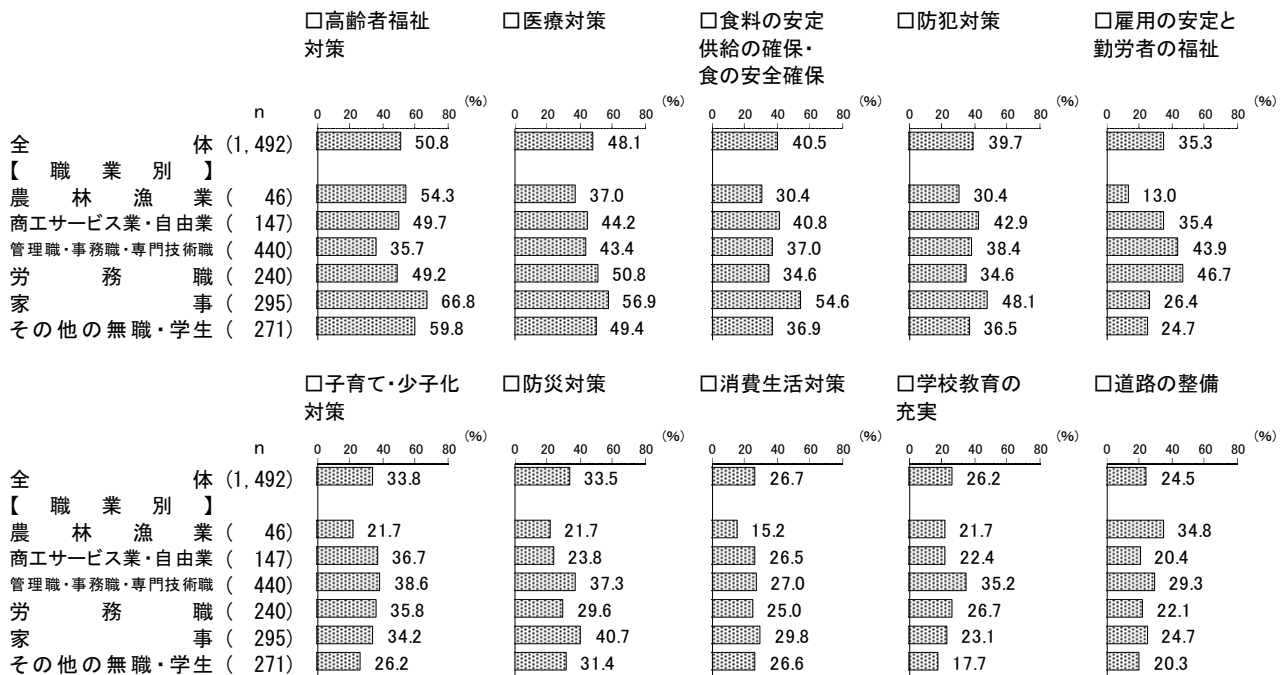
〔性別・性／年齢別〕（上位 10 項目）



性別でみると、「高齢者福祉対策」では〈女性〉（56.4%）が〈男性〉（44.3%）より12.1ポイント、「医療対策」では〈女性〉（53.3%）が〈男性〉（41.8%）より11.5ポイント、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉（44.2%）が〈男性〉（35.4%）より8.8ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉が76.6%と高くなっている。「医療対策」では〈女性50歳代〉が61.6%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性70歳以上〉が51.6%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性30歳代〉が66.2%と高くなっている。

〔職業別〕（上位 10 項目）



職業別でみると、「高齢者福祉対策」では〈家事〉が66.8%と高くなっている。「医療対策」では〈家事〉が56.9%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈家事〉が54.6%と高くなっている。「防犯対策」では〈家事〉が48.1%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈労務職〉が46.7%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	順位 年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	令和7(2025)年 (n=1,492)	高齢者福祉対策 50.8%	医療対策 48.1%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 40.5%	防犯対策 39.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.3%
	令和6(2024)年 (n=1,271)	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 50.9%	子育て・少子化対策 41.2%	防災対策 36.4%	防犯対策 33.8%
	令和5(2023)年 (n=1,115)	高齢者福祉対策 56.4%	医療対策 49.6%	子育て・少子化対策 36.9%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.9%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.1%
	令和4(2022)年 (n=1,236)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 47.2%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.6%	子育て・少子化対策 35.4%	防災対策 33.7%
	令和3(2021)年 (n=1,288)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 51.9%	防災対策 38.5%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 35.2%
20 〜 39 歳	令和7(2025)年 (n=273)	子育て・少子化対策 49.5%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.8%	学校教育の充実 40.3%	医療対策 38.8%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.5%
	令和6(2024)年 (n=236)	子育て・少子化対策 55.5%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 44.9%	防災対策 37.7%	防犯対策 36.0%
	令和5(2023)年 (n=188)	子育て・少子化対策 59.0%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.3%	学校教育の充実 44.1%	医療対策 43.1%	防犯対策 33.5%
	令和4(2022)年 (n=213)	子育て・少子化対策 52.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 43.7%	医療対策 41.8%	学校教育の充実 40.4%	防災対策 37.6%
	令和3(2021)年 (n=288)	子育て・少子化対策 58.7%	学校教育の充実 44.8%	医療対策 42.4%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.0%	防災対策 37.5%
40 〜 59 歳	令和7(2025)年 (n=484)	医療対策 48.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 47.7%	高齢者福祉対策 43.4%	防犯対策 42.1%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 39.9%
	令和6(2024)年 (n=382)	医療対策 49.2%	高齢者福祉対策／子育て・少子化対策 46.1%	学校教育の充実 40.3%	雇用の安定と勤労者 の福祉 40.1%	
	令和5(2023)年 (n=329)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 51.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 45.0%	子育て・少子化対策 38.6%	防犯対策 34.7%
	令和4(2022)年 (n=379)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 50.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.2%	子育て・少子化対策 39.6%	学校教育の充実／ 防災対策 34.8%
	令和3(2021)年 (n=398)	医療対策 54.5%	高齢者福祉対策 48.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 42.2%	防災対策 38.7%	子育て・少子化対策 33.2%
60 〜 69 歳	令和7(2025)年 (n=246)	高齢者福祉対策 61.0%	医療対策 48.0%	防犯対策 40.2%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 39.0%	防災対策 34.6%
	令和6(2024)年 (n=227)	高齢者福祉対策 72.2%	医療対策 62.1%	防災対策 42.3%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 37.4%	子育て・少子化対策 36.6%
	令和5(2023)年 (n=221)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 51.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 38.0%	防犯対策 37.6%	防災対策 35.7%
	令和4(2022)年 (n=228)	高齢者福祉対策 61.4%	医療対策 46.9%	防災対策 32.0%	雇用の安定と勤労者 の福祉 31.6%	子育て・少子化対策 30.7%
	令和3(2021)年 (n=247)	高齢者福祉対策 67.6%	医療対策 59.5%	防災対策 41.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.0%	防犯対策 30.8%
70 歳 以上	令和7(2025)年 (n=454)	高齢者福祉対策 74.2%	医療対策 54.4%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 45.4%	防犯対策 40.1%	防災対策 33.0%
	令和6(2024)年 (n=401)	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 49.9%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.9%	防犯対策 35.2%	防災対策 32.9%
	令和5(2023)年 (n=355)	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 47.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 41.4%	防犯対策 31.8%	防災対策 27.9%
	令和4(2022)年 (n=379)	高齢者福祉対策 67.5%	医療対策 44.1%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 37.2%	防災対策 33.0%	防犯対策 26.9%
	令和3(2021)年 (n=312)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 51.0%	防災対策 37.8%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 30.8%	防犯対策 28.2%

上位 5 項目について、全体及び 4 区分した年齢層別に過去 4 年の調査結果と比較すると、全体では、令和 3 (2021) 年以降「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位となっている。また、令和 3 (2021) 年から令和 6 (2024) 年まで上位 5 項目に入っていなかった「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が、今回の調査で 3 位に上がってきた。

一方、令和 3 (2021) 年から令和 6 (2024) 年まで上位 5 項目に入っていた「子育て・少子化対策」は、今回の調査では上位 5 項目には入らなかった。

20～39 歳では、「子育て・少子化対策」が令和 3 (2021) 年以降 1 位となっている。令和 7 (2025) 年まで 2 位～4 位には「学校教育の充実」および「医療対策」が入っている。また、令和 3 (2021) 年以降の上位 5 項目にはなかった「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が今回調査では上位 5 項目に上がってきた。

40～59 歳では、「医療対策」が令和 3 (2021) 年以降 1 位となっている。令和 3 (2021) 年から令和 6 (2024) 年まで 2 位であった「高齢者福祉対策」は今回調査では 3 位となり、代わって「雇用の安定と勤労者の福祉」が 2 位に入っている。今回調査では、「防犯対策」が 4 位に、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が 5 位にそれぞれ上がってきた。

60～69 歳では、令和 3 (2021) 年以降、「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位となっている。前回 (令和 6 (2024) 年) は 3 位だった「防災対策」が今回調査では 5 位となり、代わって「防犯対策」が 3 位に上がってきた。

70 歳以上では、令和 3 (2021) 年以降、「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位となっている。令和 3 (2021) 年以降上位 5 項目の項目は変わらず、今回調査では令和 5 (2023) 年以降と同様の順位となっている。

3 日常生活について

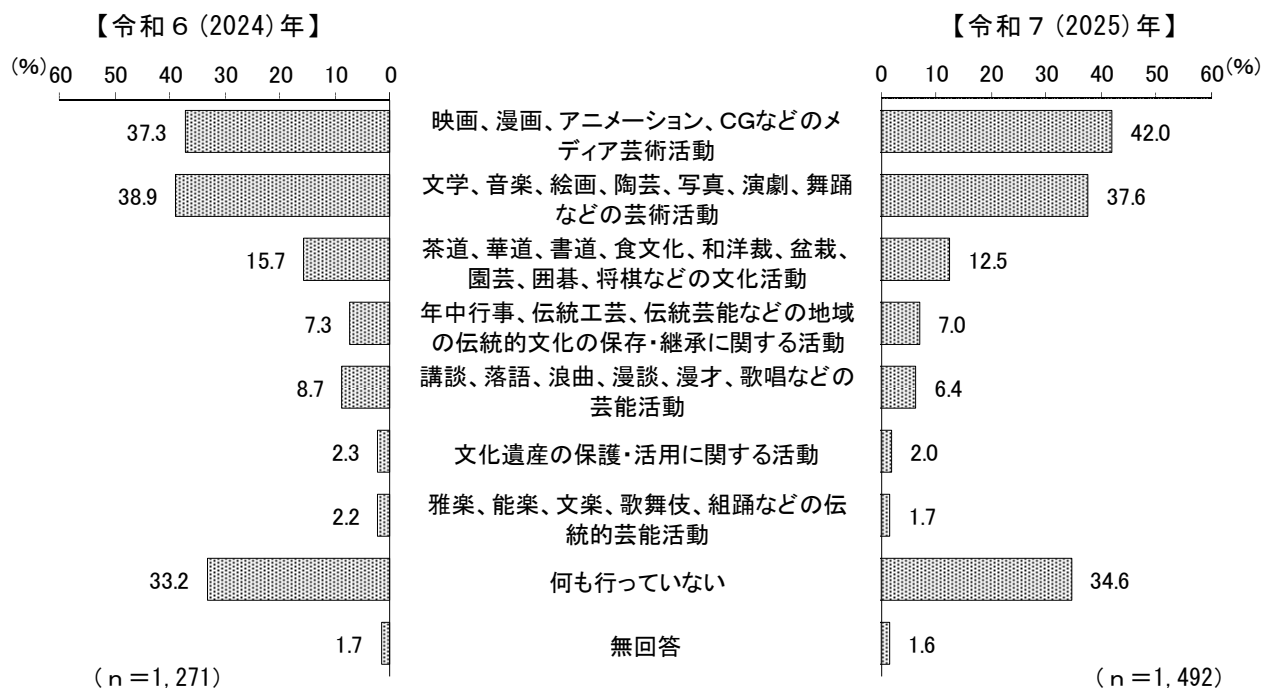
(1) 文化・芸術活動について

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,492]

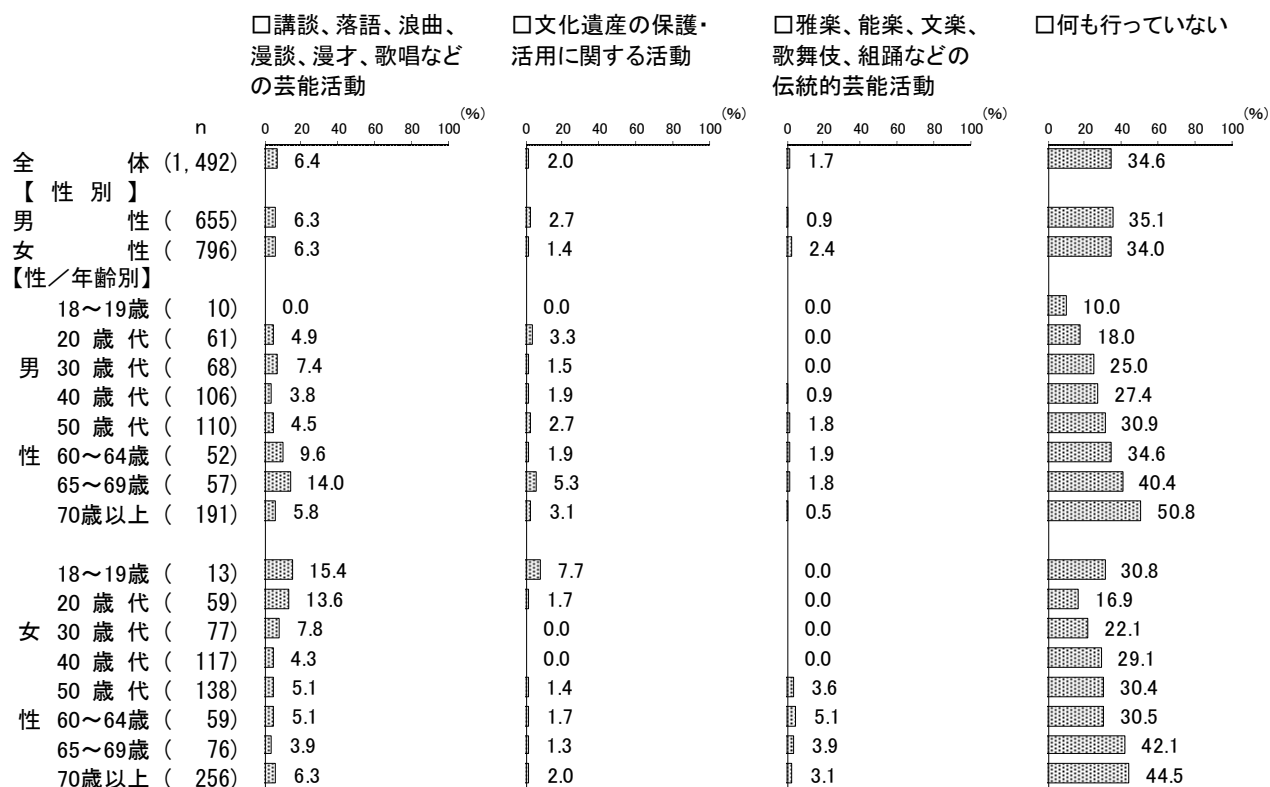
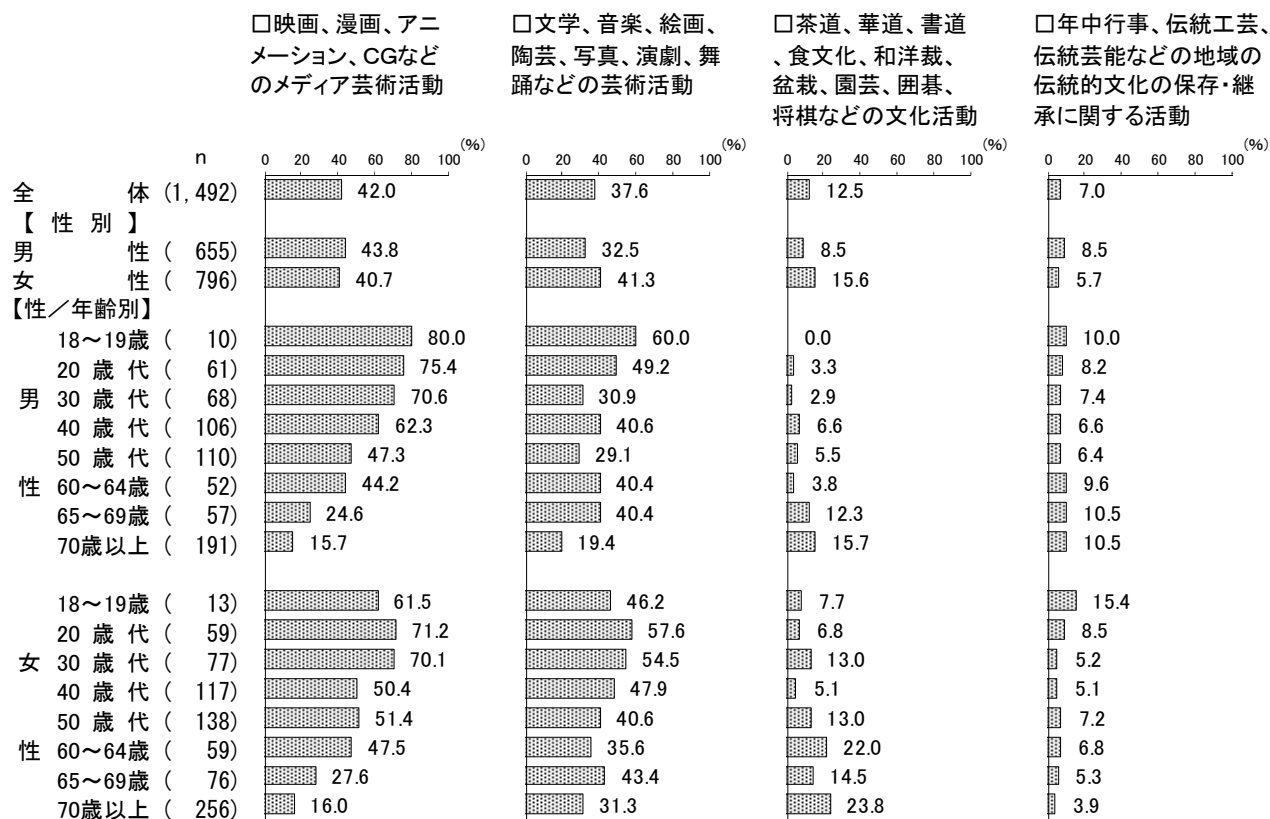
1	文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動	37.6%
2	映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動	42.0
3	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動	1.7
4	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動	6.4
5	茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動	12.5
6	年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動	7.0
7	文化遺産の保護・活用に関する活動	2.0
8	何も行っていない	34.6
	(無回答)	1.6



全体でみると、「映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（42.0%）が4割強で最も高く、次いで「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（37.6%）となっている。一方、「何も行っていない」（34.6%）が3割台半ば近くとなっている。

前回（令和6(2024)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

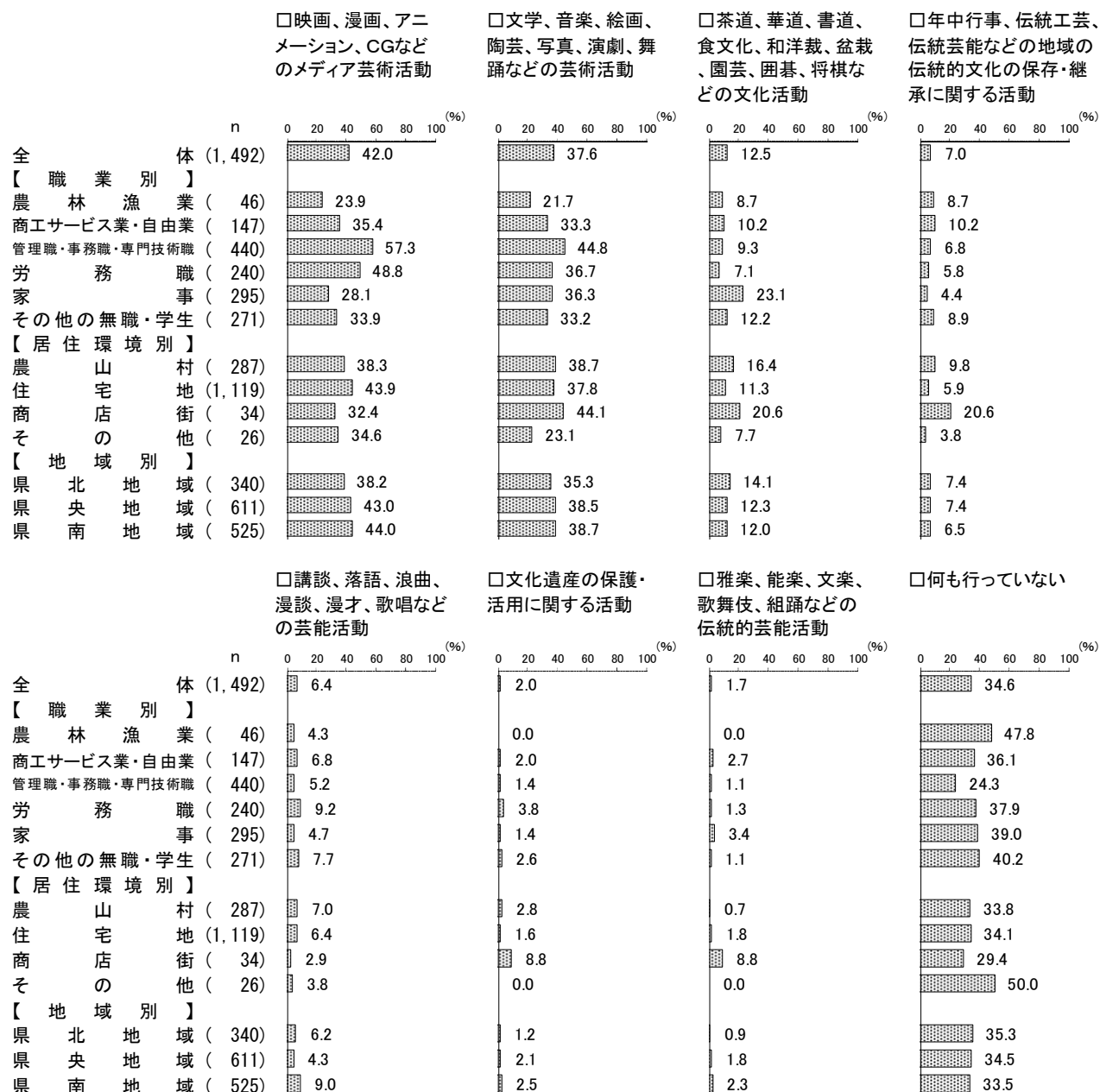
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉(41.3%)が〈男性〉(32.5%)より8.8ポイント、「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」では〈女性〉(15.6%)が〈男性〉(8.5%)より7.1ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、『メディア芸術活動』では〈男性20歳代〉が75.4%と高くなっている。『芸術活動』では〈女性20歳代〉が57.6%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈男性70歳以上〉が50.8%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別】



職業別でみると、『メディア芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が57.3%と高くなっている。『芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が44.8%と高くなっている。『文化活動』では〈家事〉が23.1%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈農林漁業〉が47.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、『メディア芸術活動』では〈住宅地〉が44.1%と高くなっている。『芸術活動』では〈商店街〉が44.1%と高くなっている。『文化活動』では〈商店街〉が20.6%と高くなっている。「年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動」では〈商店街〉が20.6%と高くなっている。

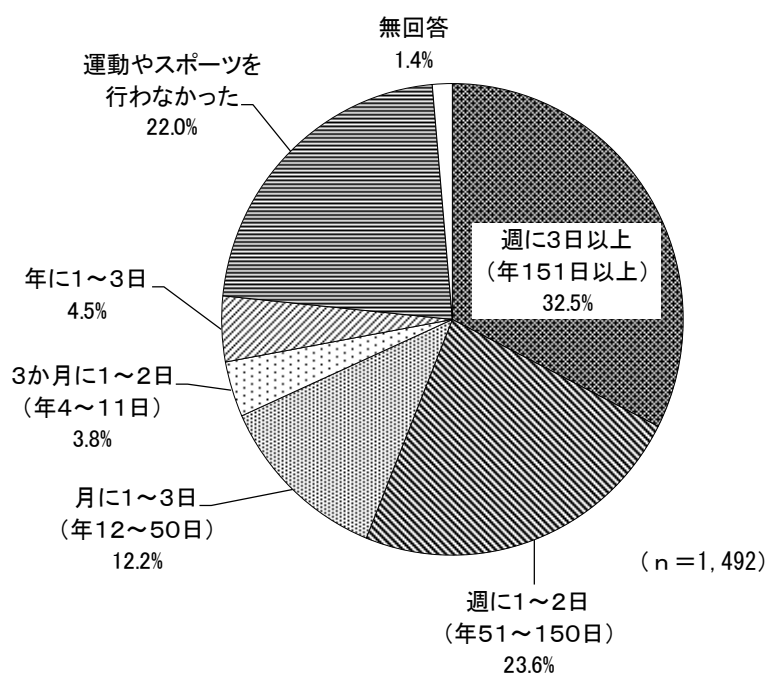
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

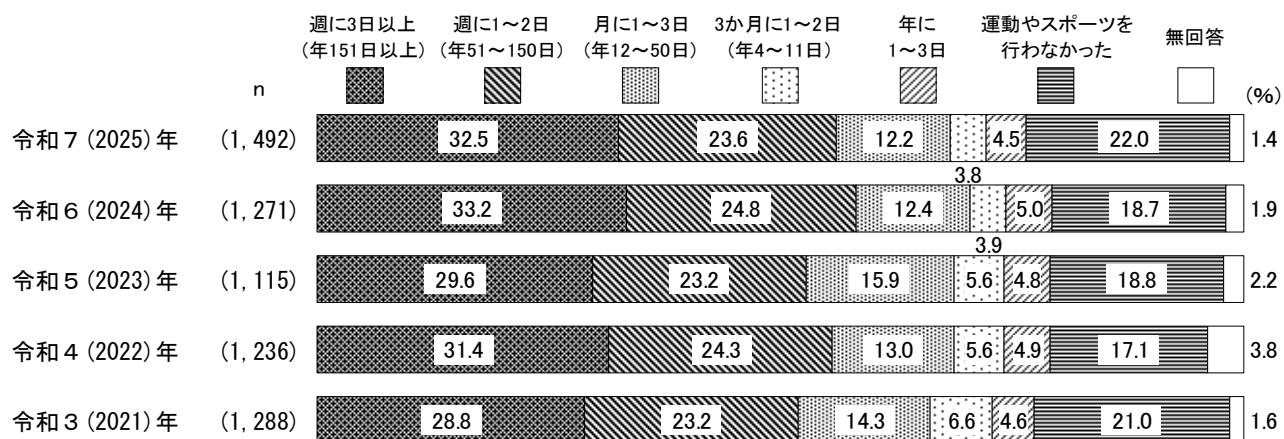
※ ここでは「運動やスポーツ」を、「散歩や階段昇降など、健康・体力や美容の保持増進のための活動」や「家事・育児・通勤・通学など日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」まで幅広く捉えることとします。

1 週に3日以上（年151日以上）	32.5%	4 3か月に1～2日（年4～11日）	3.8%
2 週に1～2日（年51～150日）	23.6%	5 年に1～3日	4.5%
3 月に1～3日（年12～50日）	12.2%	6 運動やスポーツを行わなかった	22.0%
		（無回答）	1.4%



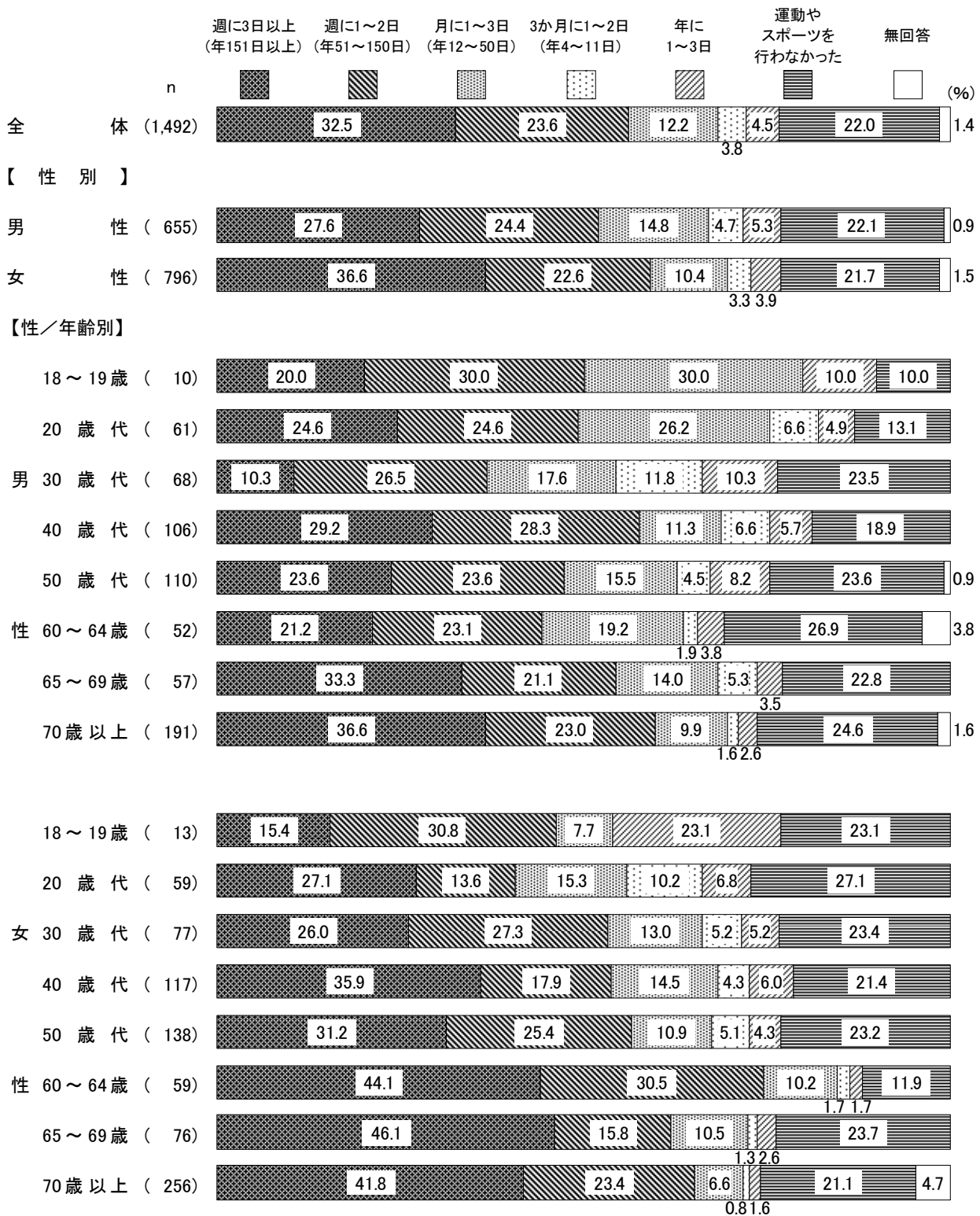
全体でみると、「週に3日以上（年151日以上）」（32.5%）が3割強で最も高く、次いで「週に1～2日（年51～150日）」（23.6%）、「月に1～3日（年12～50日）」（12.2%）の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」（22.0%）が2割強となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「運動やスポーツを行わなかった」が前回（令和6(2024)年）から3.3ポイント増加している。

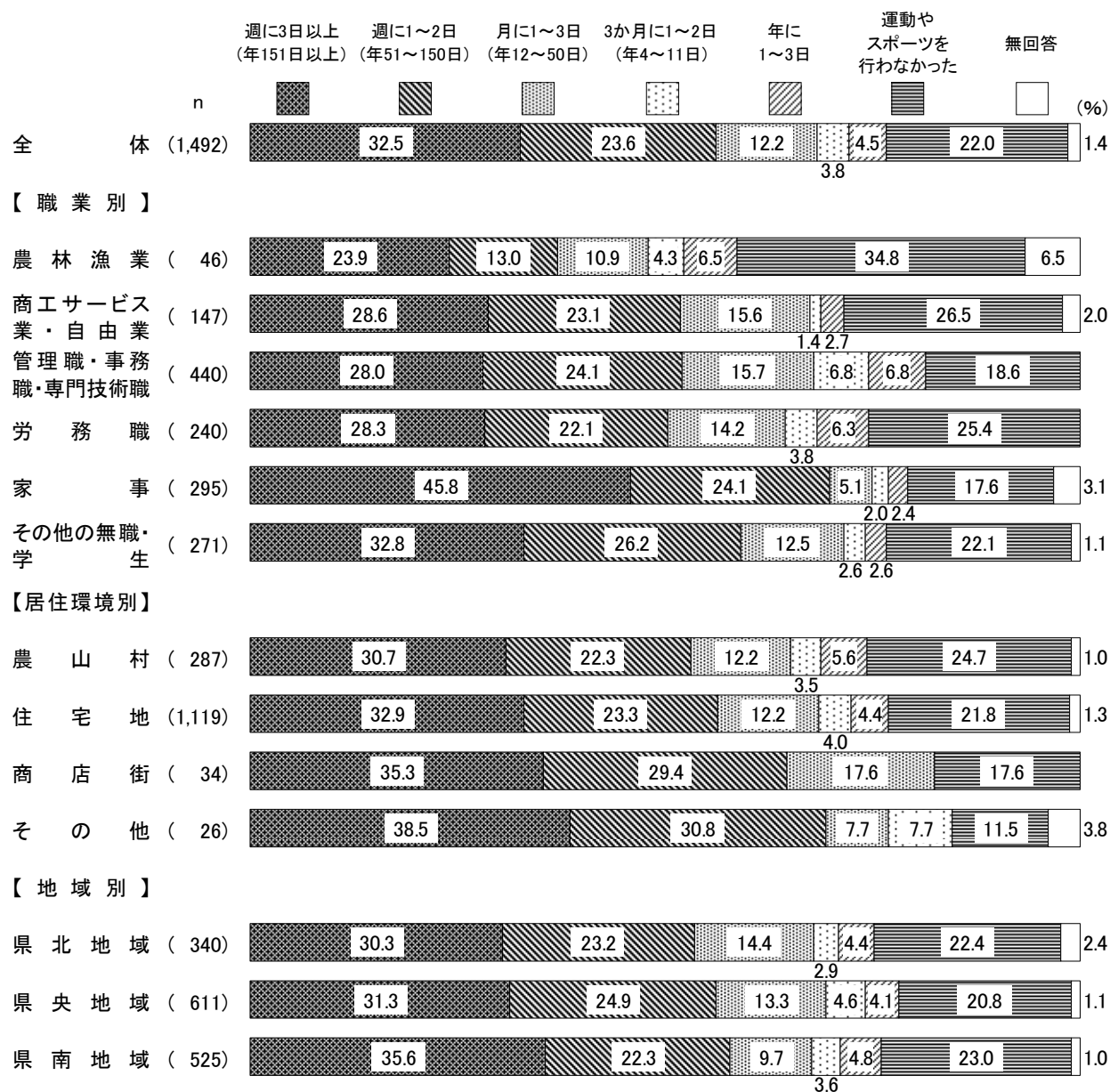
【性別・性／年齢別】



性別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈女性〉（36.6%）が〈男性〉（27.6%）より9.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈女性65～69歳〉が46.1%、〈女性60～64歳〉が44.1%と高くなっている。「月に1～3日（年12～50日）」では〈男性20歳代〉が26.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈家事〉が45.8%と高くなっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」では〈農林漁業〉が34.8%と高くなっている。

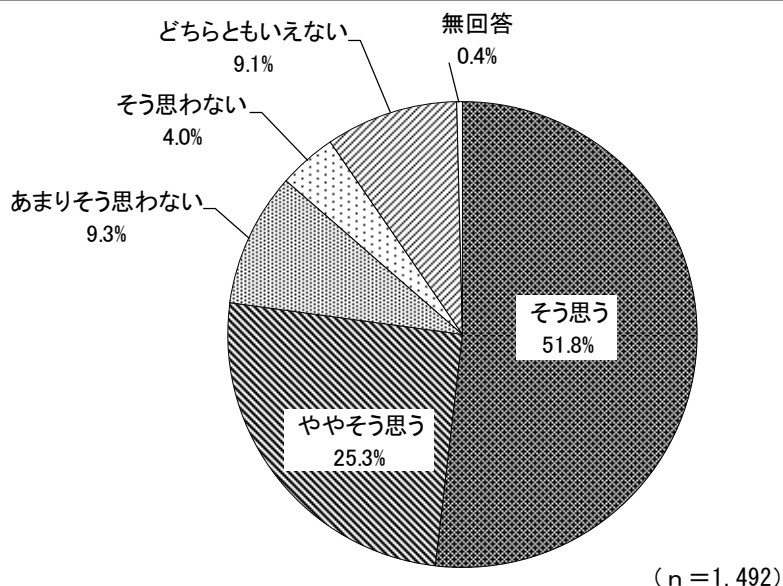
居住環境別でみると、「週に1~2日（年51~150日）」では〈商店街〉が29.4%と高くなっている。「月に1~3日（年12~50日）」では〈商店街〉が17.6%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) 住んでいる地域について

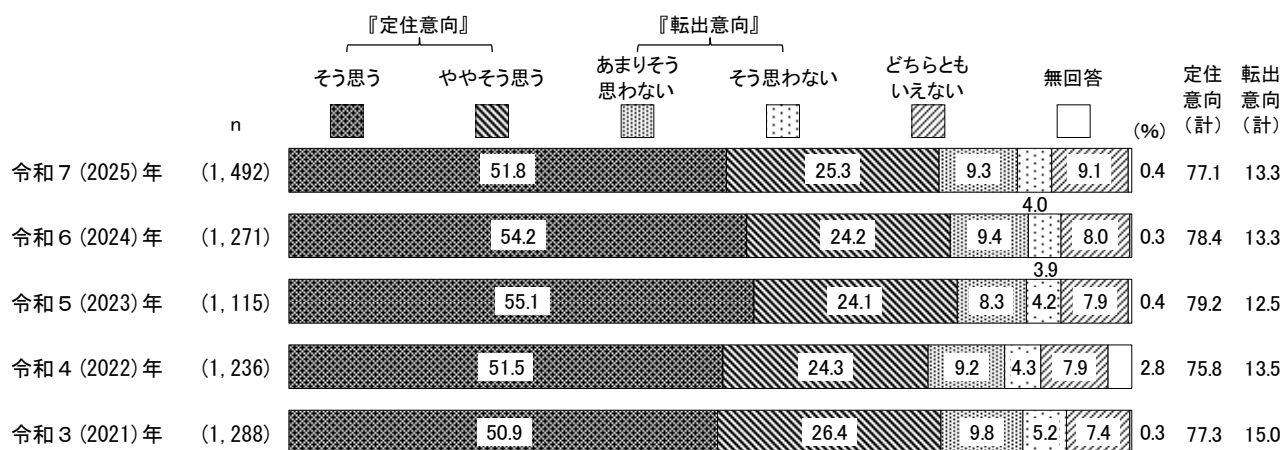
問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1	そう思う	51.8%	4	そう思わない	4.0%
2	ややそう思う	25.3	5	どちらともいえない	9.1
3	あまりそう思わない	9.3		(無回答)	0.4



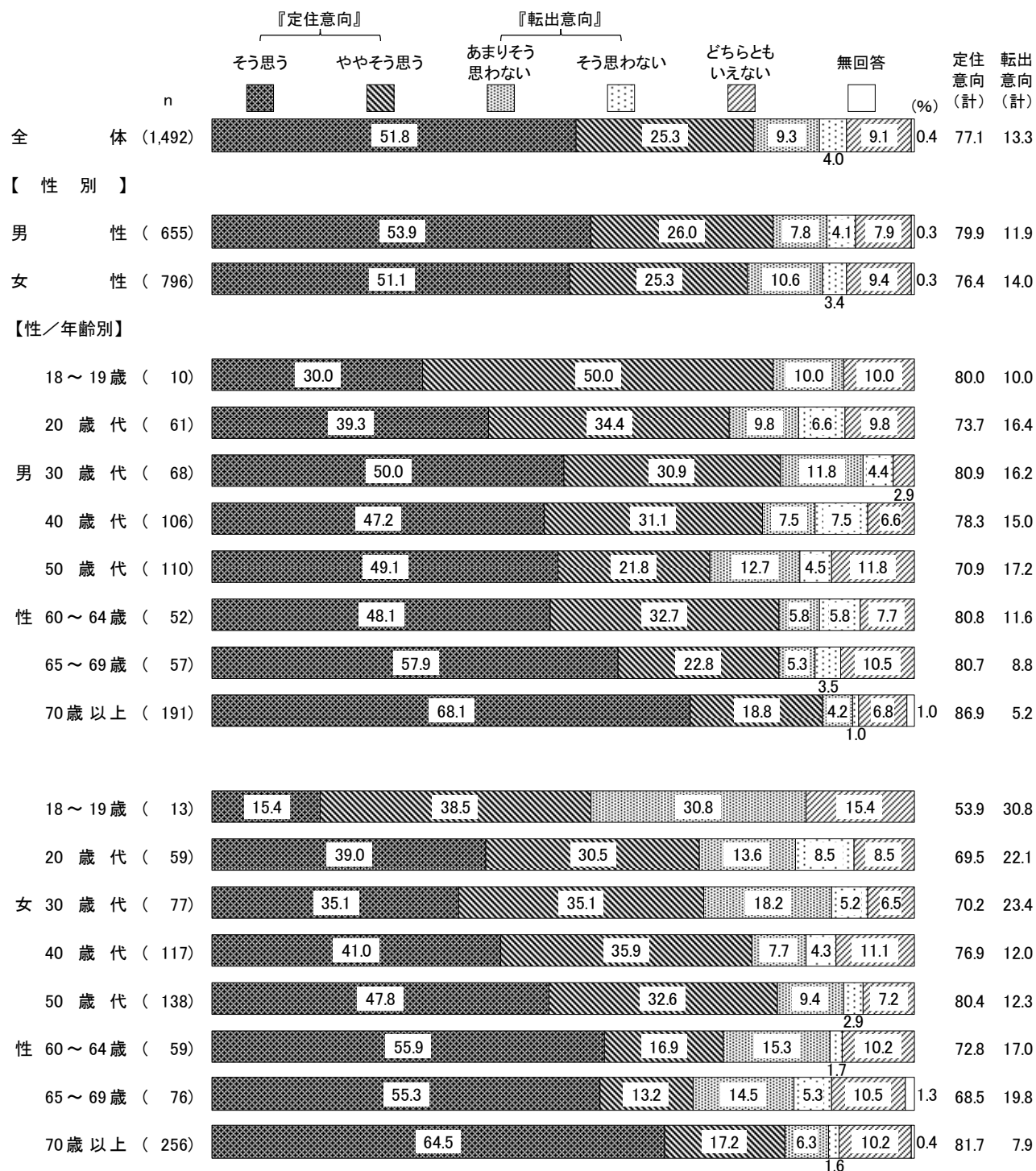
全体でみると、「そう思う」(51.8%)と「ややそう思う」(25.3%)の2つを合わせた『定住意向』(77.1%)が7割台半ばを超えている。一方、「あまりそう思わない」(9.3%)と「そう思わない」(4.0%)の2つを合わせた『転出意向』(13.3%)が1割台半ば近くとなっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると大きな傾向の違いはみられない。

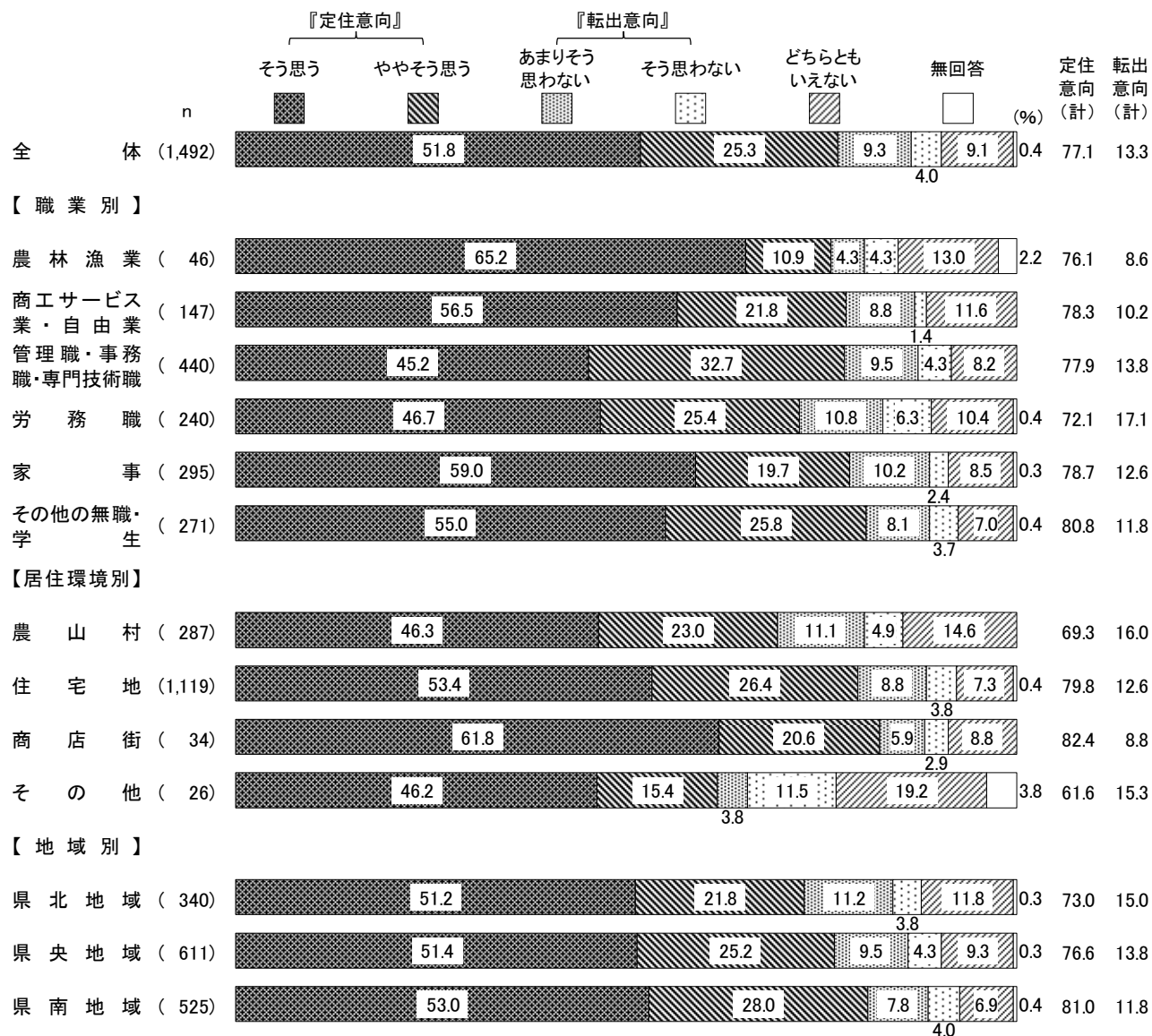
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『定住意向』では大きな傾向の違いはみられないが、「そう思う」では〈男性70歳以上〉が68.1%、〈女性70歳以上〉が64.5%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性30歳代〉が23.4%、〈女性20歳代〉が22.1%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『定住意向』では大きな傾向の違いはみられないが、「そう思う」では〈農林漁業〉が65.2%、〈家事〉が59.0%と高くなっている。「ややそう思う」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が32.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、『定住意向』では〈商店街〉が82.4%と高くなっている。『転出傾向』では〈農山村〉が16.0%と高くなっている。

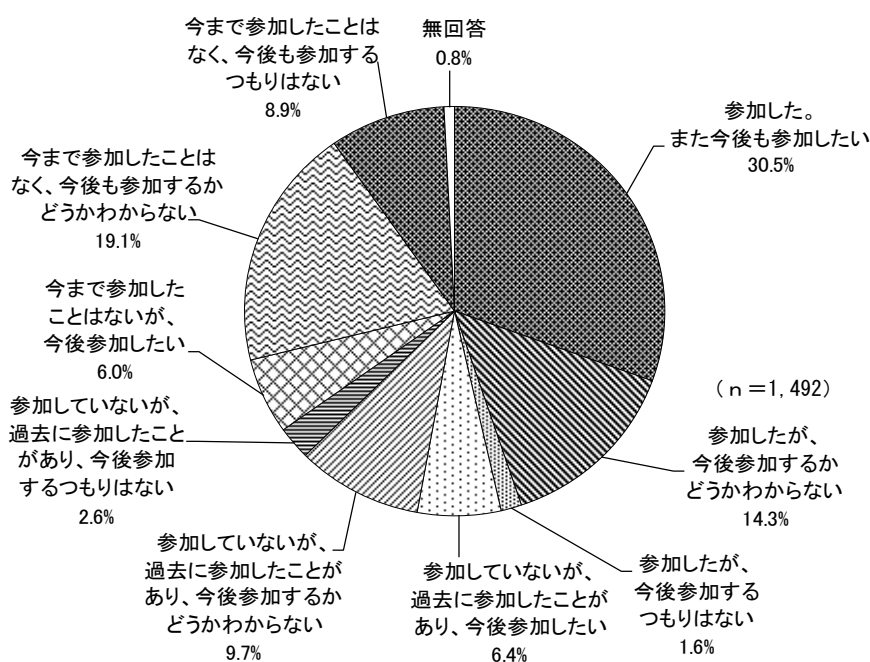
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(4) 社会貢献活動について

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動（※）に参加しましたか。また、今後参加したい
 と思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

1	参加した。また今後も参加したい	30.5%
2	参加したが、今後参加するかどうか分からない	14.3
3	参加したが、今後参加するつもりはない	1.6
4	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい	6.4
5	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうか分からない	9.7
6	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない	2.6
7	今まで参加したことはないが、今後参加したい	6.0
8	今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうか分からない	19.1
9	今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない	8.9
	(無回答)	0.8

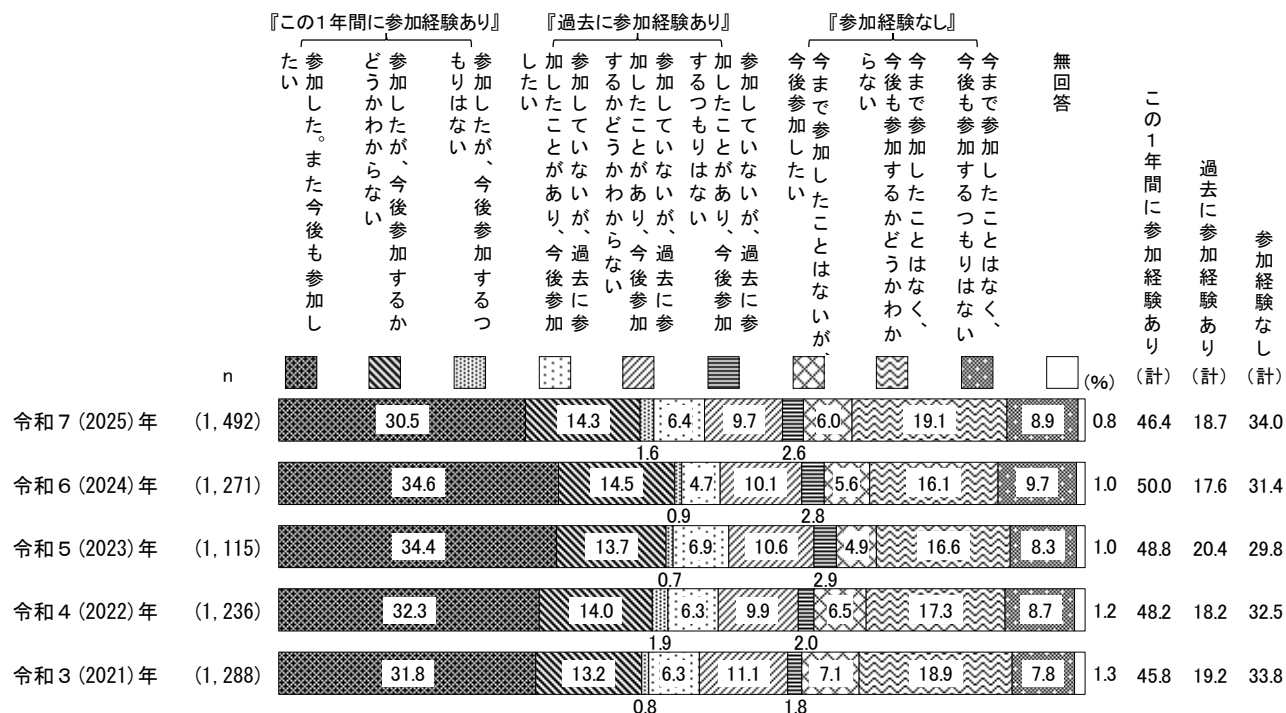


全体でみると、「参加した。また今後も参加したい」(30.5%)と「参加したが、今後参加するかどうか分からない」(14.3%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(1.6%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(46.4%)が4割台半ばを超えている。

「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」(6.4%)と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうか分からない」(9.7%)、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」(2.6%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(18.7%)が2割近くとなっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(6.0%)と「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうか分からない」(19.1%)、「今まで参加したことはなく、今後参加するつもりはない」(8.9%)の3つを合わせた『参加経験なし』(34.0%)が3割台半ば近くとなっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、前回（令和6（2024）年）と大きな傾向の違いはみられない。

	『この1年間に参加経験あり』			『過去に参加経験あり』			『参加経験なし』			無回答	この1年間に参加経験あり (計)	過去に参加経験あり (計)	参加経験なし (計)
	参加した。また今後参加したい	参加したが、今後参加するかどうかわからない	参加したが、今後参加するつもりはない	参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加したい	参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加するかどうかわからない	参加していないが、過去に参加するつもりはない	今後参加したい	今後参加しない	今後参加するつもりはない				
全 体 (1,492)	30.5	14.3	6.4	9.7	6.0	19.1	8.9	0.8	46.4	18.7	34.0		

男 性 (655) 27.2 14.8 6.1 7.6 6.1 20.9 11.9 0.9 43.8 16.3 38.9

女 性 (796) 33.7 13.3 6.7 11.6 6.0 17.8 6.5 0.5 48.4 20.8 30.3

男 18～19歳 (10) 20.0 20.0 10.0 20.0 30.0 20.0 20.0 60.0

20歳代 (61) 16.4 14.8 6.6 18.0 6.6 27.9 6.6 32.8 26.2 41.1

30歳代 (68) 13.2 14.7 7.4 7.4 5.9 27.9 19.1 30.8 16.3 52.9

40歳代 (106) 19.8 14.2 4.7 7.5 11.3 21.7 17.0 35.9 14.1 50.0

50歳代 (110) 29.1 16.4 6.4 6.4 20.0 10.9 1.8 49.1 15.5 33.6

性 60～64歳 (52) 42.3 5.8 7.7 13.5 17.3 5.8 1.9 50.0 23.1 25.0

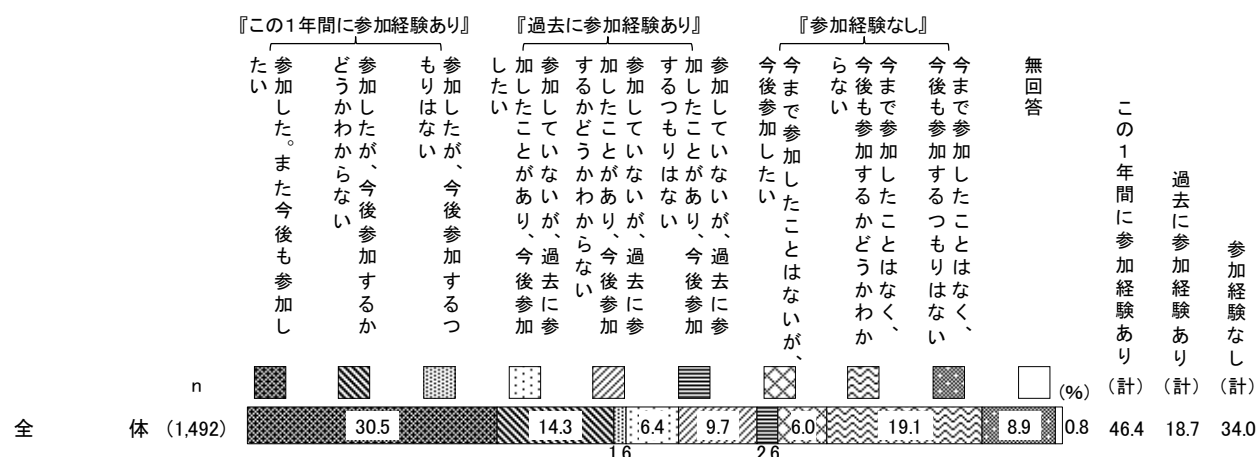
65～69歳 (57) 33.3 22.8 5.3 7.0 15.8 8.8 57.9 10.6 31.6

70歳以上 (191) 34.0 14.1 5.8 4.7 4.2 5.8 18.8 10.5 1.6 48.6 14.7 35.1

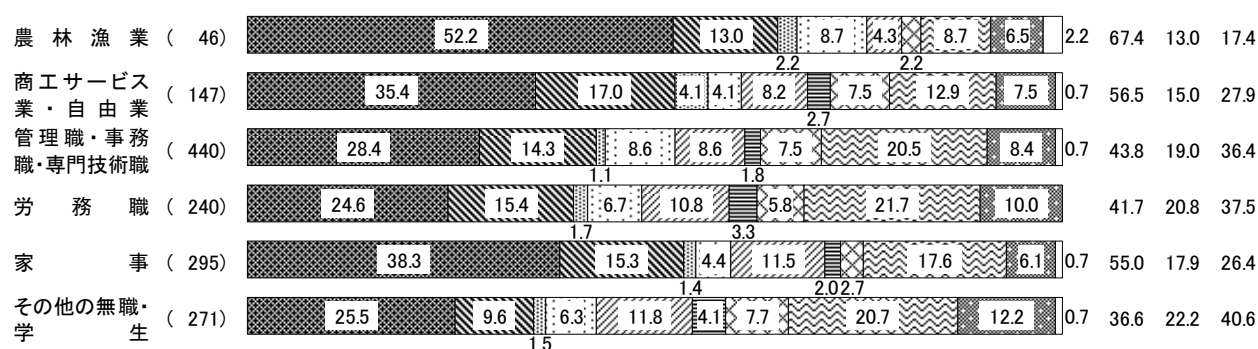
性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

– 46 –

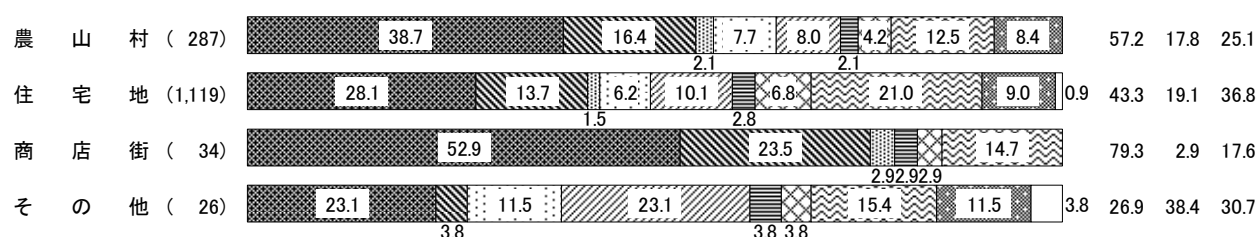
[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



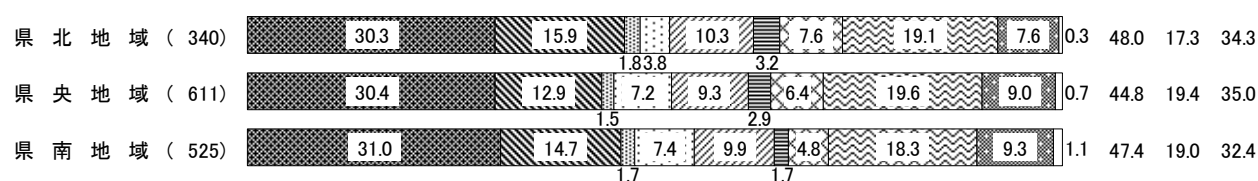
【職業別】



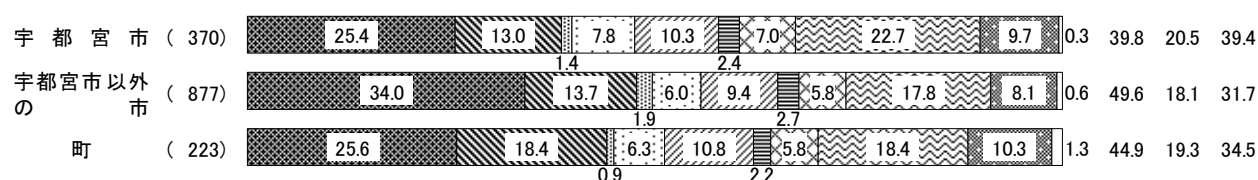
【居住環境別】



【地域別】



【市町別】



職業別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農林漁業〉が67.4%と高くなっている。一方、『参加経験なし』では〈その他の無職・学生〉が40.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈商店街〉が79.3%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

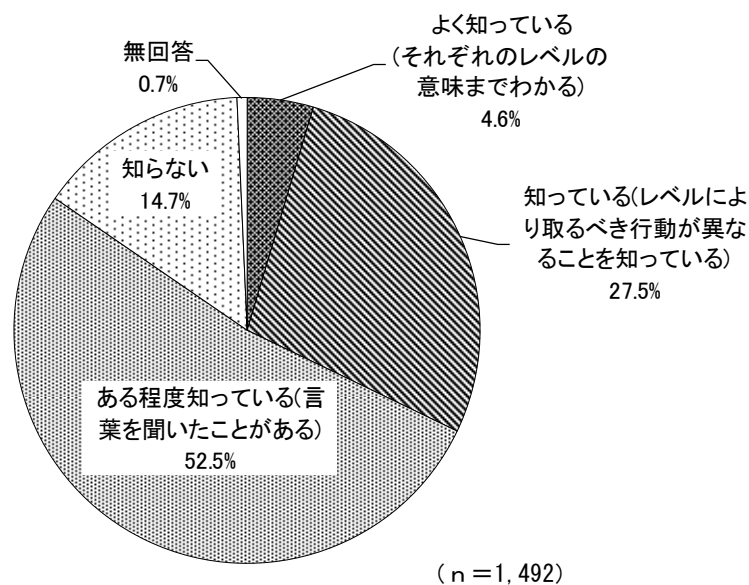
市町別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈宇都宮市以外の市〉が49.6%と高くなっている。

4 防災対策について

(1) 避難情報（５段階の警戒レベル）の認知度

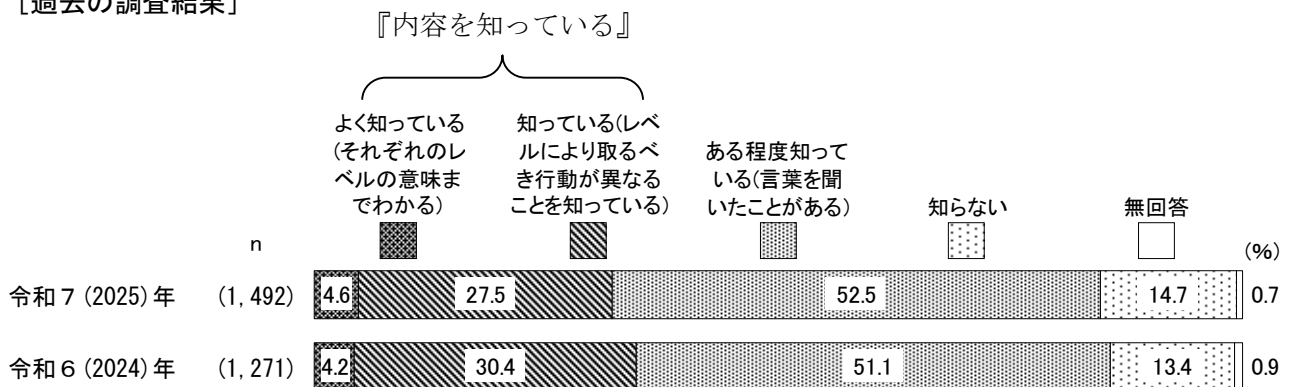
問11 あなたは、水害や土砂災害において避難するタイミングの目安となる「５段階の警戒レベル（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保など）」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）	4.6%
2 知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）	27.5
3 ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）	52.5
4 知らない	14.7
（無回答）	0.7



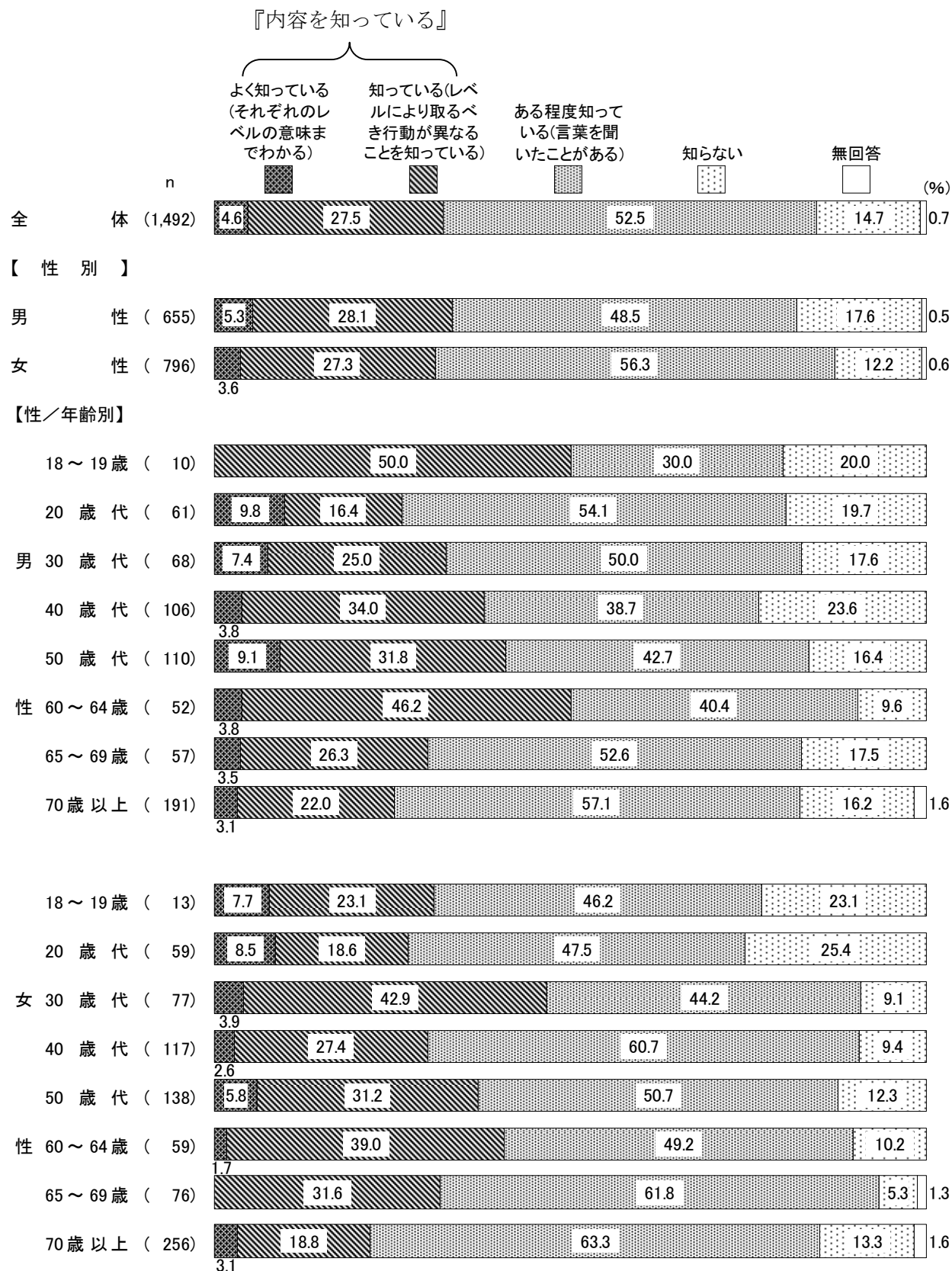
全体でみると、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（52.5%）が5割強、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（4.6%）と「知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（27.5%）の2つを合わせた『内容を知っている』（32.1%）が3割強、「知らない」（14.7%）が1割半ば近くとなっている。

[過去の調査結果]



前回（令和6（2024）年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

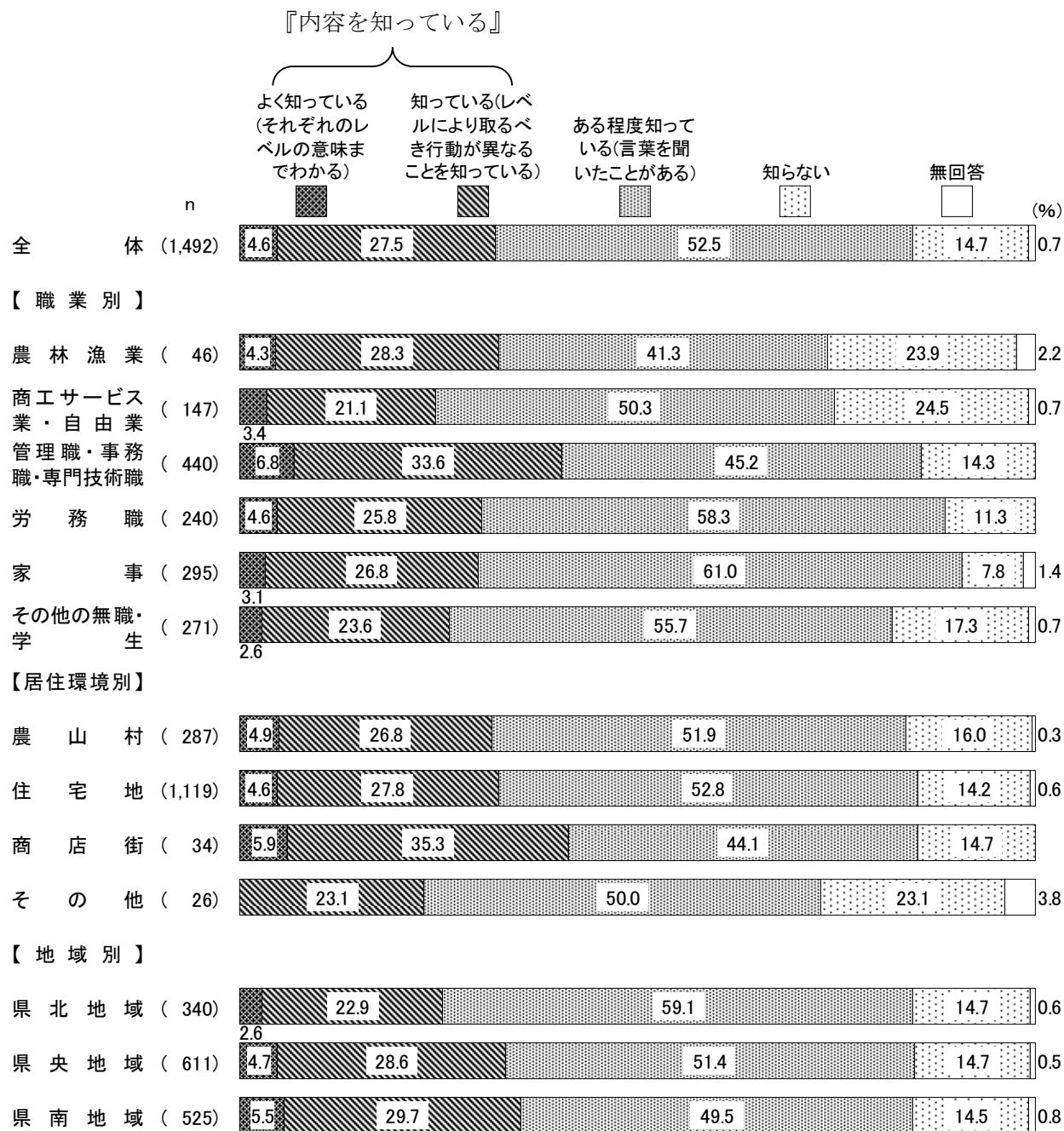
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『内容を知っている』では〈男性〉(33.4%)が〈女性〉(30.9%)より2.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『内容を知っている』では〈男性60～64歳〉が50.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『内容を知っている』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が40.4%と高くなっている。一方、「知らない」では〈商工サービス業・自由業〉が24.5%、〈農林漁業〉が23.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、『内容を知っている』では〈商店街〉が41.2%と高くなっている。

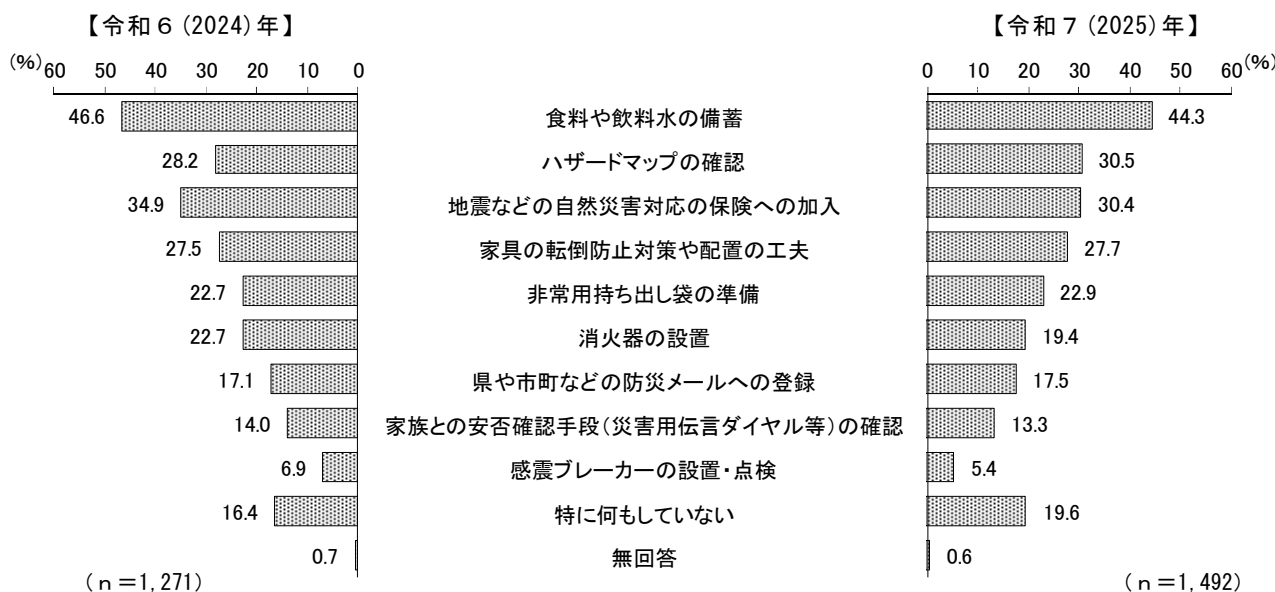
地域別でみると、『内容を知っている』では〈県南地域〉が35.2%と高くなっている。

(2) 災害に対する備え

問12 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,492]

1	家具の転倒防止対策や配置の工夫	27.7%
2	ハザードマップの確認	30.5
3	非常用持ち出し袋の準備	22.9
4	食料や飲料水の備蓄	44.3
5	消火器の設置	19.4
6	感震ブレーカー（※）の設置・点検	5.4
7	県や市町などの防災メールへの登録	17.5
8	地震などの自然災害対応の保険への加入	30.4
9	家族との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル等）の確認	13.3
10	特に何もしていない	19.6
	（無回答）	0.6

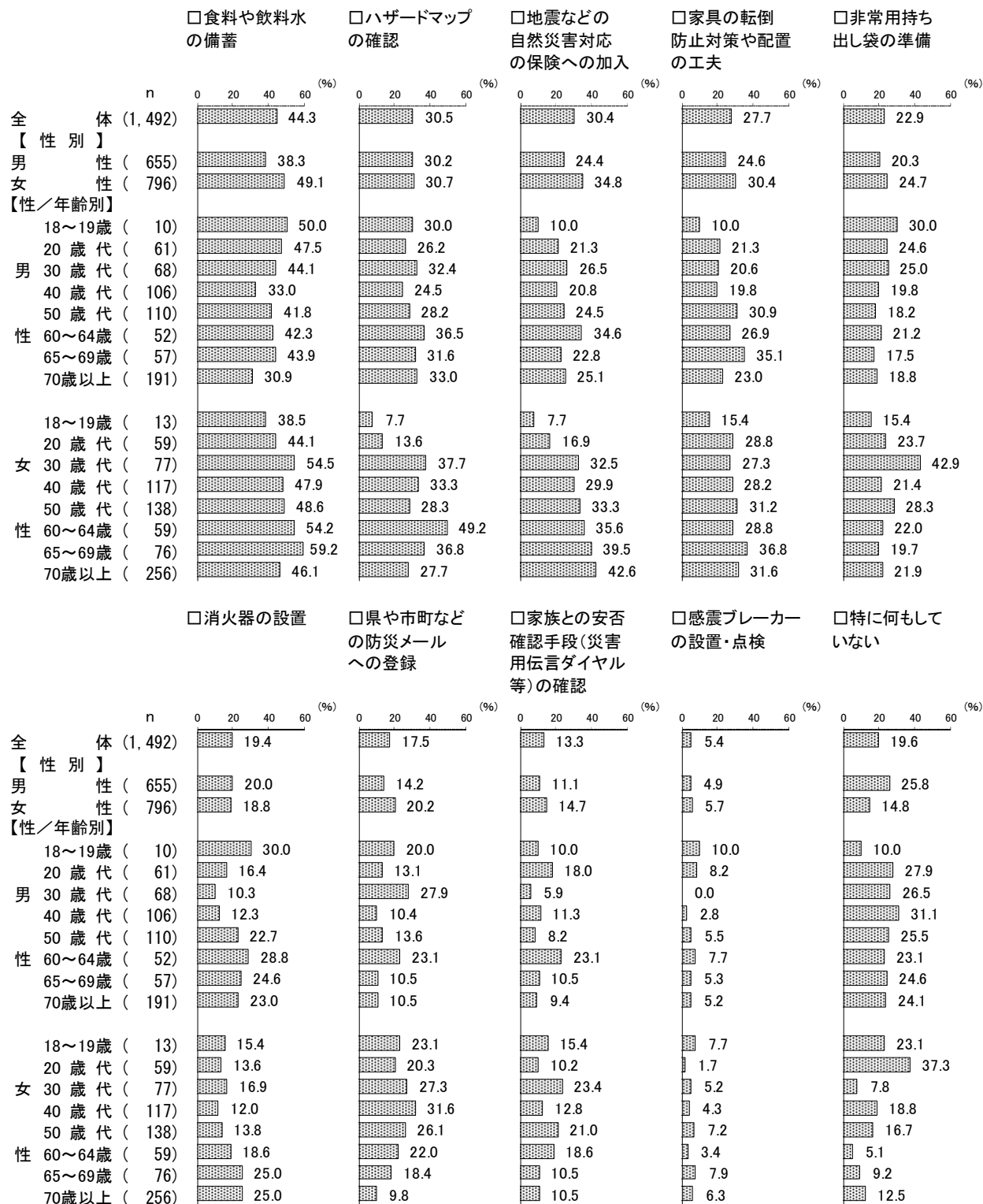
※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



全体でみると、「食料や飲料水の備蓄」（44.3%）が4割台半ば近くで最も高く、次いで「ハザードマップの確認」（30.5%）、「地震などの自然災害対応の保険への加入」（30.4%）、「家具の転倒防止対策や配置の工夫」（27.7%）、「非常用持ち出し袋の準備」（22.9%）の順となっている。一方、「特に何もしていない」（19.6%）が2割弱となっている。

前回（令和 6 (2024) 年）の調査結果と比較すると、「地震などの自然災害対応の保険への加入」が4.5ポイント減少した。

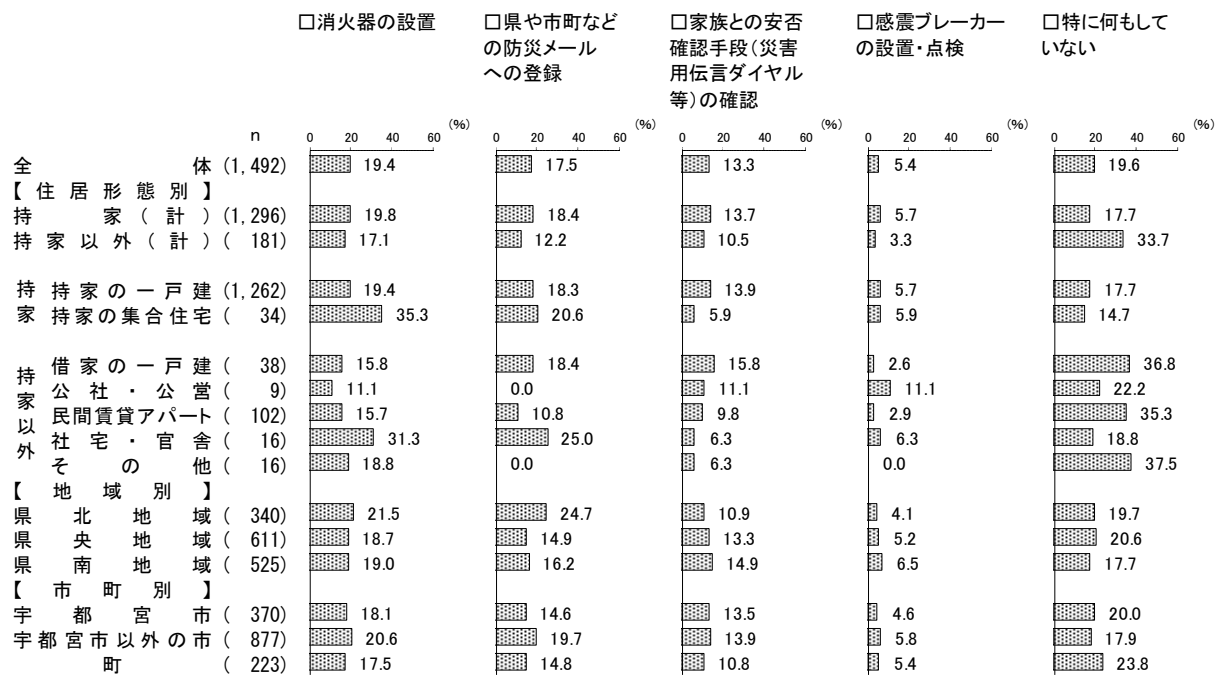
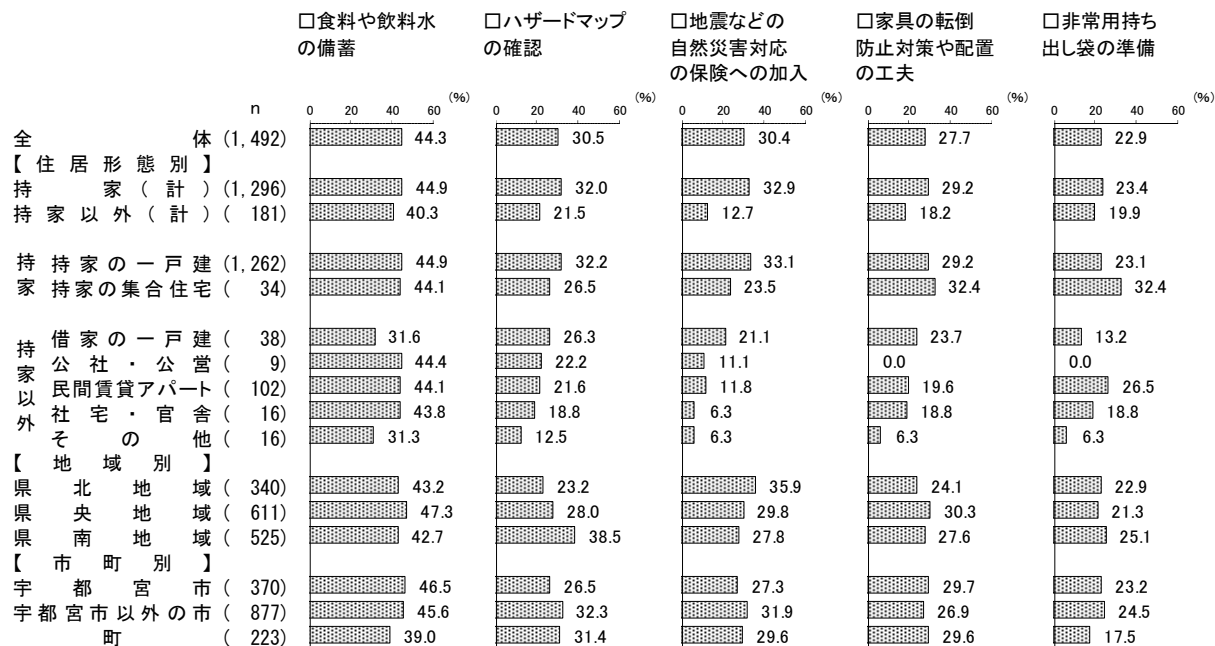
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性〉(49.1%)が〈男性〉(38.3%)より10.8ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。また、「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈女性〉(34.8%)が〈男性〉(24.4%)より10.4ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈男性〉(25.8%)が〈女性〉(14.8%)より11.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性65～69歳〉が59.2%と高くなっている。また、「感震ブレーカーの設置・点検」ではいずれの年代においても1割以下となっており、〈男性30歳代〉では0.0%となっている。

[住居形態別・地域別・市町別]



住居形態別でみると、「ハザードマップの確認」では〈持家(計)〉(32.0%)が〈持家以外(計)〉(21.5%)より10.5ポイント高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈持家(計)〉(32.9%)が〈持家以外(計)〉(12.7%)より20.2ポイント高くなっている。「家具の転倒防止対策や配置の工夫」では〈持家(計)〉(29.2%)が〈持家以外(計)〉(18.2%)より11.0ポイント高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈持家以外(計)〉(33.7%)が〈持家(計)〉(17.7%)より16.0ポイント高くなっている。

地域別でみると、「ハザードマップの確認」では〈県南地域〉が38.5%と高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈県北地域〉が35.9%と高くなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉が24.7%と高くなっている。

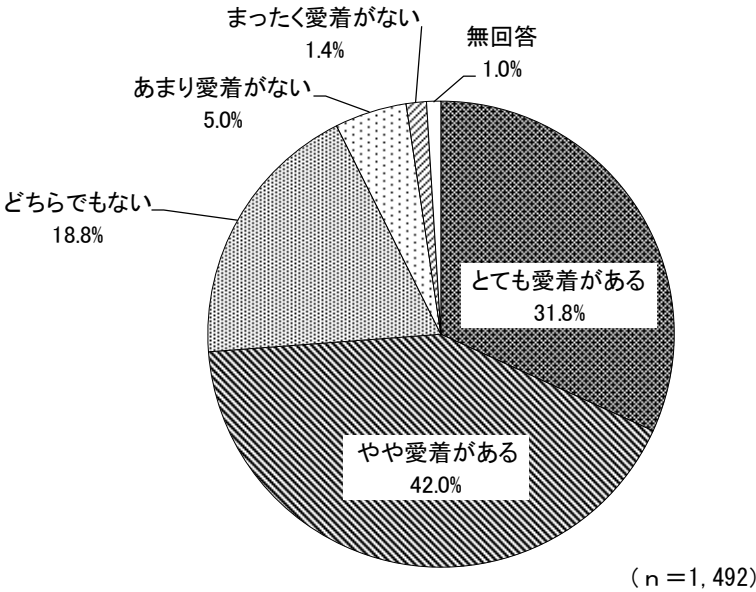
市町別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈町〉が39.0%、「非常用持ち出し袋の準備」では〈町〉が17.5%と低くなっている。

5 栃木県への愛着と誇りについて

(1) 栃木県に対する愛着

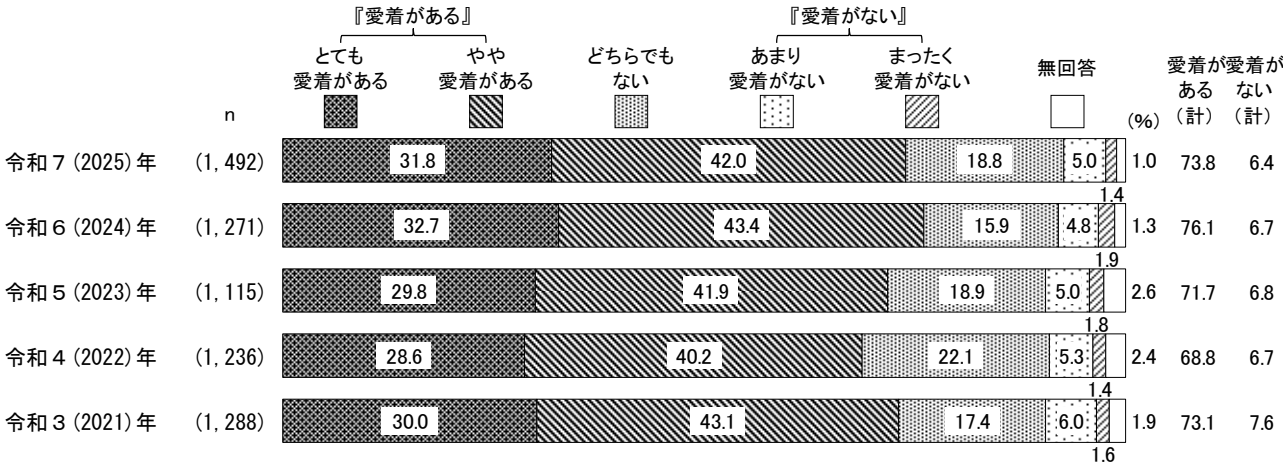
問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 とても愛着がある	31.8%	4 あまり愛着がない	5.0%
2 やや愛着がある	42.0	5 まったく愛着がない	1.4
3 どちらでもない	18.8	(無回答)	1.0



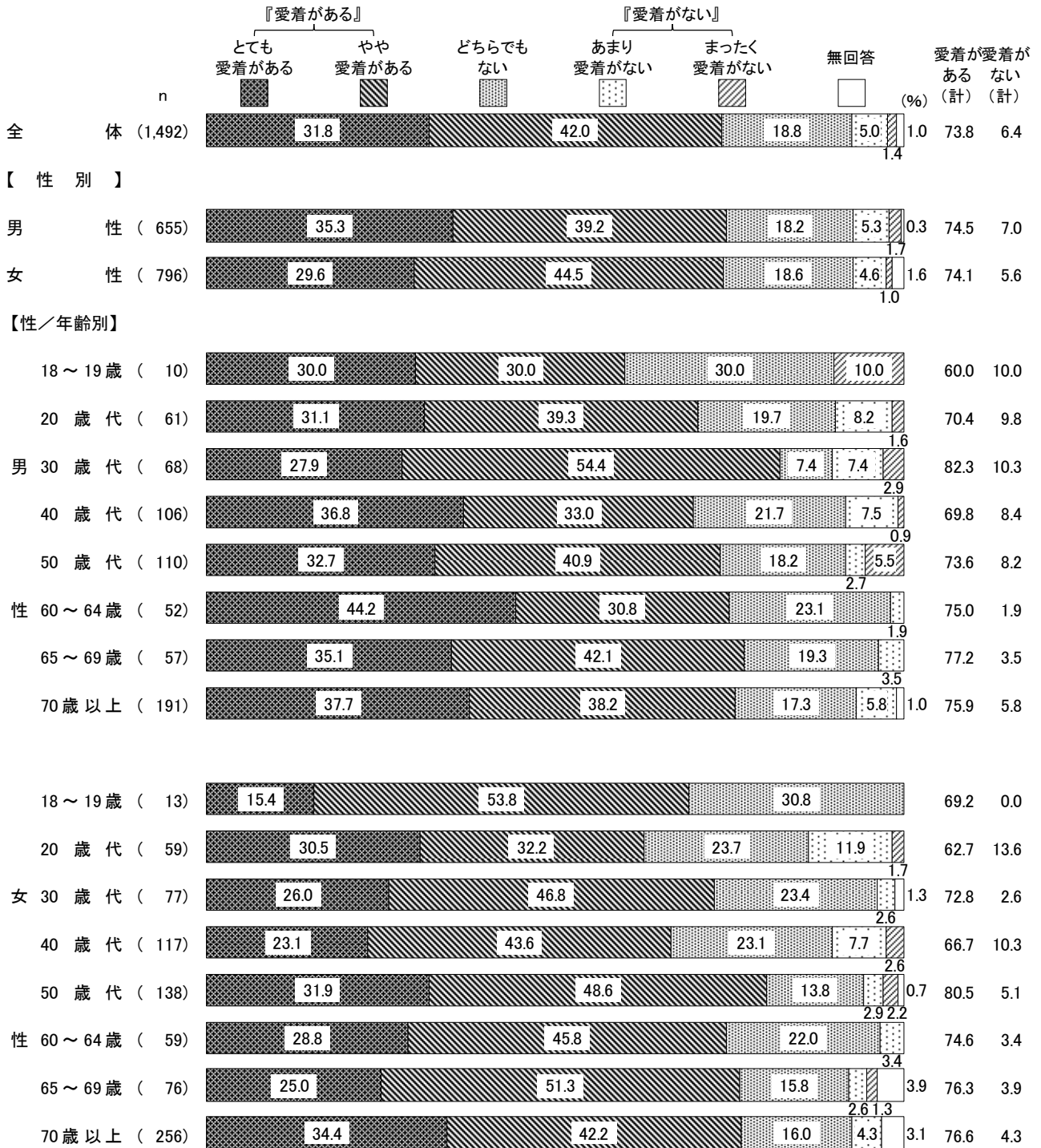
全体でみると、「とても愛着がある」(31.8%)と「やや愛着がある」(42.0%)の2つを合わせた『愛着がある』(73.8%)が7割台半ば近くとなっている。一方、「あまり愛着がない」(5.0%)と「まったく愛着がない」(1.4%)の2つを合わせた『愛着がない』(6.4%)が1割未満となっている。「どちらでもない」(18.8%)が2割近くとなっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると大きな傾向の違いはみられない。

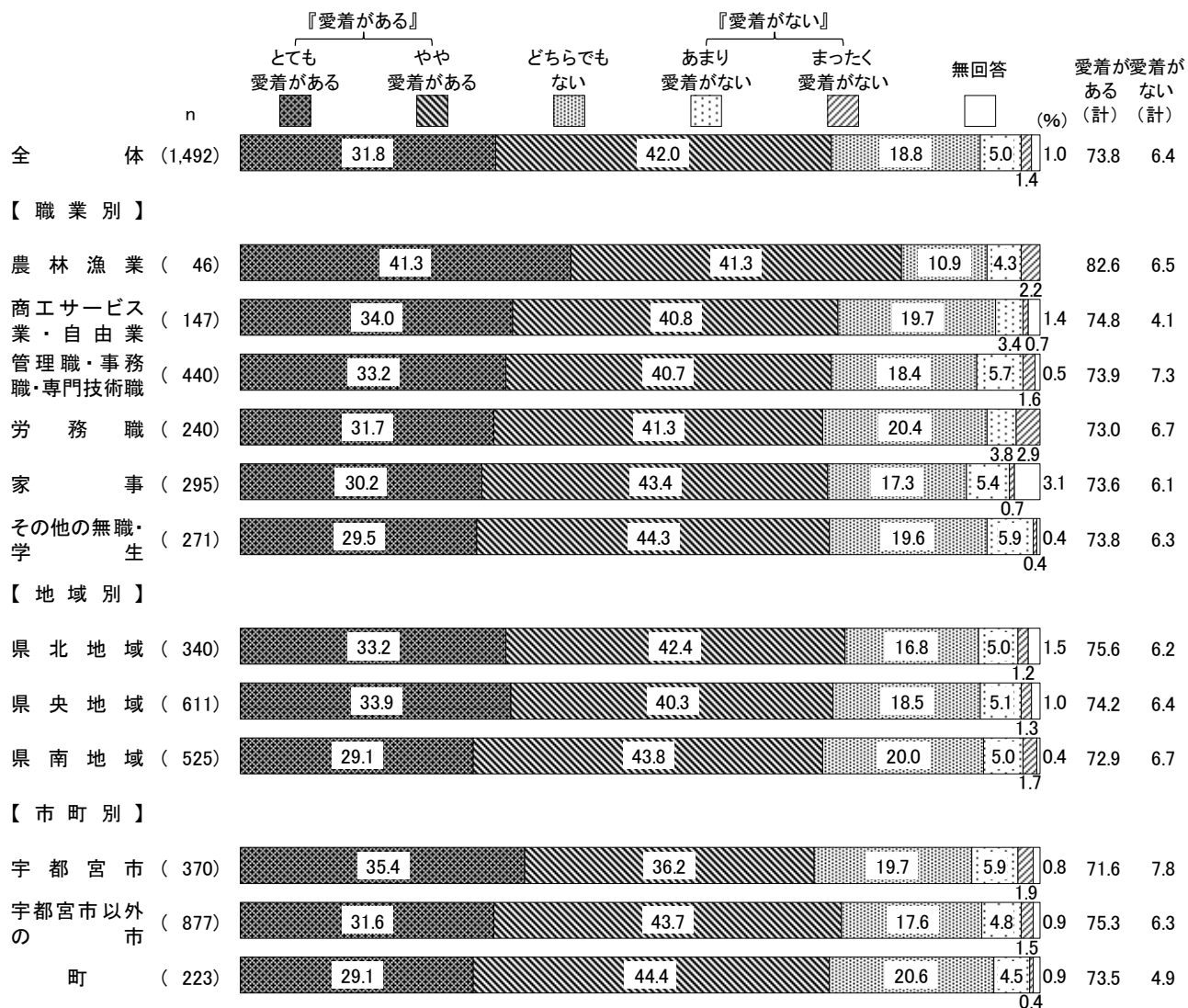
〔性別・性／年齢別〕



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『愛着がある』では〈男性30歳代〉が82.3%と高く、〈女性20歳代〉が62.7%と低くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕



職業別でみると、『愛着がある』では〈農林漁業〉が82.6%と高くなっている。

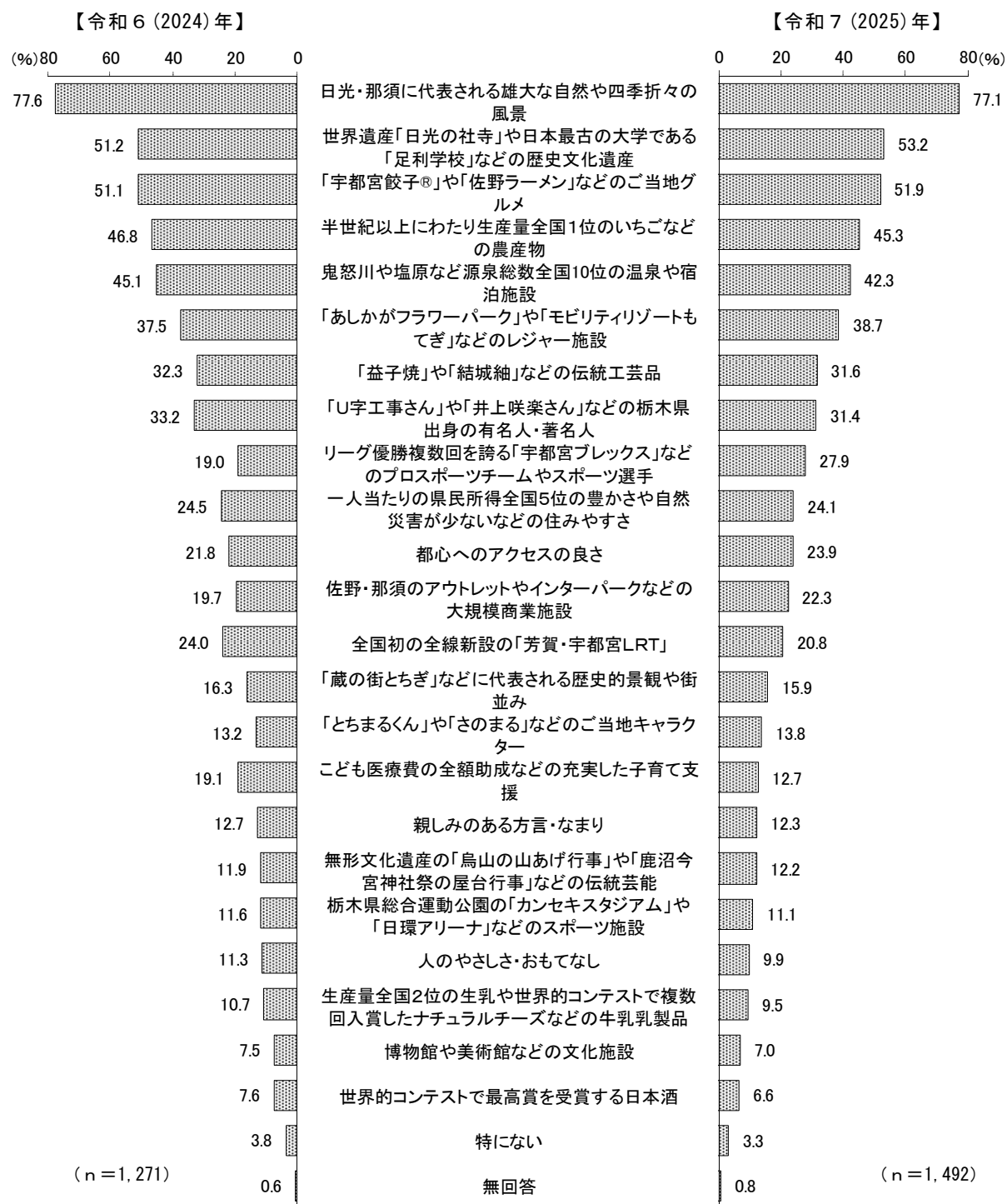
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問14 あなたが栃木県の魅力として自慢できるもの、オススメするものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,492]

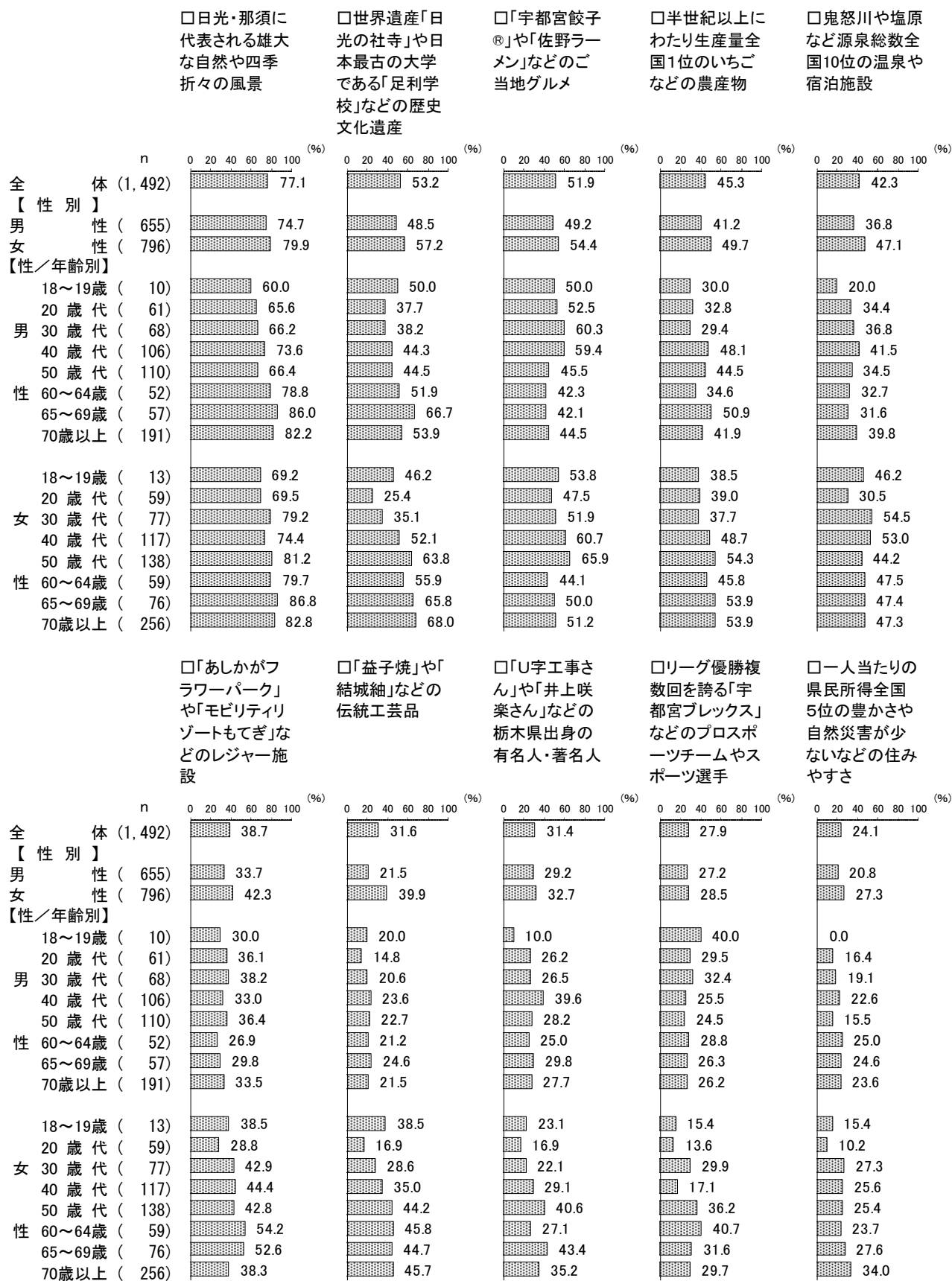
1	日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景	77.1%
2	鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設	42.3
3	「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設	38.7
4	栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設	11.1
5	佐野・那須のアウトレットやインターパークなどの大規模商業施設	22.3
6	博物館や美術館などの文化施設	7.0
7	無形文化遺産の「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」などの伝統芸能	12.2
8	「蔵の街とちぎ」などに代表される歴史的景観や街並み	15.9
9	世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産	53.2
10	「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品	31.6
11	半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物	45.3
12	生産量全国2位の生乳や世界的コンテストで複数回入賞したナチュラルチーズなどの牛乳乳製品	9.5
13	「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ	51.9
14	世界的コンテストで最高賞を受賞する日本酒	6.6
15	人のやさしさ・おもてなし	9.9
16	親しみのある方言・なまり	12.3
17	一人当たりの県民所得全国5位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ	24.1
18	こども医療費の全額助成などの充実した子育て支援	12.7
19	全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮LRT」	20.8
20	都心へのアクセスの良さ	23.9
21	「とちまるくん」や「さのまる」などのご当地キャラクター	13.8
22	リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブレックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手	27.9
23	「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人	31.4
24	特にない	3.3
	(無回答)	0.8



全体でみると、「日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景（以下『風景』という。）」（77.1%）が7割台半ばを超えている。次いで、『世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産（以下『歴史文化遺産』という。）』（53.2%）、『「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ（以下『ご当地グルメ』という。）』（51.9%）、「半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物（以下『農産物』という。）」（45.3%）、「鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設（以下『温泉や宿泊施設』という。）」（42.3%）の順となっている。

前回（令和6（2024）年）の調査結果と比較すると、『リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブレックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手（以下『プロスポーツ』という。）』が8.9ポイント増加している。一方、「こども医療費の全額助成などの充実した子育て支援」が6.4ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

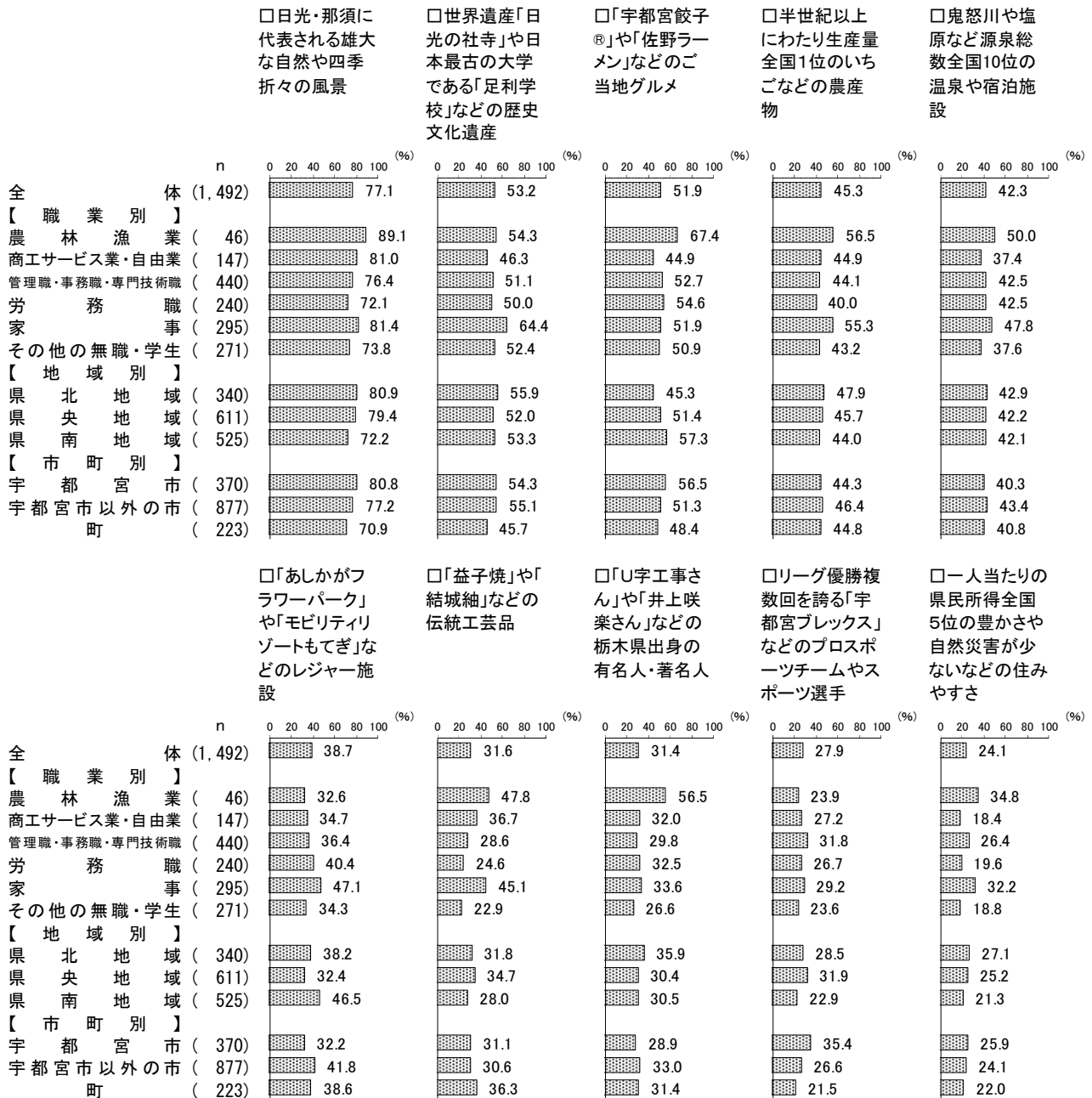


性別でみると、『「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品（以下『伝統工芸品』という。）』では〈女性〉（39.9%）が〈男性〉（21.5%）より18.4ポイント、『温泉や宿泊施設』では〈女性〉（47.1%）が〈男性〉（36.8%）より10.3ポイント、『歴史文化遺産』では〈女性〉（57.2%）が〈男性〉（48.5%）より

り8.7ポイント、『「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設（以下『レジャー施設』という。）』では〈女性〉（42.3%）が〈男性〉（33.7%）より8.6ポイント、『農産物』では〈女性〉（49.7%）が〈男性〉（41.2%）より8.5ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、『風景』では〈女性65～69歳〉が86.8%、〈男性65～69歳〉が86.0%と高くなっている。『歴史文化遺産』では〈女性70歳以上〉が68.0%と高くなっている。『ご当地グルメ』では〈女性50歳代〉が65.9%と高くなっている。『農産物』では〈男性30歳代〉が29.4%と低くなっている。『温泉や宿泊施設』では〈女性30歳代〉が54.5%、〈女性40歳代〉が53.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『風景』では〈農林漁業〉が89.1%と高くなっている。『歴史文化遺産』では〈家事〉が64.4%と高くなっている。『ご当地グルメ』では〈農林漁業〉が67.4%と高くなっている。『農産物』では〈農林漁業〉が56.5%、〈家事〉が55.3%と高くなっている。『温泉や宿泊施設』では〈農林漁業〉が50.0%、〈家事〉が47.8%と高くなっている。

地域別でみると、『風景』では〈県南地域〉が72.2%と低くなっている。『ご当地グルメ』では〈県南地域〉が57.3%と高くなっている。『レジャー施設』では〈県南地域〉が46.5%と高くなっている。

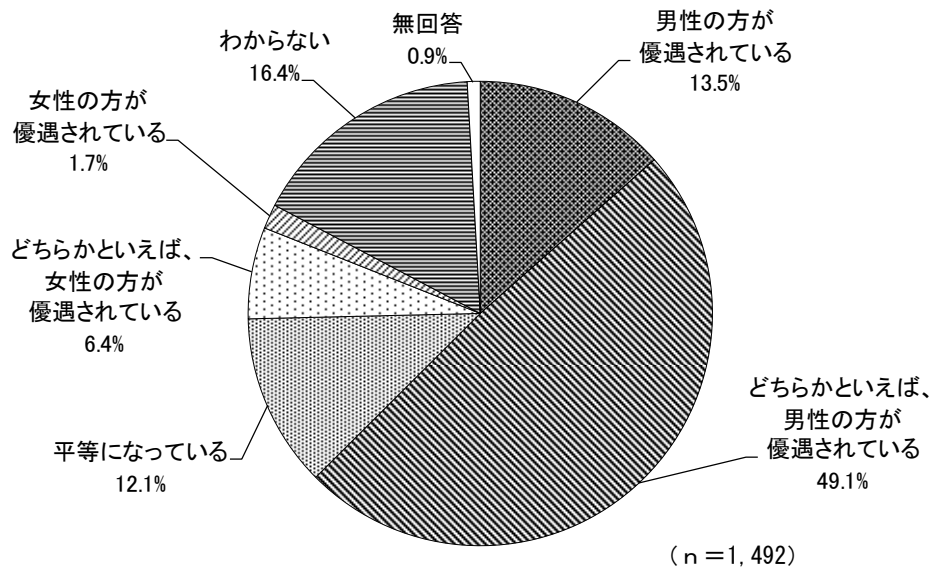
市町別でみると、『風景』では〈町〉が70.9%と低くなっている。『歴史文化遺産』では〈町〉が45.7%と低くなっている。『レジャー施設』では〈宇都宮市〉が32.2%と低くなっている。『プロスポーツ』では〈宇都宮市〉が35.4%と高くなっている。

6 男女平等意識について

(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

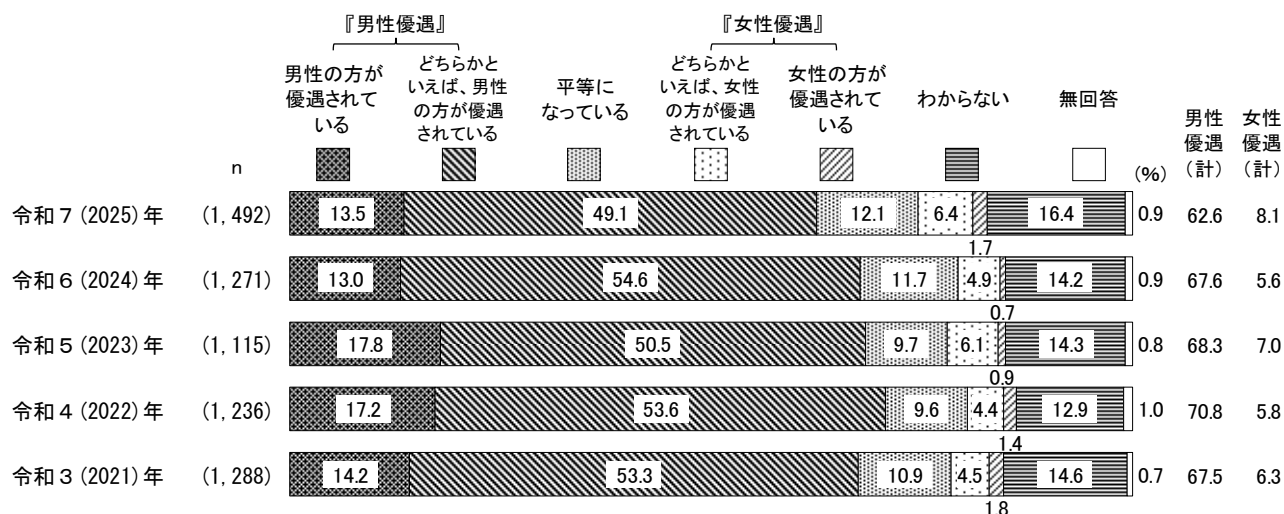
問15 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1	男性の方が優遇されている	13.5%
2	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	49.1
3	平等になっている	12.1
4	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	6.4
5	女性の方が優遇されている	1.7
6	わからない	16.4
	(無回答)	0.9



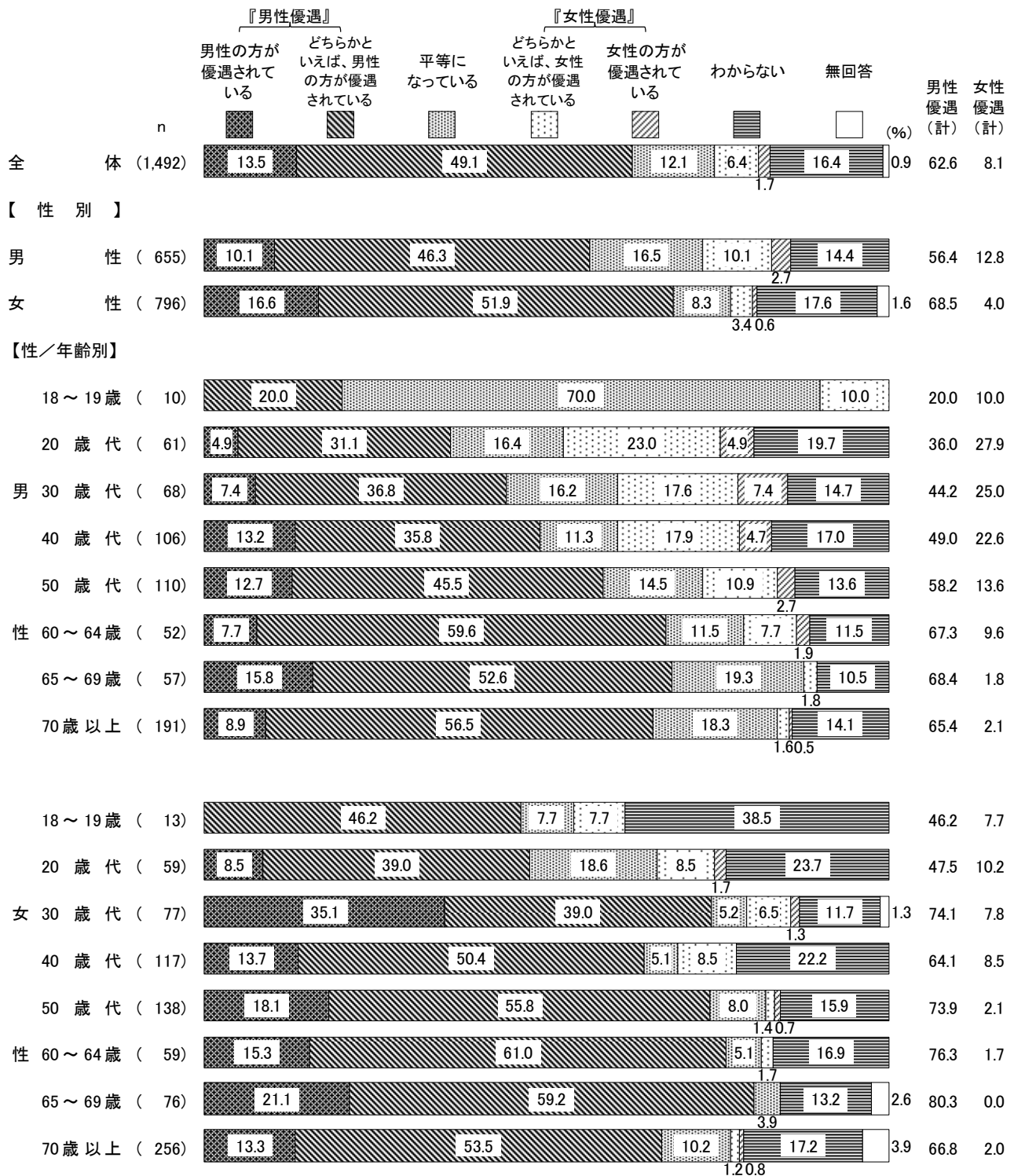
全体でみると、「男性の方が優遇されている」(13.5%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(49.1%)の2つを合わせた『男性優遇』(62.6%)が6割強となっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(6.4%)と「女性の方が優遇されている」(1.7%)の2つを合わせた『女性優遇』(8.1%)が1割未満となっている。「平等になっている」(12.1%)が1割強となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、令和 4 (2022) 年以降は『男性優遇』の比率が減少しており、今回（令和 7 (2025) 年）は前回（令和 6 (2024) 年）から 5.0 ポイント減少している。一方、『女性優遇』の比率は年により増減はあるものの、大きな変化はない。

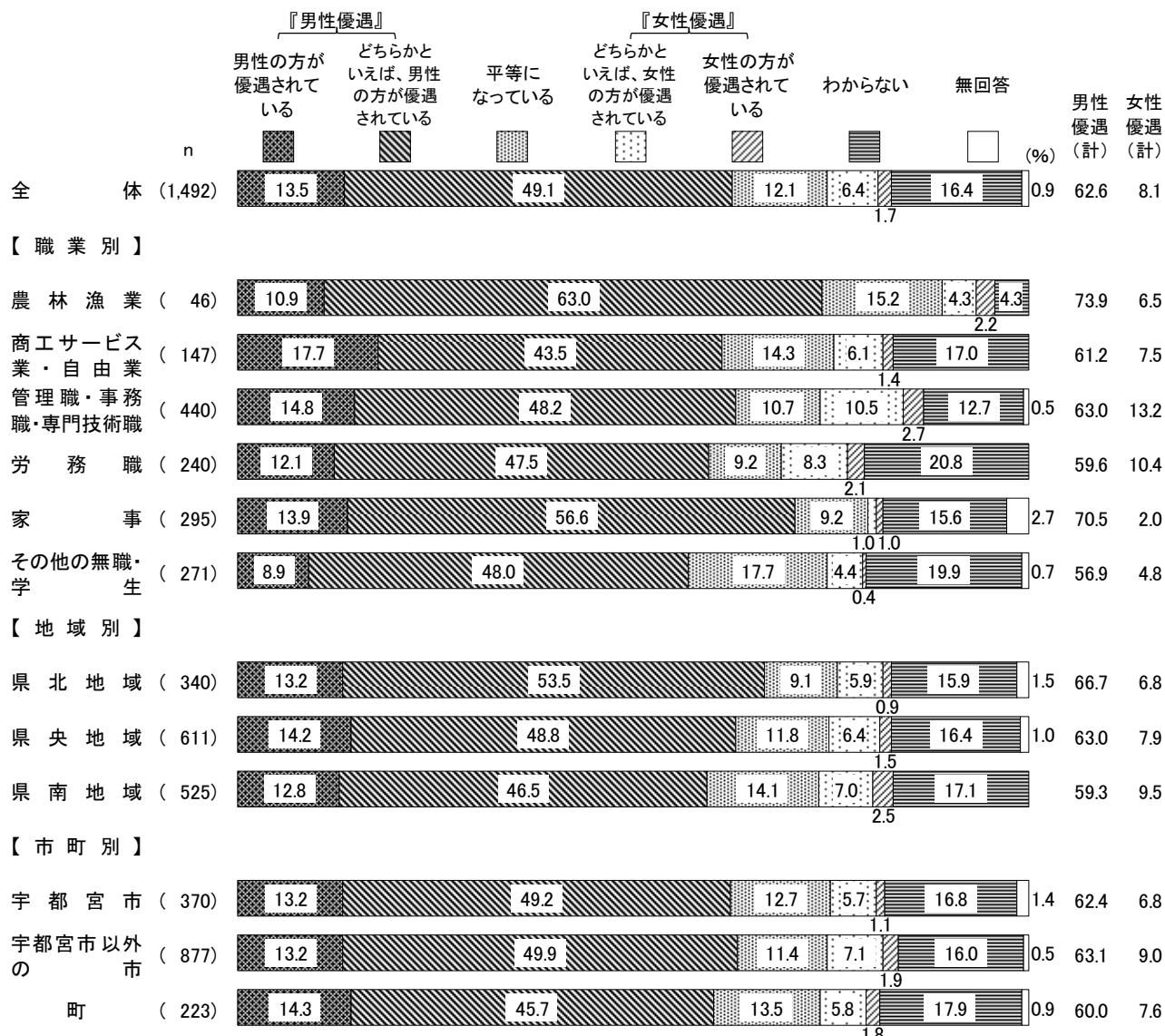
〔性別・性／年齢別〕



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉(68.5%)が〈男性〉(56.4%)より12.1ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(12.8%)が〈女性〉(4.0%)より8.8ポイント高くなっている。「平等になっている」では〈男性〉(16.5%)が〈女性〉(8.3%)より8.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性65～69歳〉が80.3%、〈女性60～64歳〉が76.3%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が27.9%、〈男性30歳代〉が25.0%、〈男性40歳代〉が22.6%と高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕



職業別でみると、『男性優遇』では〈農林漁業〉が73.9%、〈家事〉が70.5%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が13.2%と高くなっている。「平等になっている」では〈その他の無職・学生〉が17.7%と高くなっている。

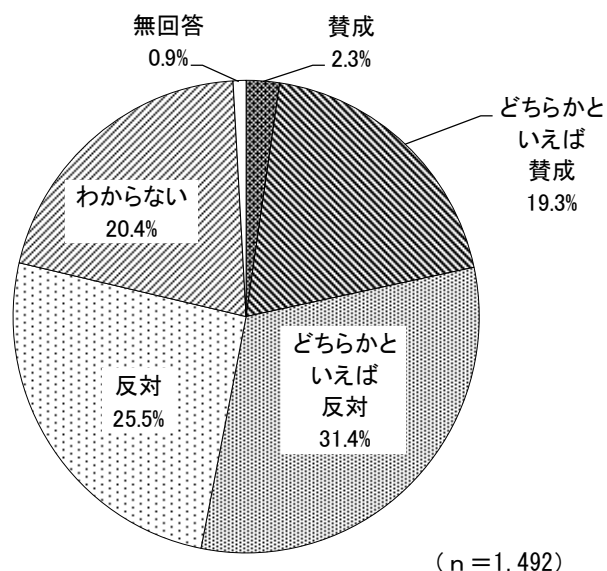
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 固定的な性別役割分担意識

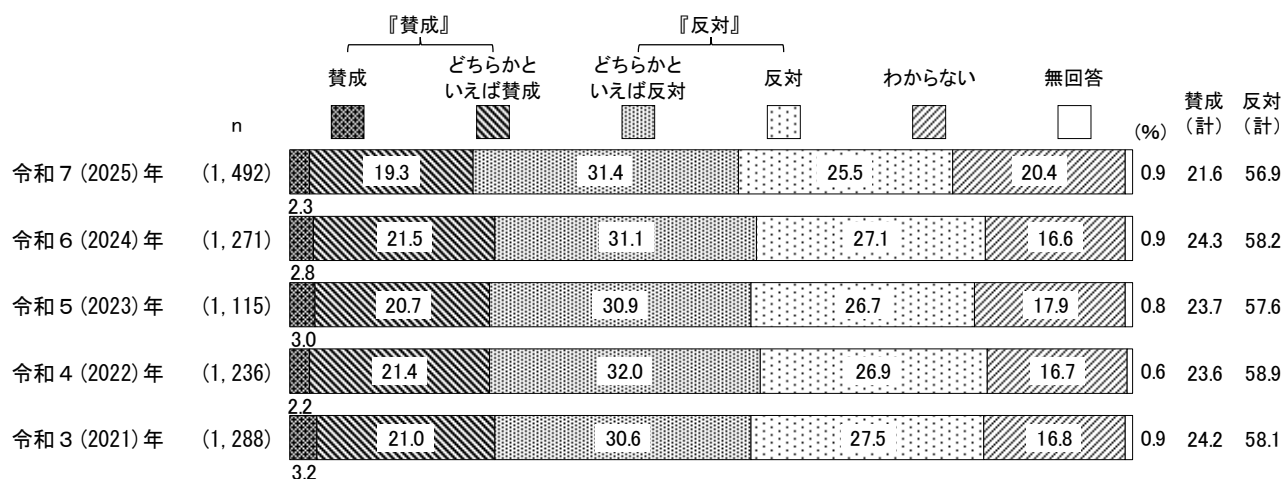
問16 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 賛成	2.3%	4 反対	25.5%
2 どちらかといえば賛成	19.3%	5 わからない	20.4%
3 どちらかといえば反対	31.4%	(無回答)	0.9%



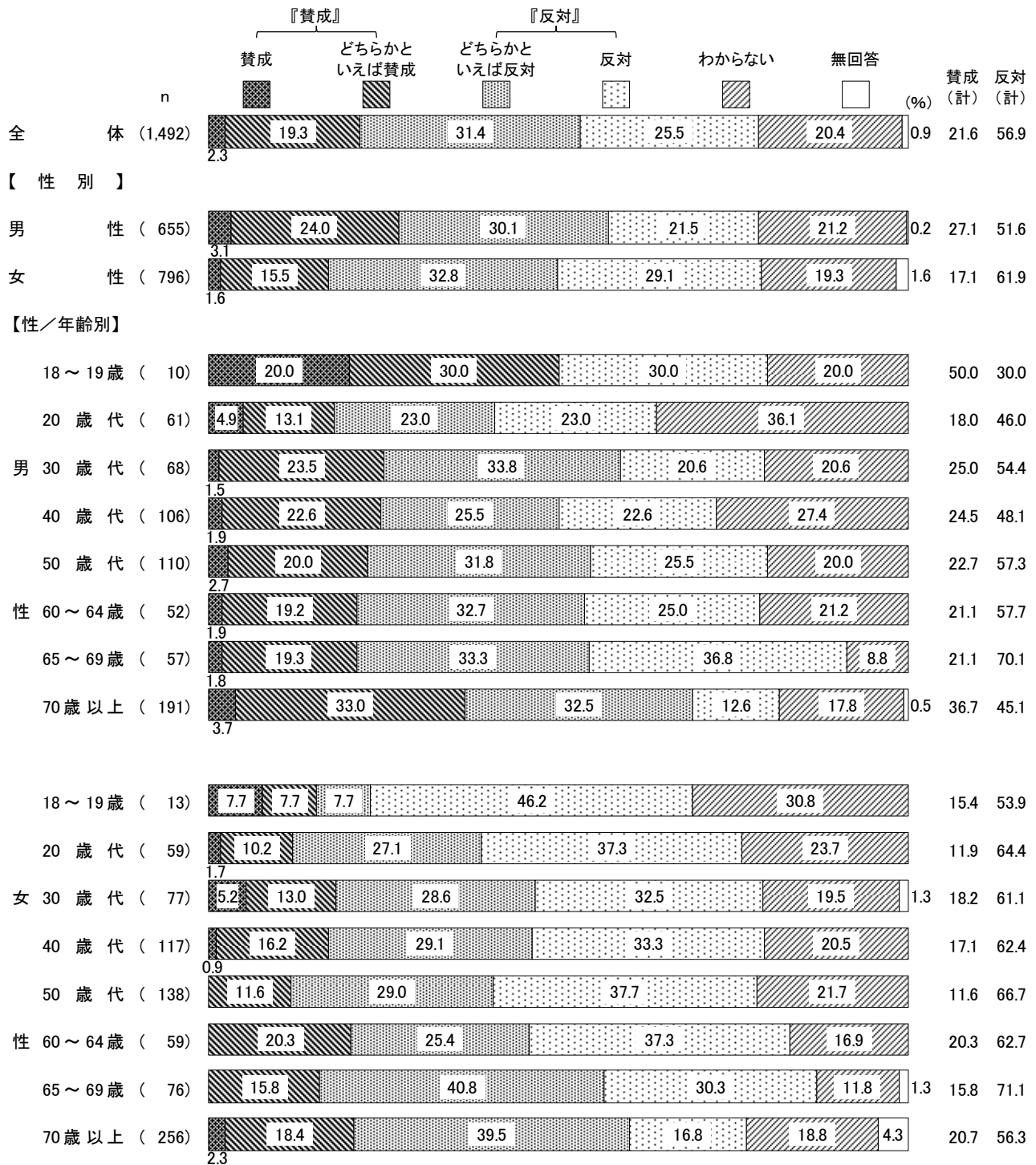
全体でみると、「賛成」(2.3%)と「どちらかといえば賛成」(19.3%)の2つを合わせた『賛成』(21.6%)が2割強となっている。一方、「どちらかといえば反対」(31.4%)と「反対」(25.5%)の2つを合わせた『反対』(56.9%)が5割台半ばを超えている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると大きな傾向の違いはみられない。

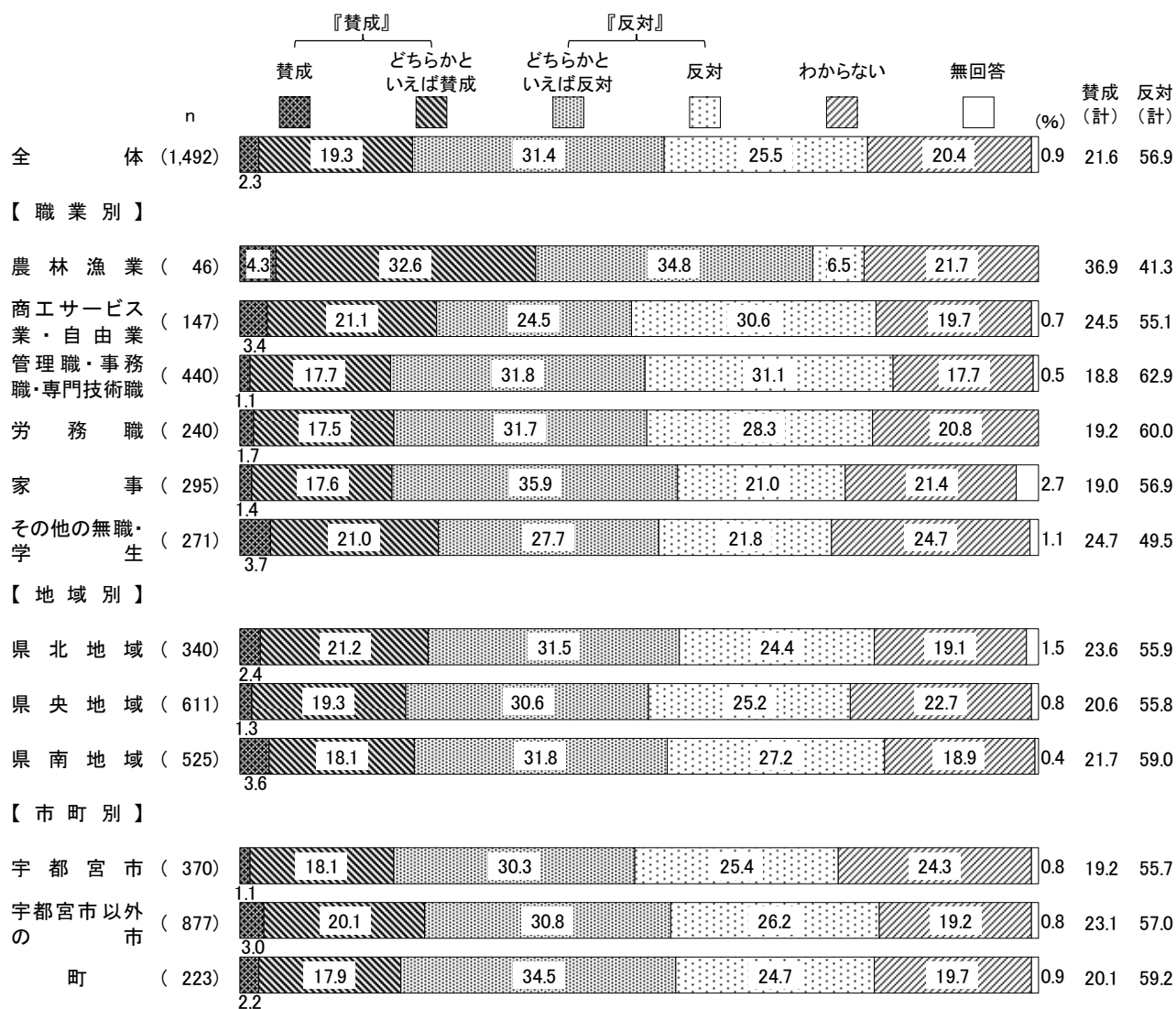
〔性別・性／年齢別〕



性別でみると、『賛成』では〈男性〉(27.1%)が〈女性〉(17.1%)より10.0ポイント高くなっている。一方、『反対』では〈女性〉(61.9%)が〈男性〉(51.6%)より10.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が36.7%と高くなっている。『反対』では〈女性65～69歳〉が71.1%、〈男性65～69歳〉が70.1%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『賛成』では〈農林漁業〉が36.9%と高くなっている。『反対』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が62.9%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

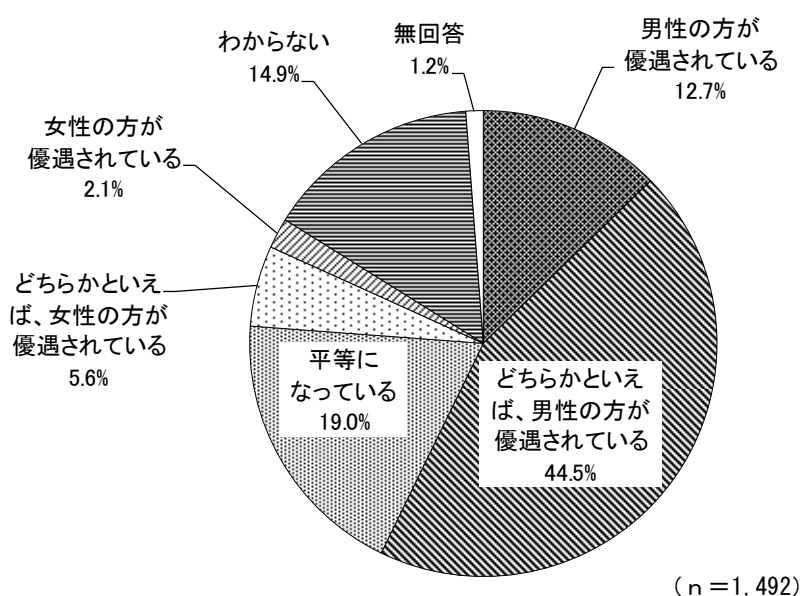
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) 働く場での男女の地位の平等感

問17 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

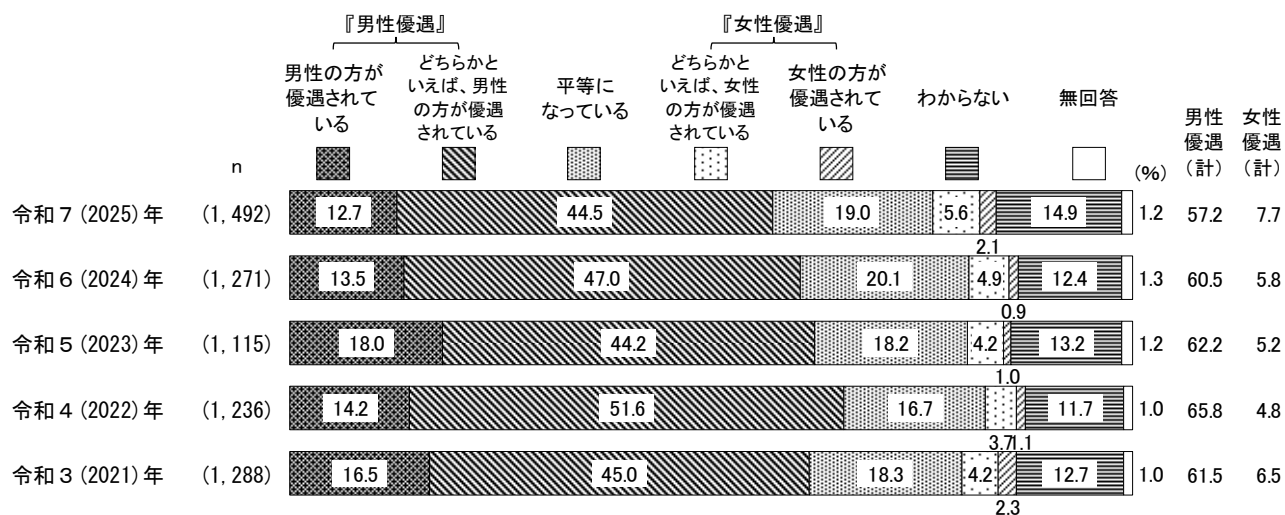
[n=1,492]

1	男性の方が優遇されている	12.7%
2	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	44.5
3	平等になっている	19.0
4	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	5.6
5	女性の方が優遇されている	2.1
6	わからない	14.9
	(無回答)	1.2



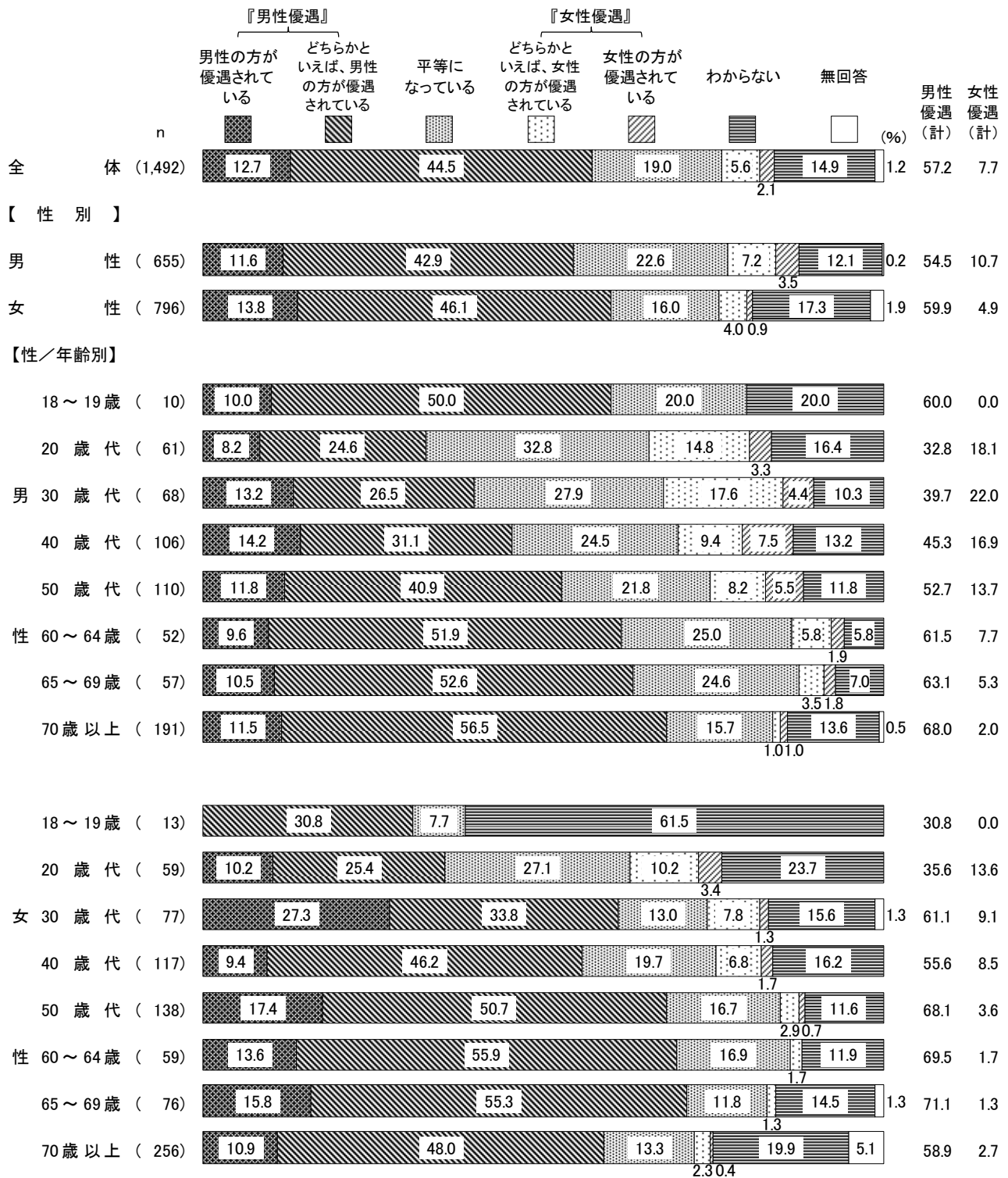
全体でみると、「男性の方が優遇されている」(12.7%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(44.5%)の2つを合わせた『男性優遇』(57.2%)が5割台半ばを超えている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(5.6%)と「女性の方が優遇されている」(2.1%)の2つを合わせた『女性優遇』(7.7%)が1割未満となっている。「平等になっている」(19.0%)が2割弱となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、令和4(2022)年以降は『男性優遇』の比率が減少しており、今回(令和7(2025)年)は前回(令和6(2024)年)から3.3ポイント減少している。一方、『女性優遇』の比率は増加しており、今回(令和7(2025)年)は前回(令和6(2024)年)から1.9ポイント増加している。

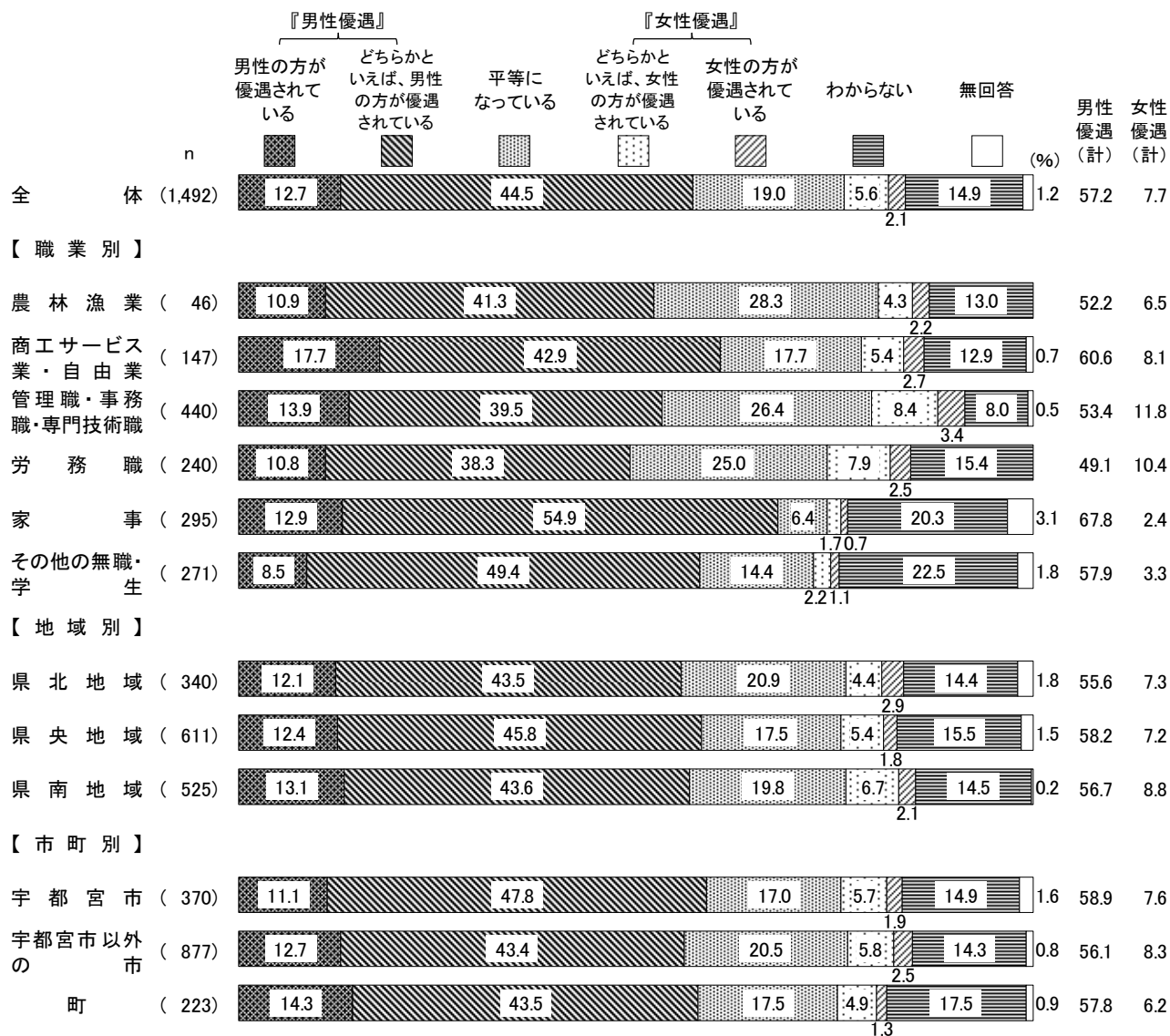
〔性別・性／年齢別〕



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(54.5%)より5.4ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(10.7%)が〈女性〉(4.9%)より5.8ポイント高くなっている。「平等になっている」では〈男性〉(22.6%)が〈女性〉(16.0%)より6.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性65～69歳〉が71.1%、〈女性60～64歳〉が69.5%、〈女性50歳代〉が68.1%、〈男性70歳以上〉が68.0%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性30歳代〉が22.0%と高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕



職業別でみると、『男性優遇』では〈家事〉が67.8%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

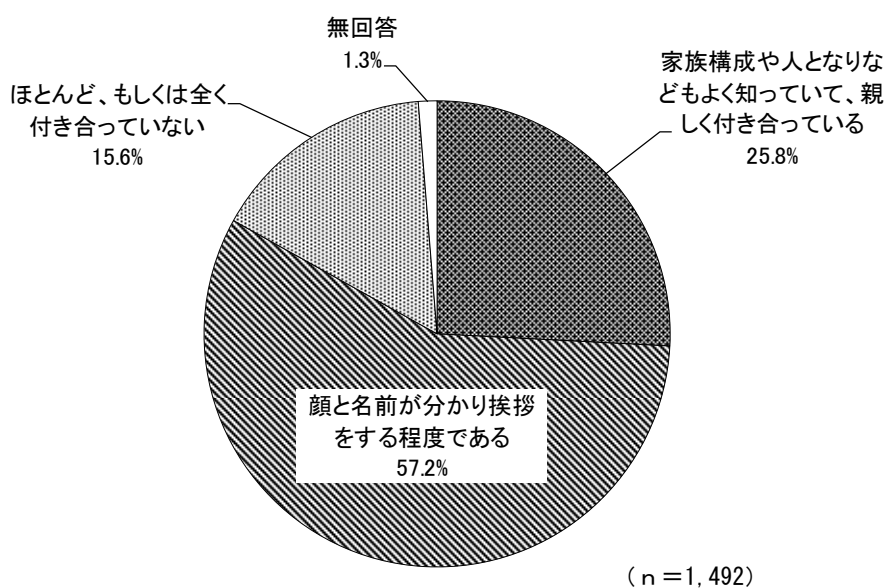
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

7 地域のつながりについて

(1) ご近所との関係

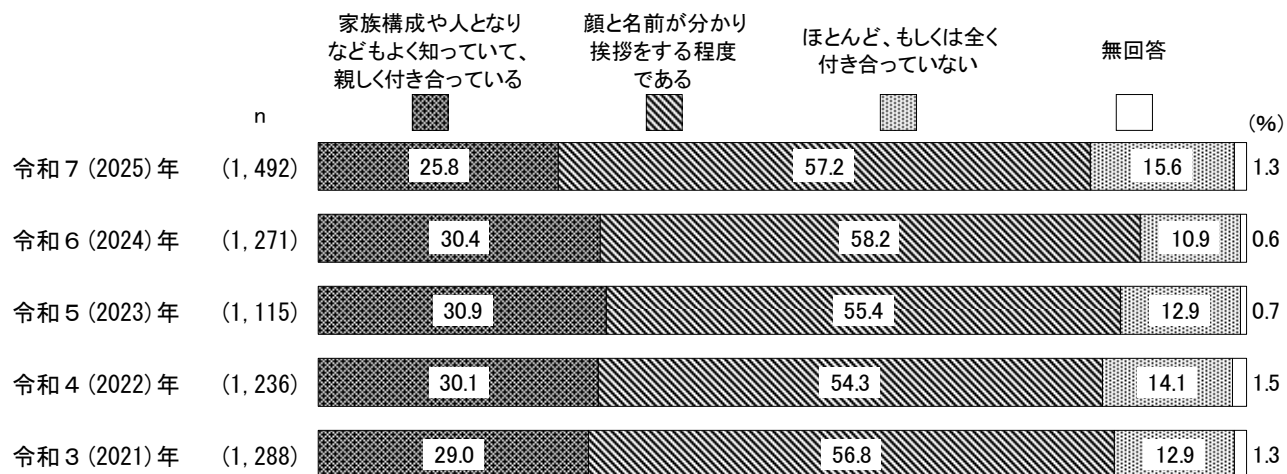
問18 あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている	25.8%
2 顔と名前が分かり挨拶をする程度である	57.2
3 ほとんど、もしくは全く付き合っていない	15.6
(無回答)	1.3



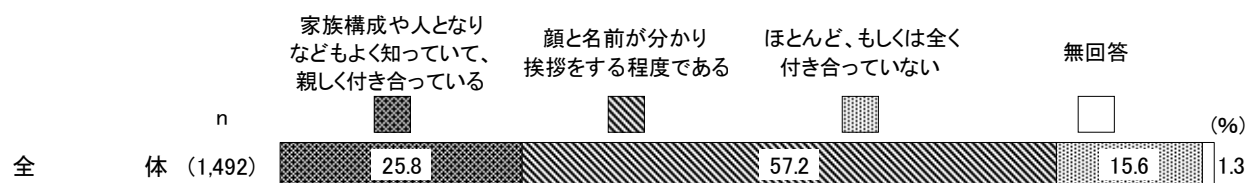
全体でみると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」(57.2%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」(25.8%)が2割台半ばとなっている。一方、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」(15.6%)が1割台半ばとなっている。

〔過去の調査結果〕



過去の調査結果と比較すると、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」が前回（令和 6 (2024) 年）から 4.7 ポイント増加している。一方、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」が前回（令和 6 (2024) 年）から 4.6 ポイント減少している。

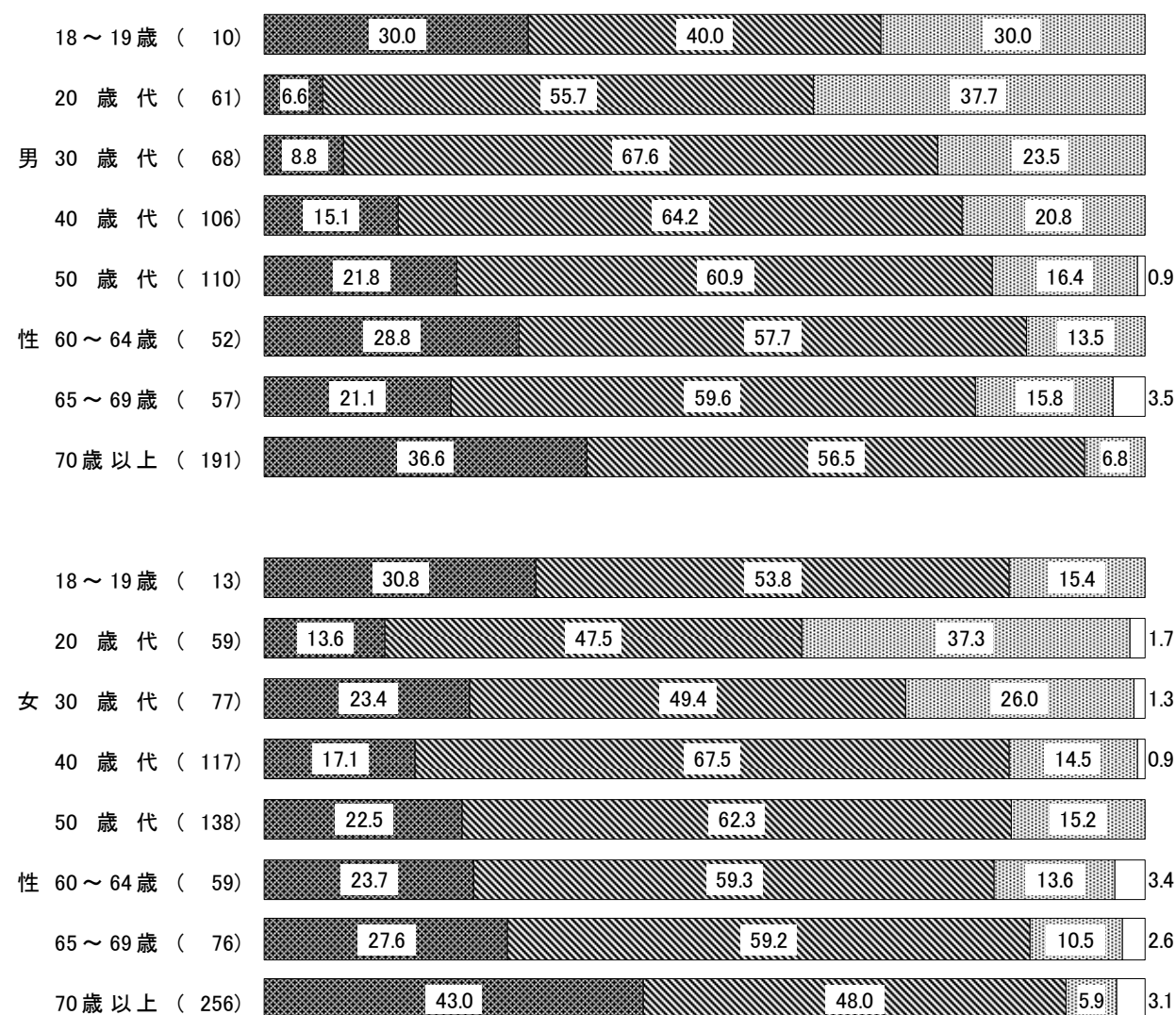
【性別・性／年齢別】



【性別】



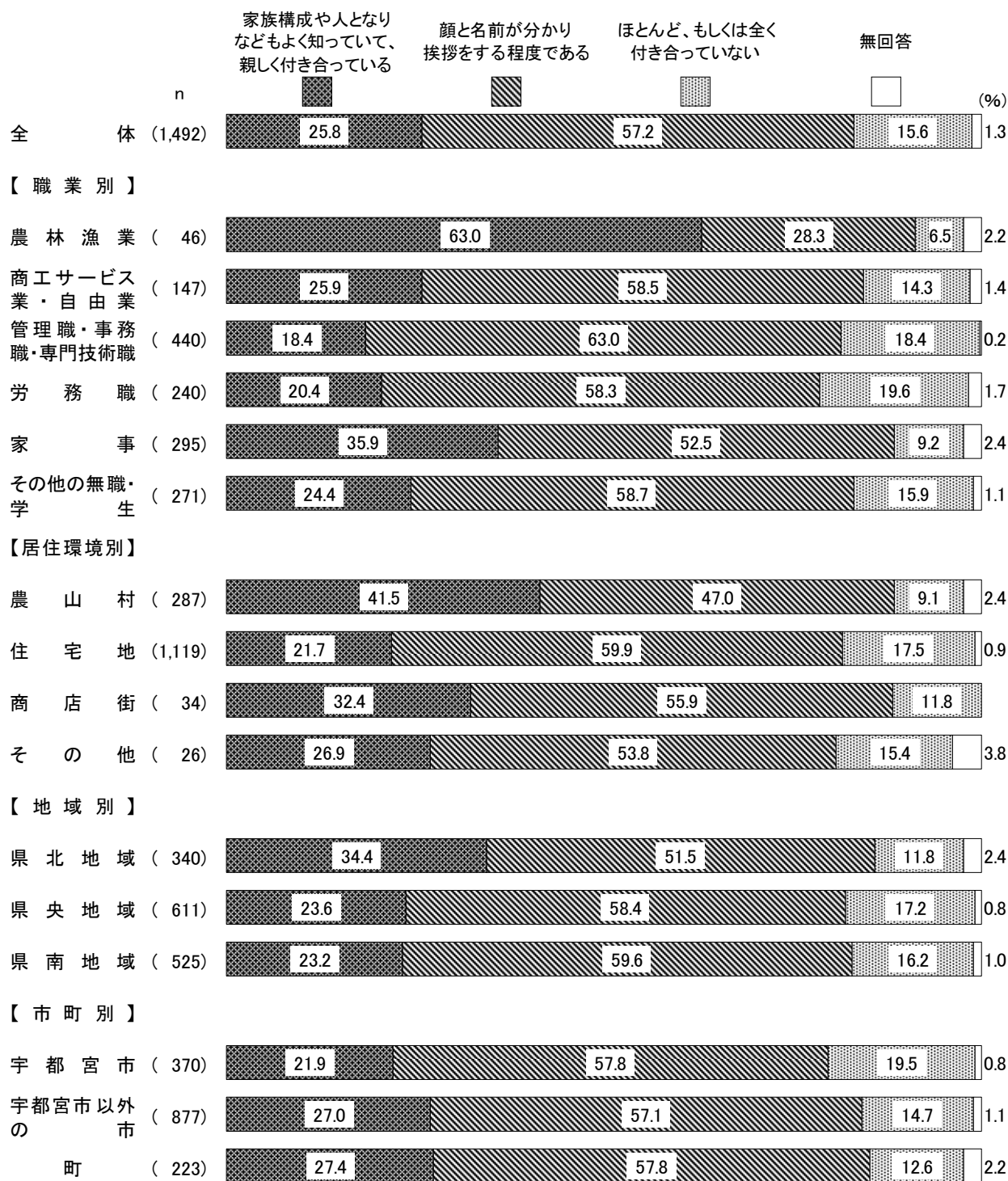
【性／年齢別】



性別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉(28.5%)が〈男性〉(22.9%)より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉が43.0%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性30歳代〉が67.6%、〈女性40歳代〉が67.5%と高くなっている。一方、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈男性20歳代〉が37.7%、〈女性20歳代〉が37.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農林漁業〉が63.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農山村〉が41.5%と高くなっている。

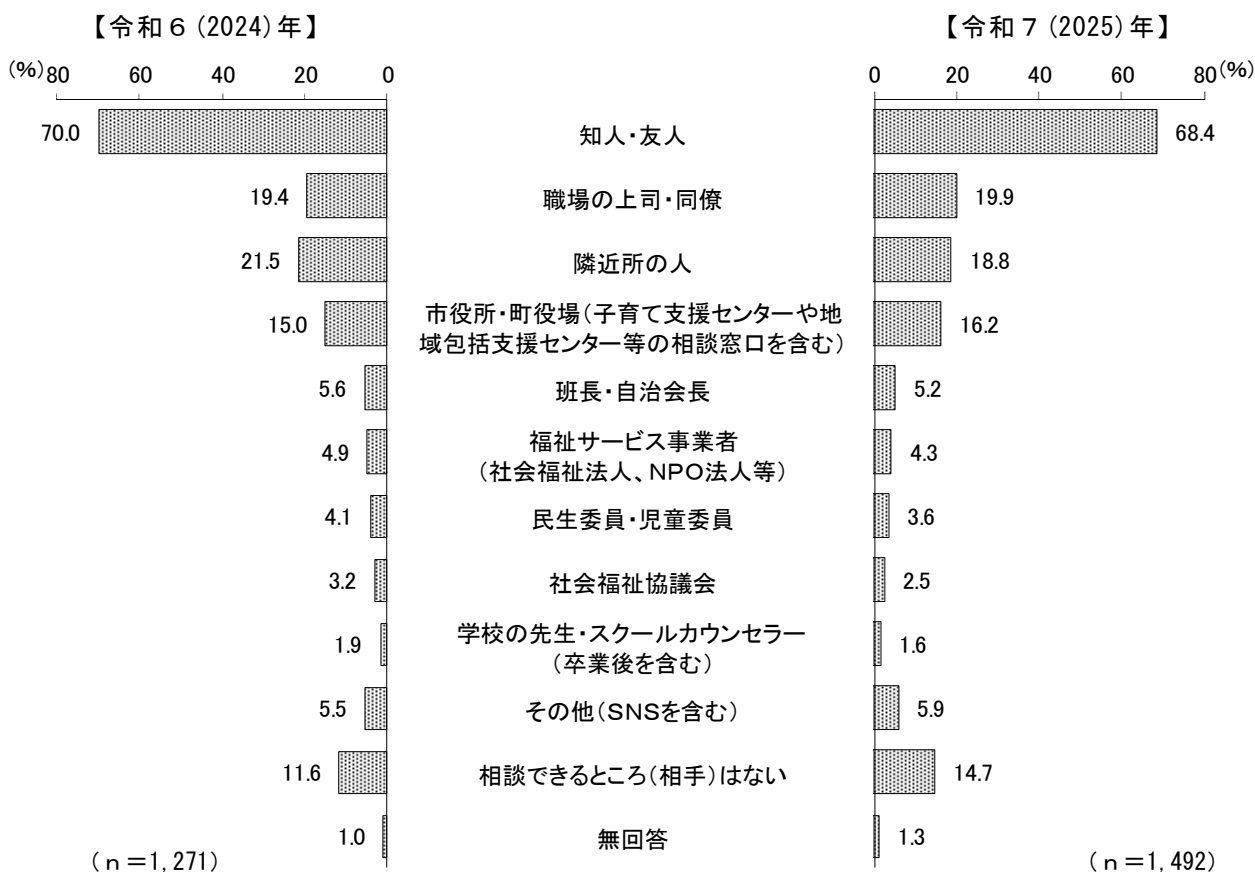
地域別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈県北地域〉が34.4%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 家族・親族以外で相談できるところ

問19 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,492]

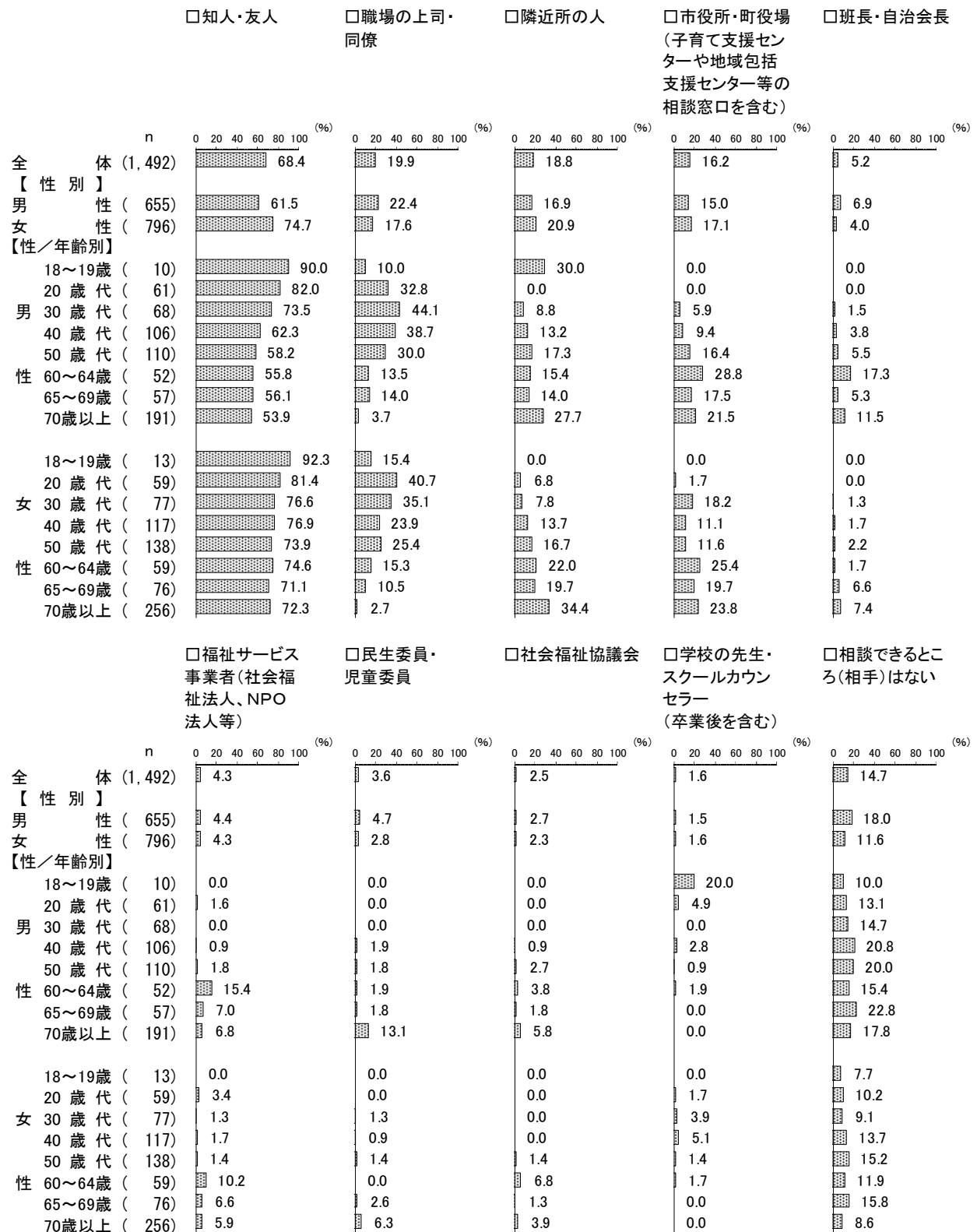
1	知人・友人	68.4%
2	隣近所の人	18.8
3	民生委員・児童委員	3.6
4	班長・自治会長	5.2
5	社会福祉協議会	2.5
6	市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）	16.2
7	福祉サービス事業者（社会福祉法人、NPO法人等）	4.3
8	学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）	1.6
9	職場の上司・同僚	19.9
10	その他（SNSを含む）	5.9
11	相談できるところ（相手）はない	14.7
	（無回答）	1.3



全体でみると、「知人・友人」（68.4%）が7割近くと最も高く、次いで「職場の上司・同僚」（19.9%）、「隣近所の人」（18.8%）、「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）（以下『市役所・町役場』という）」（16.2%）の順となっている。

前回（令和 6 (2024) 年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

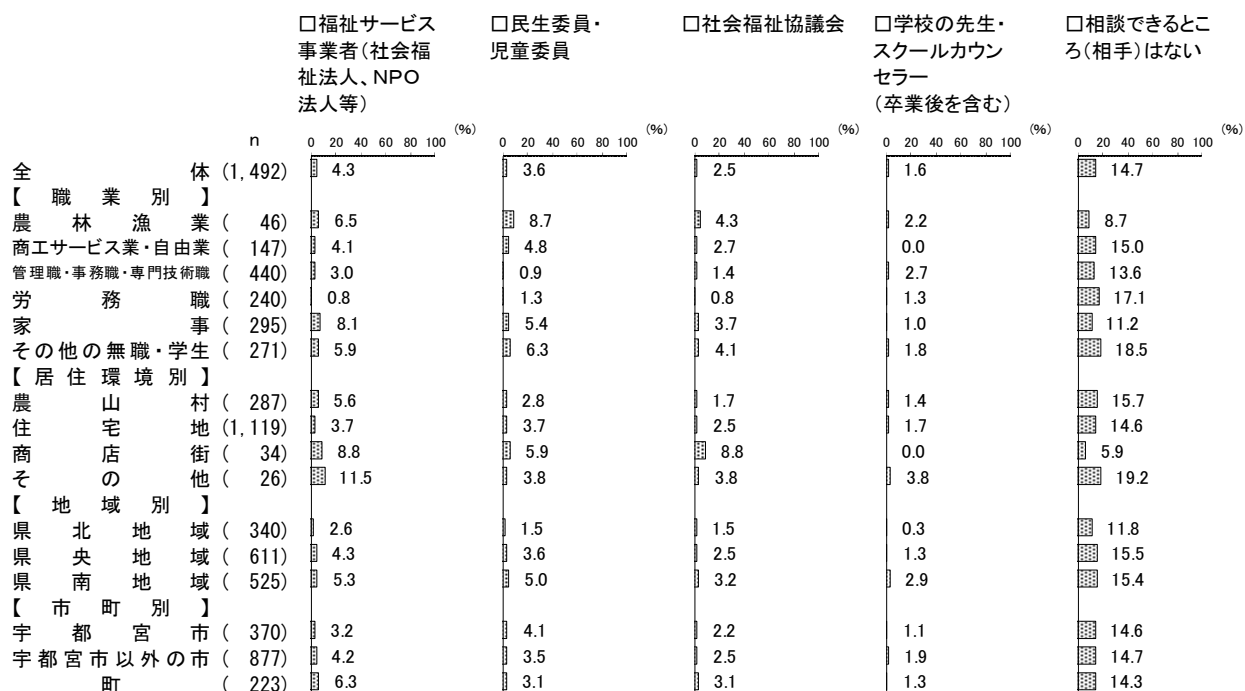
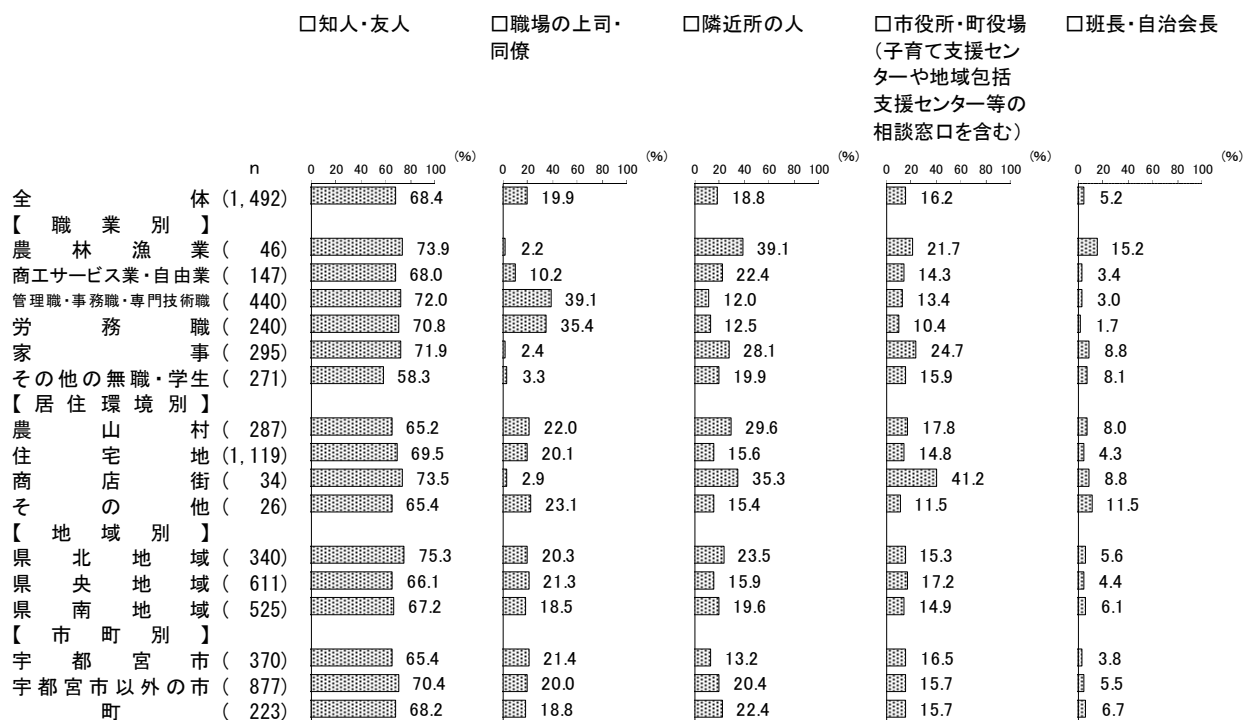
【性別・性／年齢別】



性別でみると、「知人・友人」では〈女性〉(74.7%)が〈男性〉(61.5%)より13.2ポイント高くなっている。一方、「相談できるところ(相手)はない」では〈男性〉(18.0%)が〈女性〉(11.6%)より6.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知人・友人」では〈男性20歳代〉が82.0%、〈女性20歳代〉が81.4%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈男性30歳代〉が44.1%と高くなっている。「隣近所の人」では〈男性20歳代〉が0.0%と低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「知人・友人」では〈その他の無職・学生〉が58.3%と低くなっている。「職場の上司・同僚」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が39.1%、〈労務職〉が35.4%と高くなっている。「隣近所の人」では〈農林漁業〉が39.1%と高くなっている。『市役所・町役場』では〈家事〉が24.7%と高くなっている。「班長・自治会長」では〈農林漁業〉が15.2%と高くなっている。

居住環境別でみると、「知人・友人」では〈商店街〉が73.5%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈商店街〉が2.9%と低くなっている。「隣近所の人」では〈商店街〉が35.3%と高くなっている。『市役所・町役場』では〈商店街〉が41.2%と高くなっている。

地域別でみると、「知人・友人」では〈県北地域〉が75.3%と高くなっている。

市町別でみると、「隣近所の人」では〈宇都宮市〉が13.2%と低くなっている。

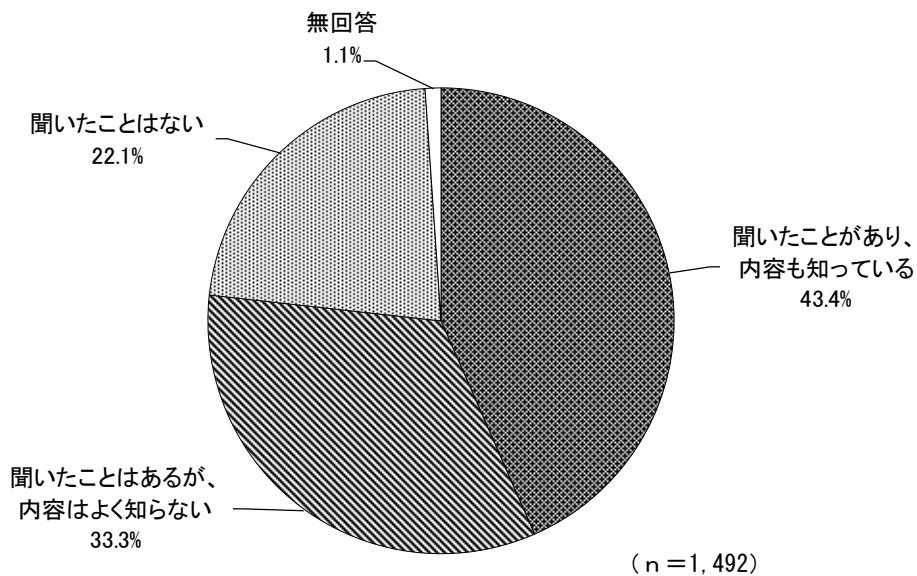
8 ケアラーについて

(1) ケアラーという言葉の認知度

問20 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

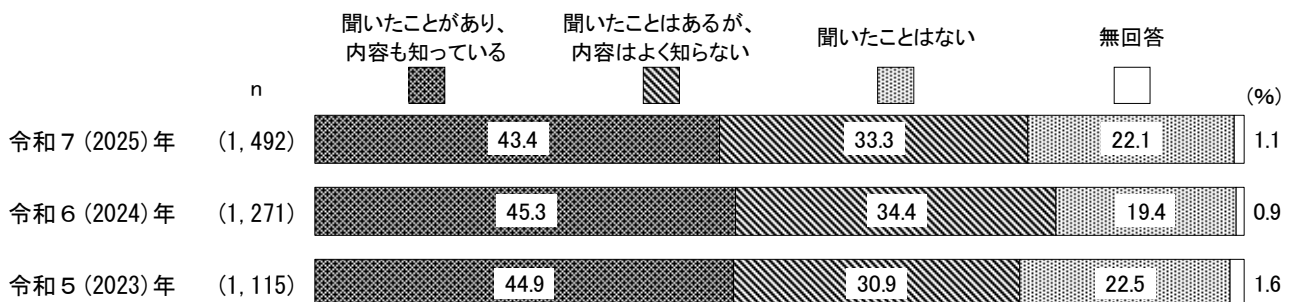
※ 栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和5年4月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

- | | | |
|---|---------------------|-------|
| 1 | 聞いたことがあります、内容も知っている | 43.4% |
| 2 | 聞いたことはあるが、内容はよく知らない | 33.3 |
| 3 | 聞いたことはない | 22.1 |
| | (無回答) | 1.1 |



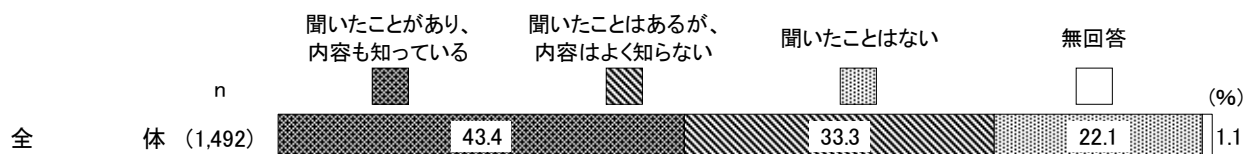
全体でみると、「聞いたことがあります、内容も知っている」（43.4％）が4割台半ば近くで最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」（33.3％）となっている。一方、「聞いたことはない」（22.1％）が2割強となっている。

[過去の調査結果]

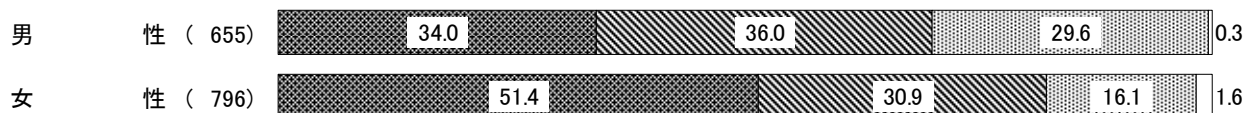


過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

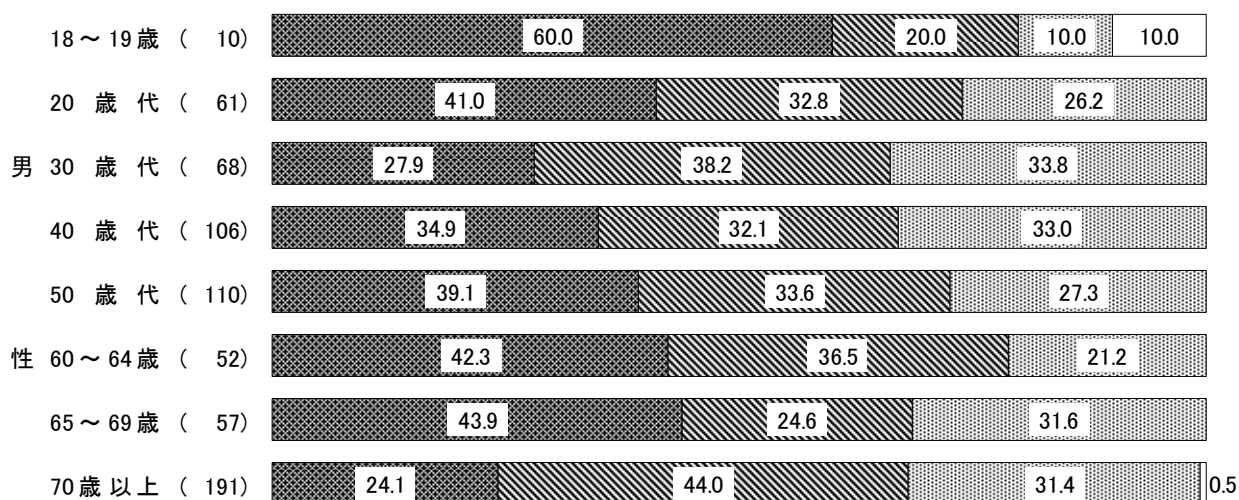
【性別・性／年齢別】



【性別】



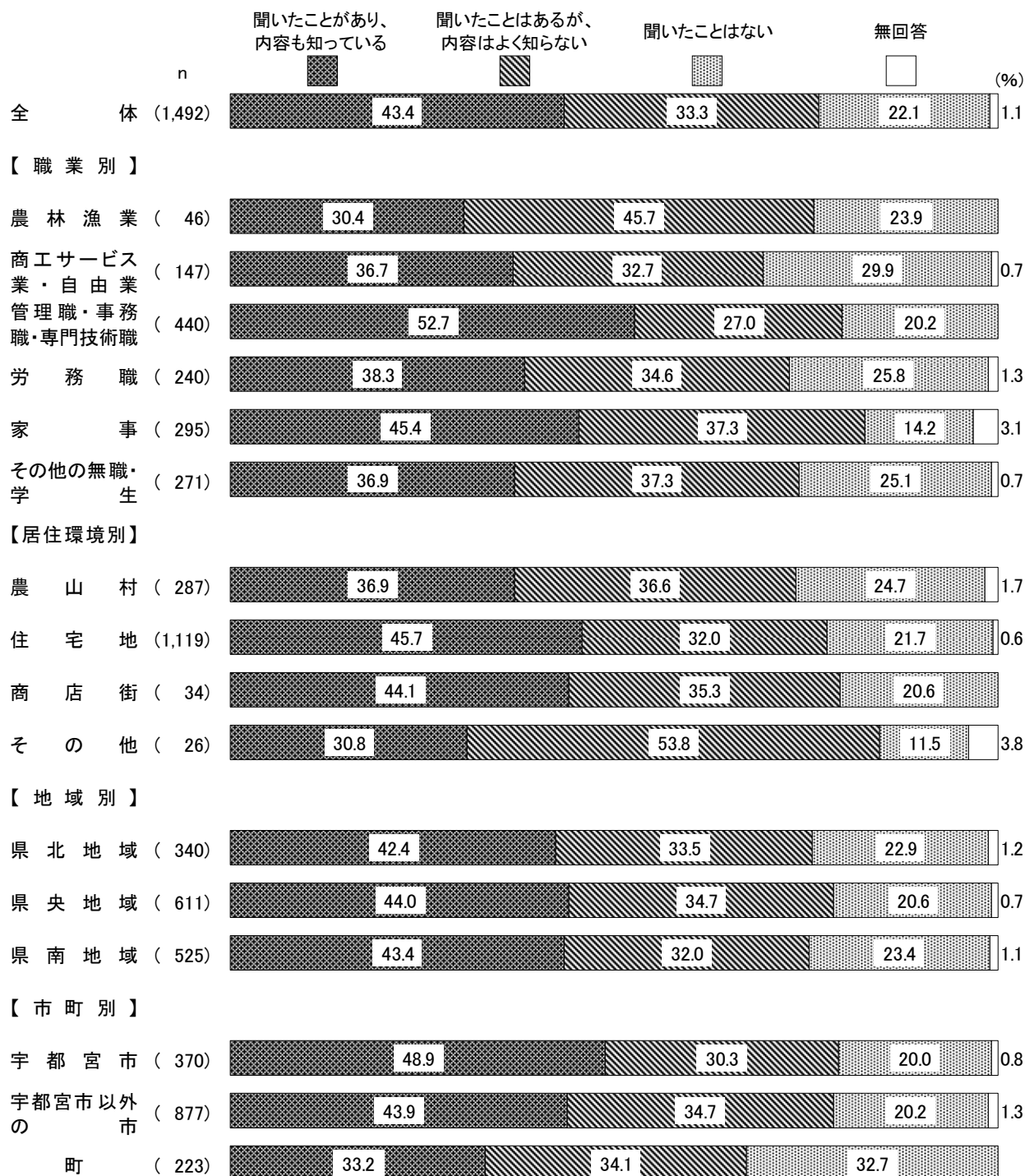
【性／年齢別】



性別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性〉(51.4%)が〈男性〉(34.0%)より17.4ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈男性〉(29.6%)が〈女性〉(16.1%)より13.5ポイント、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性〉(36.0%)が〈女性〉(30.9%)より5.1ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性40歳代〉が62.4%、〈女性20歳代〉が61.0%、〈女性50歳代〉が60.9%、〈女性30歳代〉が58.4%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性70歳以上〉が44.0%と高くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈男性30歳代〉が33.8%、〈男性40歳代〉が33.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.7%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈農林漁業〉が45.7%と高くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈商工サービス業・自由業〉が29.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈農山村〉が36.9%と低くなっている。

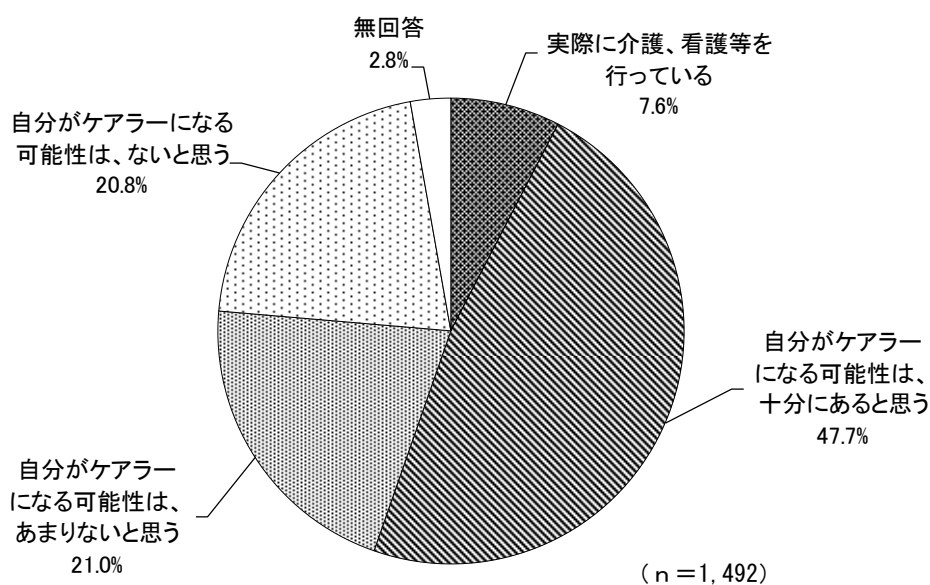
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない

市町別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈宇都宮市〉が48.9%と高くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈町〉が32.7%と高くなっている。

(2) ケアラー当事者になる可能性

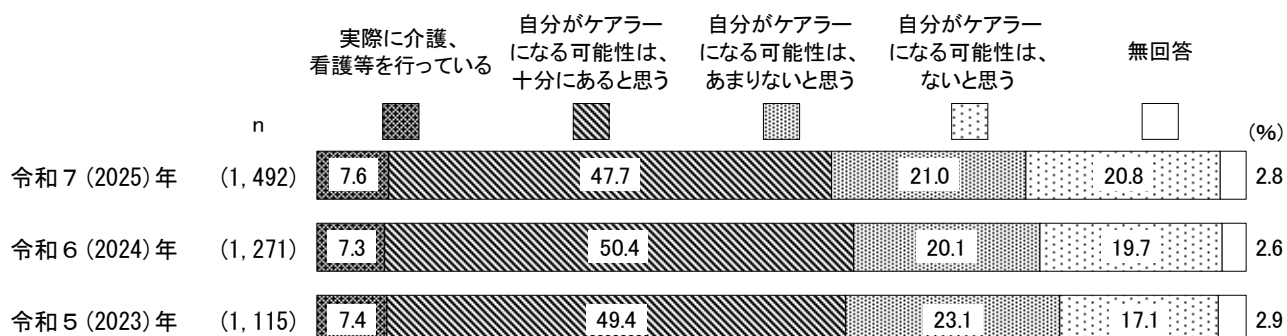
問21 今後、あなたがケアラー当事者となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

- | | | |
|---|-------------------------|------|
| 1 | 実際に介護、看護等を行っている | 7.6% |
| 2 | 自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う | 47.7 |
| 3 | 自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う | 21.0 |
| 4 | 自分がケアラーになる可能性は、ないと思う | 20.8 |
| | (無回答) | 2.8 |



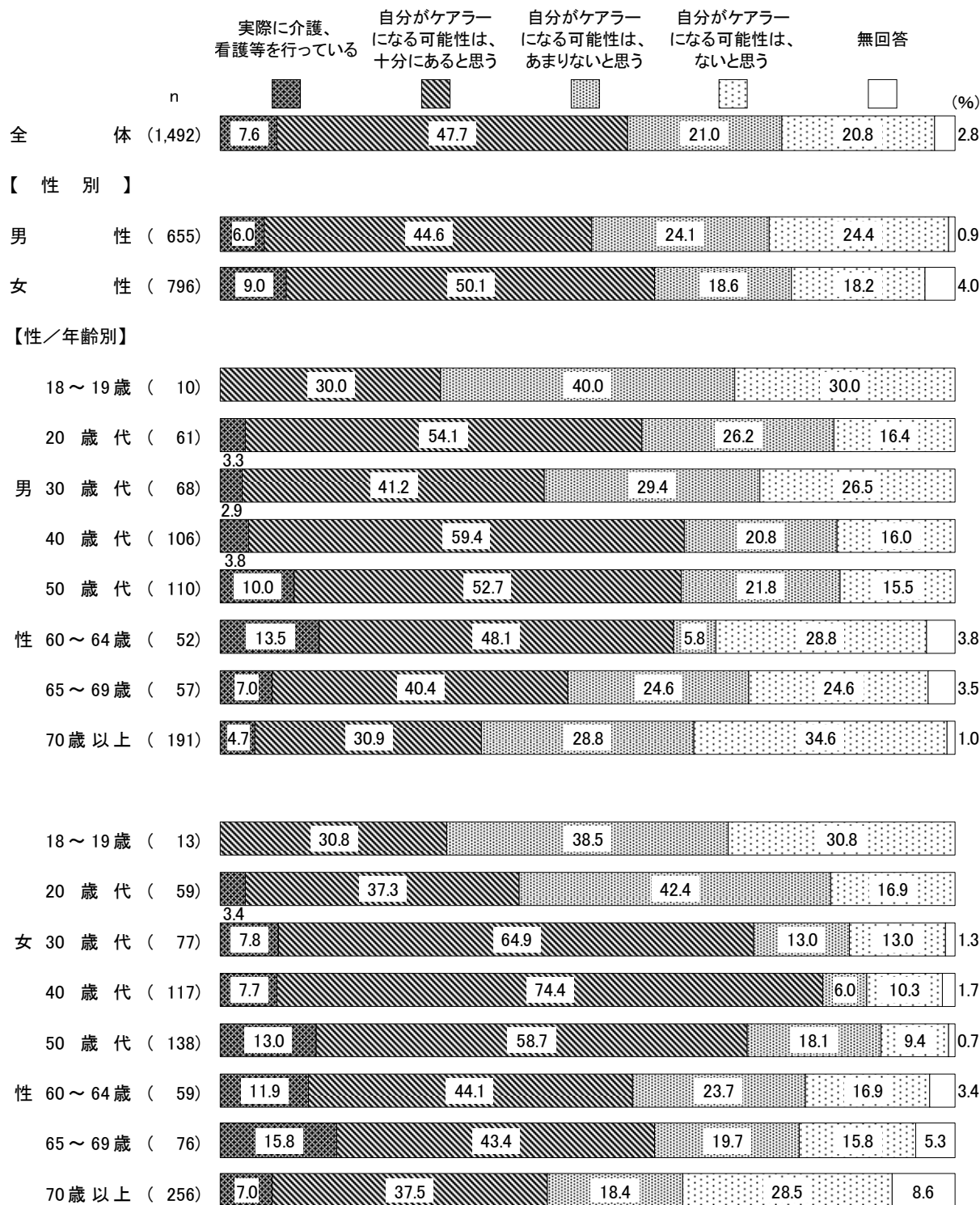
全体でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」(47.7%)が4割台半ばを超え最も高くなっている。一方、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」(21.0%)が2割強となっており、「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」(20.8%)が約2割となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

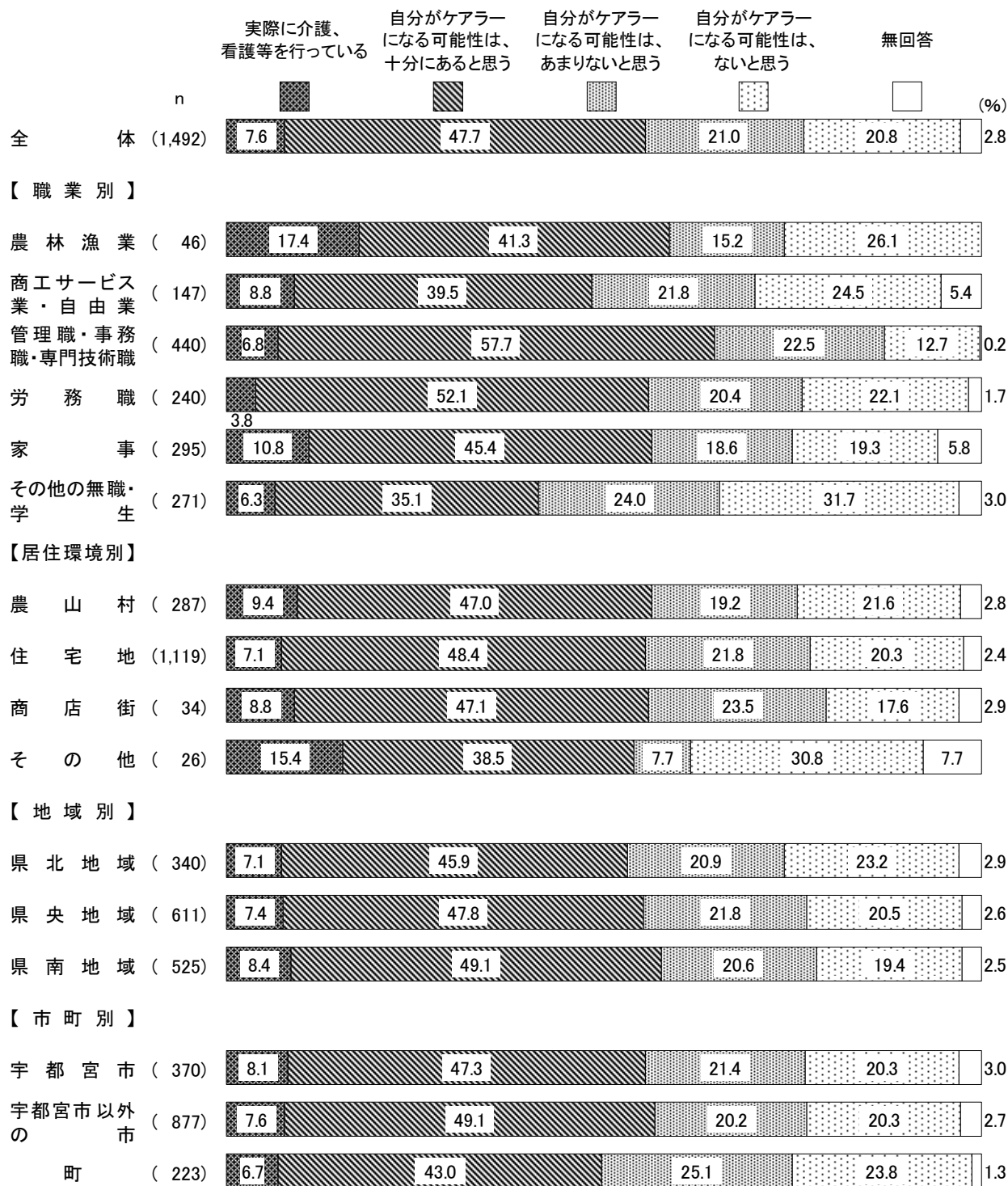
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈女性〉(50.1%)が〈男性〉(44.6%)より5.5ポイント高くなっている。一方、「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」では〈男性〉(24.4%)が〈女性〉(18.2%)より6.2ポイント、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈男性〉(24.1%)が〈女性〉(18.6%)より5.5ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈女性40歳代〉が74.4%と高くなっている。一方、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈女性20歳代〉が42.4%、「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」では〈男性70歳以上〉が34.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「実際に介護、看護等を行っている」では〈農林漁業〉が17.4%と高くなっている。「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が57.7%と高くなっている。一方、「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」では〈その他の無職・学生〉が31.7%、〈農林漁業〉が26.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

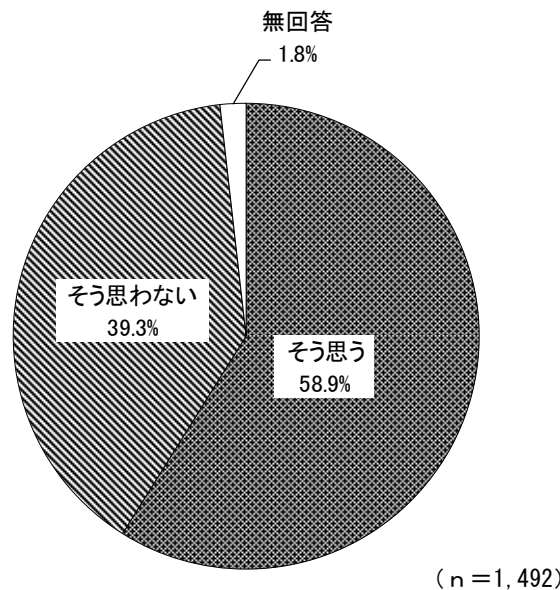
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

9 在宅医療について

(1) 在宅療養への考え

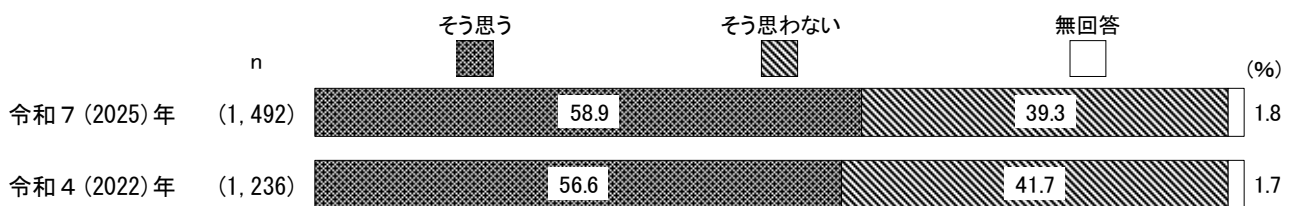
問22 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 そう思う 58.9% 2 そう思わない 39.3%
(無回答) 1.8



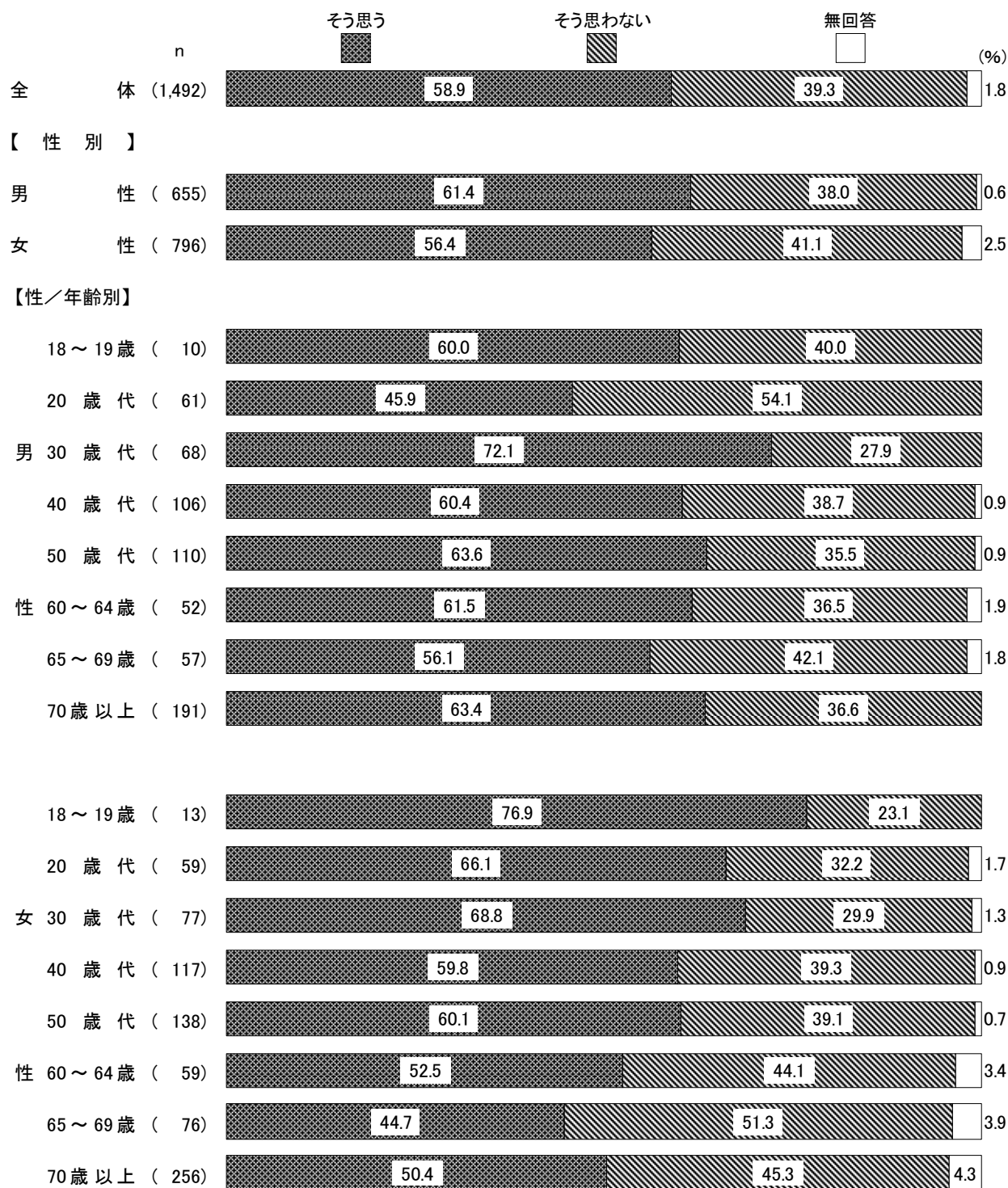
全体でみると、「そう思う」(58.9%)が6割近く、「そう思わない」(39.3%)が4割弱となっている。

[過去の調査結果]



前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

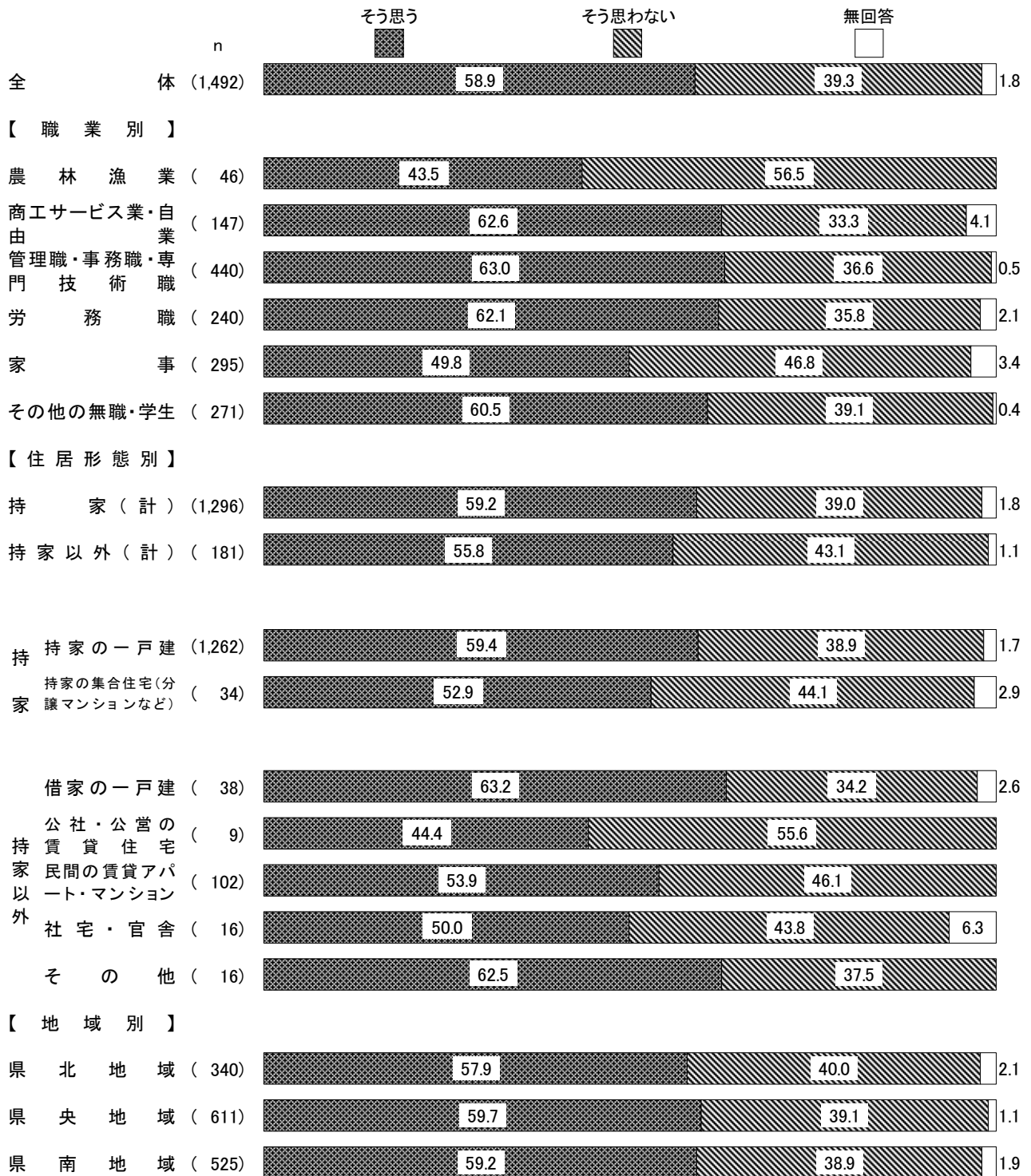
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「そう思う」では〈男性〉(61.4%)が〈女性〉(56.4%)より5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「そう思う」では〈男性30歳代〉が72.1%と高くなっている。「そう思わない」では〈男性20歳代〉が54.1%、〈女性65～69歳〉が51.3%と高くなっている。

【職業別・住居形態別・地域別】



職業別でみると、「そう思わない」では〈農林漁業〉が56.5%、〈家事〉が46.8%と高くなっている。
住居形態別でみると、「そう思わない」では〈民間の賃貸アパート・マンション〉が46.1%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

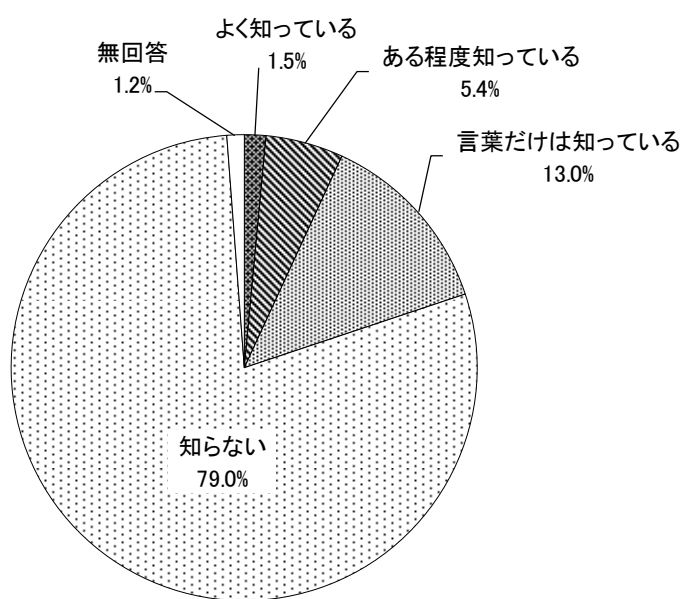
(2) 人生会議（ACP）の認知度

問23 あなたは、「人生会議（ACP）」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,492]

※「人生会議（ACP）」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。

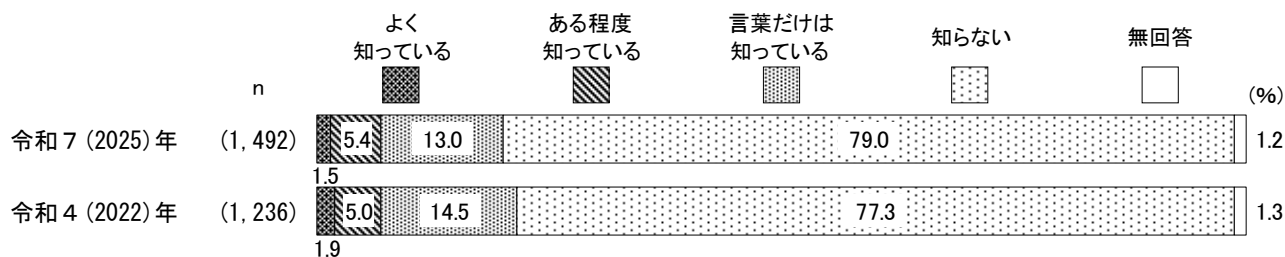
1	よく知っている	1.5%	3	言葉だけは知っている	13.0%
2	ある程度知っている	5.4	4	知らない	79.0
				(無回答)	1.2



(n=1,492)

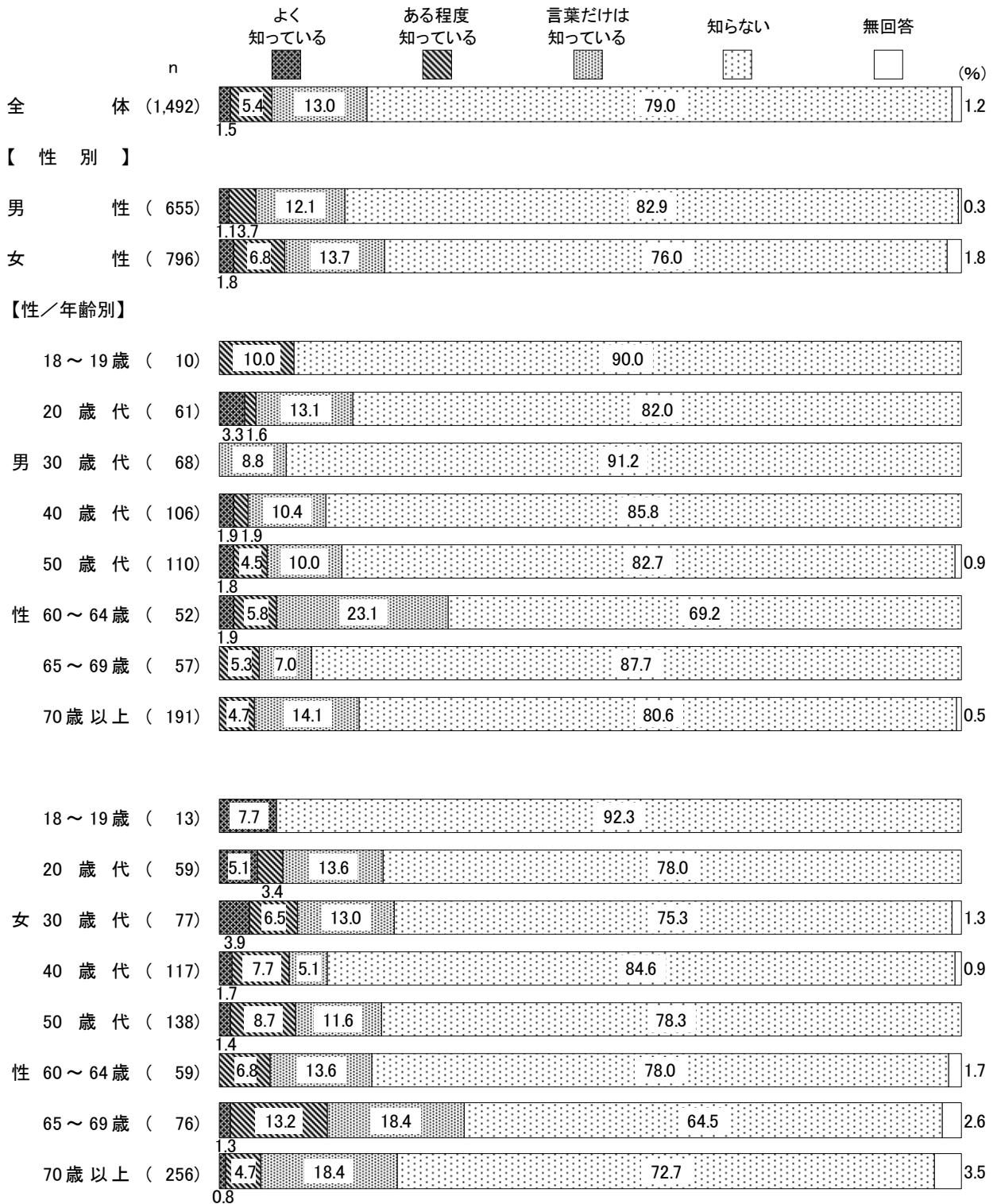
全体でみると、「知らない」(79.0%)が8割弱で最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(13.0%)、「ある程度知っている」(5.4%)の順となっている。

[過去の調査結果]



前回（令和4(2022)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

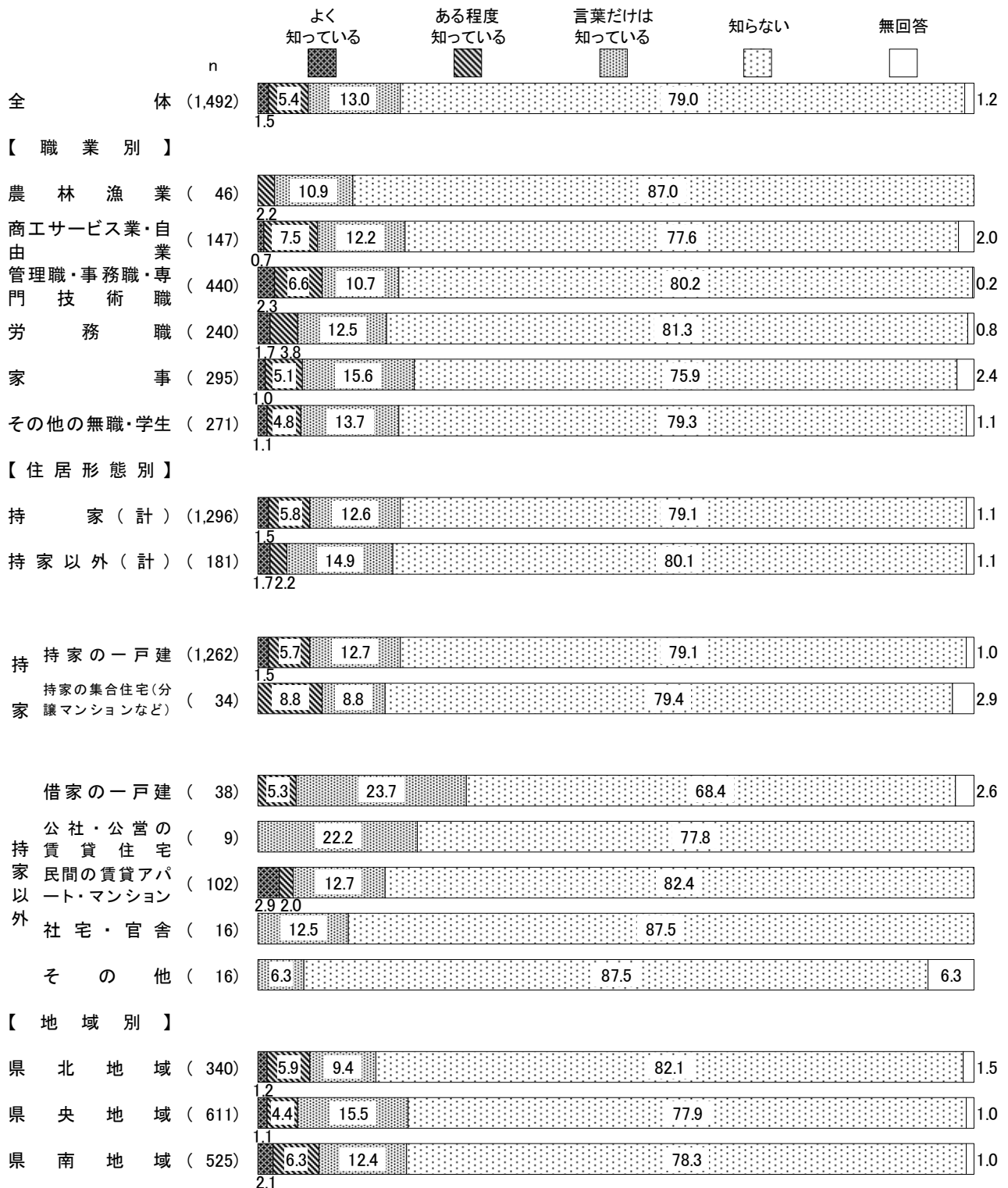
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「知らない」では〈男性〉(82.9%)が〈女性〉(76.0%)より6.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知らない」では〈男性30歳代〉が91.2%と高く、〈女性65～69歳〉が64.5%と低くなっている。

[職業別・住居形態別・地域別]



職業別でみると、「知らない」では〈農林漁業〉が87.0%と高くなっている。

住居形態別でみると、「知らない」では〈借家の一戸建〉が68.4%と低くなっている。

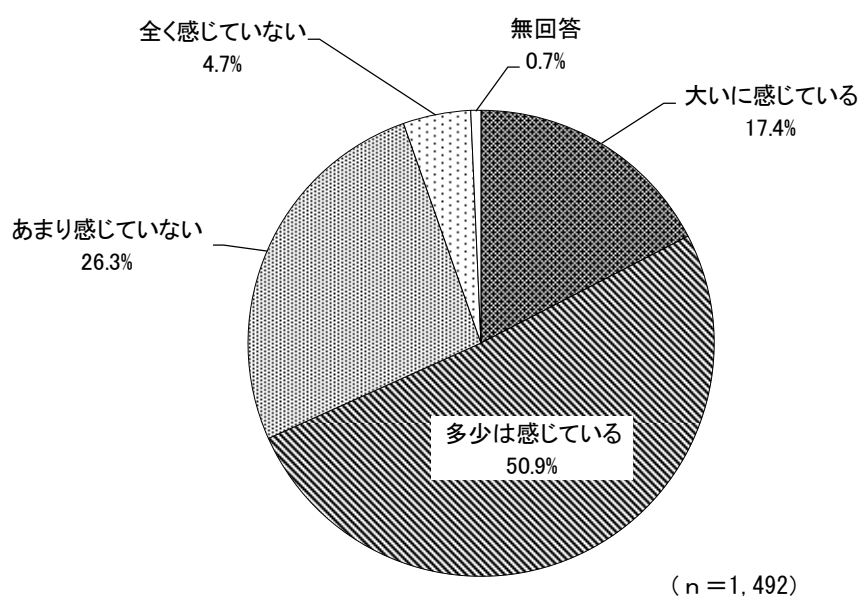
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

10 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

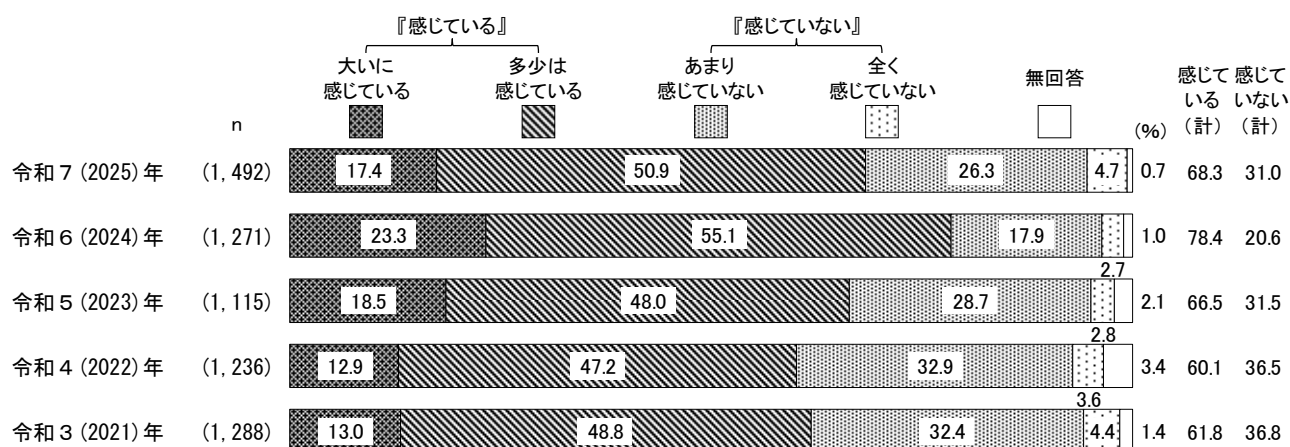
問24 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 大いに感じている	17.4%	3 あまり感じていない	26.3%
2 多少は感じている	50.9	4 全く感じていない	4.7
		(無回答)	0.7



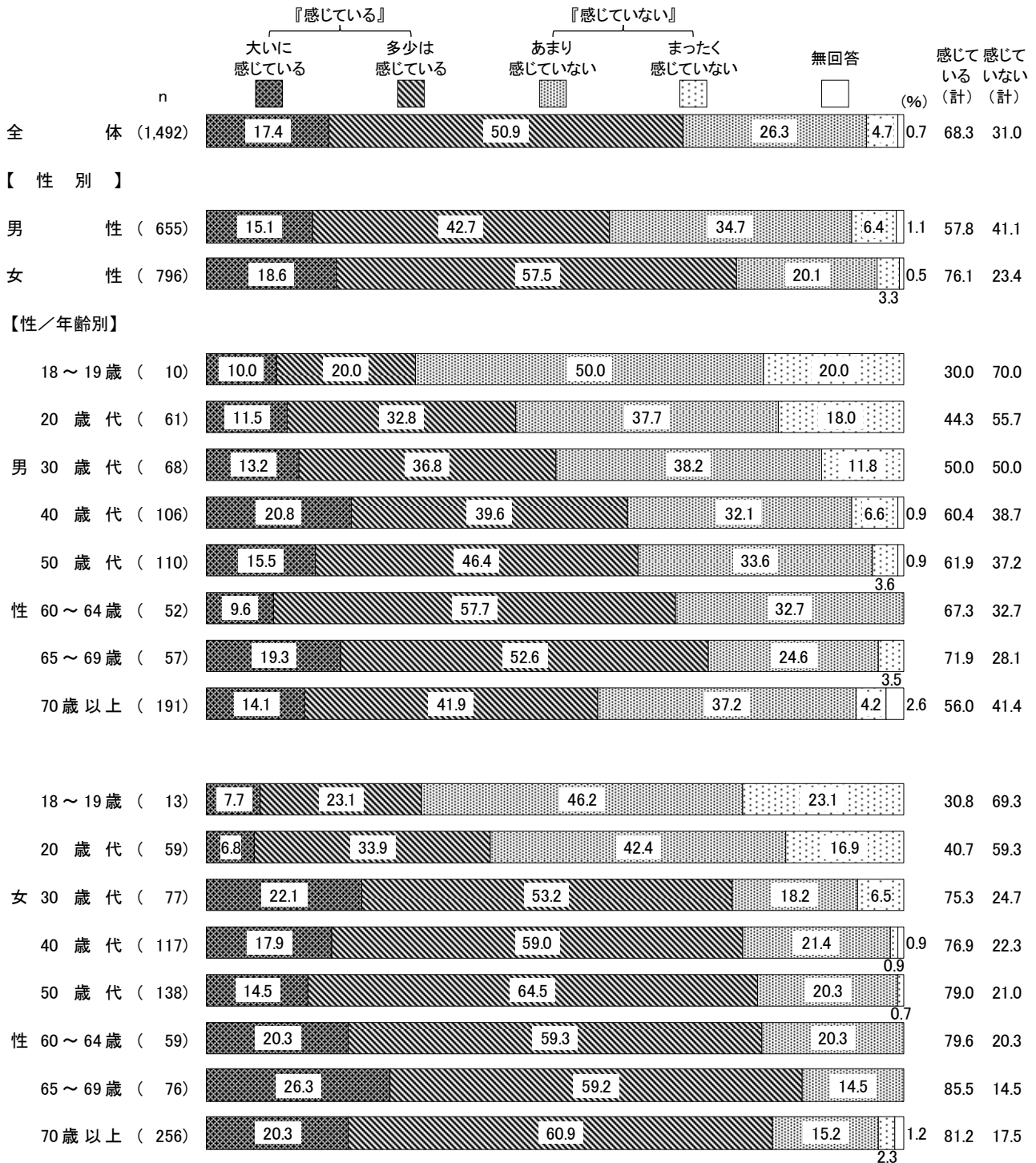
全体でみると、「大いに感じている」(17.4%)と「多少は感じている」(50.9%)の2つを合わせた『感じている』(68.3%)が7割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(26.3%)と「全く感じていない」(4.7%)の2つを合わせた『感じていない』(31.0%)が3割強となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、『感じている』では前回(令和6(2024)年)から10.1ポイント減少している。一方、『感じていない』では前回(令和6(2024)年)から10.4ポイント増加している。

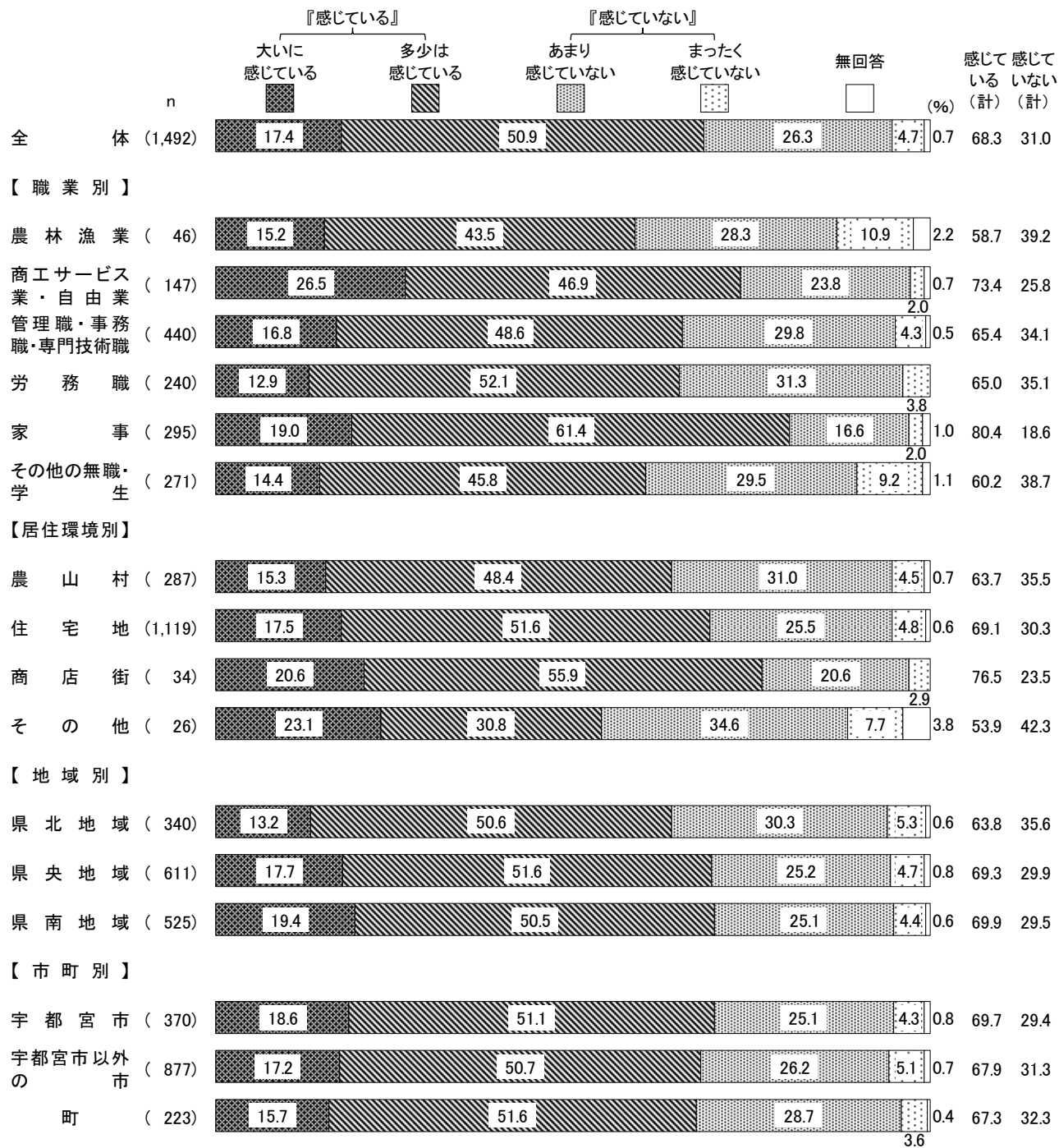
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『感じている』では〈女性〉(76.1%)が〈男性〉(57.8%)より18.3ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(41.1%)が〈女性〉(23.4%)より17.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『感じている』では〈女性65～69歳〉が85.5%、〈女性70歳以上〉が81.2%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈女性20歳代〉が59.3%、〈男性20歳代〉が55.7%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉が80.4%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈農林漁業〉が39.2%、〈その他の無職・学生〉が38.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』では〈商店街〉が76.5%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

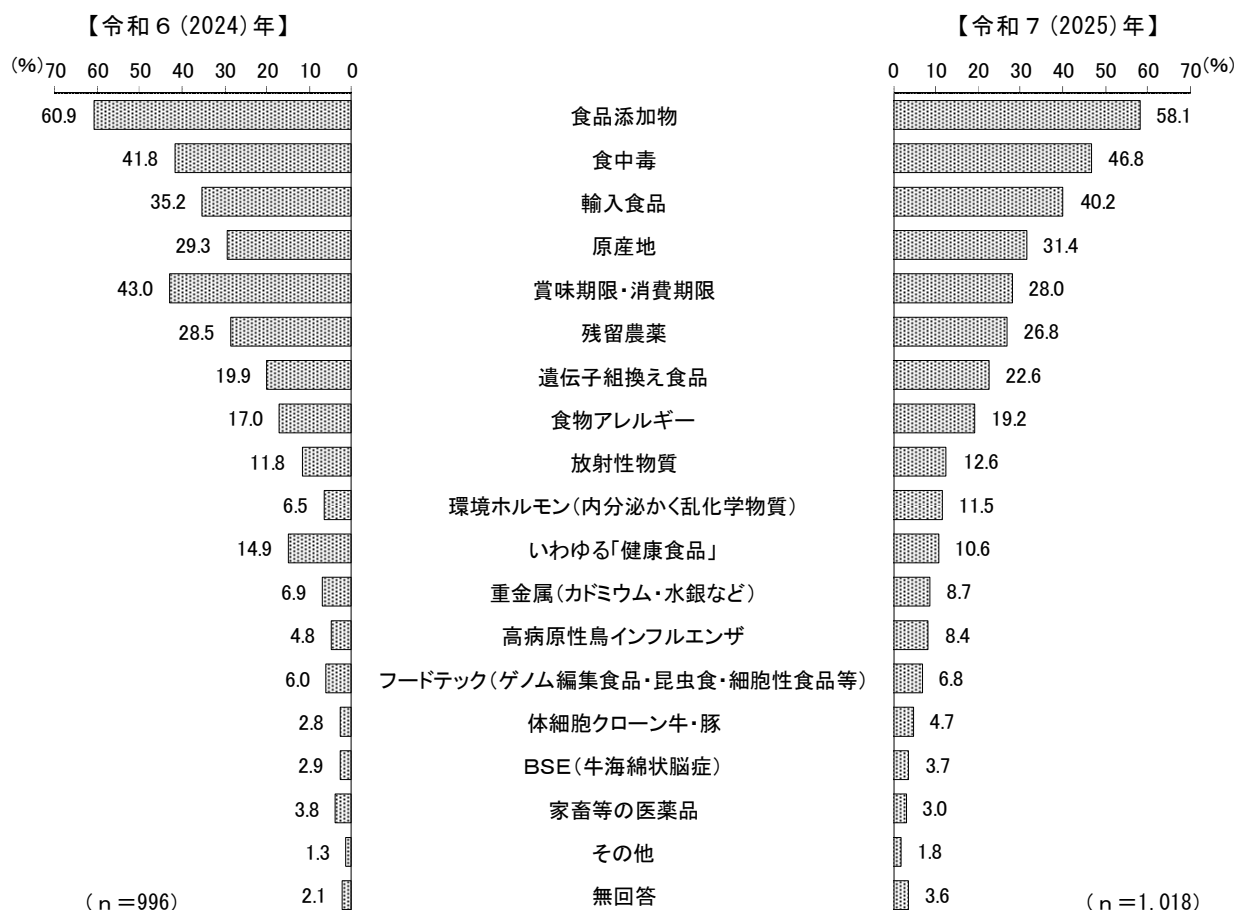
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問24で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問25 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。 [n=1,018]

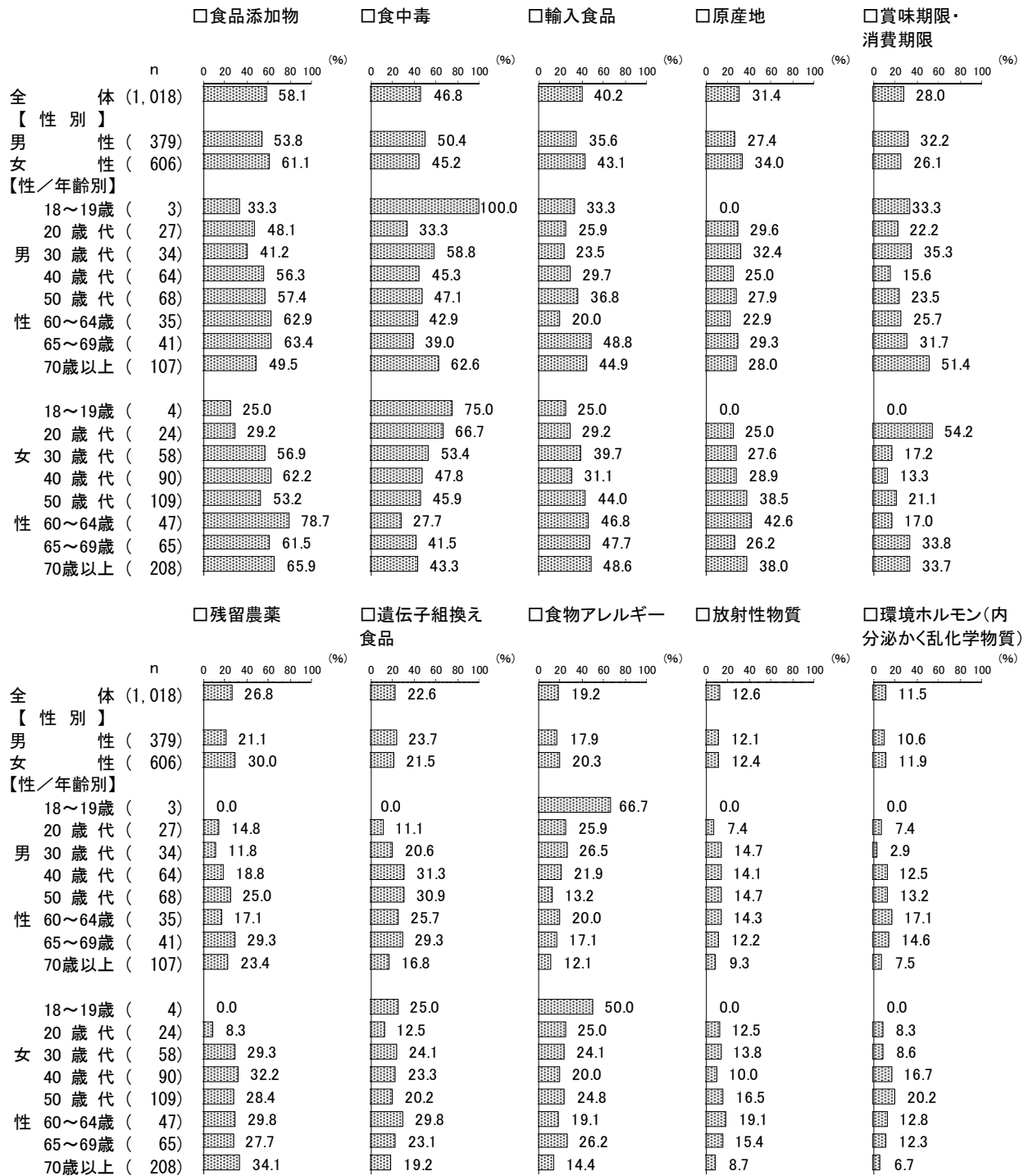
1 食中毒	46.8%	11 輸入食品	40.2%
2 食品添加物	58.1	12 BSE(牛海綿状脳症)	3.7
3 いわゆる「健康食品」	10.6	13 高病原性鳥インフルエンザ	8.4
4 放射性物質	12.6	14 体細胞クローン牛・豚	4.7
5 重金属(カドミウム・水銀など)	8.7	15 家畜等の医薬品	3.0
6 残留農薬	26.8	16 環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	11.5
7 食物アレルギー	19.2	17 フードテック(ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等)	6.8
8 賞味期限・消費期限	28.0	18 その他	1.8
9 原産地	31.4	(無回答)	3.6
10 遺伝子組換え食品	22.6		



全体でみると、「食品添加物」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで「食中毒」(46.8%)、「輸入食品」(40.2%)、「原産地」(31.4%)の順となっている。

前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、「賞味期限・消費期限」が前回(令和6(2024)年)から15.0ポイント減少している。

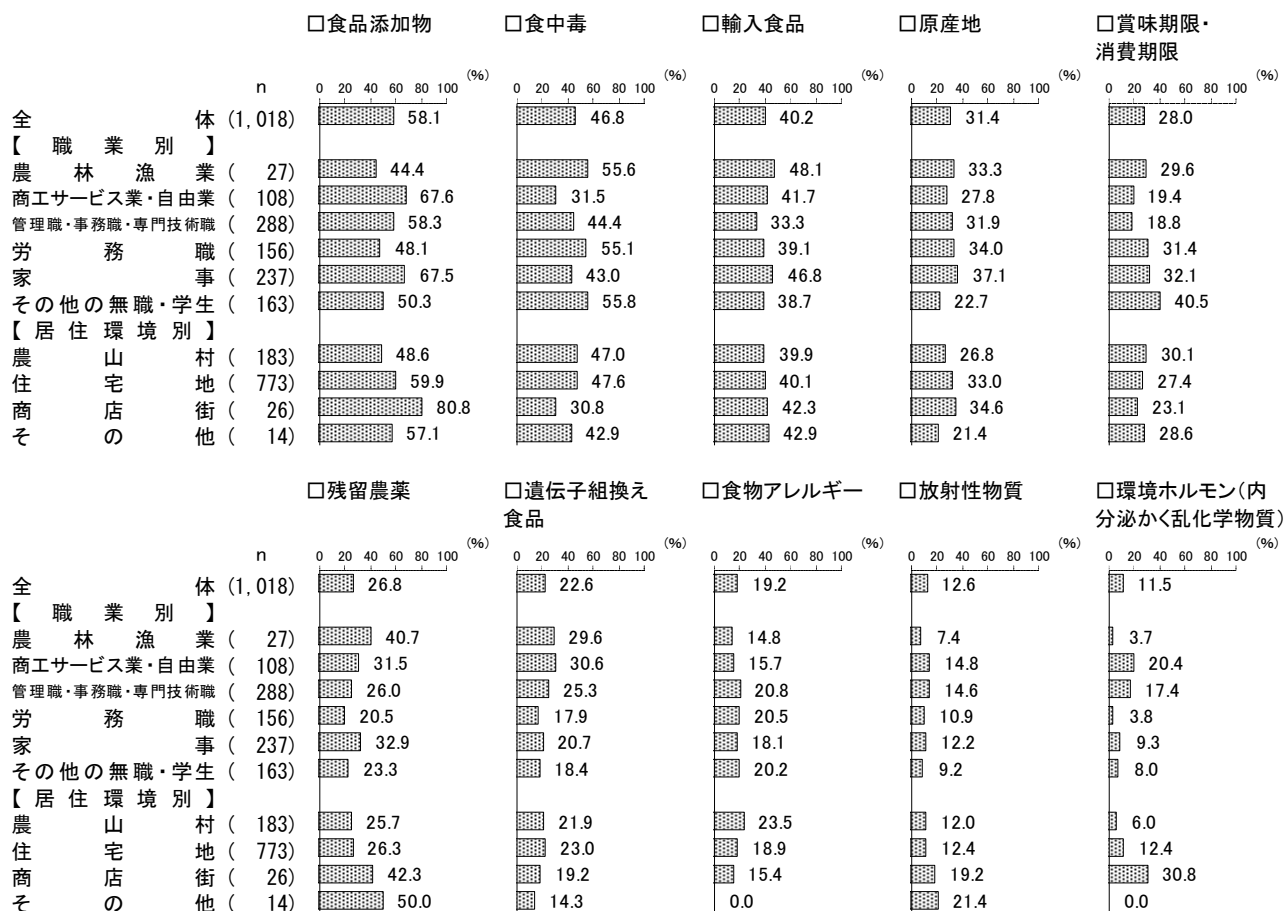
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「残留農薬」では〈女性〉(30.0%)が〈男性〉(21.1%)より8.9ポイント高くなっている。「輸入食品」では〈女性〉(43.1%)が〈男性〉(35.6%)より7.5ポイント、「食品添加物」では〈女性〉(61.1%)が〈男性〉(53.8%)より7.3ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「賞味期限・消費期限」では〈男性〉(32.2%)が〈女性〉(26.1%)より6.1ポイント、「食中毒」では〈男性〉(50.4%)が〈女性〉(45.2%)より5.2ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「食品添加物」では〈女性60～64歳〉が78.7%と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が66.7%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性60～64歳〉が20.0%と低くなっている。「原産地」では〈女性60～64歳〉が42.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈女性20歳代〉が54.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、「食品添加物」では〈商工サービス業・自由業〉が67.6%、〈家事〉が67.5%と高くなっている。「食中毒」では〈その他の無職・学生〉が55.8%、〈農林漁業〉が55.6%、〈労務職〉が55.1%と高くなっている。「輸入食品」では〈農林漁業〉が48.1%、〈家事〉が46.8%と高くなっている。「原産地」では〈家事〉が37.1%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が40.5%と高くなっている。

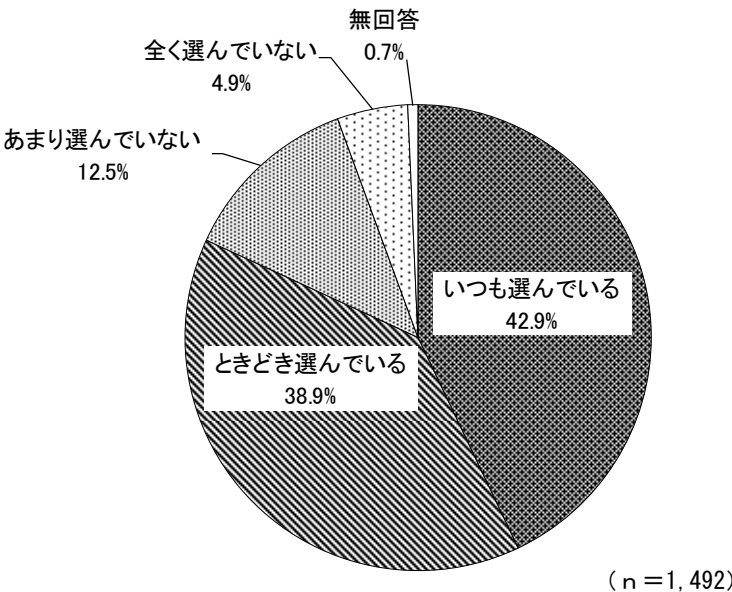
居住環境別でみると、「食品添加物」では〈商店街〉が80.8%と高くなっている。「食中毒」では〈商店街〉が30.8%と低くなっている。「残留農薬」では〈商店街〉が42.3%と高くなっている。「環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）」では〈商店街〉が30.8%と高くなっている。

11 食に関する意識と実践について

(1) 産地や生産者を意識して食品等を選ぶか

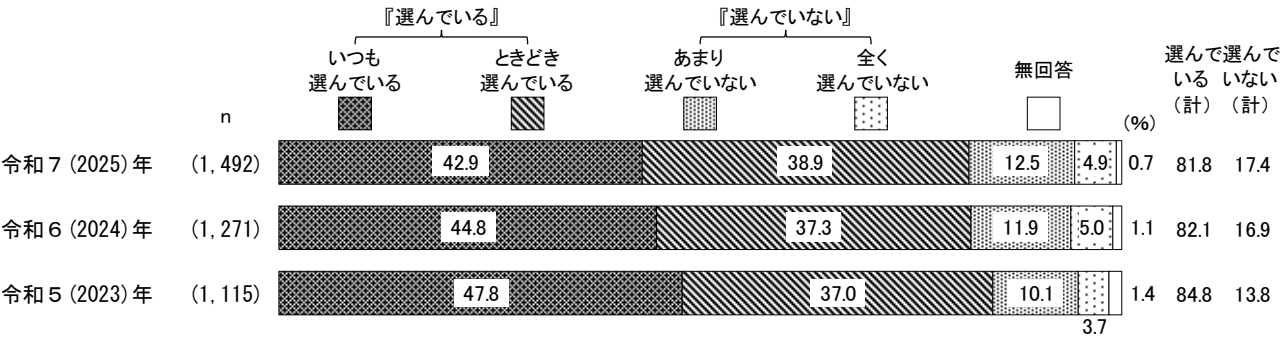
問26 あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1	いつも選んでいる	42.9%	3	あまり選んでいない	12.5%
2	ときどき選んでいる	38.9	4	全く選んでいない	4.9
				(無回答)	0.7



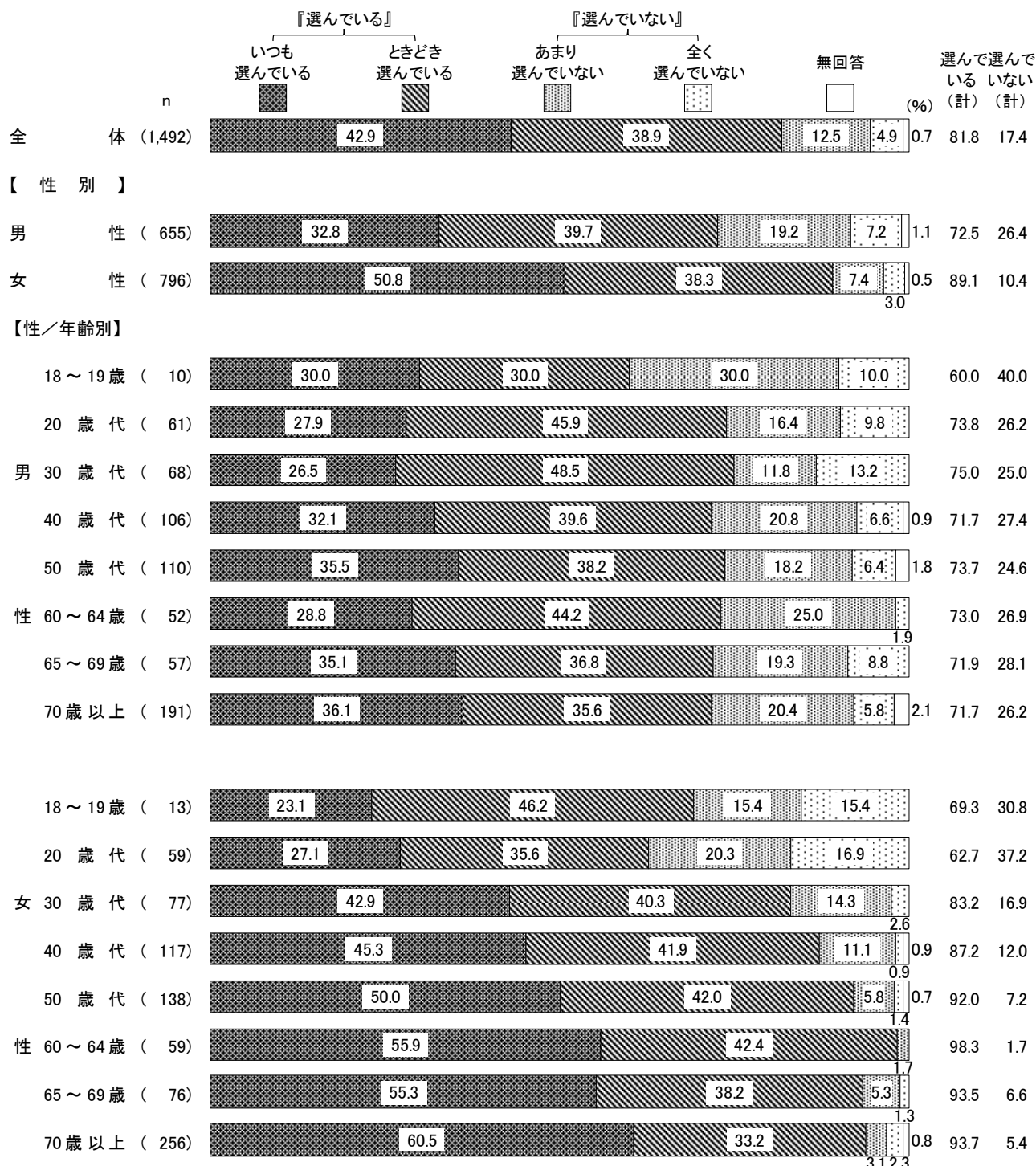
全体でみると、「いつも選んでいる」(42.9%)と「ときどき選んでいる」(38.9%)の2つを合わせた『選んでいる』(81.8%)が8割強となっている。一方、「あまり選んでいない」(12.5%)と「全く選んでいない」(4.9%)の2つを合わせた『選んでいない』(17.4%)が1割台半ばを超えている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、『選んでいる』は減少傾向にあり、令和5(2023)年から3.0ポイント減少している。一方、『選んでいない』は増加傾向にあり、令和5(2023)年から3.6ポイント増加している。

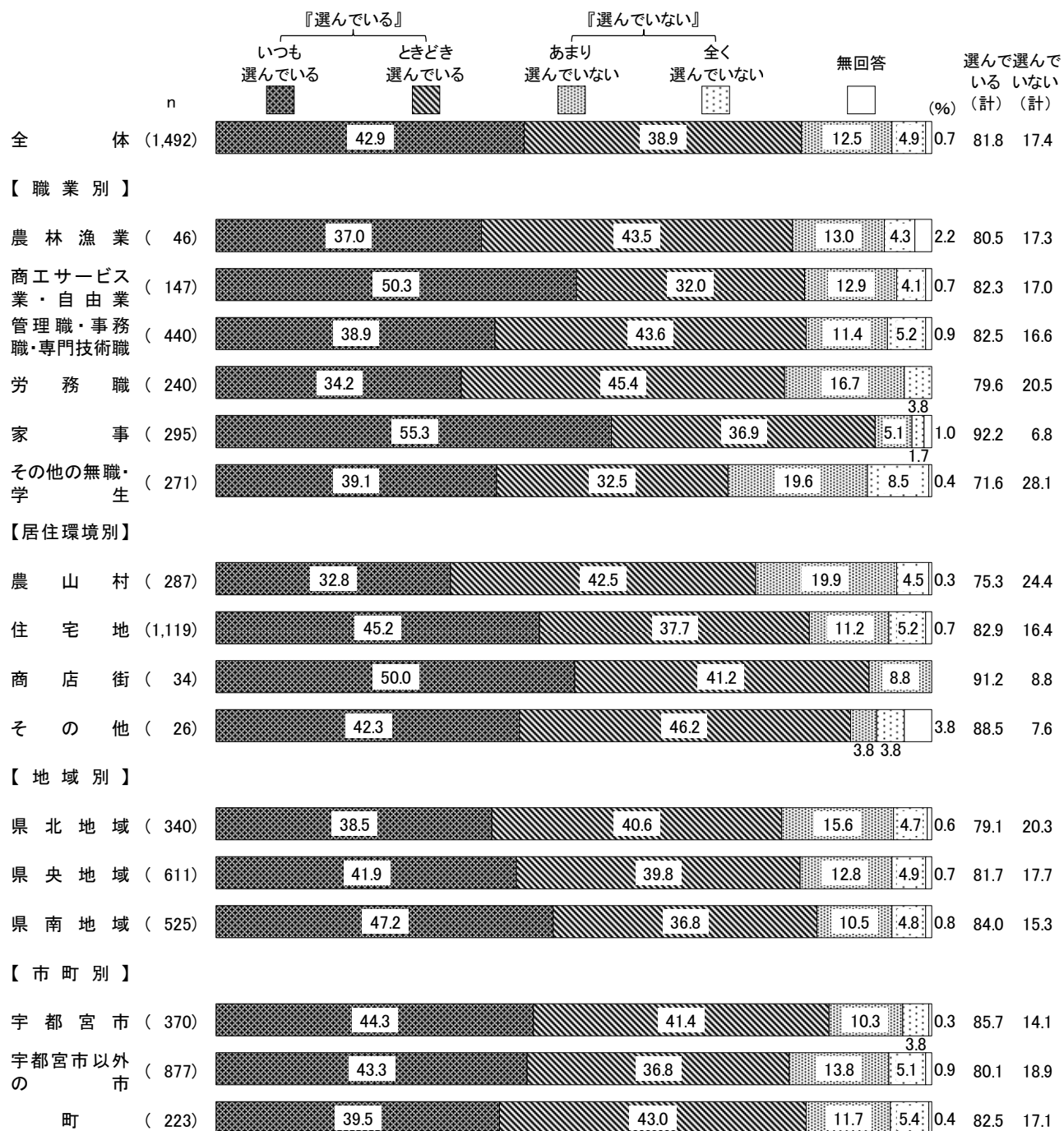
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『選んでいる』では〈女性〉(89.1%)が〈男性〉(72.5%)より16.6ポイント高くなっている。一方、『選んでいない』では〈男性〉(26.4%)が〈女性〉(10.4%)より16.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『選んでいる』では〈女性60～64歳〉が98.3%、〈女性70歳以上〉が93.7%、〈女性65～69歳〉が93.5%、〈女性50歳代〉が92.0%と高くなっている。一方、『選んでいない』では〈女性20歳代〉が37.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『選んでいる』では〈家事〉が92.2%と高くなっている。一方、『選んでいない』では〈その他の無職・学生〉が28.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、『選んでいる』では〈商店街〉が91.2%と高くなっている。一方、『選んでいない』では〈農山村〉が24.4%と高くなっている。

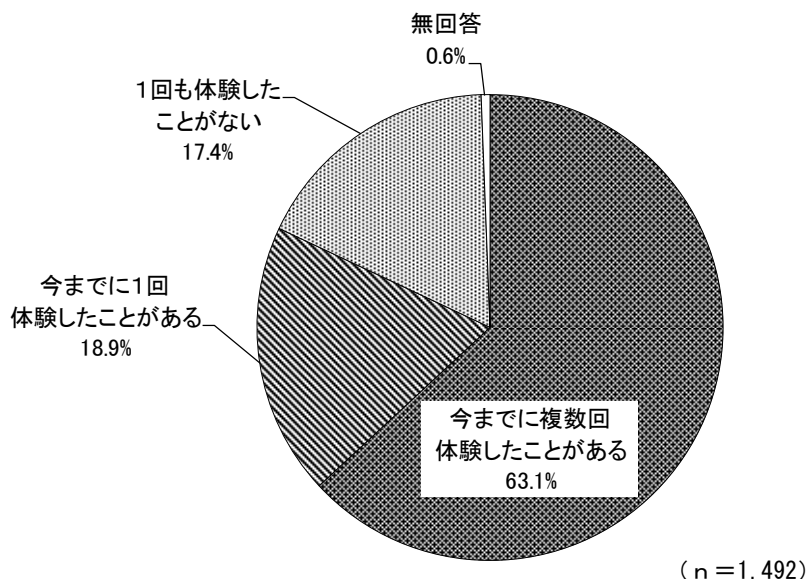
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 農業体験をした経験

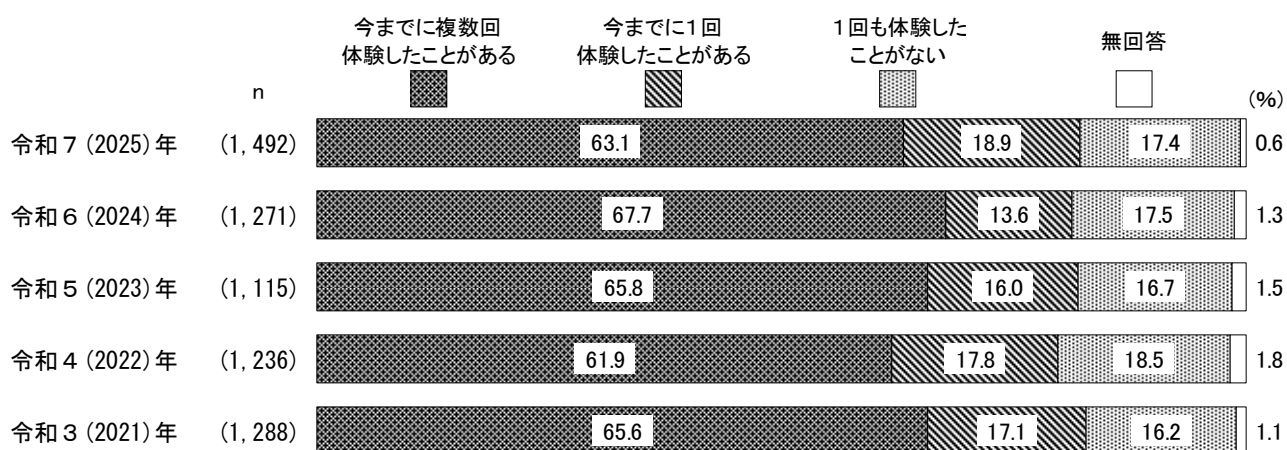
問27 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

- | | | | | | |
|---|------------------|-------|-------|--------------|-------|
| 1 | 今までに複数回体験したことがある | 63.1% | 3 | 1回も体験したことがない | 17.4% |
| 2 | 今までに1回体験したことがある | 18.9 | (無回答) | | 0.6 |



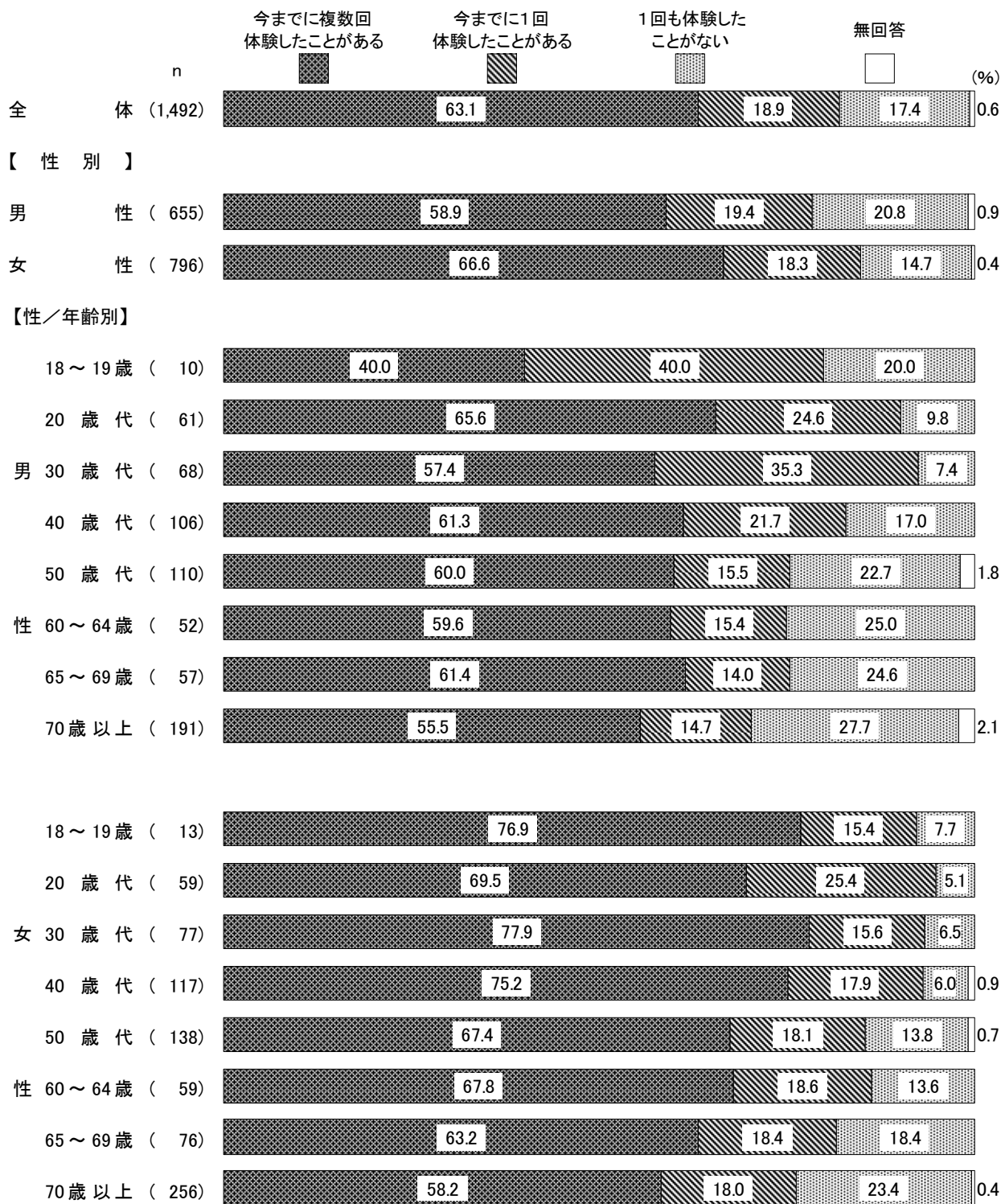
全体でみると、「今までに複数回体験したことがある」(63.1%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「今までに1回体験したことがある」(18.9%)、「1回も体験したことがない」(17.4%)の順となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「今までに1回体験したことがある」は前回(令和6(2024)年)調査から5.3ポイント増加している。

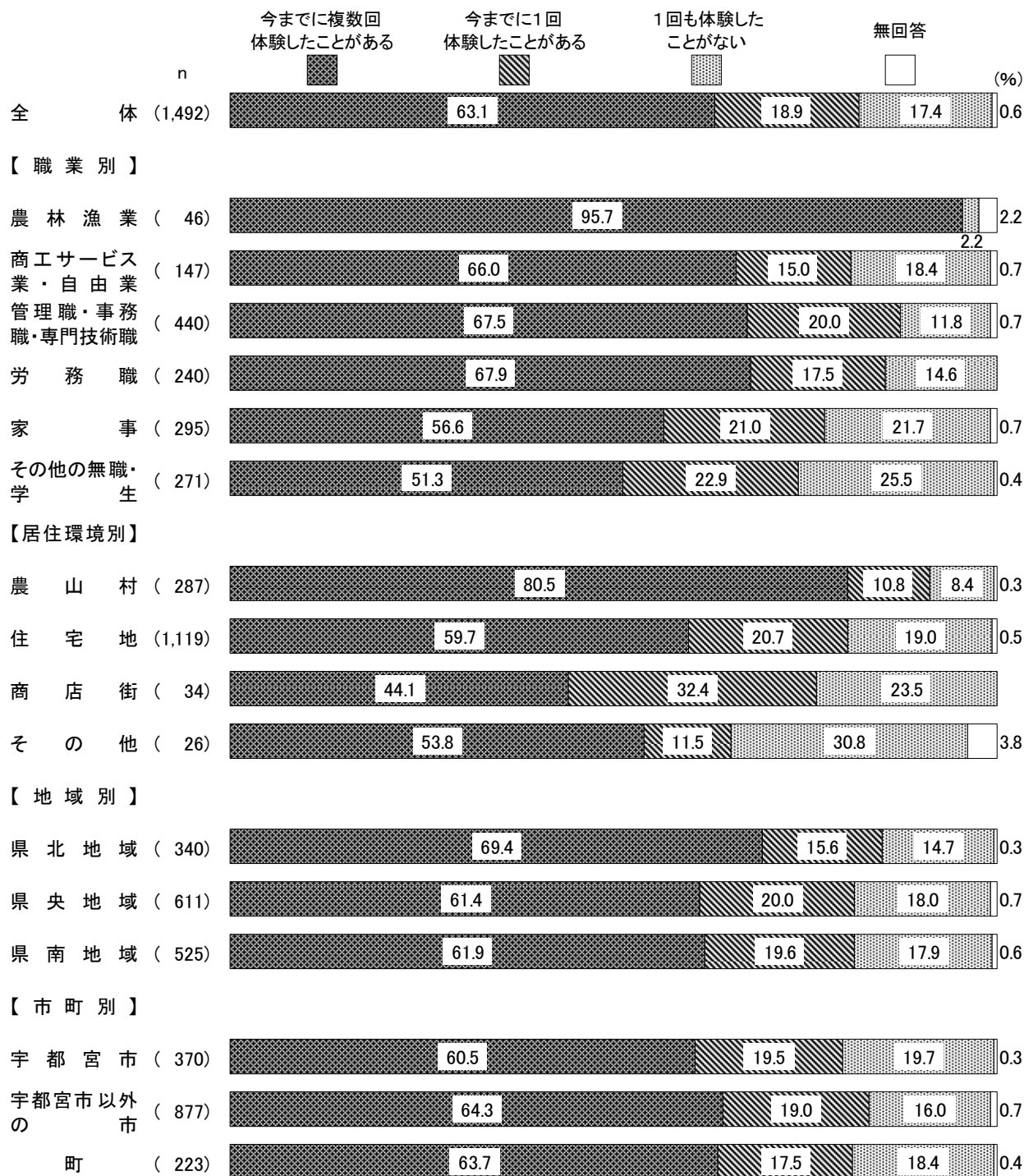
【性別・性／年齢別】



性別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉(66.6%)が〈男性〉(58.9%)より7.7ポイント高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈男性〉(20.8%)が〈女性〉(14.7%)より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が77.9%、〈女性40歳代〉が75.2%と高くなっている。「今までに1回体験したことがある」では〈男性30歳代〉が35.3%と高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈男性70歳以上〉が27.7%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農林漁業〉が95.7%と高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈その他の無職・学生〉が25.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農山村〉が80.5%と高く、「今までに1回体験したことがある」では〈商店街〉が32.4%と高くなっている。一方、「1回も体験したことがない」では〈商店街〉が23.5%と高くなっている。

地域別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈県北地域〉が69.4%と高くなっている。

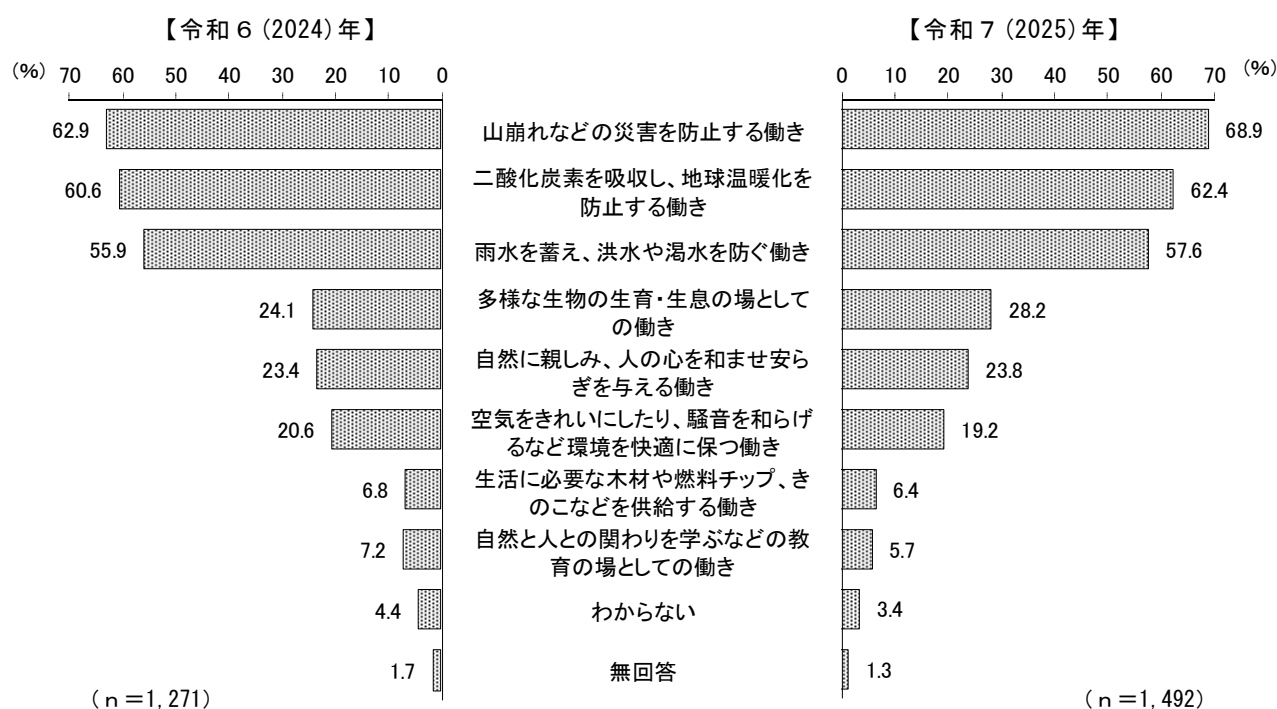
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

12 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要だと思う森林の持つ働き

問28 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,492]

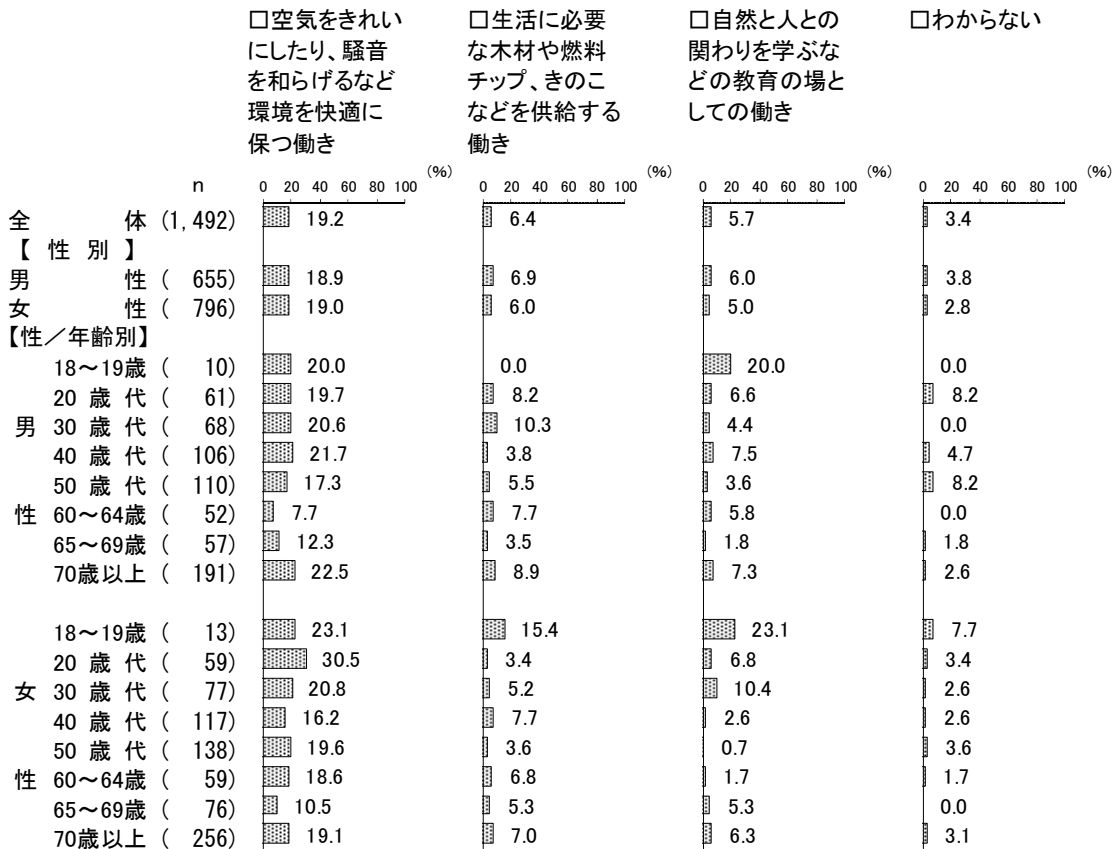
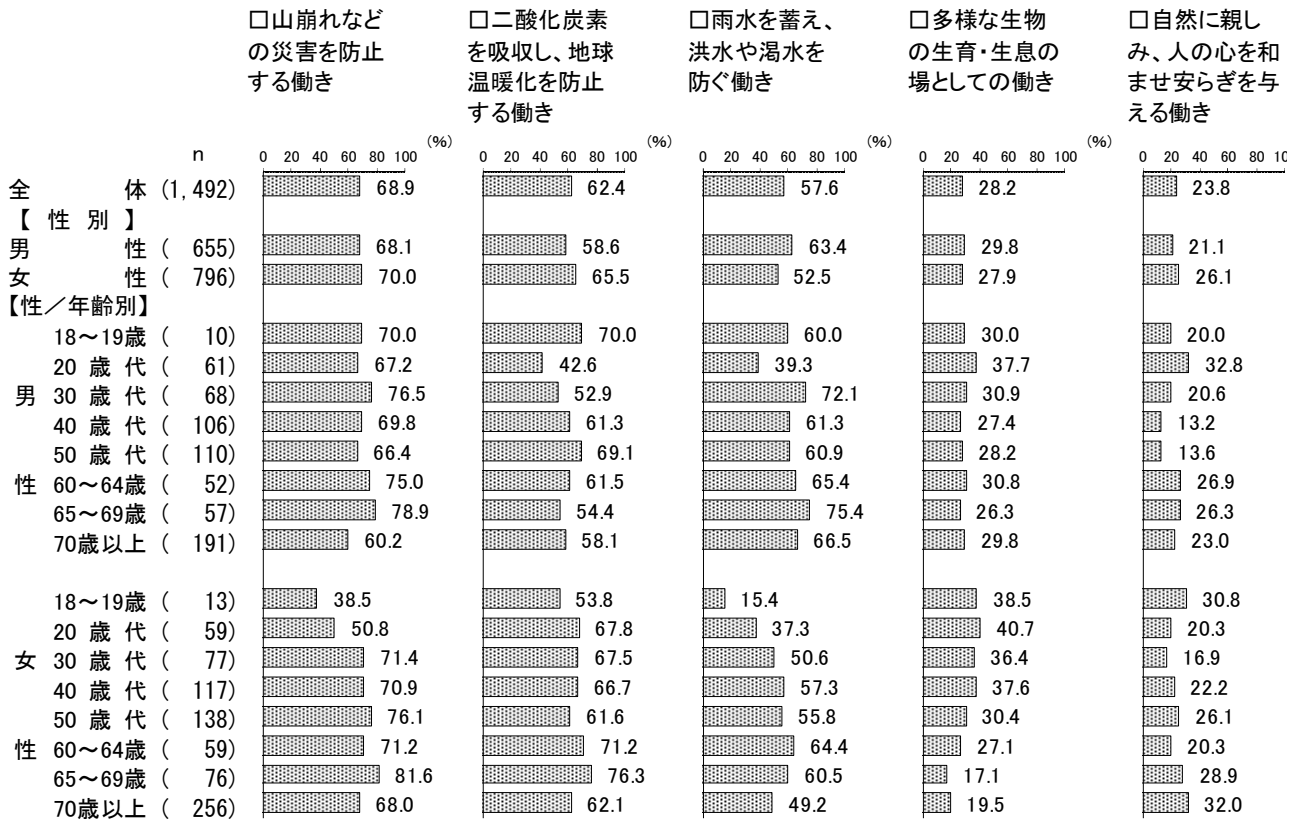
1	山崩れなどの災害を防止する働き	68.9%
2	雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き	57.6
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	62.4
4	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	19.2
5	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.4
6	多様な生物の生育・生息の場としての働き	28.2
7	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	23.8
8	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	5.7
9	わからない	3.4
	(無回答)	1.3



全体でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(68.9%)が7割近くで最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(62.4%)、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」(57.6%)の順となっている。

前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、「山崩れなどの災害を防止する働き」が6.0ポイント増加している。

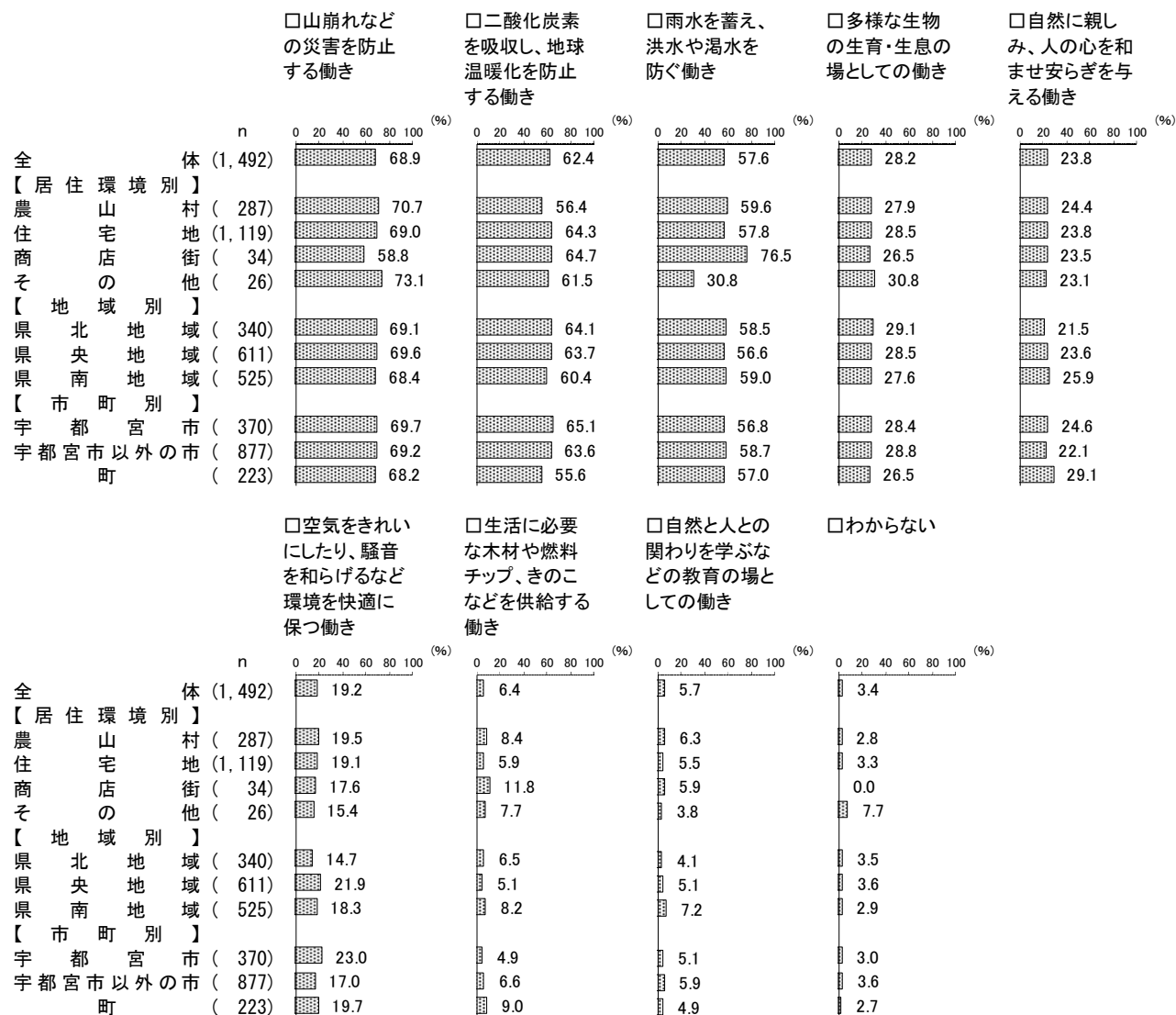
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性〉(65.5%)が〈男性〉(58.6%)より6.9ポイント高くなっている。一方、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性〉(63.4%)が〈女性〉(52.5%)より10.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈女性65～69歳〉が81.6%、〈男性65～69歳〉が78.9%と高くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性65～69歳〉が76.3%と高くなっている。「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性65～69歳〉が75.4%、〈男性30歳代〉が72.1%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈商店街〉が58.8%と低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈農山村〉が56.4%と低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈商店街〉が76.5%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

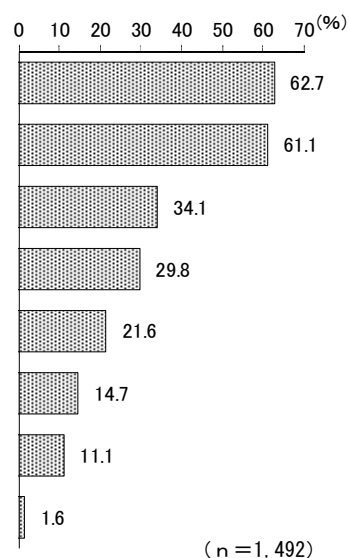
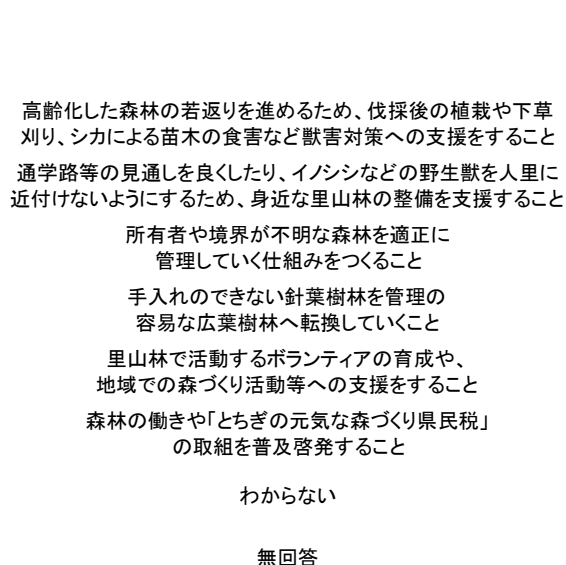
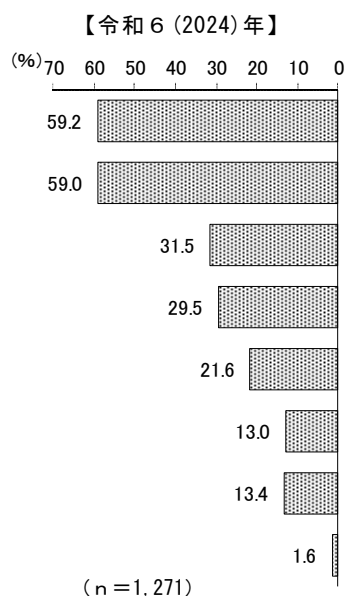
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 県民税事業の取組の重要性

問29 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,492]

- | | |
|--|-------|
| 1 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること | 62.7% |
| 2 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと | 29.8 |
| 3 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること | 61.1 |
| 4 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること | 21.6 |
| 5 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること | 34.1 |
| 6 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること | 14.7 |
| 7 わからない | 11.1 |
| (無回答) | 1.6 |



全体でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」(62.7%)が6割強で最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(61.1%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(34.1%)の順となっている。

前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

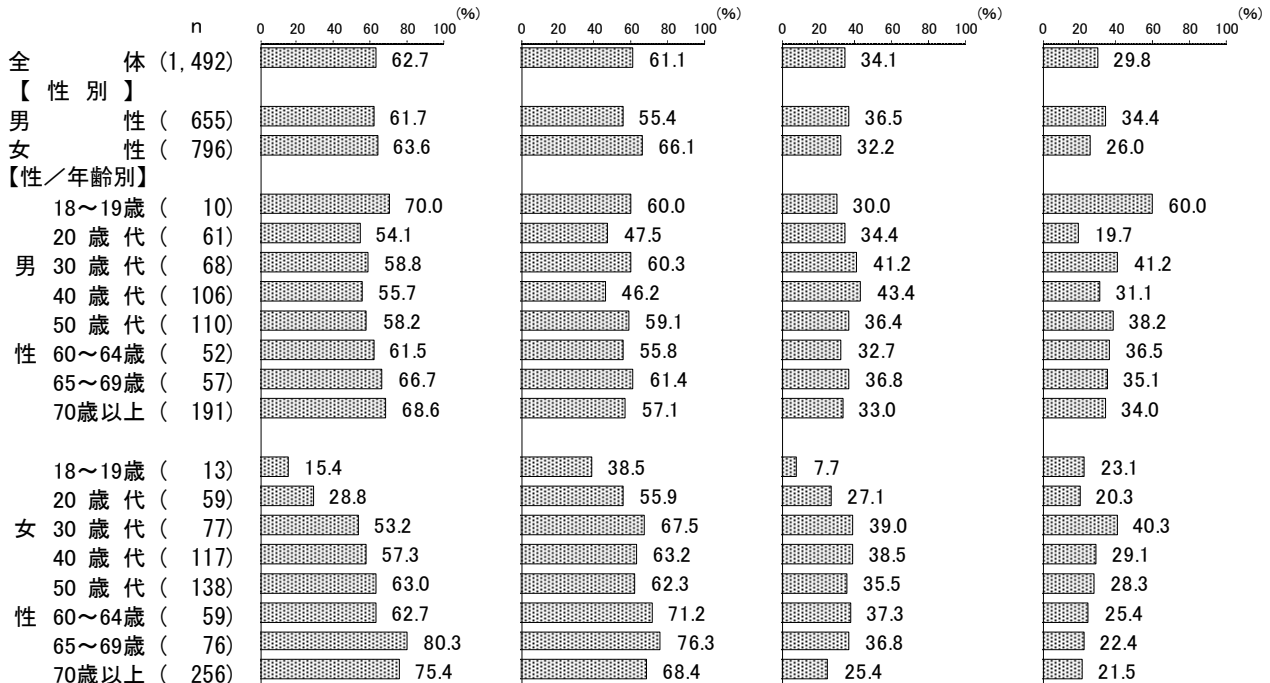
[性別・性／年齢別]

□高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること

□通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近づけないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること

□所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること

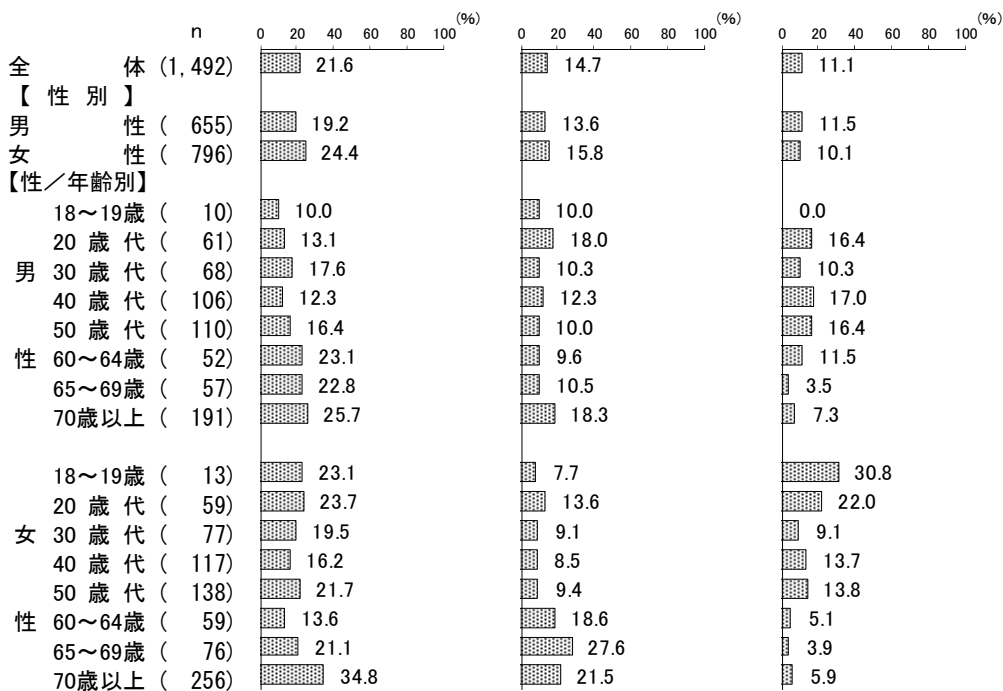
□手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと



□里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること

□森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること

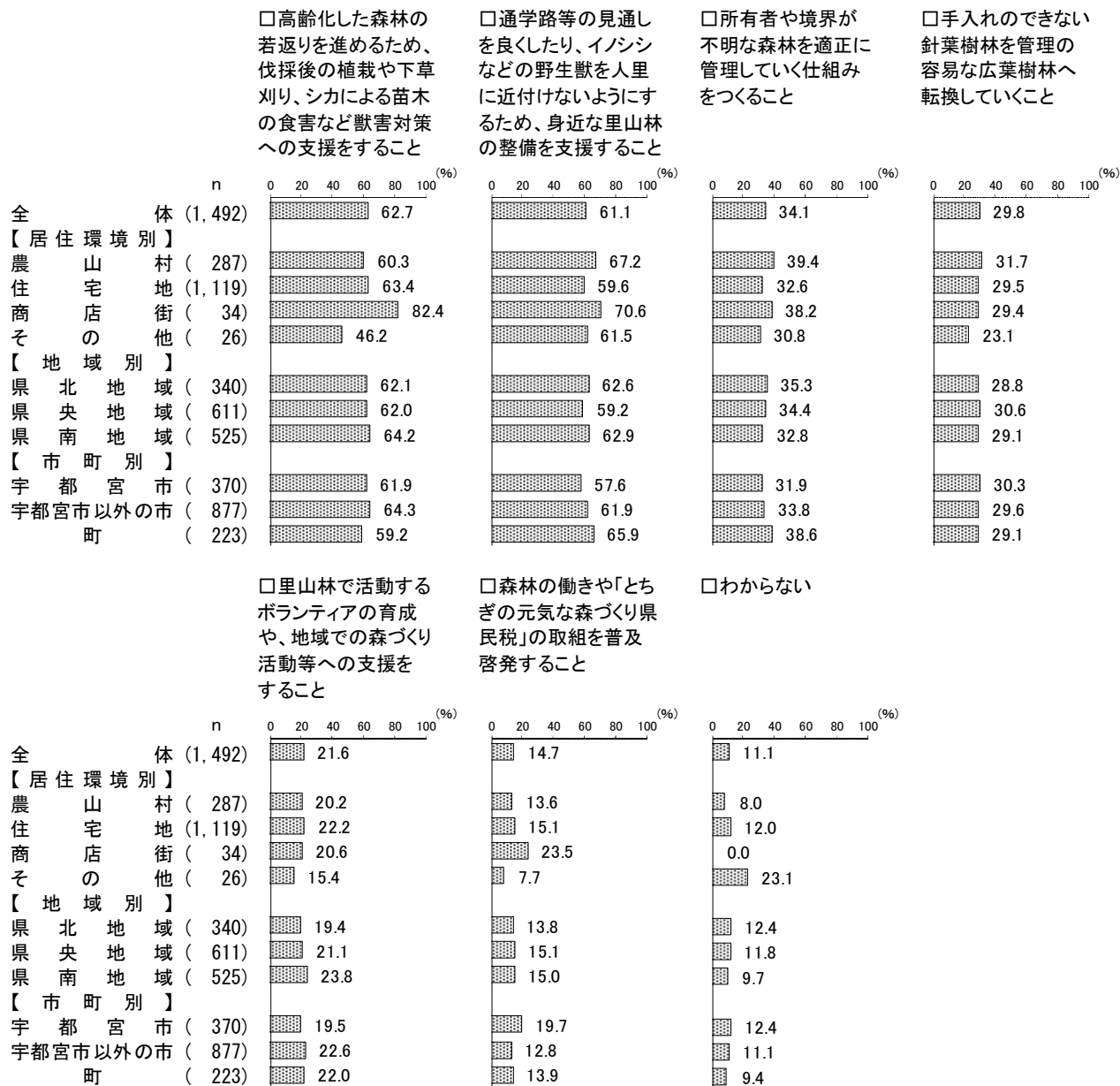
□わからない



性別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉（66.1%）が〈男性〉（55.4%）より10.7ポイント、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈女性〉（24.4%）が〈男性〉（19.2%）より5.2ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉（34.4%）が〈女性〉（26.0%）より8.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈女性65～69歳〉が80.3%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性65～69歳〉が76.3%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では、〈男性40歳代〉が43.4%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈商店街〉が82.4%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈商店街〉が70.6%、〈農山村〉が67.2%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈住宅地〉が32.6%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、『森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること』では〈宇都宮市〉が19.7%と高くなっている。

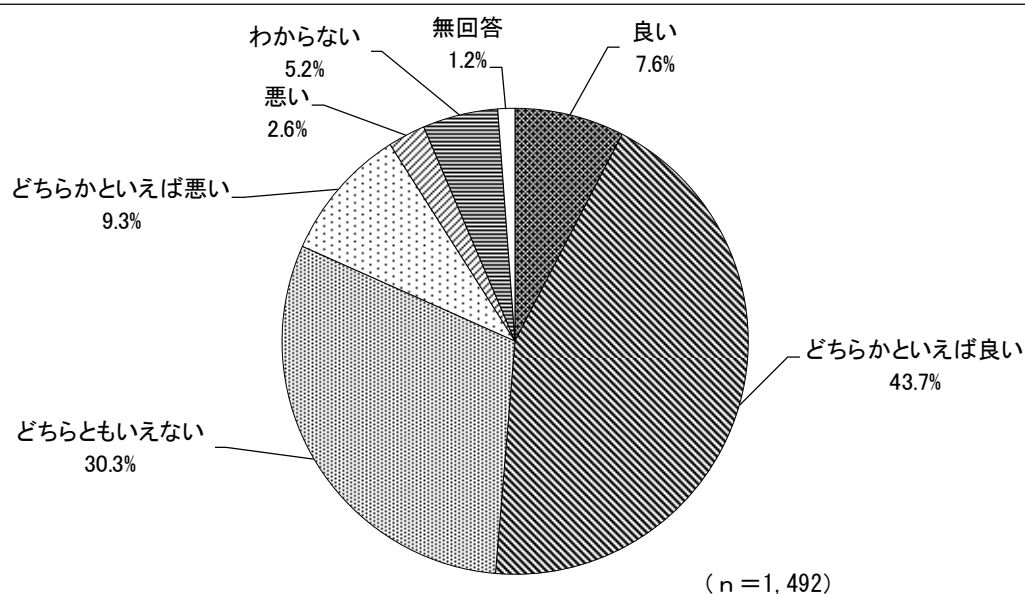
13 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況の変化

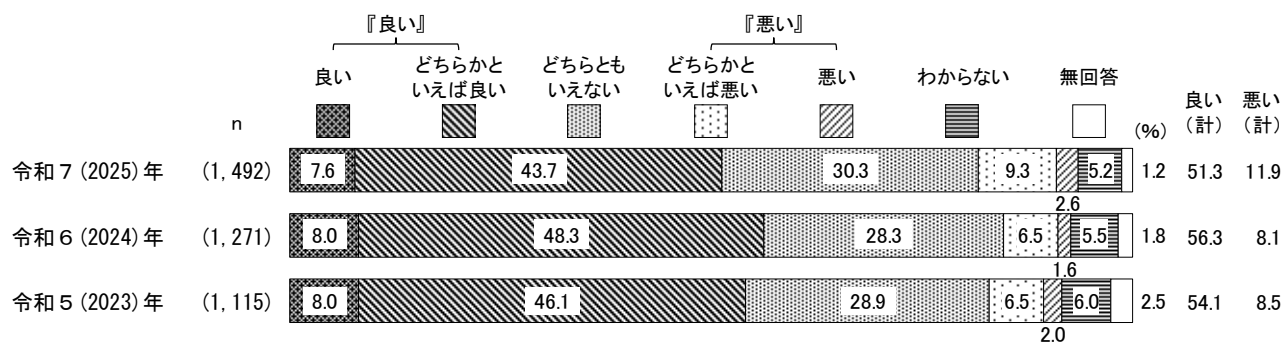
問30 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,492]

1 良い	7.6%	4 どちらかといえば悪い	9.3%
2 どちらかといえば良い	43.7	5 悪い	2.6
3 どちらともいえない	30.3	6 わからない	5.2
		(無回答)	1.2

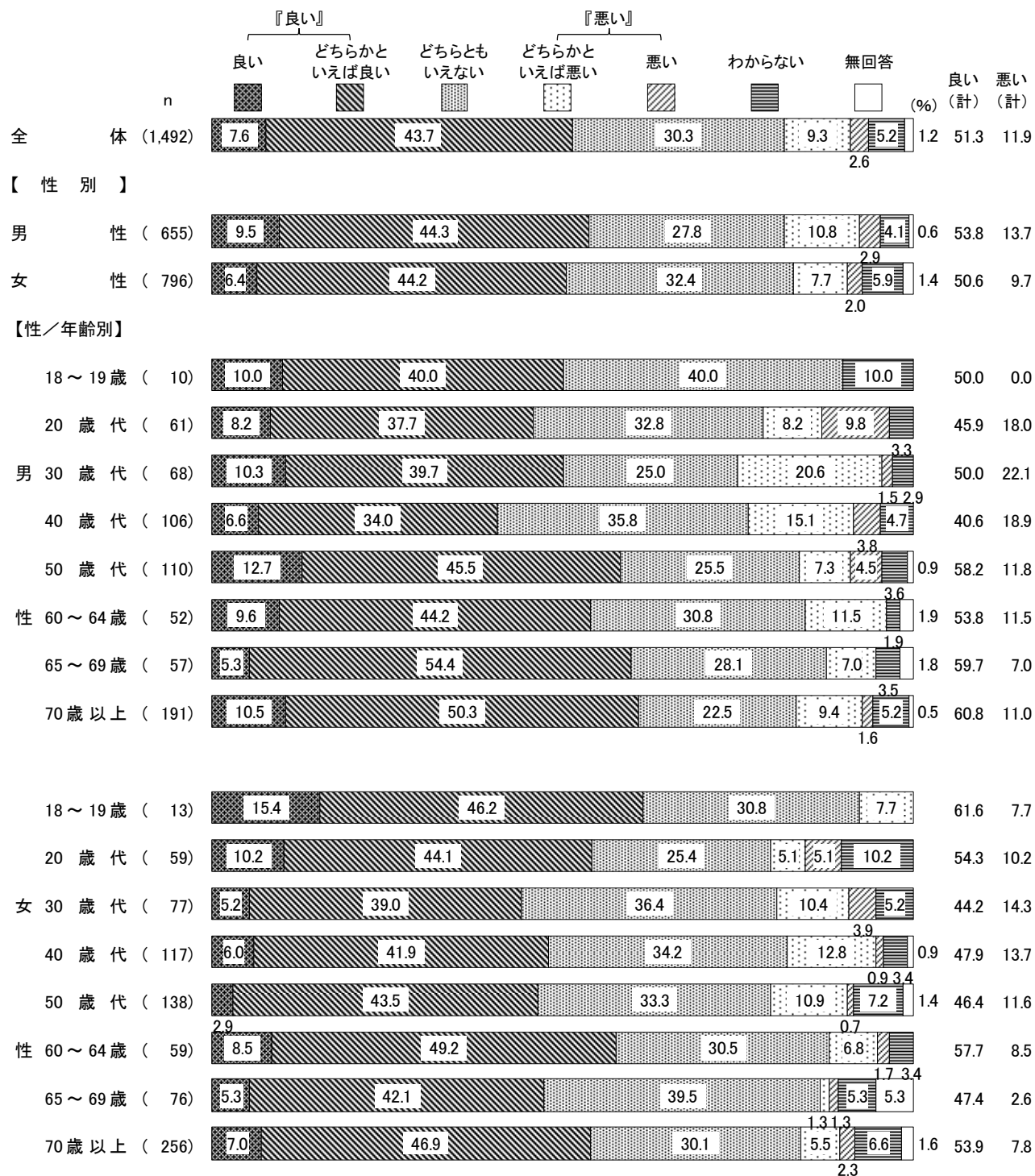


全体でみると、「良い」(7.6%)と「どちらかといえば良い」(43.7%)の2つを合わせた『良い』(51.3%)が5割強となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(9.3%)と「悪い」(2.6%)の2つを合わせた『悪い』(11.9%)が1割強となっている。また、「どちらともいえない」(30.3%)が約3割となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和6(2024)年)から『良い』が5.0ポイント減少している。

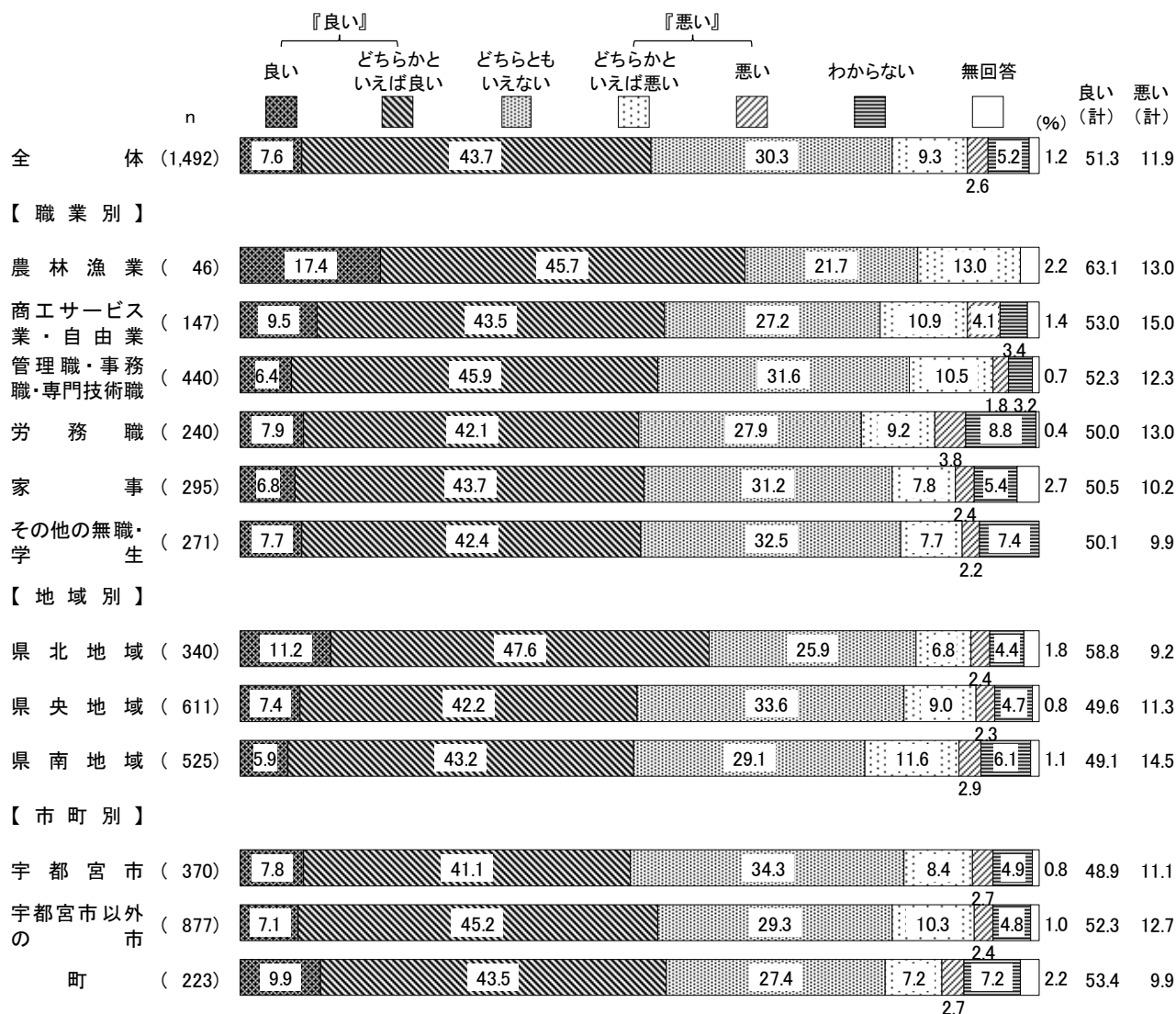
【性別・性／年齢別】



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『悪い』では〈男性30歳代〉が22.1%と高くなっている。一方、『良い』では〈男性70歳以上〉が60.8%〈男性65～69歳〉が59.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『良い』では〈農林漁業〉が63.1%と高くなっている。

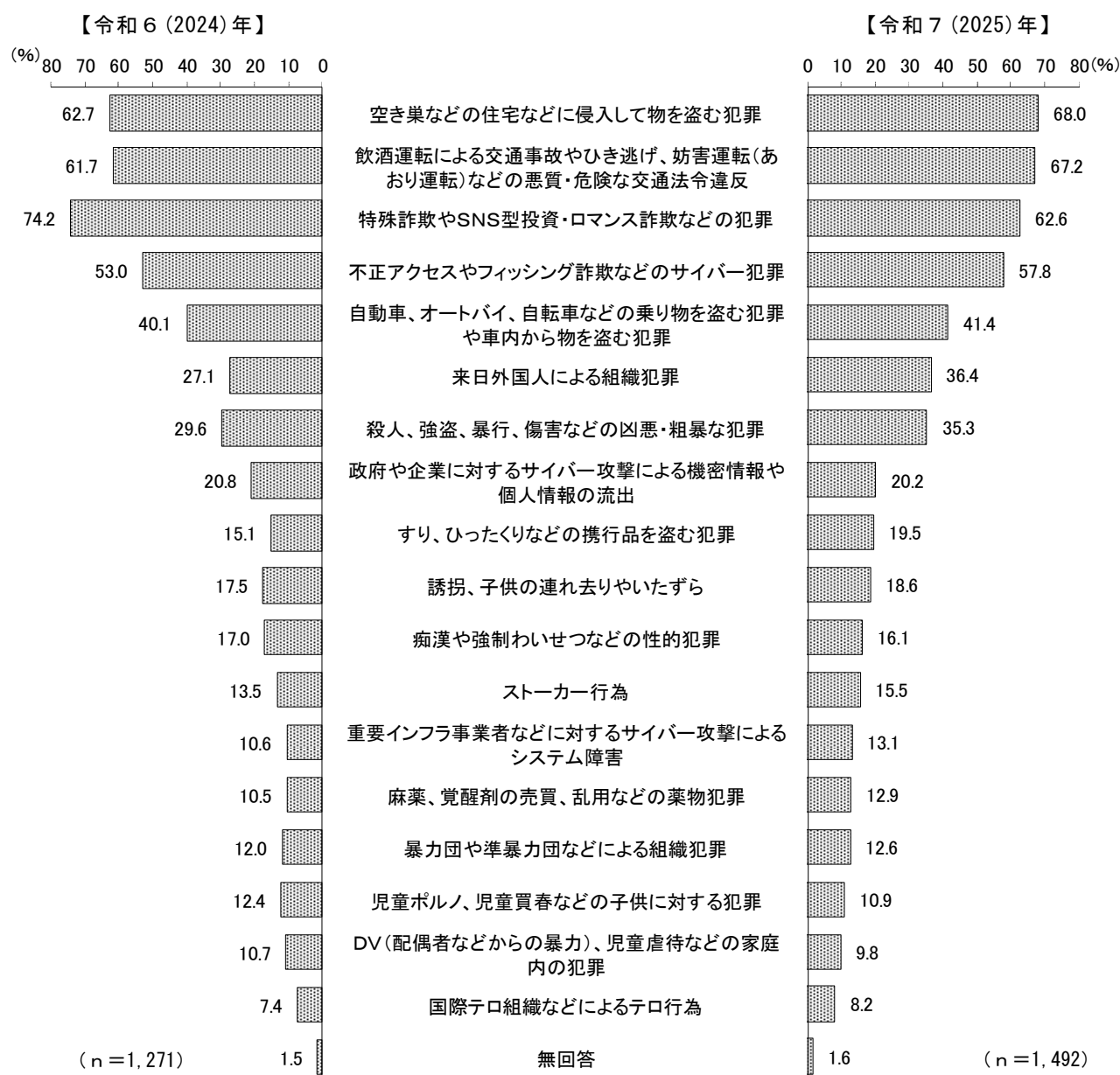
地域別でみると、『良い』では〈県北地域〉が58.8%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 不安に感じる犯罪

問31 社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,492]

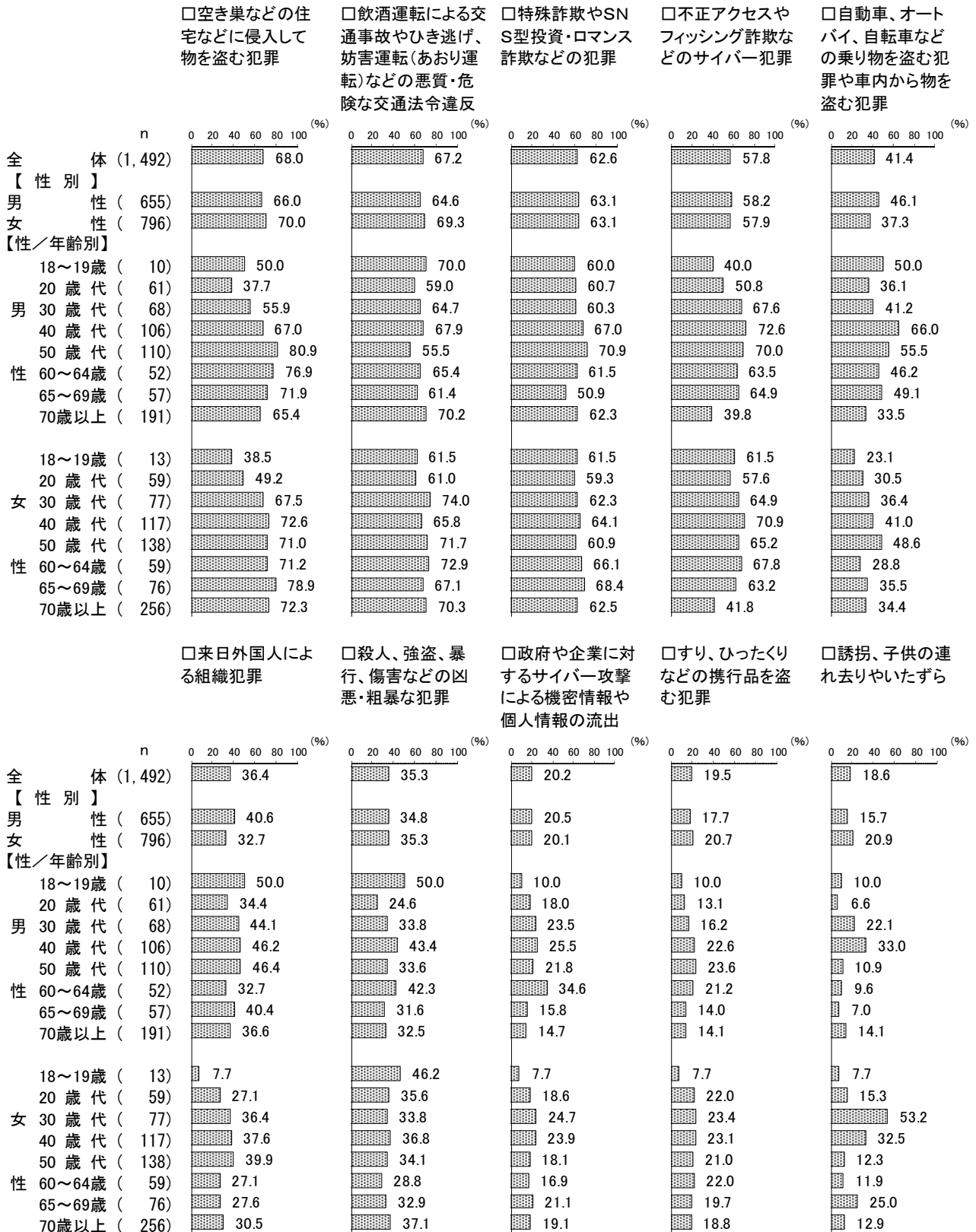
1	特殊詐欺や悪質商法などの犯罪	62.6%
2	不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪	57.8
3	飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反	67.2
4	殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪	35.3
5	空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪	68.0
6	自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪	41.4
7	政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出	20.2
8	DV（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪	9.8
9	誘拐、子供の連れ去りやいたずら	18.6
10	麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪	12.9
11	来日外国人による組織犯罪	36.4
12	すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪	19.5
13	児童ポルノ、児童買春などの子供に対する犯罪	10.9
14	痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪	16.1
15	重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害	13.1
16	ストーカー行為	15.5
17	国際テロ組織などによるテロ行為	8.2
18	暴力団や準暴力団などによる組織犯罪	12.6
	(無回答)	1.6



全体でみると、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」（68.0%）が7割近くで最も高く、次いで、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反（以下『悪質・危険な交通法令違反』という。）」（67.2%）、「特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺などの犯罪」（62.6%）、「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」（57.8%）、「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」（41.4%）の順となっている。

前回（令和6（2024）年）の調査結果と比較すると、「来日外国人による組織犯罪」が9.3ポイント、「殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪」が5.7ポイント、『悪質・危険な交通法令違反』が5.5ポイント、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」が5.3ポイントそれぞれ増加している。一方、「特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺などの犯罪」が11.6ポイント減少している。

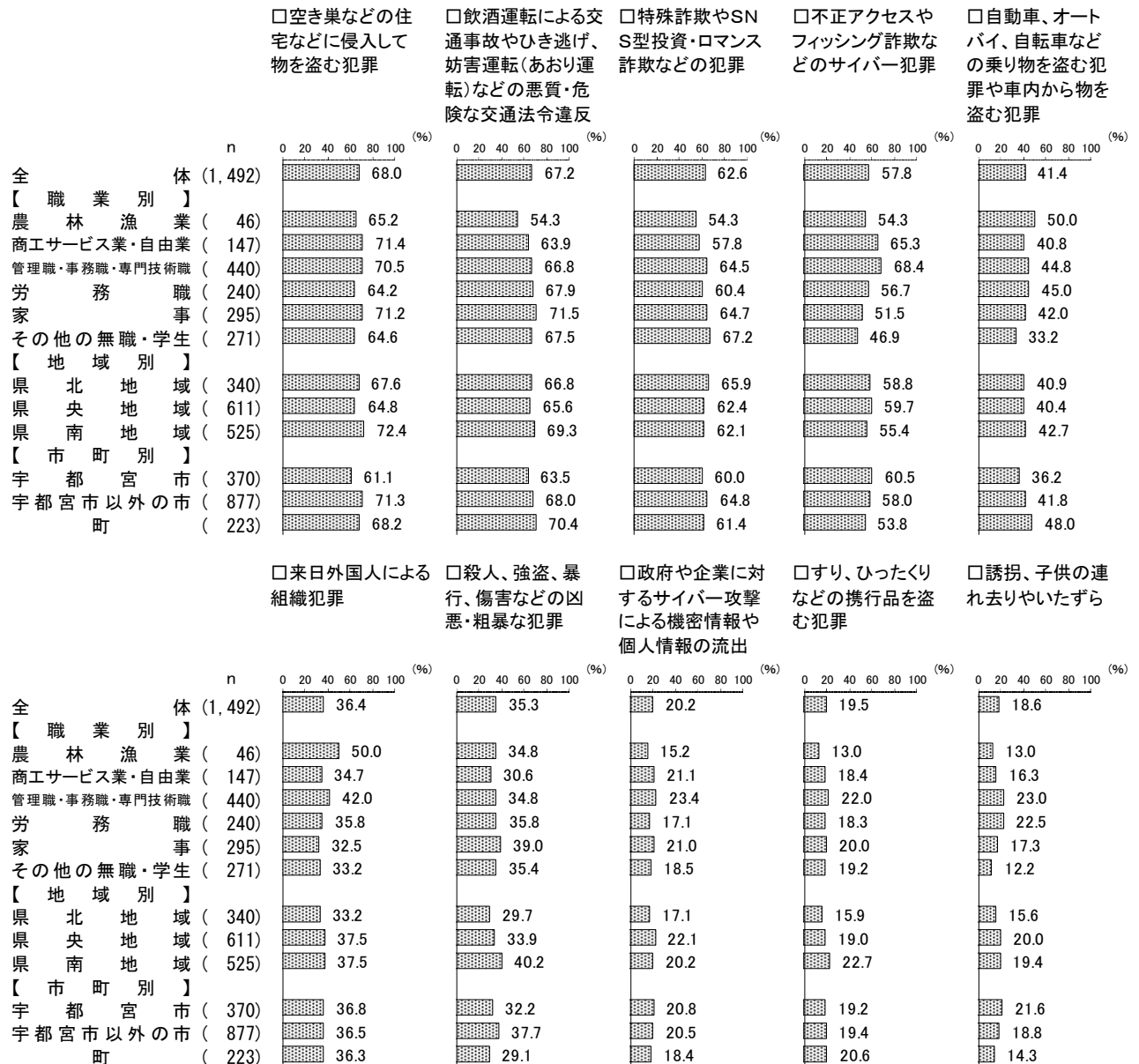
〔性別・性／年齢別〕（上位10項目）



性別でみると、「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈男性〉(46.1%)が〈女性〉(37.3%)より8.8ポイント、「来日外国人による組織犯罪」では〈男性〉(40.6%)が〈女性〉(32.7%)より7.9ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「誘拐、子供の連れ去りやいたずら」では〈女性〉(20.9%)が〈男性〉(15.7%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈男性50歳代〉が80.9%、〈女性65～69歳〉が78.9%と高くなっている。『悪質・危険な交通法令違反』では〈男性50歳代〉が55.5%と低くなっている。「特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺などの犯罪」では〈男性65～69歳〉が50.9%と低くなっている。「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈男性40歳代〉が72.6%、〈女性40歳代〉が70.9%、〈男性50歳代〉が70.0%と高くなっている。「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈男性40歳代〉が66.0%と高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕（上位10項目）



職業別でみると、『悪質・危険な交通法令違反』では〈農林漁業〉が54.3%と低くなっている。「特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺などの犯罪」では〈その他無職・学生〉が67.2%と高くなっている。「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が68.4%、〈商工サービス業・自由業〉が65.3%と高くなっている。「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈農林漁業〉が50.0%と高くなっている。「来日外国人による組織犯罪」では〈農林漁業〉が50.0%と高くなっている。

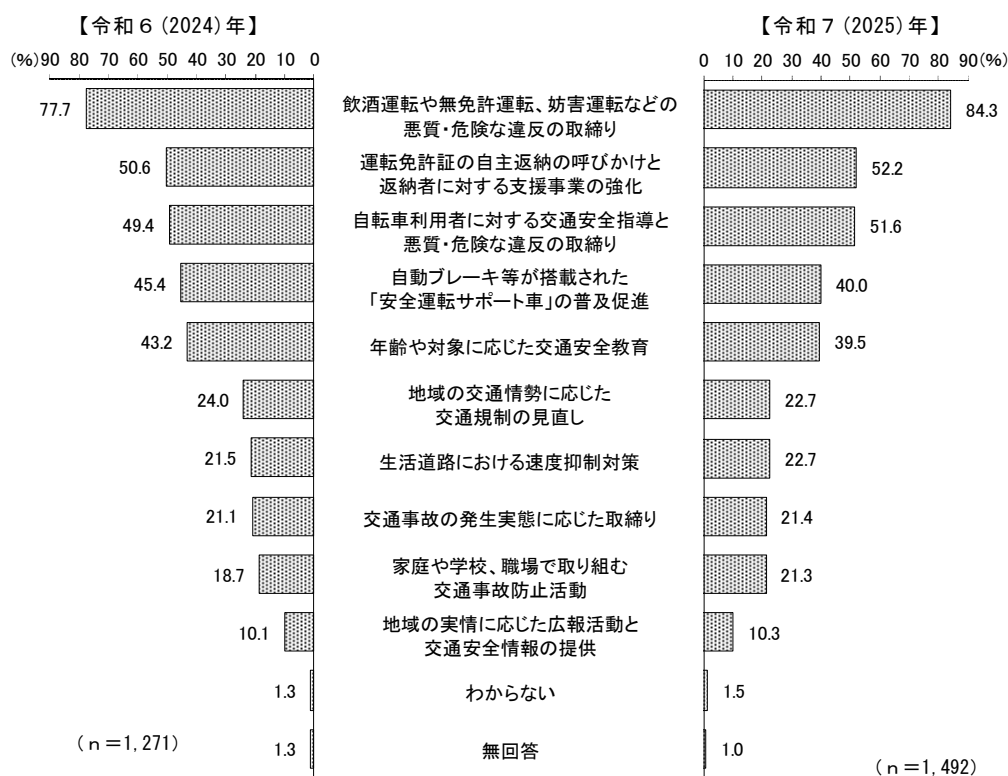
地域別でみると、「殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪」では〈県北地域〉が29.7%と低くなっている。

市町別でみると、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈宇都宮市〉が61.1%と低くなっている。「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈宇都宮市〉が36.2%と低くなっている。

(3) 交通事故を抑止するための対策

問32 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,492]

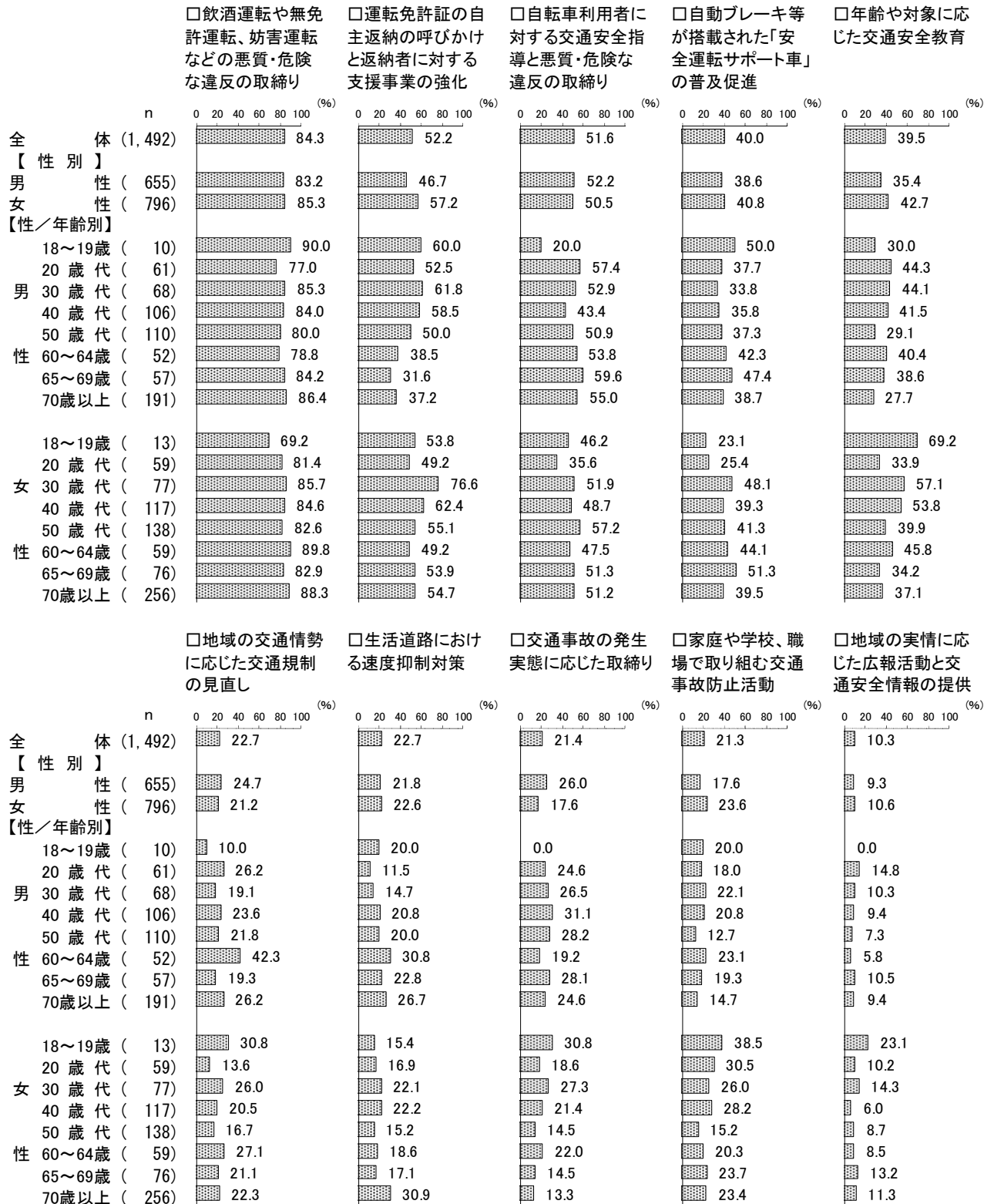
1	飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り	84.3%
2	年齢や対象に応じた交通安全教育	39.5
3	自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り	51.6
4	運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化	52.2
5	自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進	40.0
6	地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し	22.7
7	地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供	10.3
8	生活道路における速度抑制対策	22.7
9	交通事故の発生実態に応じた取締り	21.4
10	家庭や職場で取り組む交通事故防止活動	21.3
11	わからない	1.5
	(無回答)	1.0



全体でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」（84.3%）が8割台半ば近くで最も高くなっている。次いで、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」（52.2%）、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」（51.6%）、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」（40.0%）、「年齢や対象に応じた交通安全教育」（39.5%）の順となっている。

前回（令和 6（2024）年）の調査結果と比較すると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」が6.6ポイント増加している。一方、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」が5.4ポイント減少している。

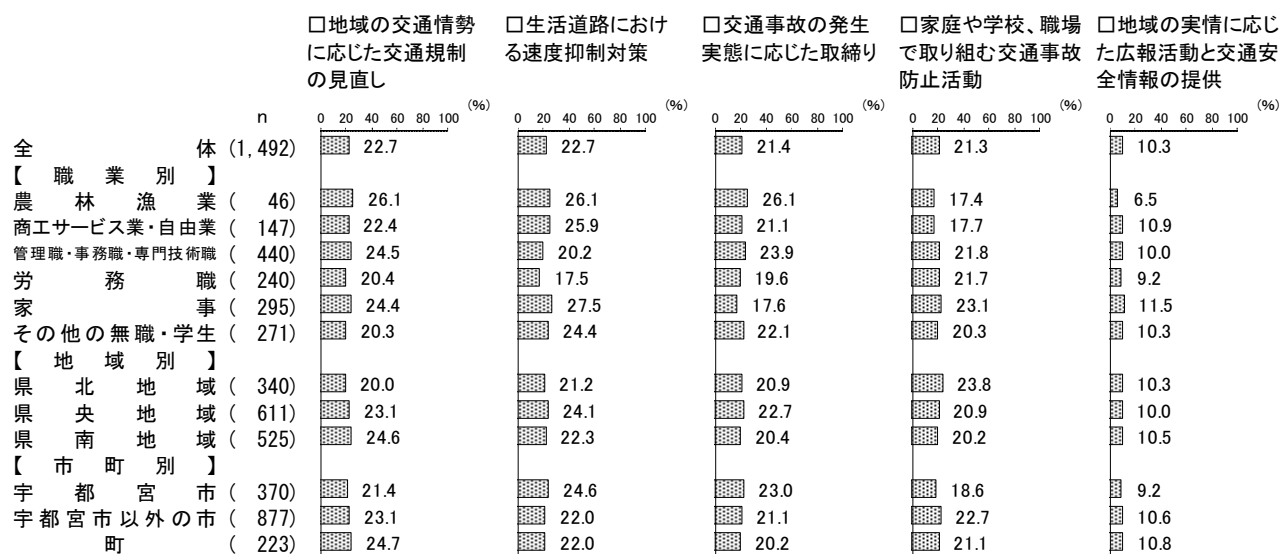
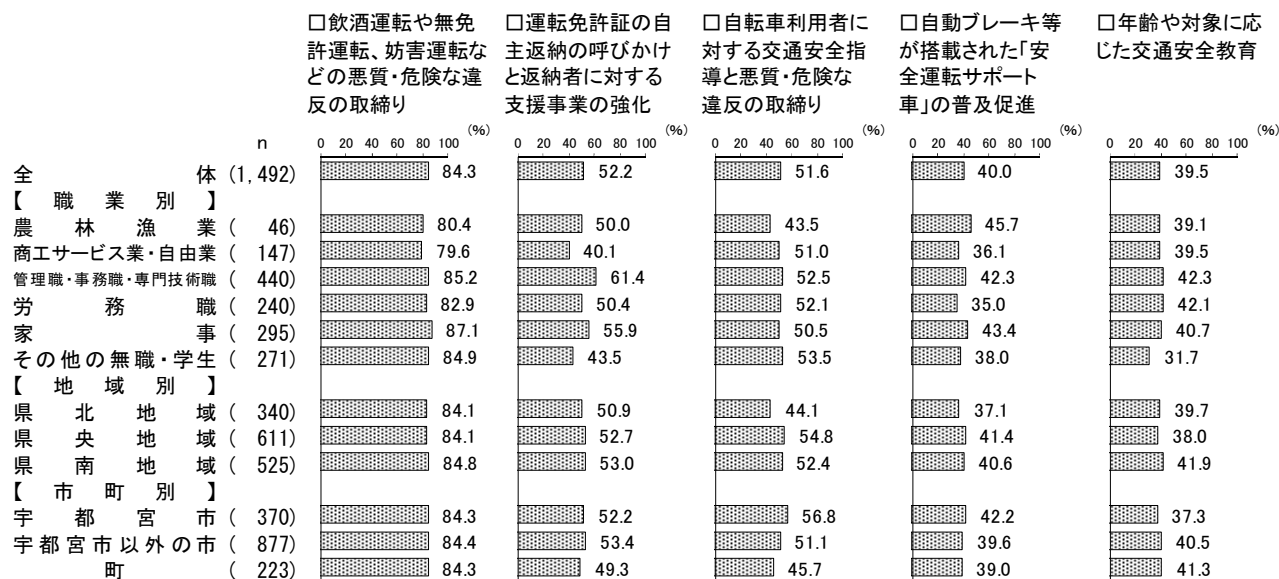
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別でみると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈女性〉(57.2%)が〈男性〉(46.7%)より10.5ポイント、「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性〉(42.7%)が〈男性〉(35.4%)より7.3ポイント、「家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動」では〈女性〉(23.6%)が〈男性〉(17.6%)より6.0ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「交通事故の発生実態に応じた取締り」では〈男性〉(26.0%)が〈女性〉(17.6%)より8.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈女性30歳代〉が76.6%と高くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈女性20歳代〉が35.6%と低くなっている。「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」では〈女性65～69歳〉が51.3%と高くなっている。「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性30歳代〉が57.1%、〈女性40歳代〉が53.8%と高くなっている。「地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し」では〈男性60～64歳〉が42.3%と高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕（上位10項目）



職業別でみると、「運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が61.4%と高くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈農林漁業〉が43.5%と低くなっている。「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」では〈農林漁業〉が45.7%と高くなっている。「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈その他の無職・学生〉が31.7%と低くなっている。

地域別でみると、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈県北地域〉が44.1%と低くなっている。

市町別でみると、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈宇都宮市〉が56.8%と高くなっている。

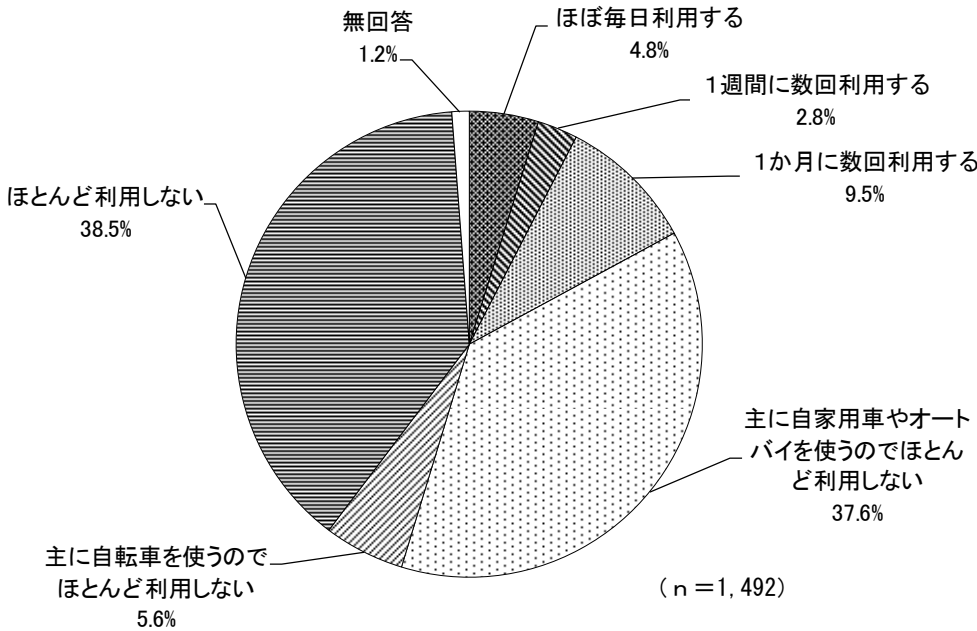
14 公共交通について

(1) 公共交通の利用状況

問33 あなたは、日常生活の中で鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関（※）をどれくらい利用していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

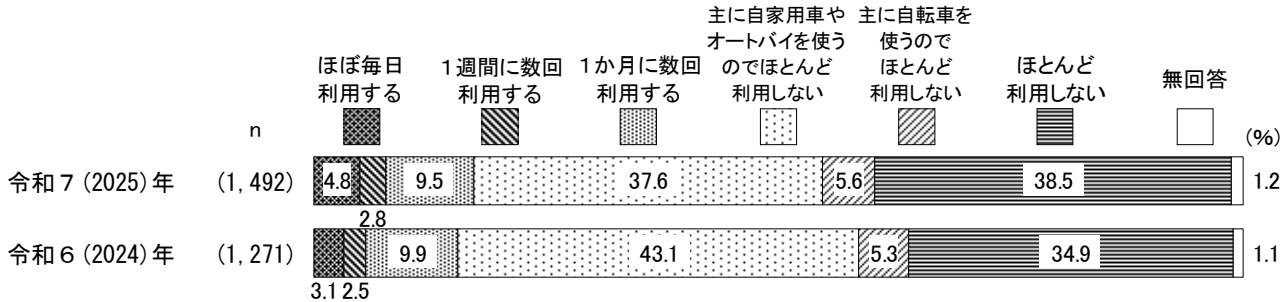
※ 公共交通機関とは、民間の交通事業者が運行するものだけではなく、市町が運行するコミュニティバスやデマンド交通なども含みます。

1	ほぼ毎日利用する	4.8%	5	主に自転車を使うので	
2	1週間に数回利用する	2.8		ほとんど利用しない	5.6%
3	1か月に数回利用する	9.5	6	ほとんど利用しない	38.5
4	主に自家用車やオートバイを使うので			(無回答)	1.2
	ほとんど利用しない	37.6			



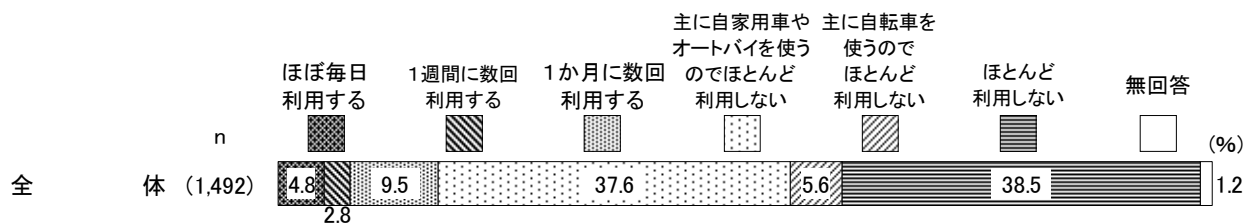
全体でみると「ほとんど利用しない」(38.5%)が4割近くで最も高く、次いで「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」(37.6%)、「1か月に数回利用する」(9.5%)、「主に自転車を使うのでほとんど利用しない」(5.6%)の順となっている。

[過去の調査結果]

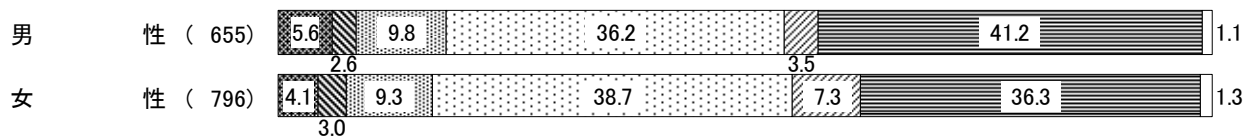


前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」が5.5ポイント減少している。

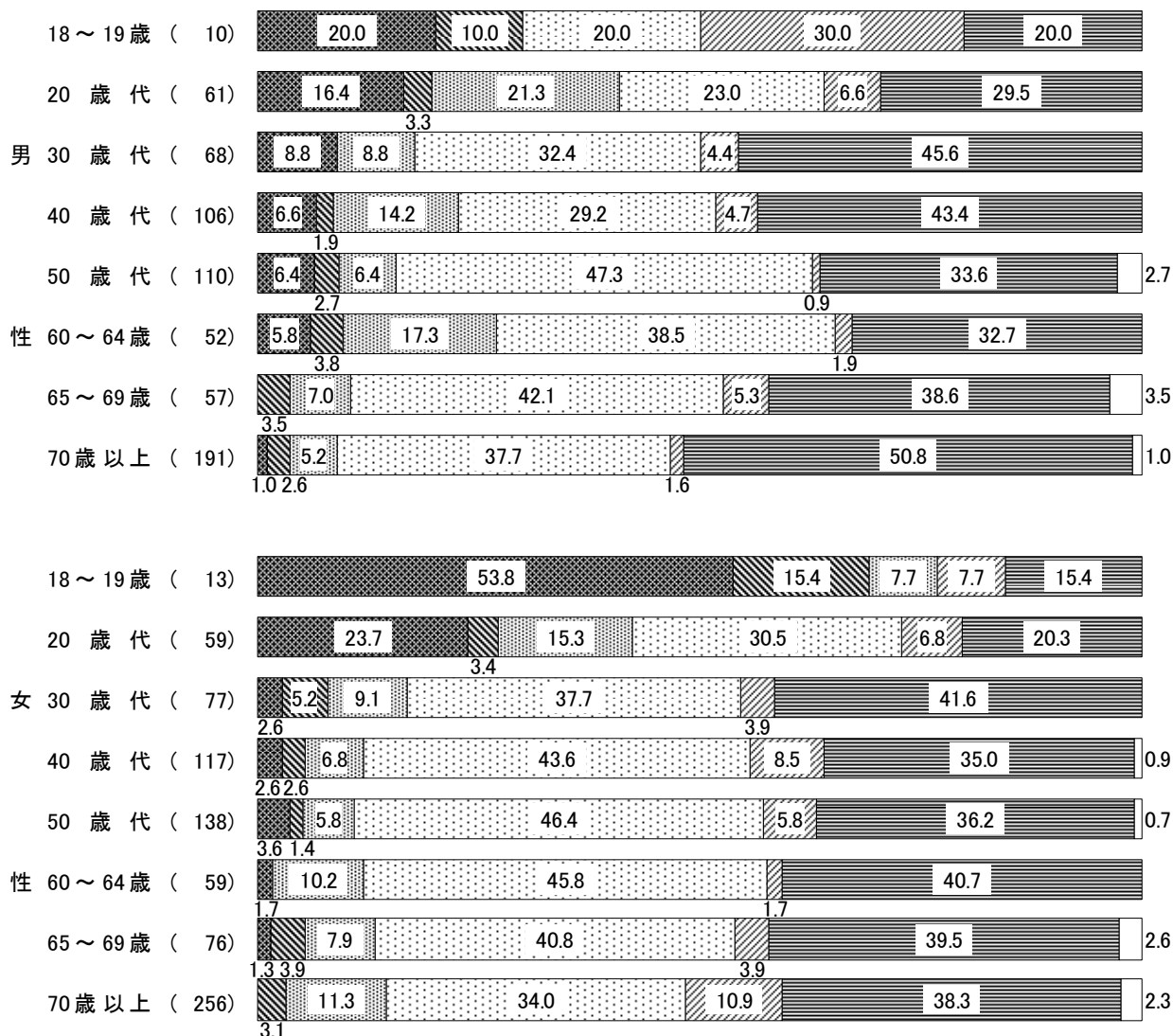
〔性別・性／年齢別〕



【 性 別 】



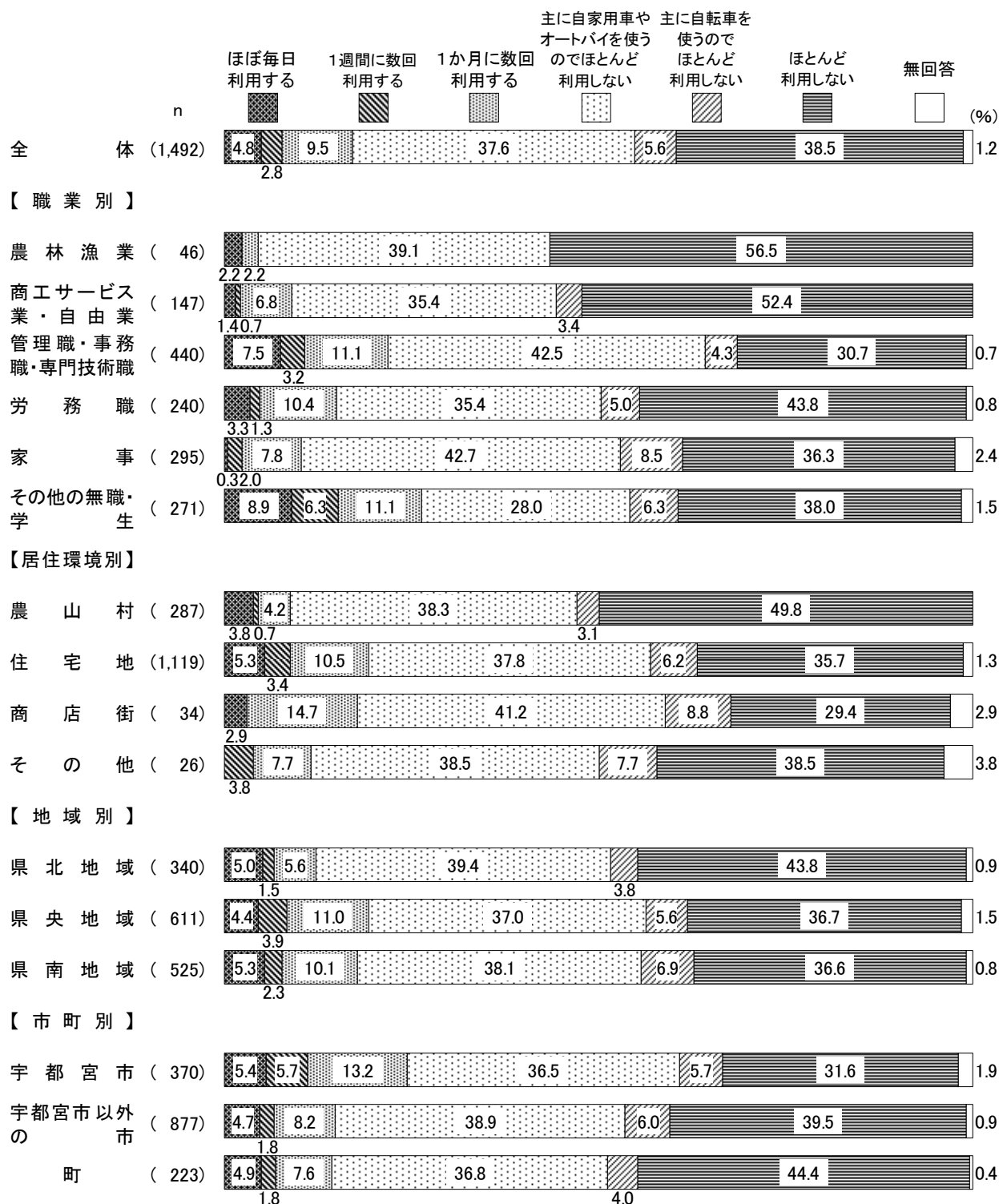
【性／年齢別】



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「ほぼ毎日利用する」では〈女性20歳代〉が23.7%、〈男性20歳代〉が16.4%と高くなっている。「1か月に数回利用する」では〈男性20歳代〉が21.3%と高くなっている。「ほとんど利用しない」では〈男性70歳以上〉が50.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない」では〈家事〉が42.7%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が42.5%と高くなっている。「ほとんど利用しない」では〈農林漁業〉が56.5%、〈商工サービス業・自由業〉が52.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、「1か月に数回利用する」では〈商店街〉が14.7%と高くなっている。「ほとんど利用しない」では〈農山村〉が49.8%と高くなっている。

地域別でみると、「ほとんど利用しない」では〈県北地域〉が43.8%と高くなっている。

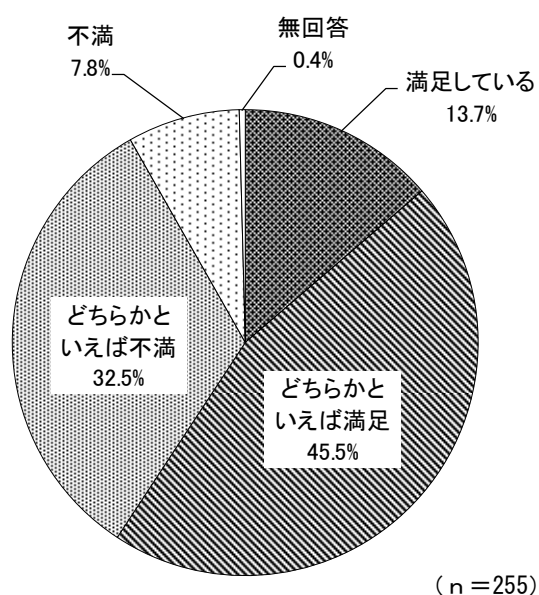
市町別でみると、「ほとんど利用しない」では〈町〉が44.4%と高くなっている。

(2) 公共交通に関する満足度

(問33で選択肢「ほぼ毎日利用する」、「1週間に数回利用する」、「1か月に数回利用する」を選んだ方のみお答えください)

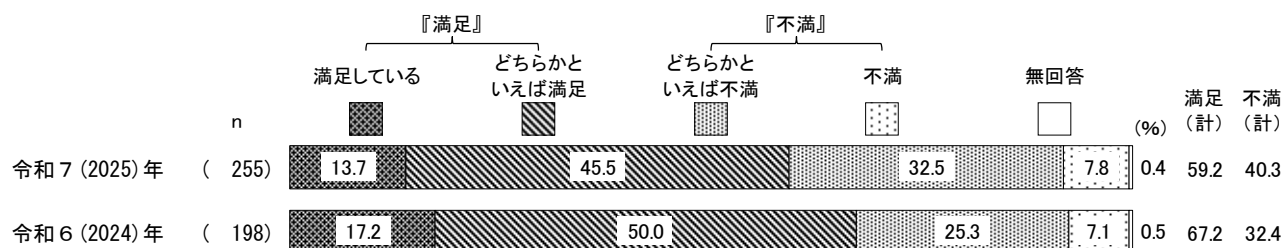
問34 あなたは、公共交通機関のサービスや運行状況について、満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=255]

1	満足している	13.7%	3	どちらかといえば不満	32.5%
2	どちらかといえば満足	45.5	4	不満	7.8
				(無回答)	0.4



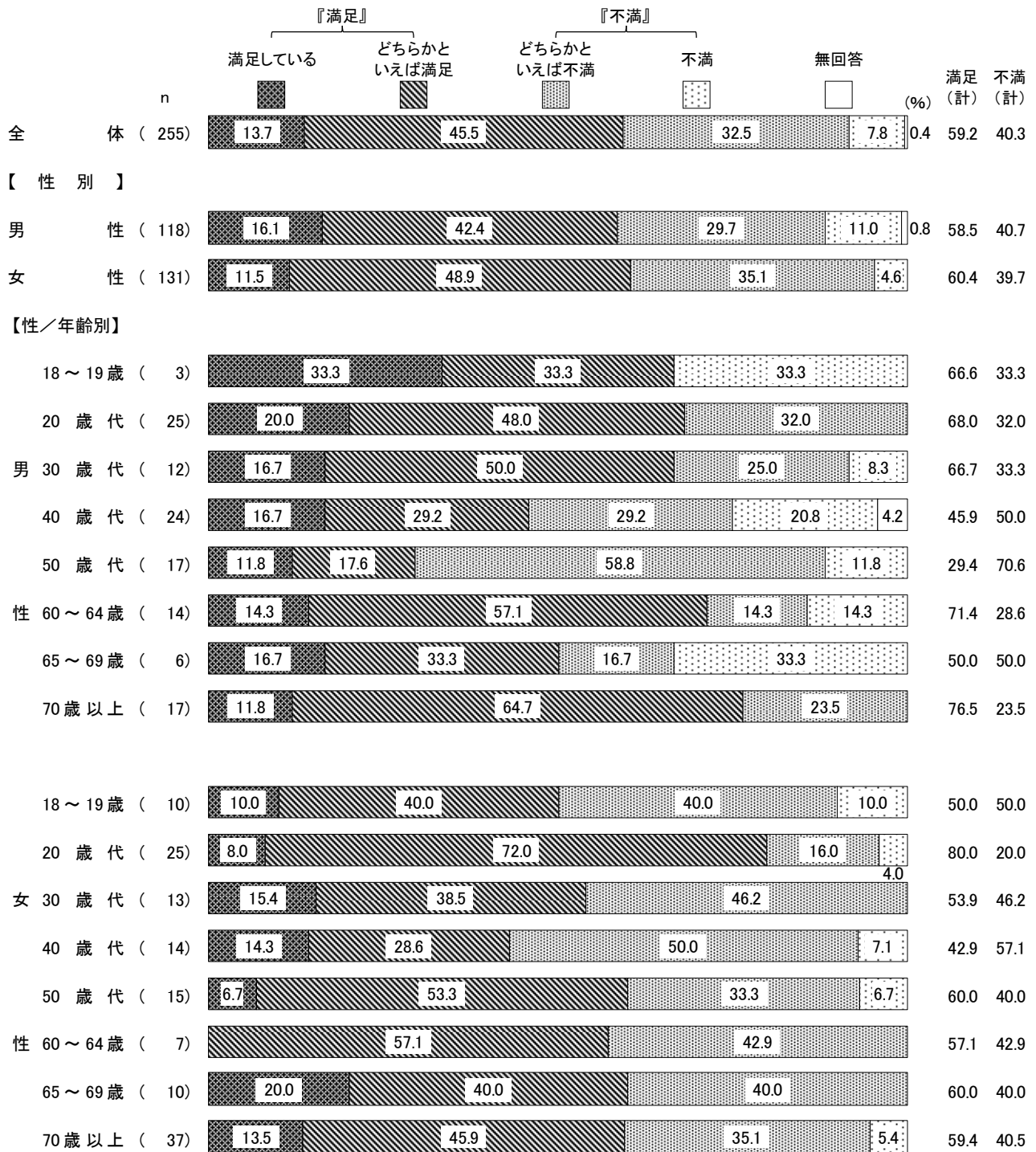
全体でみると、「満足している」(13.7%)と「どちらかといえば満足」(45.5%)の2つを合わせた『満足』(59.2%)が6割弱となっている。一方、「どちらかといえば不満」(32.5%)と「不満」(7.8%)の2つを合わせた『不満』(40.3%)が約4割となっている。

[過去の調査結果]



前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、『満足』が8.0ポイント減少している。一方、『不満』が7.9ポイント増加している。

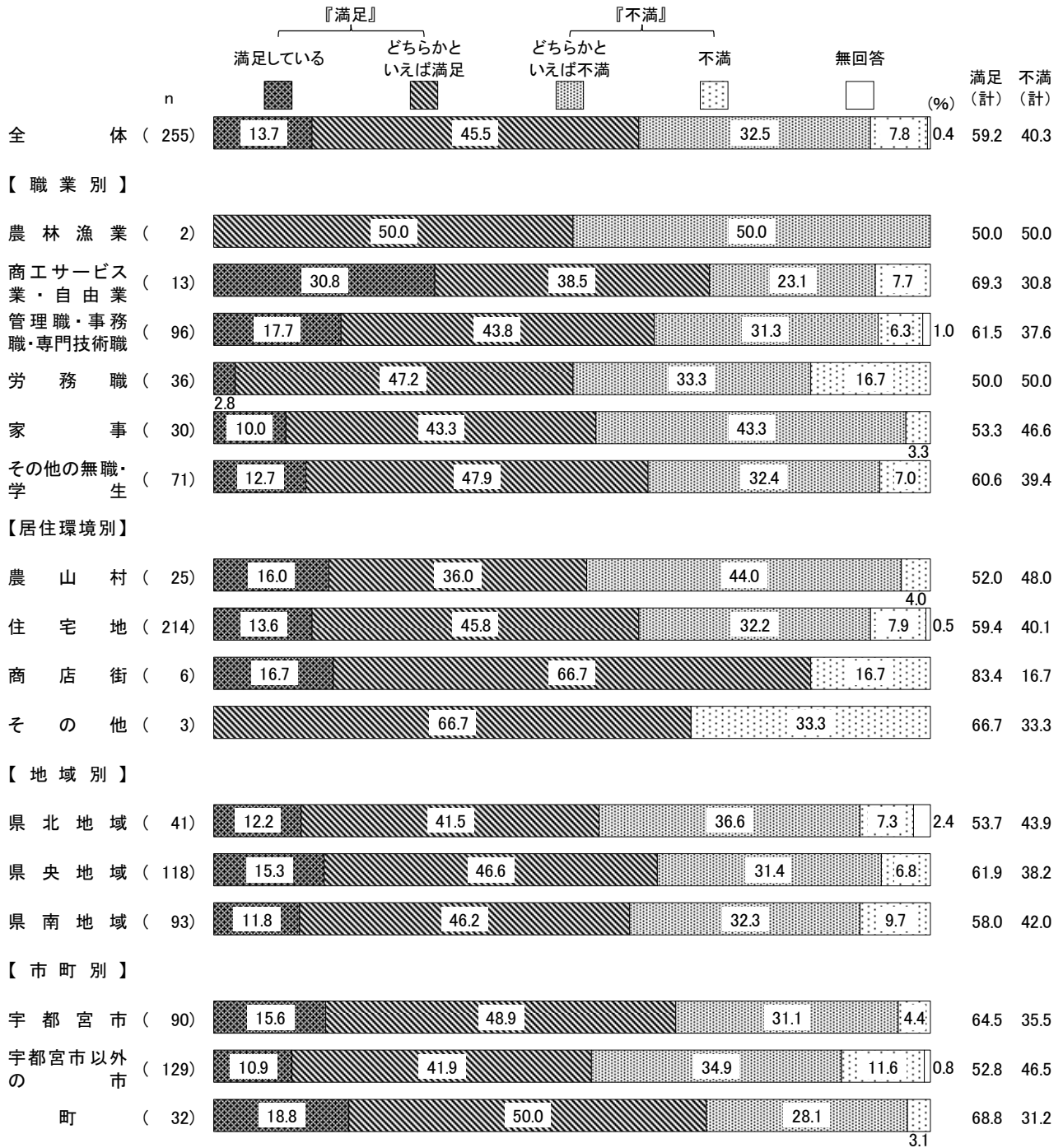
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「どちらかといえば満足」では〈女性〉(48.9%)が〈男性〉(42.4%)より6.5ポイント、「どちらかといえば不満」では〈女性〉(35.1%)が〈男性〉(29.7%)より5.4ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「不満」では〈男性〉(11.0%)が〈女性〉(4.6%)より6.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『満足』では〈女性20歳代〉が80.0%、〈男性70歳以上〉が76.5%と高くなっている。一方、『不満』では〈男性50歳代〉が70.6%と高くなっている。

〔職業別・居住環境別・地域別・市町別〕



職業別でみると、『満足』では〈商工サービス業・自由業〉が69.3%と高くなっている。一方、『不満』では〈労務職〉が50.0%、〈家事〉が46.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、『不満』では〈農山村〉が48.0%と高くなっている。

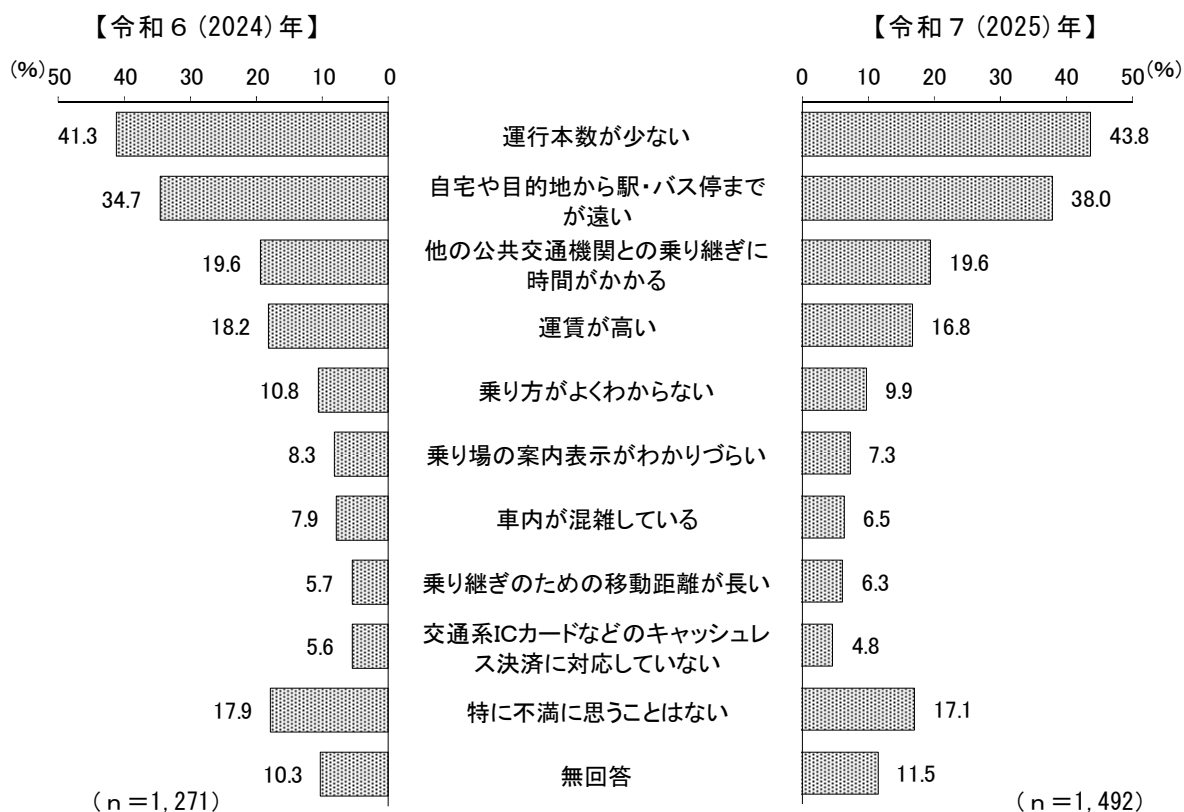
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、『満足』では〈町〉が68.8%、〈宇都宮市〉が64.5%と高くなっている。一方、『不満』では〈宇都宮市以外の市〉が46.5%と高くなっている。

(3) 公共交通に不満を感じること

問35 あなたが公共交通機関に不満を感じることは何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,492]

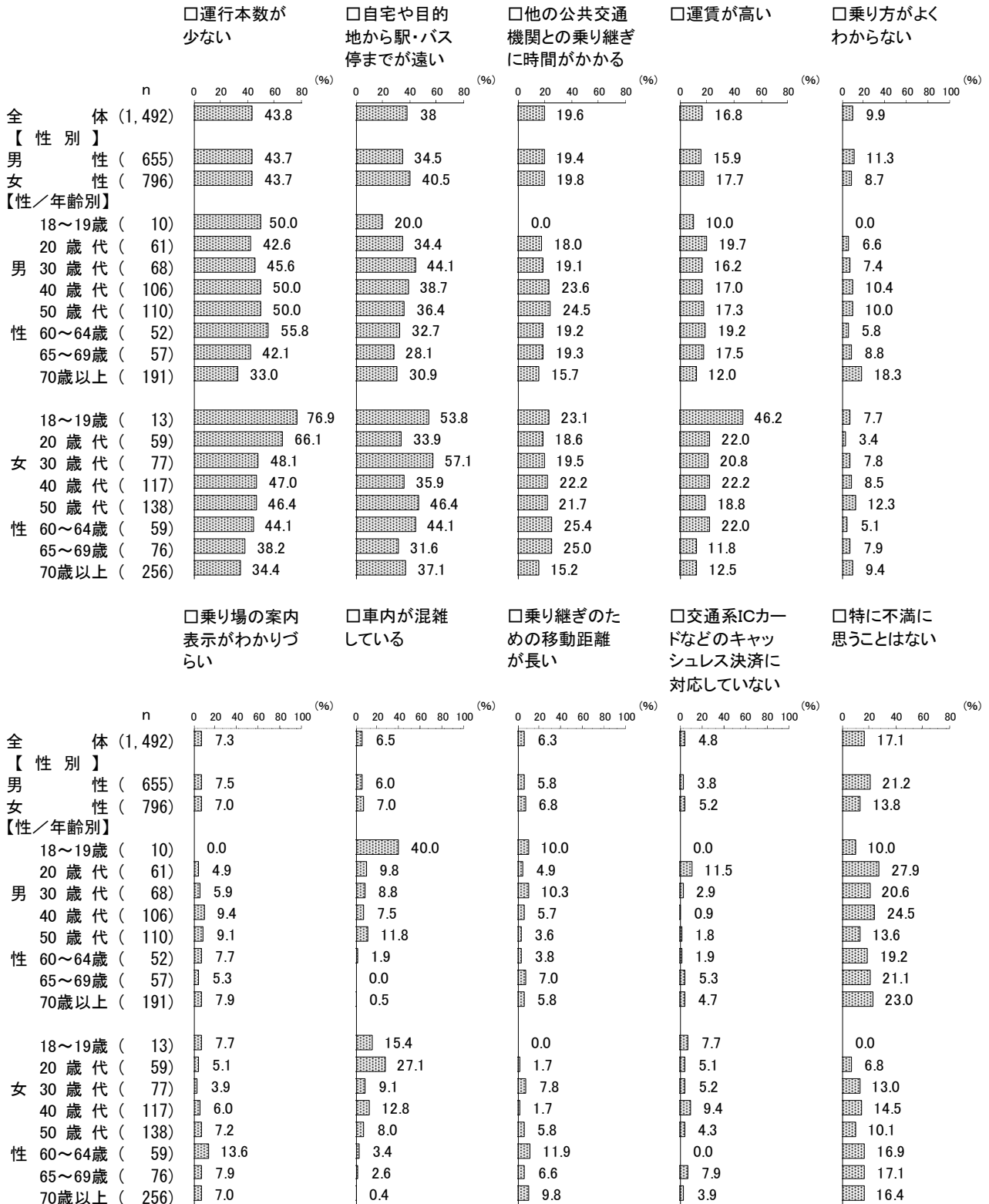
1	運行本数が少ない	43.8%
2	自宅や目的地から駅・バス停までが遠い	38.0
3	他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる	19.6
4	運賃が高い	16.8
5	車内が混雑している	6.5
6	交通系ICカードなどのキャッシュレス決済に対応していない	4.8
7	乗り継ぎのための移動距離が長い	6.3
8	乗り方がよくわからない	9.9
9	乗り場の案内表示がわかりづらい	7.3
10	特に不満に思うことはない	17.1
	(無回答)	11.5



全体でみると、「運行本数が少ない」(43.8%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」(38.0%)、「他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる」(19.6%)、「運賃が高い」(16.8%)の順となっている。

前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

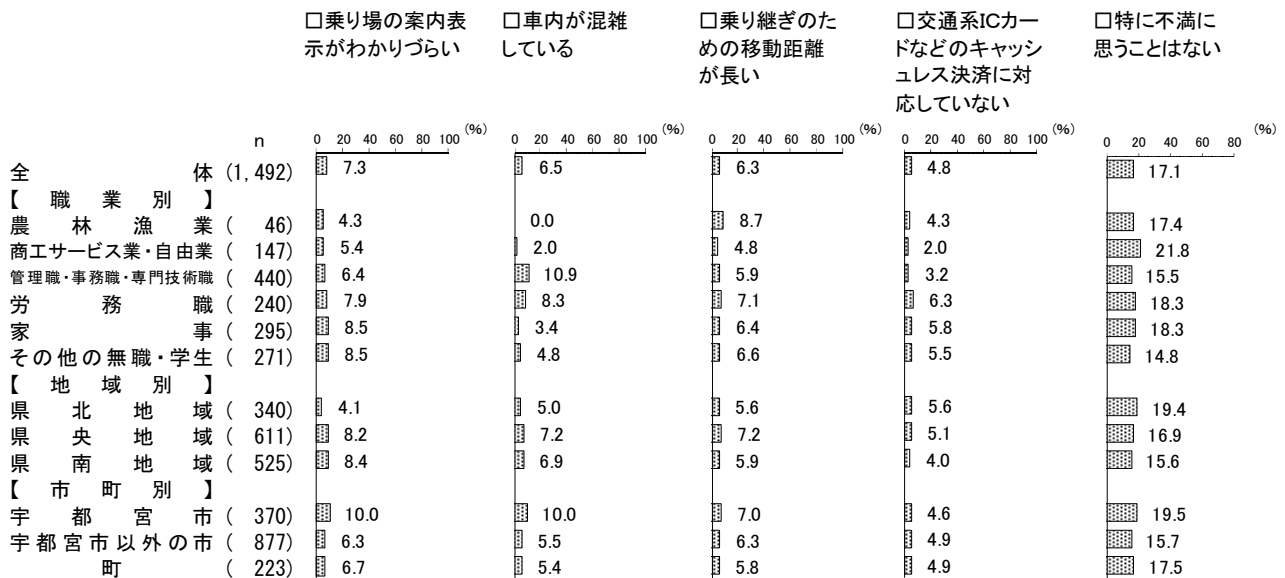
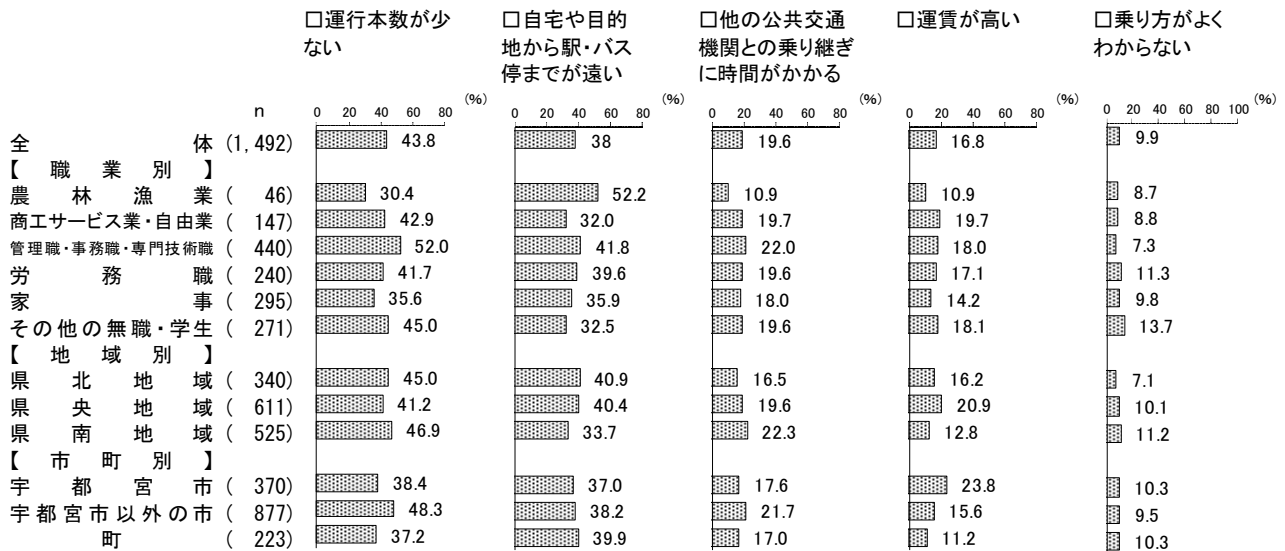
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈女性〉(40.5%)が〈男性〉(34.5%)より6.0ポイント高くなっている。一方、「特に不満に思うことはない」では〈男性〉(21.2%)が〈女性〉(13.8%)より7.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「運行本数が少ない」では〈女性20歳代〉が66.1%と高くなっている。「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈女性30歳代〉が57.1%と高くなっている。「車内が混雑している」では〈女性20歳代〉が27.1%と高くなっている。「特に不満に思うことはない」では〈男性20歳代〉が27.9%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「運行本数が少ない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.0%と高くなっている。「自宅や目的地から駅・バス停までが遠い」では〈農林漁業〉が52.2%と高くなっている。「他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる」では〈農林漁業〉が10.9%と低くなっている。「運賃が高い」では〈農林漁業〉が10.9%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

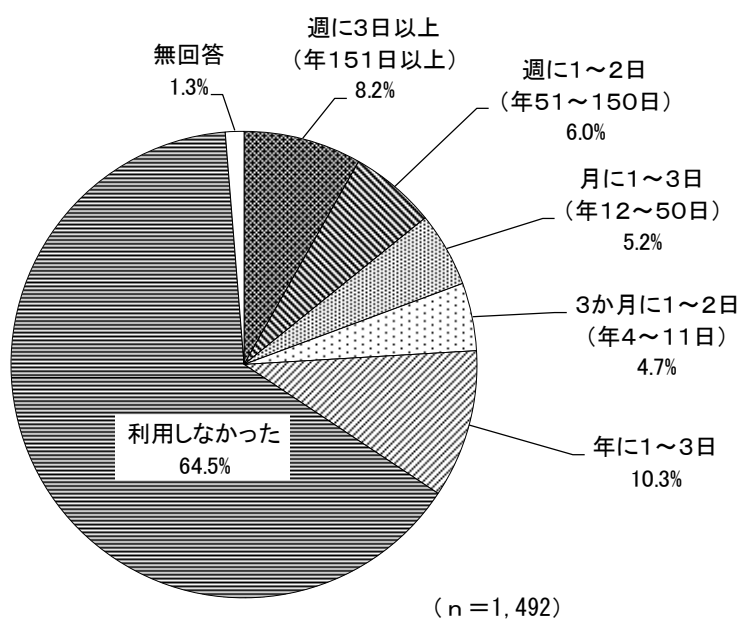
市町別でみると、「運賃が高い」では〈宇都宮市〉が23.8%と高くなっている。

15 自転車利用率と目的について

(1) 自転車の利用状況

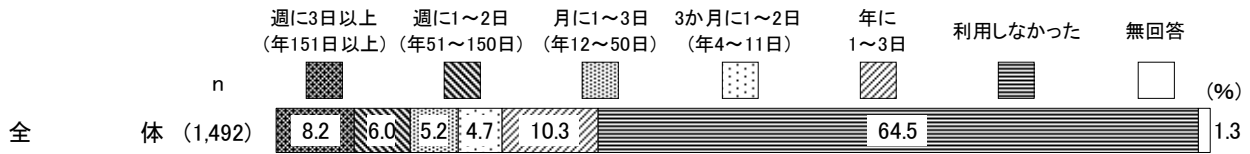
問36 あなたは、この1年間にどの程度自転車を利用しましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 週に3日以上 (年151日以上)	8.2%	4 3か月に1～2日 (年4～11日)	4.7%
2 週に1～2日 (年51～150日)	6.0%	5 年に1～3日	10.3%
3 月に1～3日 (年12～50日)	5.2%	6 利用しなかった	64.5%
		(無回答)	1.3%



全体でみると、「利用しなかった」(64.5%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「年に1～3日」(10.3%)、「週に3日以上(年151日以上)」(8.2%)の順となっている。

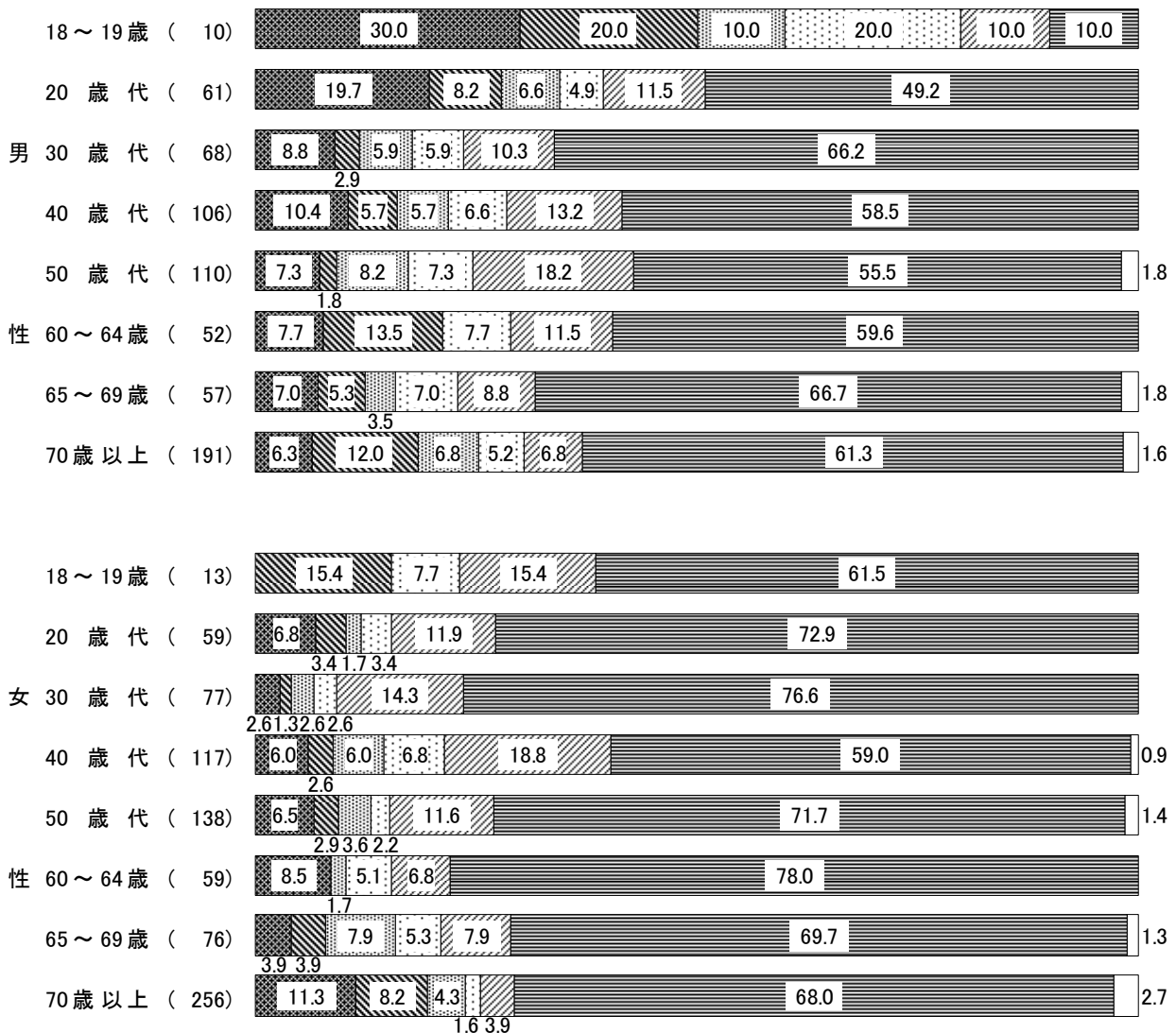
【性別・性／年齢別】



【性別】



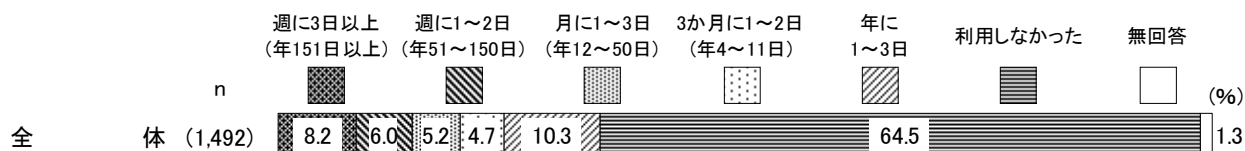
【性／年齢別】



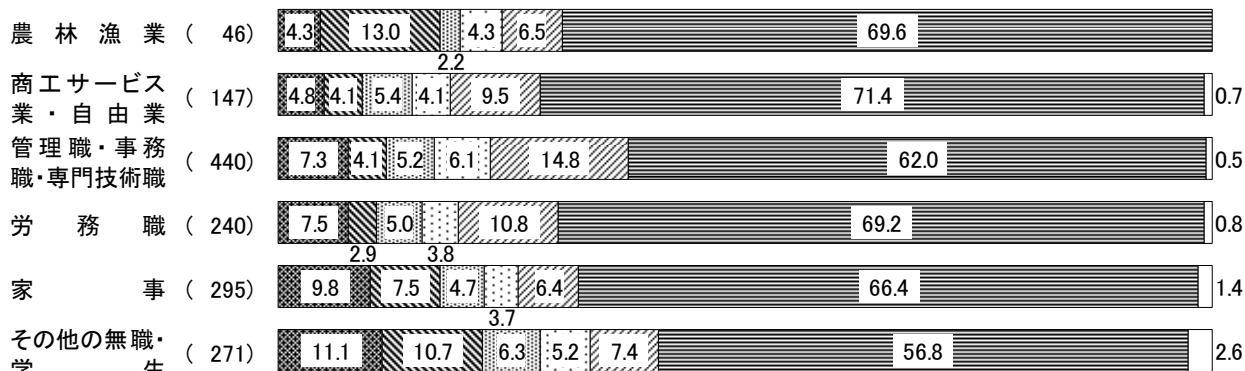
性別でみると、「利用しなかった」では〈女性〉(69.3%)が〈男性〉(58.8%)より10.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「週に3日以上(年151日以上)」では〈男性20歳代〉が19.7%と高くなっている。「利用しなかった」では〈女性60～64歳〉が78.0%、〈女性30歳代〉が76.6%と高くなっている。

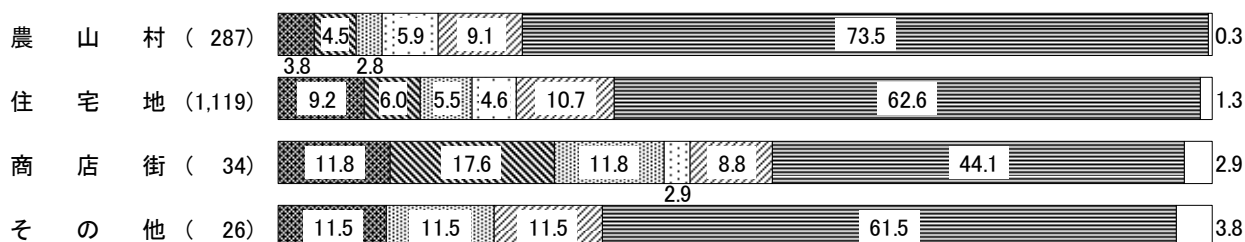
[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



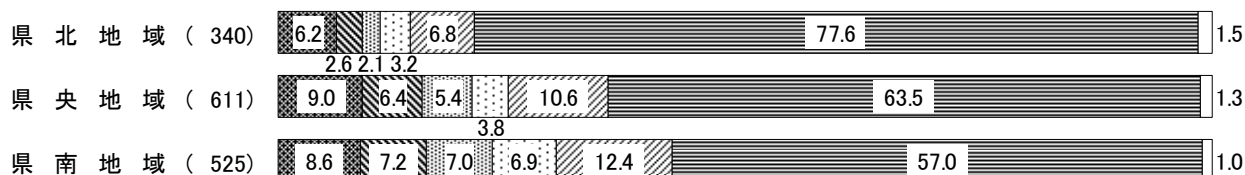
【職業別】



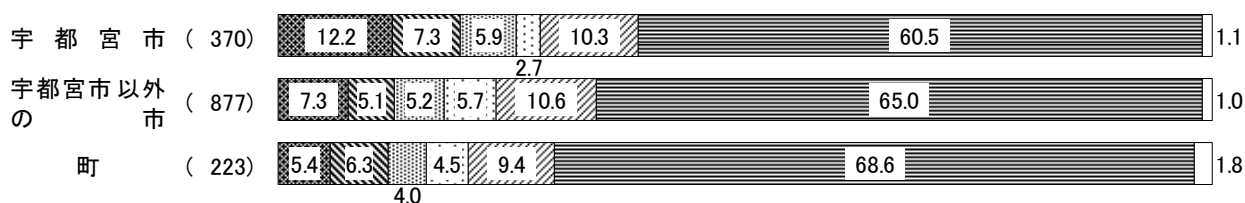
【居住環境別】



【地域別】



【市町別】



職業別でみると、「週に1~2日(年51~150日)」では〈農林漁業〉が13.0%と高くなっている。「利用しなかった」では〈商工サービス業・自由業〉が71.4%、〈農林漁業〉が69.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「週に1~2日(年51~150日)」では〈商店街〉が17.6%と高くなっている。「月に1~3日(年12~50日)」では〈商店街〉が11.8%と高くなっている。「利用しなかった」では〈農山村〉が73.5%と高くなっている。

地域別でみると、「利用しなかった」では〈県北地域〉が77.6%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

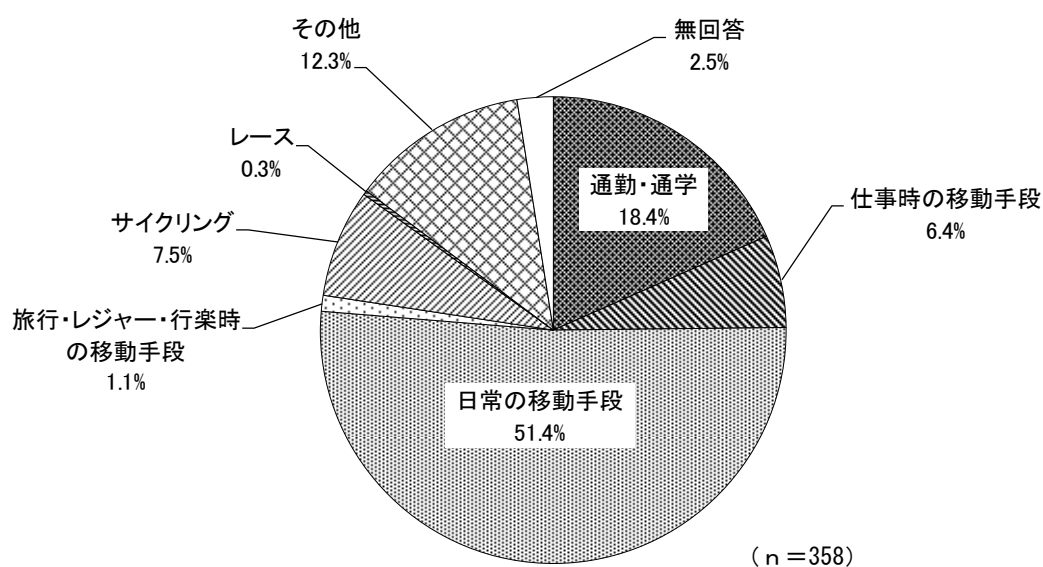
(2) 自転車利用の目的

(問36で選択肢「週に3日以上」～「3か月に1～2日」を選んだ方のみお答えください)

問37 あなたが自転車を利用した主な目的は何ですか。次の中から1つ選んでください。

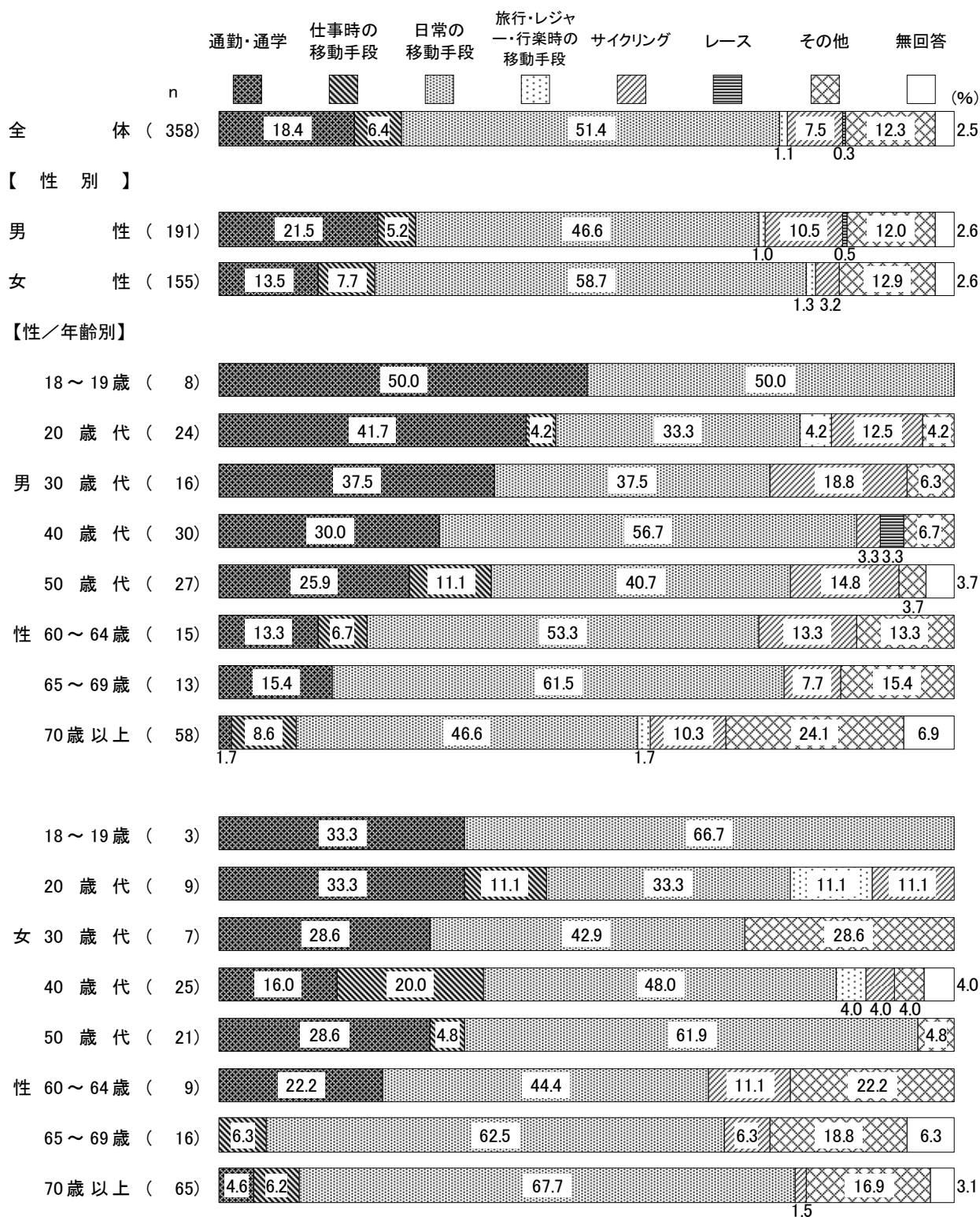
[n=358]

1 通勤・通学	18.4%	5 サイクリング	7.5%
2 仕事時の移動手段	6.4	6 レース	0.3
3 日常の移動手段	51.4	7 その他	12.3
4 旅行・レジャー・行楽時の移動手段	1.1	(無回答)	2.5



全体でみると、「日常の移動手段」(51.4%)が5割強で最も高く、次いで「通勤・通学」(18.4%)が2割近くとなっている。

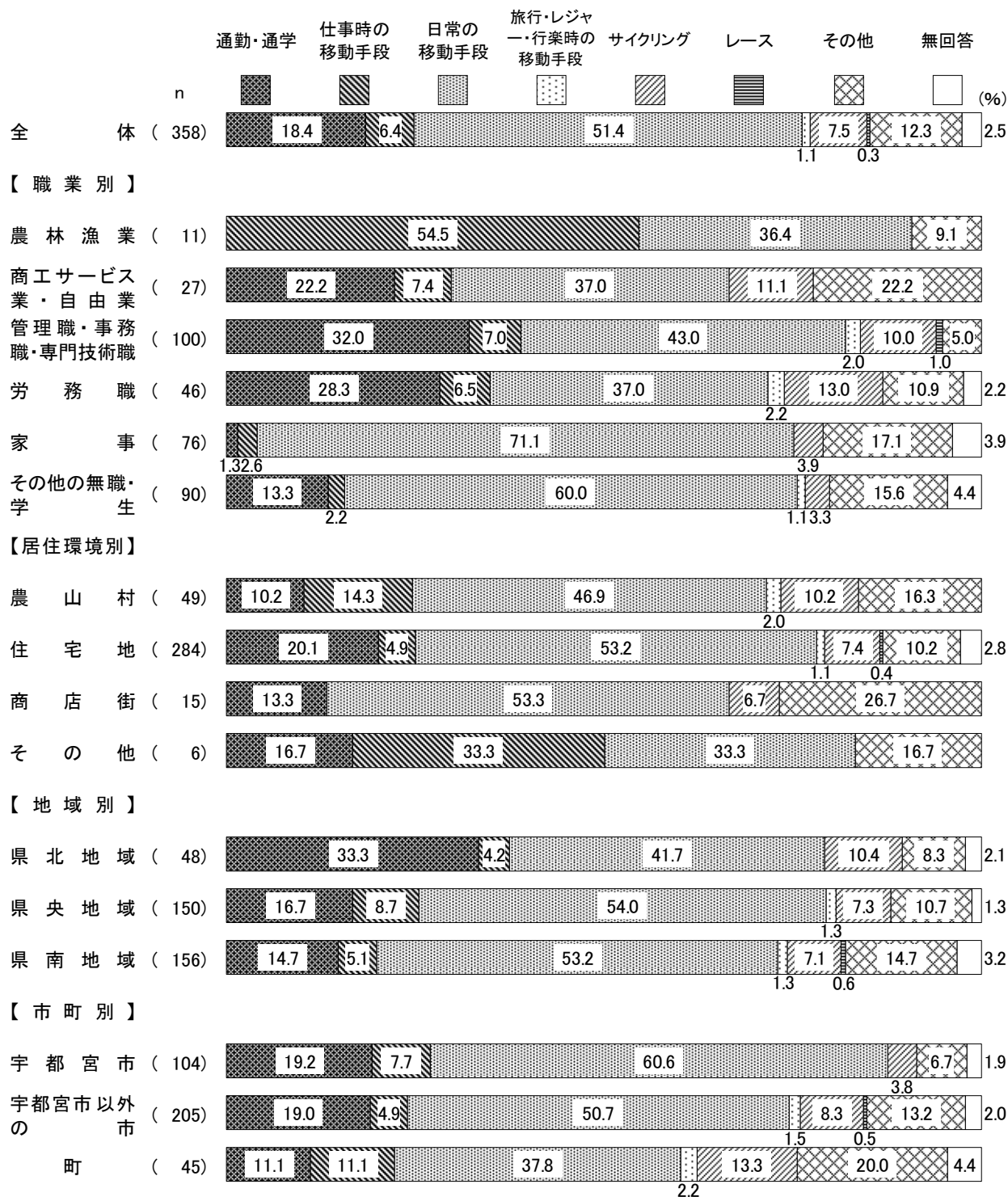
〔性別・性／年齢別〕



性別でみると、「日常の移動手段」では〈女性〉(58.7%)が〈男性〉(46.6%)より12.1ポイント高くなっている。一方、「通勤・通学」では〈男性〉(21.5%)が〈女性〉(13.5%)より8.0ポイント、「サイクリング」では〈男性〉(10.5%)が〈女性〉(3.2%)より7.3ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「日常の移動手段」では〈女性70歳以上〉が67.7%と高くなっている。「通勤・通学」では〈男性20歳代〉が41.7%、〈男性30歳代〉が37.5%と高くなっている。「サイクリング」では〈男性30歳代〉が18.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「通勤・通学」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が32.0%と高くなっている。「仕事時の移動手段」では〈農林漁業〉が54.5%と高くなっている。「日常の移動手段」では〈家事〉が71.1%、〈その他の無職・学生〉が60.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、「仕事時の移動手段」では〈農山村〉が14.3%と高くなっている。

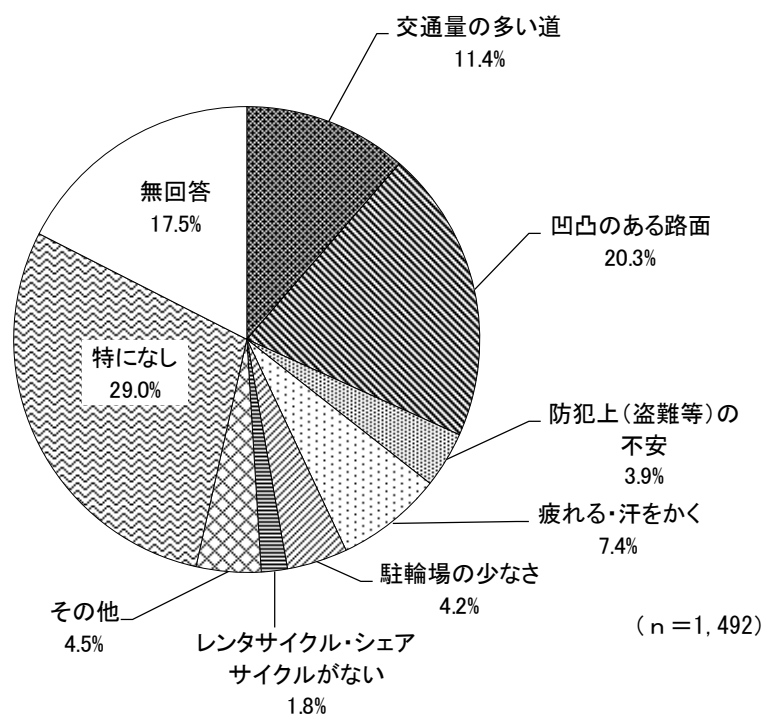
地域別でみると、「通勤・通学」では〈県北地域〉が33.3%と高くなっている。

市町別でみると、「日常の移動手段」では〈宇都宮市〉が60.6%と高くなっている。「通勤・通学」では〈町〉が11.1%と高くなっている。

(3) 自転車利用に際して不満を感じること

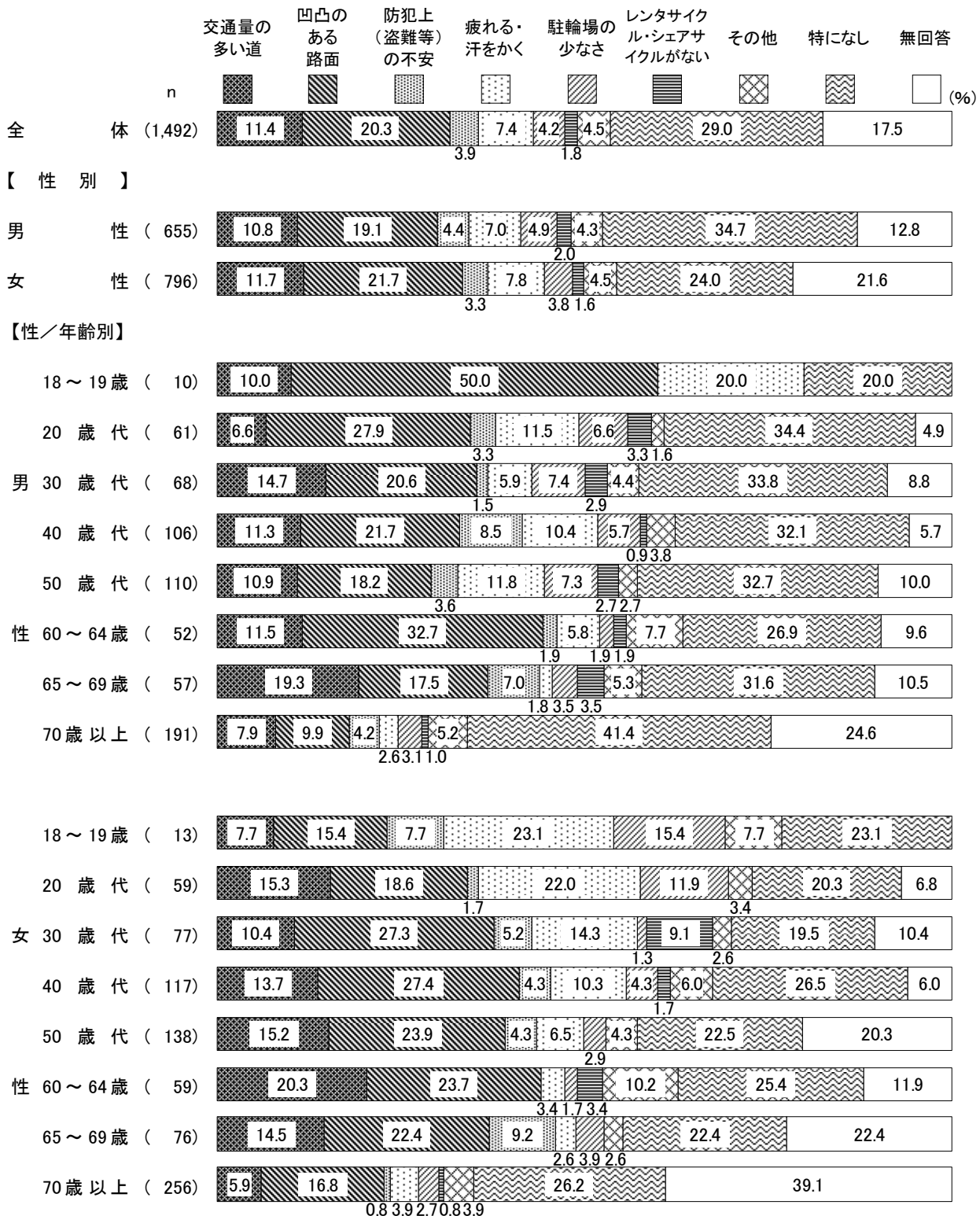
問38 あなたが自転車を利用する際に不満を感じることは何ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1	交通量の多い道	11.4%	6	レンタサイクル・シェアサイクルがない	1.8%
2	凹凸のある路面	20.3	7	その他	4.5
3	防犯上(盗難等)の不安	3.9	8	特になし	29.0
4	疲れる・汗をかく	7.4		(無回答)	17.5
5	駐輪場の少なさ	4.2			



全体でみると、「凹凸のある路面」(20.3%)が約2割で最も高く、次いで「交通量の多い道」(11.4%)、「疲れる・汗をかく」(7.4%)の順となっている。一方、「特になし」(29.0%)が3割弱となっている。

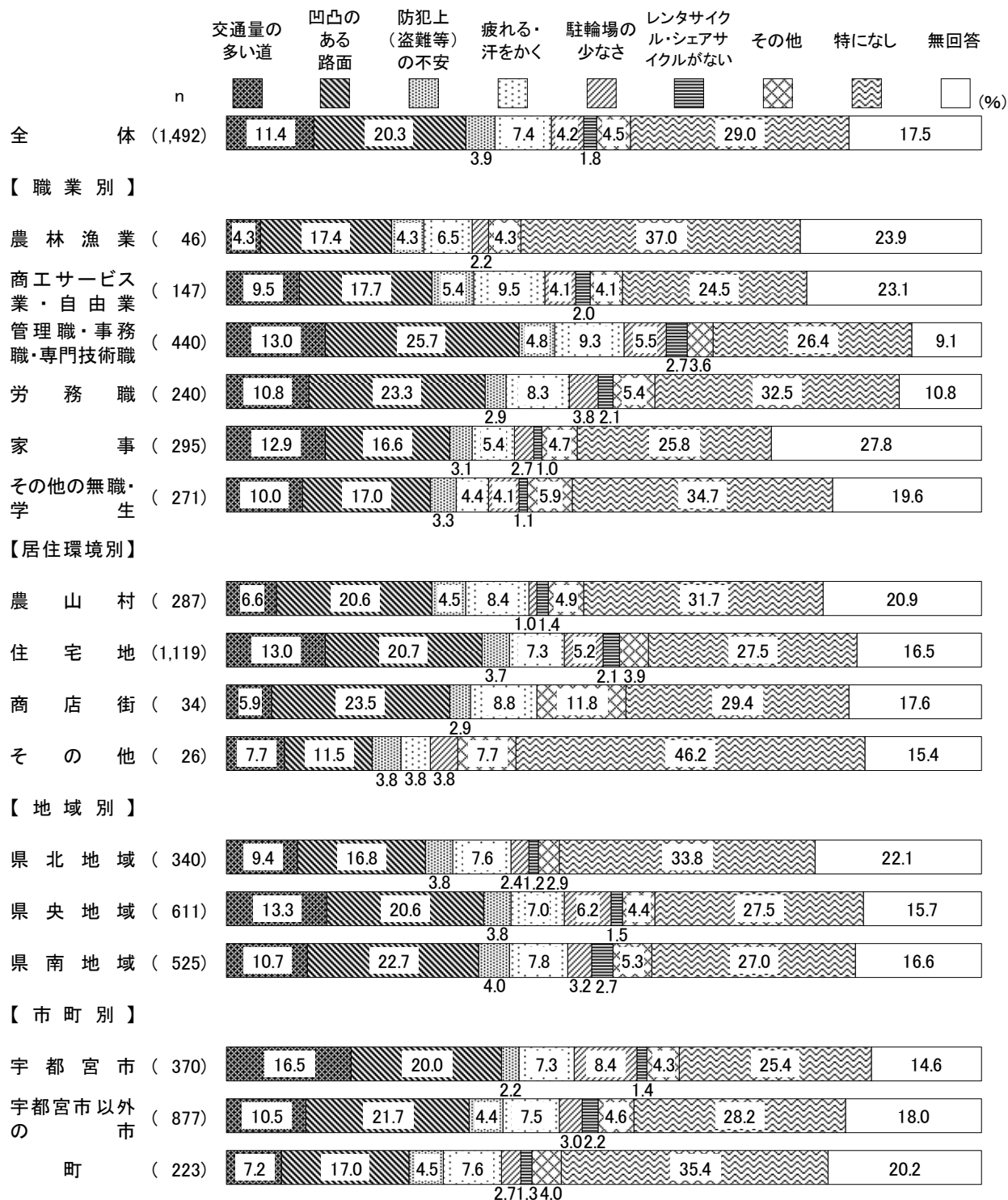
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「特になし」では〈男性〉(34.7%)が〈女性〉(24.0%)より10.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「凹凸のある路面」では〈男性60～64歳〉が32.7%と高くなっている。「疲れる・汗をかく」では〈女性20歳代〉が22.0%と高くなっている。「特になし」では〈男性70歳以上〉が41.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「凹凸のある路面」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が25.7%、〈労務職〉が23.3%と高くなっている。「特になし」では〈農林漁業〉が37.0%、〈その他の無職・学生〉が34.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、「特になし」では〈県北地域〉が33.8%と高くなっている。

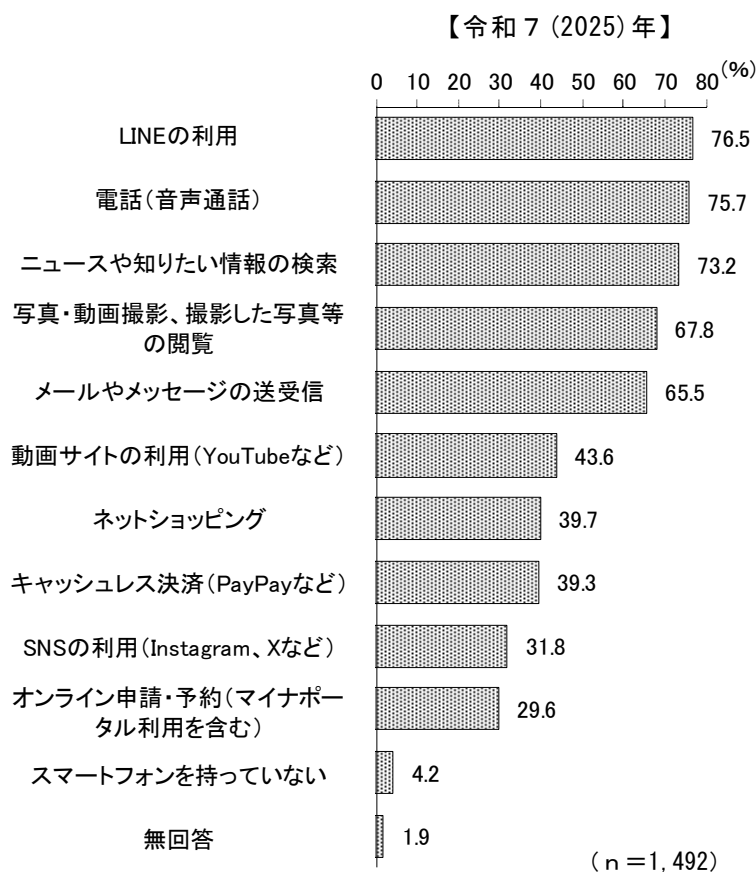
市町別でみると、「交通量の多い道」では〈宇都宮市〉が16.5%と高くなっている。「特になし」では〈町〉が35.4%と高くなっている。

16 スマートフォンの活用について

(1) スマートフォン利用の目的

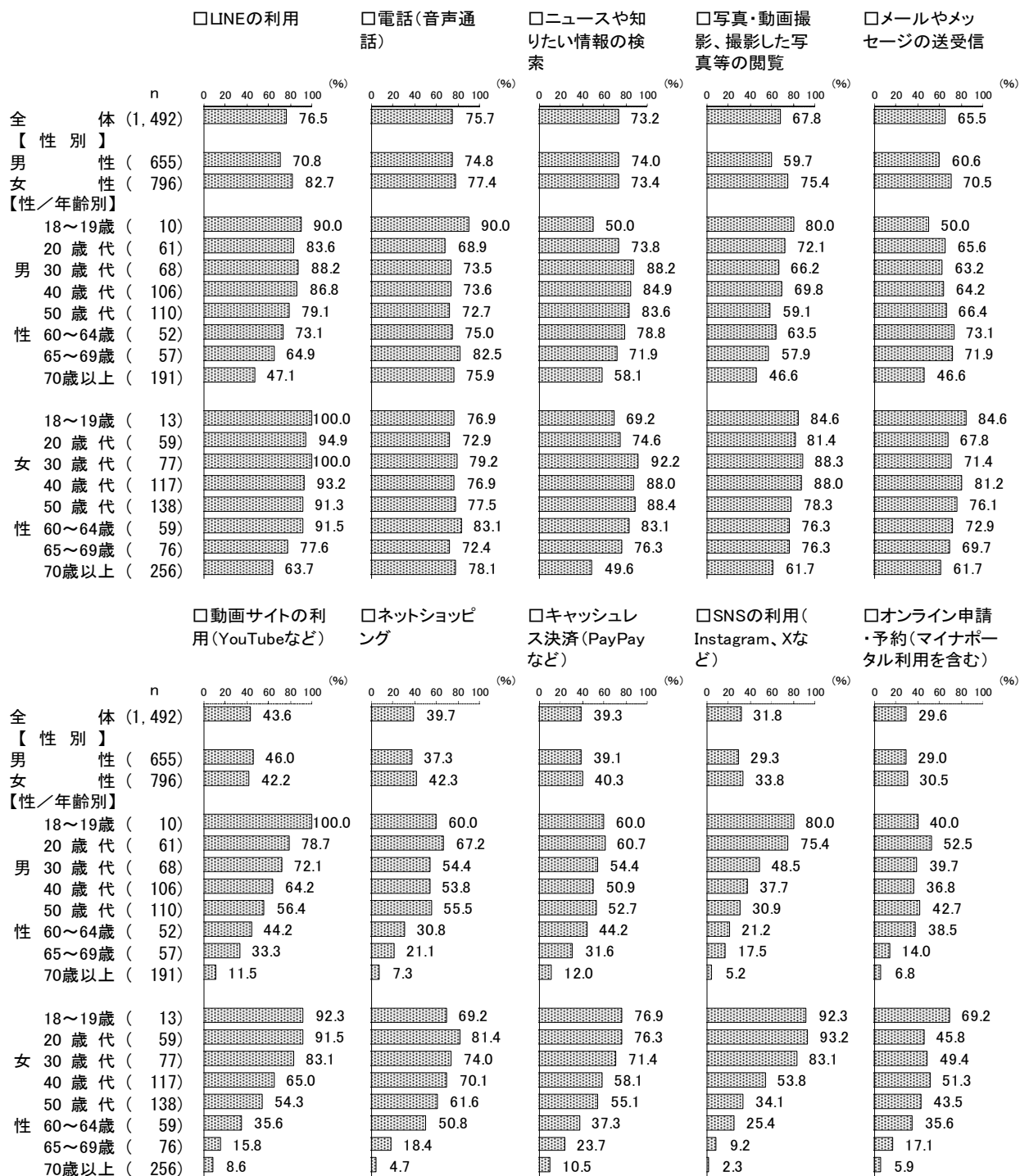
問39 あなたは、スマートフォンを普段どのようなことに使っていますか。次の中からいくつか選んでください。 [n=1,492]

1	ニュースや知りたい情報の検索	73.2%
2	写真・動画撮影、撮影した写真等の閲覧	67.8
3	メールやメッセージの送受信	65.5
4	LINEの利用	76.5
5	電話（音声通話）	75.7
6	オンライン申請・予約（マイナポータル利用を含む）	29.6
7	キャッシュレス決済（PayPayなど）	39.3
8	ネットショッピング	39.7
9	動画サイトの利用（YouTubeなど）	43.6
10	SNSの利用（Instagram、Xなど）	31.8
11	スマートフォンを持っていない （無回答）	4.2 1.9



全体でみると、「LINEの利用」（76.5%）が7割台半ばを超えて最も高く、次いで「電話（音声通話）」（75.7%）、「ニュースや知りたい情報の検索」（73.2%）、「写真・動画撮影、撮影した写真等の閲覧」（67.8%）、「メールやメッセージの送受信」（65.5%）の順となっている。

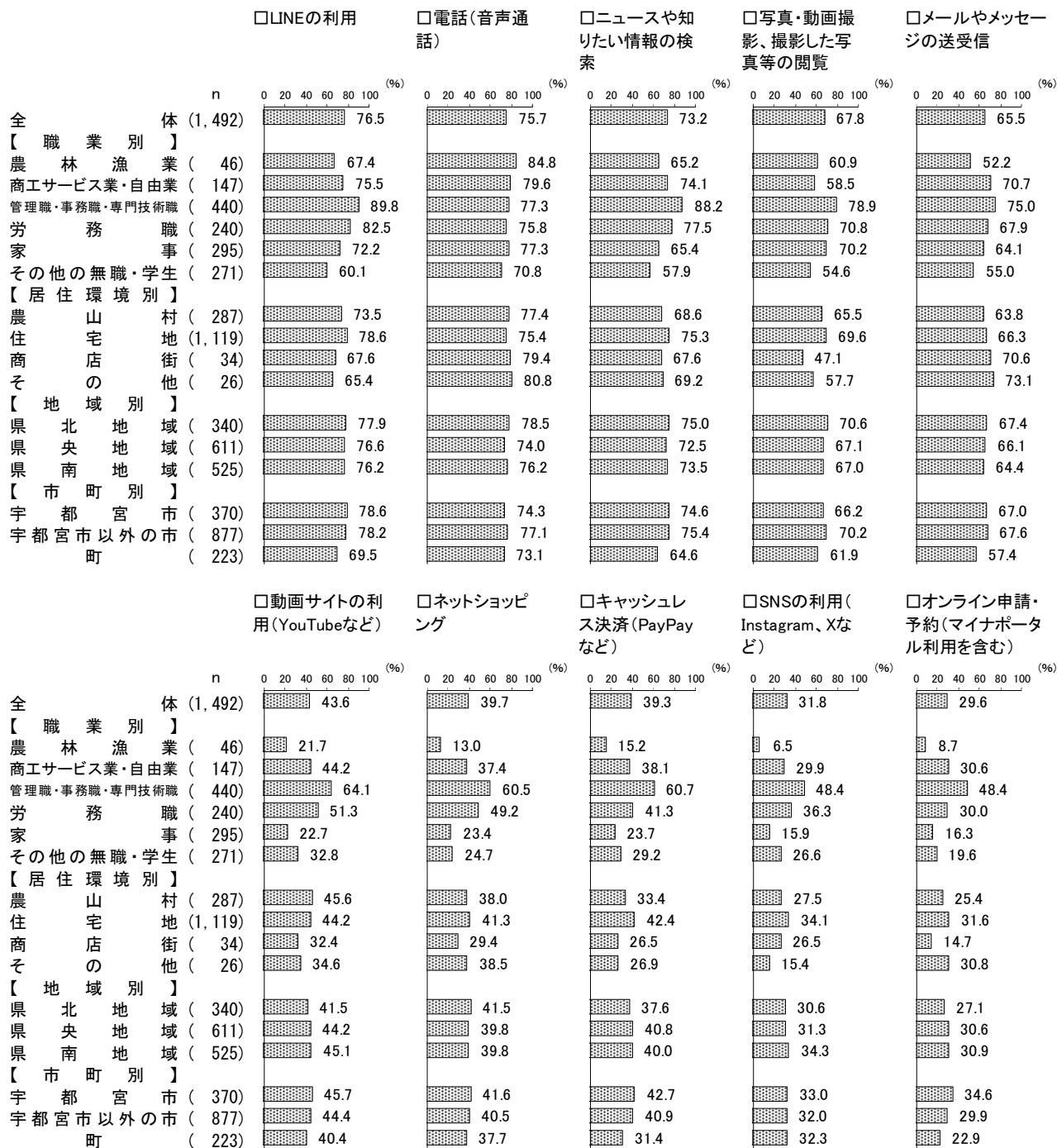
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別でみると、「写真・動画撮影、撮影した写真等の閲覧」では〈女性〉(75.4%)が〈男性〉(59.7%)より15.7ポイント、「LINEの利用」では〈女性〉(82.7%)が〈男性〉(70.8%)より11.9ポイント、「メールやメッセージの送受信」では〈女性〉(70.5%)が〈男性〉(60.6%)より9.9ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「電話(音声通話)」を除く各目的で、主に50歳代以下の各世代で利用率が高い傾向にある。「LINEの利用」では〈女性30歳代〉が100.0%と高くなっている。「ニュースや知りたい情報の検索」では〈女性30歳代〉が92.2%と高くなっている。「写真・動画撮影、撮影した写真等の閲覧」では〈女性30歳代〉が88.3%、〈女性40歳代〉が88.0%と高くなっている。「メールやメッセージの送受信」では〈女性40歳代〉が81.2%と高くなっている。

〔職業別・居住環境別・地域別・市町別〕（上位10項目）



職業別でみると、「LINEの利用」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が89.8%と高くなっている。「電話（音声通話）」では〈農林漁業〉が84.8%と高くなっている。「ニュースや知りたい情報の検索」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が88.2%と高くなっている。「写真・動画撮影、撮影した写真等の閲覧」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が78.9%と高くなっている。「メールやメッセージの送受信」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が75.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、「ニュースや知りたい情報の検索」では〈住宅地〉が75.3%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、全体的に〈町〉が低くなっている。

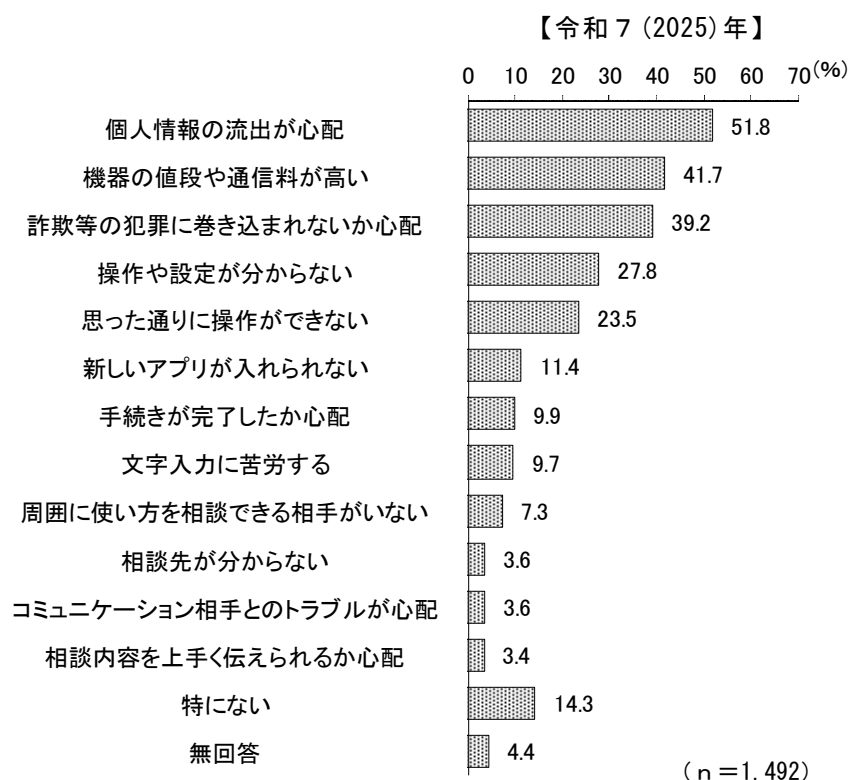
(2) スマートフォン利用に当たり困ったことや不安に思ったこと

問40 あなたが、スマートフォンの利用に当たり困ったこと、不安に思ったことは何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

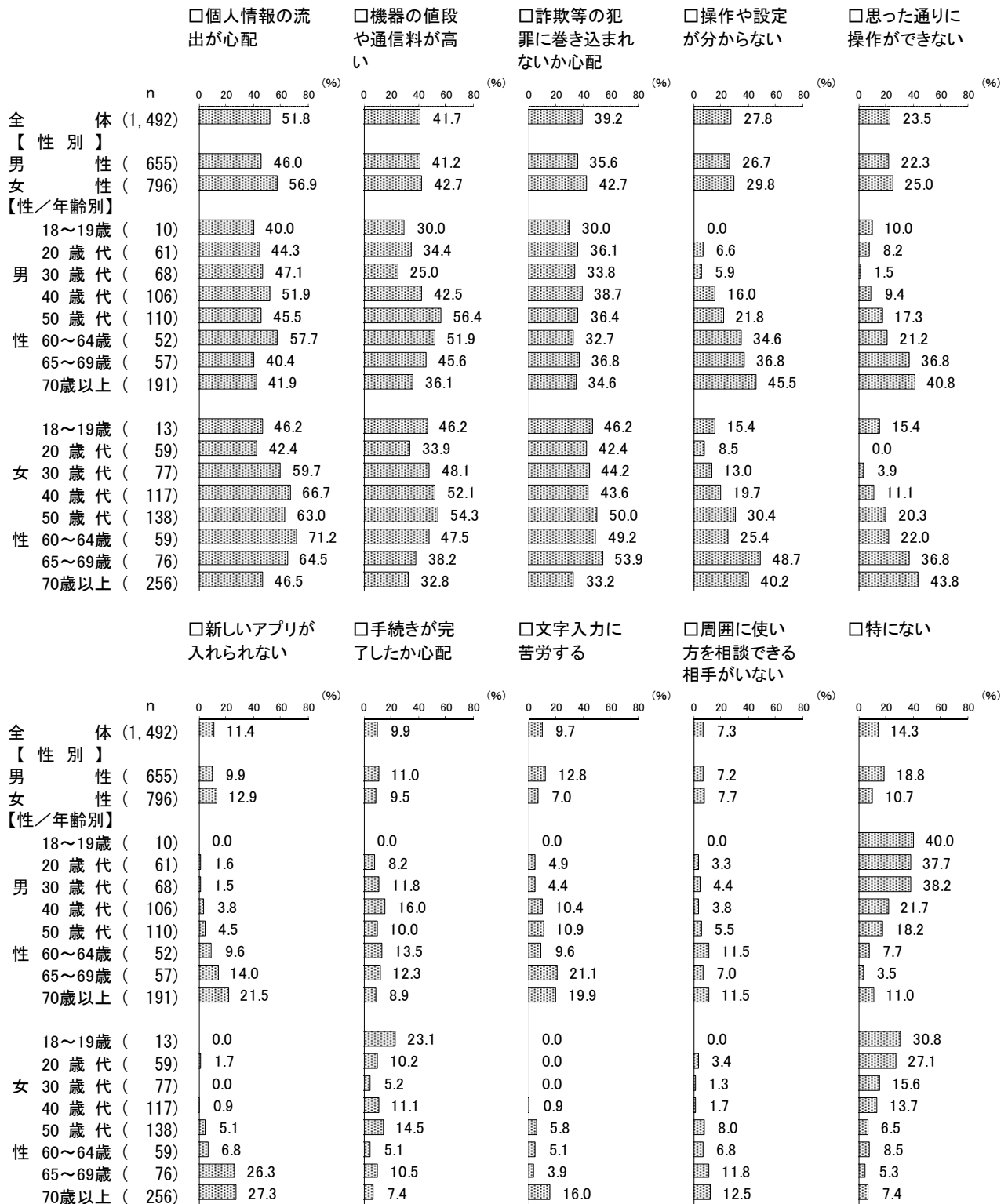
[n=1,492]

1	操作や設定が分からない	27.8%
2	思った通りに操作ができない	23.5
3	文字入力に苦勞する	9.7
4	新しいアプリが入れられない	11.4
5	周囲に使い方を相談できる相手がいない	7.3
6	相談先が分からない	3.6
7	相談内容を上手く伝えられるか心配	3.4
8	個人情報の流出が心配	51.8
9	詐欺等の犯罪に巻き込まれないか心配	39.2
10	手続きが完了したか心配	9.9
11	機器の値段や通信料が高い	41.7
12	コミュニケーション相手とのトラブルが心配	3.6
13	特にない	14.3
	(無回答)	4.4



全体でみると、「個人情報の流出が心配」(51.8%)が5割強で最も高く、次いで、「機器の値段や通信料が高い」(41.7%)、「詐欺等の犯罪に巻き込まれないか心配」(39.2%)、「操作や設定が分からない」(27.8%)、「思った通りに操作ができない」(23.5%)の順となっている。

【性別・性／年齢別】（上位10項目）

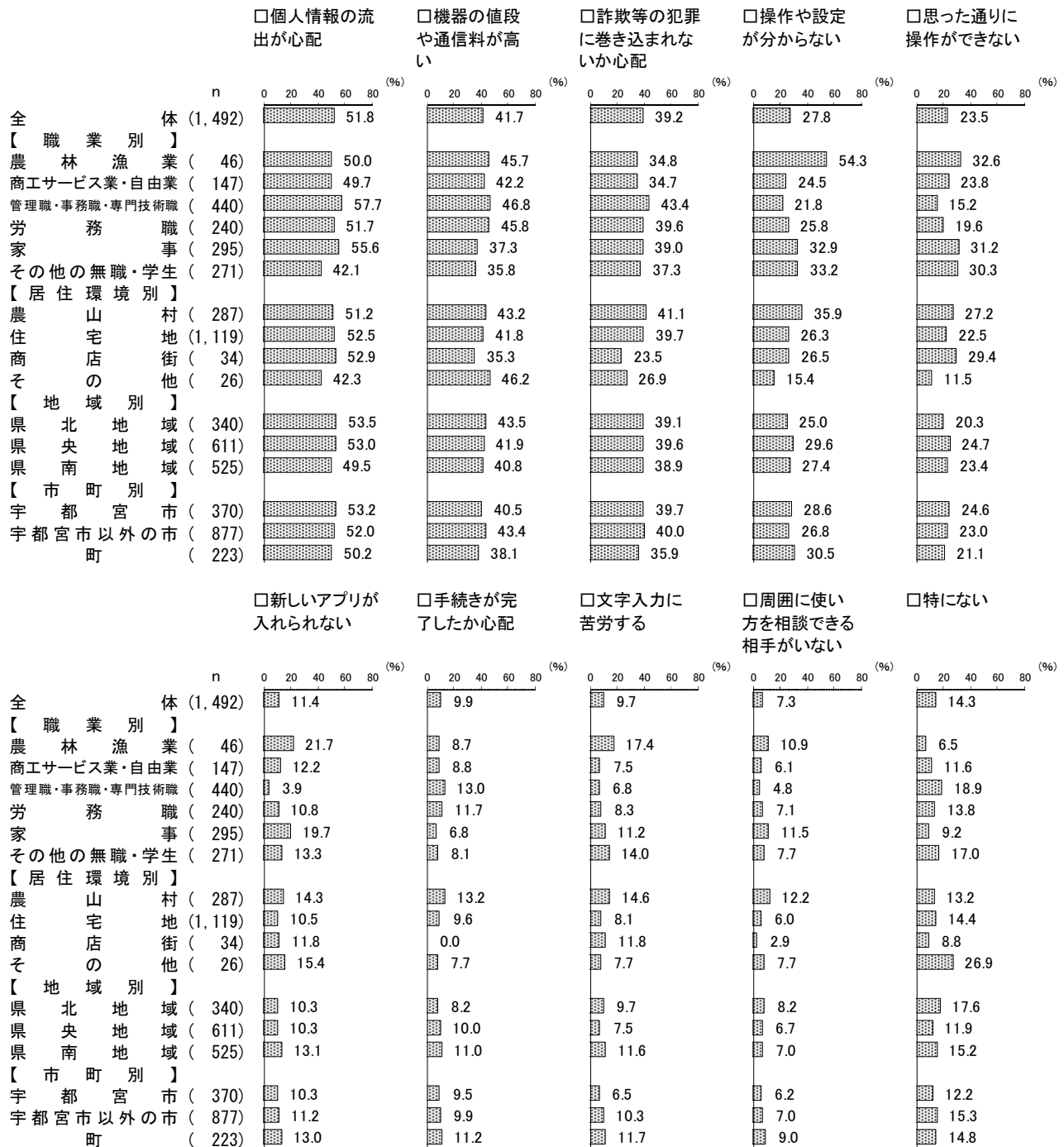


性別でみると、「個人情報の流出が心配」では〈女性〉（56.9%）が〈男性〉（46.0%）より10.9ポイント、「詐欺等の犯罪に巻き込まれないか心配」では〈女性〉（42.7%）が〈男性〉（35.6%）より7.1ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「特にない」では〈男性〉（18.8%）が〈女性〉（10.7%）より8.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「個人情報の流出が心配」では〈女性60～64歳〉が71.2%と高くなっている。「機器の値段や通信料が高い」では〈男性50歳代〉が56.4%、〈女性50歳代〉が54.3%と高くなっている。「詐

欺等の犯罪に巻き込まれないか心配」では〈女性65～69歳〉が53.9%と高くなっている。「操作や設定が分からない」では〈女性65～69歳〉が48.7%と高くなっている。「思った通りに操作ができない」では〈女性70歳以上〉が43.8%、〈男性70歳以上〉が40.8%と高くなっている。一方、「特にない」では〈男性30歳代〉が38.2%、〈男性20歳代〉が37.7%と高くなっている。

〔職業別・居住環境別・地域別・市町別〕（上位10項目）



職業別でみると、「個人情報の流出が心配」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が57.7%と高くなっている。「機器の値段や通信料が高い」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.8%と高くなっている。「操作や設定が分からない」では〈農林漁業〉が54.3%と高くなっている。「思った通りに操作ができない」では〈農林漁業〉が32.6%、〈家事〉が31.2%、〈その他の無職・学生〉が30.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、「操作や設定が分からない」では〈農山村〉が35.9%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

V 調査票



令和7(2025)年度栃木県政世論調査

＜ご回答に当たってのお願い＞

- 令和7(2025)年6月30日(月)までにご回答をお願いします。
- 宛て名のご本人様がお答えください(代筆も可能です)

一部の回答でも結構です。皆様のご意見をお聴かせください。

どちらかを選んでご回答ください

【インターネットで回答する場合】

回答用ID : _____
パスワード : _____

回答フォーム

二次元
コード

- ・ 詳細は別紙「インターネットでの回答方法」をご覧ください。
- ・ 回答用IDは、重複回答防止のため入力いただくもので、個人を特定するために利用するものではありません。

【郵送で回答する場合】

- ・ 1つだけ回答していただくものと、複数回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。
- ・ ボールペン又は鉛筆で、当てはまる選択肢の番号を囲むように○印をご記入ください。
例) ①
- ・ ご記入後は、この調査票を三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。(お名前やご住所の記入、切手は不要です。)

パソコンやスマートフォンから回答できる
便利なインターネット回答をぜひご利用ください。

[暮らしの変化について]

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 かなり良くなった | 4 少し悪くなった |
| 2 少し良くなった | 5 かなり悪くなった |
| 3 変わらない | 6 わからない |

(問1で選択肢「4」、「5」を選んだ方のみお答えください)

問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。

もっとも大きな要因を1つ選んでください。

- | |
|--|
| 1 物価が上昇したため |
| 2 不景気（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など）のため |
| 3 家族構成の変化により出費が増えたため |
| 4 教育費の出費が増えたため |
| 5 住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため |
| 6 医療費・介護費の出費が増えたため |
| 7 事故・災害による出費が増えたため |
| 8 その他 |
| 9 わからない |

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 満足している | 4 やや不満がある |
| 2 まあ満足している | 5 不満がある |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない |

問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- | |
|-----------|
| 1 良くなっていく |
| 2 変わらない |
| 3 悪くなっていく |
| 4 わからない |

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 仕事（家事、学業） | 9 家族との団らん |
| 2 知識や教養 | 10 近所との付き合い |
| 3 貯蓄 | 11 友人や知人との付き合い |
| 4 趣味やスポーツ | 12 子育てや子どもの教育 |
| 5 ボランティア活動 | 13 健康づくり |
| 6 衣・食生活の充実 | 14 その他 |
| 7 住生活の改善、充実 | 15 わからない |
| 8 環境にやさしいライフスタイル | |

【県政への要望について】

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 学校教育の充実 | 20 雇用の安定と勤労者の福祉 |
| 2 青少年の健全育成 | 21 住宅・宅地対策 |
| 3 家庭教育の充実 | 22 資源エネルギー対策 |
| 4 社会教育の充実 | 23 下水道の整備 |
| 5 文化の振興 | 24 公園・緑地・河川の整備 |
| 6 スポーツ・レクリエーション施策の充実 | 25 公共交通ネットワークの整備 |
| 7 NPO・ボランティア活動の促進 | 26 道路の整備 |
| 8 広聴・広報の充実 | 27 地域情報化の推進 |
| 9 国際化の推進 | 28 防災対策 |
| 10 子育て・少子化対策 | 29 防犯対策 |
| 11 高齢者福祉対策 | 30 交通安全対策 |
| 12 心身障害者対策 | 31 消費生活対策 |
| 13 医療対策 | 32 自然保護・環境保全対策 |
| 14 保健対策 | 33 循環型社会の推進
(リサイクル・廃棄物対策) |
| 15 男女共同参画の推進 | 34 行財政改革 |
| 16 農林業の振興 | 35 “とちぎ”ブランド力の強化 |
| 17 食料の安定供給の確保・食の安全確保 | 36 その他 |
| 18 商工業の振興 | 37 わからない |
| 19 観光の振興 | |

〔文化・芸術活動について〕

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。

- 1 文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動
- 2 映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動
- 3 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動
- 4 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動
- 5 茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動
- 6 年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動
- 7 文化遺産の保護・活用に関する活動
- 8 何も行っていない

〔スポーツ活動について〕

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。
次の中から1つ選んでください。

※ここでは「運動やスポーツ」を、「散歩や階段昇降など、健康・体力や美容の保持増進のための活動」や「家事・育児・通勤・通学など日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」まで幅広く捉えることとします。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 週に3日以上（年151日以上） | 4 3か月に1～2日（年4～11日） |
| 2 週に1～2日（年51～150日） | 5 年に1～3日 |
| 3 月に1～3日（年12～50日） | 6 運動やスポーツを行わなかった |

〔住んでいる地域について〕

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 どちらともいえない

〔社会貢献活動について〕

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動（※）に参加しましたか。また、今後参加したいと思えますか。次の中から1つ選んでください。

※社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

- 1 参加した。また今後も参加したい
- 2 参加したが、今後参加するかどうかわからない
- 3 参加したが、今後参加するつもりはない
- 4 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい
- 5 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない
- 6 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない
- 7 今まで参加したことはないが、今後参加したい
- 8 今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない
- 9 今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない

〔防災対策について〕

問11 あなたは、水害や土砂災害において避難するタイミングの目安となる「5段階の警戒レベル（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保など）」を知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）
- 2 知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）
- 3 ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）
- 4 知らない

問12 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 家具の転倒防止対策や配置の工夫 | 7 県や市町などの防災メールへの登録 |
| 2 ハザードマップの確認 | 8 地震などの自然災害対応の保険への加入 |
| 3 非常用持ち出し袋の準備 | 9 家族との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル等）の確認 |
| 4 食料や飲料水の備蓄 | 10 特に何もしていない |
| 5 消火器の設置 | |
| 6 感震ブレーカー（※）の設置・点検 | |

※感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。

〔栃木県への愛着と誇りについて〕

問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1 とても愛着がある | 4 あまり愛着がない |
| 2 やや愛着がある | 5 まったく愛着がない |
| 3 どちらでもない | |

問14 あなたが「栃木県」の魅力あるものとして自慢できるもの、オススメするものは何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

- | |
|--|
| 1 日光・那須に代表される雄大な自然や四季折々の風景 |
| 2 鬼怒川や塩原など源泉総数全国10位の温泉や宿泊施設 |
| 3 「あしかがフラワーパーク」や「モビリティリゾートもてぎ」などのレジャー施設 |
| 4 栃木県総合運動公園の「カンセキスタジアム」や「日環アリーナ」などのスポーツ施設 |
| 5 佐野・那須のアウトレットやインターパークなどの大規模商業施設 |
| 6 博物館や美術館などの文化施設 |
| 7 無形文化遺産の「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」などの伝統芸能 |
| 8 「蔵の街とちぎ」などに代表される歴史的景観や街並み |
| 9 世界遺産「日光の社寺」や日本最古の大学である「足利学校」などの歴史文化遺産 |
| 10 「益子焼」や「結城紬」などの伝統工芸品 |
| 11 半世紀以上にわたり生産量全国1位のいちごなどの農産物 |
| 12 生産量全国2位の生乳や世界的コンテストで複数回入賞したナチュラルチーズなどの牛乳乳製品 |
| 13 「宇都宮餃子®」や「佐野ラーメン」などのご当地グルメ |
| 14 世界的コンテストで最高賞を受賞する日本酒 |
| 15 人のやさしさ・おもてなし |
| 16 親しみのある方言・なまり |
| 17 一人当たりの県民所得全国5位の豊かさや自然災害が少ないなどの住みやすさ |
| 18 こども医療費の全額助成などの充実した子育て支援 |
| 19 全国初の全線新設の「芳賀・宇都宮LRT」 |
| 20 都心へのアクセスの良さ |
| 21 「とちまるくん」や「さのまる」などのご当地キャラクター |
| 22 リーグ優勝複数回を誇る「宇都宮ブルックス」などのプロスポーツチームやスポーツ選手 |
| 23 「U字工事さん」や「井上咲楽さん」などの栃木県出身の有名人・著名人 |
| 24 特にない |

[男女平等意識について]

問15 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問16 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。
次の中から1つ選んでください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問17 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

〔地域のつながりについて〕

問18 あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている
- 2 顔と名前が分かり挨拶をする程度である
- 3 ほとんど、もしくはまったく付き合っていない

問19 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 知人・友人
- 2 隣近所の人
- 3 民生委員・児童委員
- 4 班長・自治会長
- 5 社会福祉協議会
- 6 市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）
- 7 福祉サービス事業者（社会福祉法人、NPO法人等）
- 8 学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）
- 9 職場の上司・同僚
- 10 その他（SNSを含む）
- 11 相談できるところ（相手）はない

残り半分まる♪♪



【ケアラーについて】

問20 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和5年4月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

- 1 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
- 3 聞いたことはない

問21 今後、あなたがケアラー当事者となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。

- 1 実際に介護、看護等を行っている
- 2 自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う
- 3 自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う
- 4 自分がケアラーになる可能性は、ないと思う

【在宅医療について】

問22 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 そう思わない

問23 あなたは、「人生会議（ACP）」（※）を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※「人生会議（ACP）」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 よく知っている | 3 言葉だけは知っている |
| 2 ある程度知っている | 4 知らない |

〔食の安全・安心について〕

問24 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1 大いに感じている | 3 あまり感じていない |
| 2 多少は感じている | 4 全く感じていない |

（問24で選択肢「1」、「2」を選んだ方のみお答えください）

問25 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。
次の中から4つまで選んでください。

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 食中毒 | 10 遺伝子組換え食品 |
| 2 食品添加物 | 11 輸入食品 |
| 3 いわゆる「健康食品」 | 12 B S E（牛海綿状脳症） |
| 4 放射性物質 | 13 高病原性鳥インフルエンザ |
| 5 重金属（カドミウム・水銀など） | 14 体細胞クローン牛・豚 |
| 6 残留農薬 | 15 家畜等の医薬品 |
| 7 食物アレルギー | 16 環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質） |
| 8 賞味期限・消費期限 | 17 フードテック（ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等） |
| 9 原産地 | 18 その他 |

〔食に関する意識と実践について〕

問26 あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 いつも選んでいる | 3 あまり選んでいない |
| 2 ときどき選んでいる | 4 全く選んでいない |

問27 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

- | |
|--------------------|
| 1 今までに複数回体験したことがある |
| 2 今までに1回体験したことがある |
| 3 1回も体験したことがない |

〔とちぎの元気な森づくり県民税について〕

問28 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。
次の中から3つまで選んでください。

- 1 山崩れなどの災害を防止する働き
- 2 雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き
- 3 二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き
- 4 空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き
- 5 生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き
- 6 多様な生物の生育・生息の場としての働き
- 7 自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き
- 8 自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き
- 9 わからない

問29 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。
「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。
次の中から3つまで選んでください。

- 1 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること
- 2 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと
- 3 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること
- 4 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること
- 5 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること
- 6 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること
- 7 わからない



【犯罪と治安対策について】

問30 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 良い | 4 どちらかといえば悪い |
| 2 どちらかといえば良い | 5 悪い |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない |

問31 社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- | |
|---|
| 1 特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺などの犯罪 |
| 2 不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪 |
| 3 飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反 |
| 4 殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪 |
| 5 空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪 |
| 6 自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪 |
| 7 政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出 |
| 8 DV（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪 |
| 9 誘拐、子供の連れ去りやいたずら |
| 10 麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪 |
| 11 来日外国人による組織犯罪 |
| 12 すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪 |
| 13 児童ポルノ、児童買春などの子供に対する犯罪 |
| 14 痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪 |
| 15 重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害 |
| 16 ストーカー行為 |
| 17 国際テロ組織などによるテロ行為 |
| 18 暴力団や準暴力団などによる組織犯罪 |

問32 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

- 1 飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り
- 2 年齢や対象に応じた交通安全教育
- 3 自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り
- 4 運転免許証の自主返納の呼びかけと返納者に対する支援事業の強化
- 5 自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進
- 6 地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し
- 7 地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供
- 8 生活道路における速度抑制対策
- 9 交通事故の発生実態に応じた取締り
- 10 家庭や学校、職場で取り組む交通事故防止活動
- 11 わからない

〔公共交通について〕

問33 あなたは、日常生活の中で鉄道・バス・タクシーなどの公共交通機関（※）をどれくらい利用していますか。次の中から1つ選んでください。

※公共交通機関とは、民間の交通事業者が運行するものだけではなく、市町が運行するコミュニティバスやデマンド交通なども含みます。

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1 ほぼ毎日利用する | 4 主に自家用車やオートバイを使うのでほとんど利用しない |
| 2 1週間に数回利用する | 5 主に自転車を使うのでほとんど利用しない |
| 3 1か月に数回利用する | 6 ほとんど利用しない |

（問33で選択肢「1」、「2」、「3」を選んだ方のみお答えください）

問34 あなたは、公共交通機関のサービスや運行状況について、満足していますか。

次の中から1つ選んでください。

- | |
|--------------|
| 1 満足している |
| 2 どちらかといえば満足 |
| 3 どちらかといえば不満 |
| 4 不満 |

問35 あなたが公共交通機関に不満を感じることは何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 運行本数が少ない | 6 交通系 I C カードなどのキャッシュレス決済に対応していない |
| 2 自宅や目的地から駅・バス停までが遠い | 7 乗り継ぎのための移動距離が長い |
| 3 他の公共交通機関との乗り継ぎに時間がかかる | 8 乗り方がよくわからない |
| 4 運賃が高い | 9 乗り場の案内表示がわかりづらい |
| 5 車内が混雑している | 10 特に不満に思うことはない |

〔自転車利用率と目的について〕

問36 あなたは、この1年間にどの程度自転車を利用しましたか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 週に3日以上（年151日以上） | 4 3か月に1～2日（年4～11日） |
| 2 週に1～2日（年51～150日） | 5 年に1～3日 |
| 3 月に1～3日（年12～50日） | 6 利用しなかった |

（問36で選択肢「1」～「4」を選んだ方のみお答えください）

問37 あなたが自転車を利用した主な目的は何ですか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1 通勤・通学 | 5 サイクリング |
| 2 仕事時の移動手段 | 6 レース |
| 3 日常の移動手段 | 7 その他 |
| 4 旅行・レジャー・行楽時の移動手段 | |

問38 あなたが自転車を利用する際に不満を感じることは何ですか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 交通量の多い道 | 5 駐輪場の少なさ |
| 2 凹凸のある路面 | 6 レンタサイクル・シェアサイクルがない |
| 3 防犯上（盗難等）の不安 | 7 その他 |
| 4 疲れる・汗をかく | 8 特になし |

〔スマートフォンの活用について〕

問39 あなたは、スマートフォンを普段どのようなことに使っていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 ニュースや知りたい情報の検索
- 2 写真・動画撮影、撮影した写真等の閲覧
- 3 メールやメッセージの送受信
- 4 LINEの利用
- 5 電話（音声通話）
- 6 オンライン申請・予約（マイナポータル利用を含む）
- 7 キャッシュレス決済（PayPayなど）
- 8 ネットショッピング
- 9 動画サイトの利用（YouTubeなど）
- 10 SNSの利用（Instagram、Xなど）
- 11 スマートフォンを持っていない

問40 あなたが、スマートフォンの利用に当たり困ったこと、不安に思ったことは何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 操作や設定が分からない
- 2 思った通りに操作ができない
- 3 文字入力に苦勞する
- 4 新しいアプリが入れられない
- 5 周囲に使い方を相談できる相手がいない
- 6 相談先が分からない
- 7 相談内容を上手く伝えられるか心配
- 8 個人情報の流出が心配
- 9 詐欺等の犯罪に巻き込まれないか心配
- 10 手続きが完了したか心配
- 11 機器の値段や通信料が高い
- 12 コミュニケーション相手とのトラブルが心配
- 13 特にない

残りもう少しまる！
よろしくおねがいするまる☆☆



[あなたご自身やご家族について]

最後に、お答えいただいたことを統計的に分析するため、あなたご自身やご家族についてお答えください。

F 1 あなたの性別は。

1 男性
2 女性
3 回答しない

F 2 あなたの年齢は、次の中のどれに当てはまりますか。

1 18歳～19歳	3 30歳～39歳	5 50歳～59歳	7 65歳～69歳
2 20歳～29歳	4 40歳～49歳	6 60歳～64歳	8 70歳以上

F 3 あなたの職業は、次の中のどれに当てはまりますか。

(自営・家族従業)		(勤めている)		(無 職)	
1 農林漁業	2 商工サービス 業・自由業	3 管理職・事務職 ・専門技術職	4 労務職	5 家 事	6 その他の無職 ・学生

F 4 あなたは、栃木県でお生まれになりましたか。

1 は い	2 いいえ
-------	-------

F 5 あなたは、栃木県に通算して何年お住まいですか。

1 1年未満	4 5年～9年
2 1年～2年	5 10年～19年
3 3年～4年	6 20年以上

F 6 現在、あなたのご住居は、次の中のどれに当たりますか。

1 持家の一戸建	5 民間の賃貸アパート・マンション
2 持家の集合住宅（分譲マンションなど）	6 社宅・官舎
3 借家の一戸建	7 その他
4 公社・公営の賃貸住宅	()

F 7 あなたがお住まいの周囲の環境は、次の中のどれに当たりますか。

1 農山村	3 商店街
2 住宅地	4 その他 ()

F 8 あなたがお住まいの地域は、次の中のどれに当たりますか。

1 県北地域（日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町）
2 県央地域（宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町）
3 県南地域（足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、野木町）

F 9 あなたのご住所は、次の中のどれに当たりますか。

1 宇都宮市	2 宇都宮市以外の市	3 町
--------	------------	-----

◎長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、6月16日（月）までにご投函ください。

VERY
GOOD
LOCAL

とちぎ

栃 木 県 政 世 論 調 査

令和 7（2025）年11月

栃木県総合政策部広報課

宇都宮市塙田 1－1－20

電話（028）623－2158